

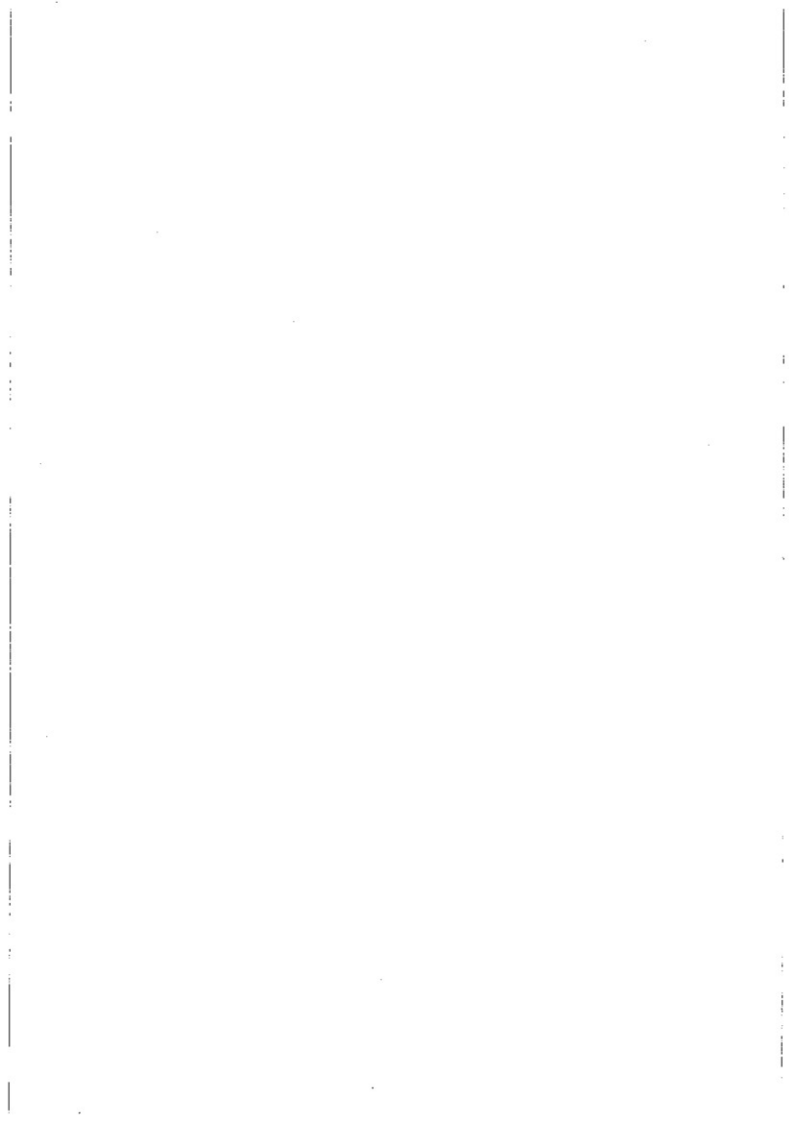
恵庭市

ユカンボシE5遺跡

一般国道36号恵庭バイパス建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

平成3・4年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



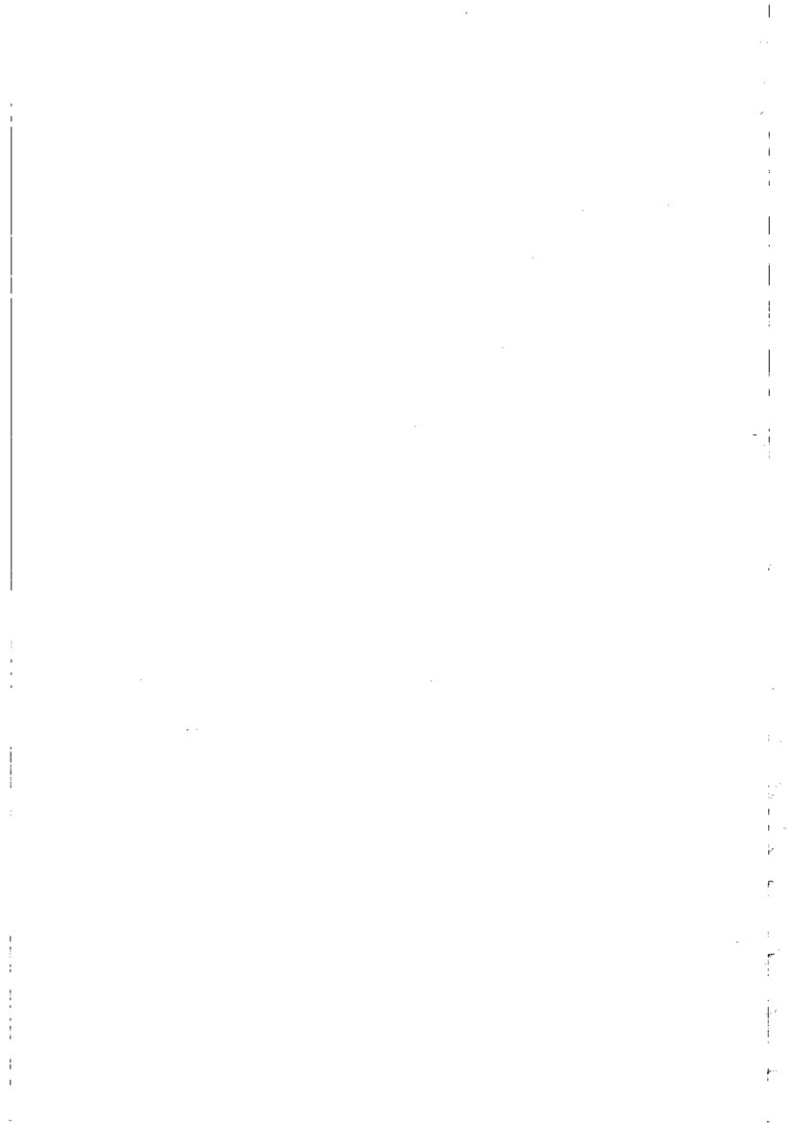
恵庭市

ユカンボシE5遺跡

一般国道36号恵庭バイパス建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

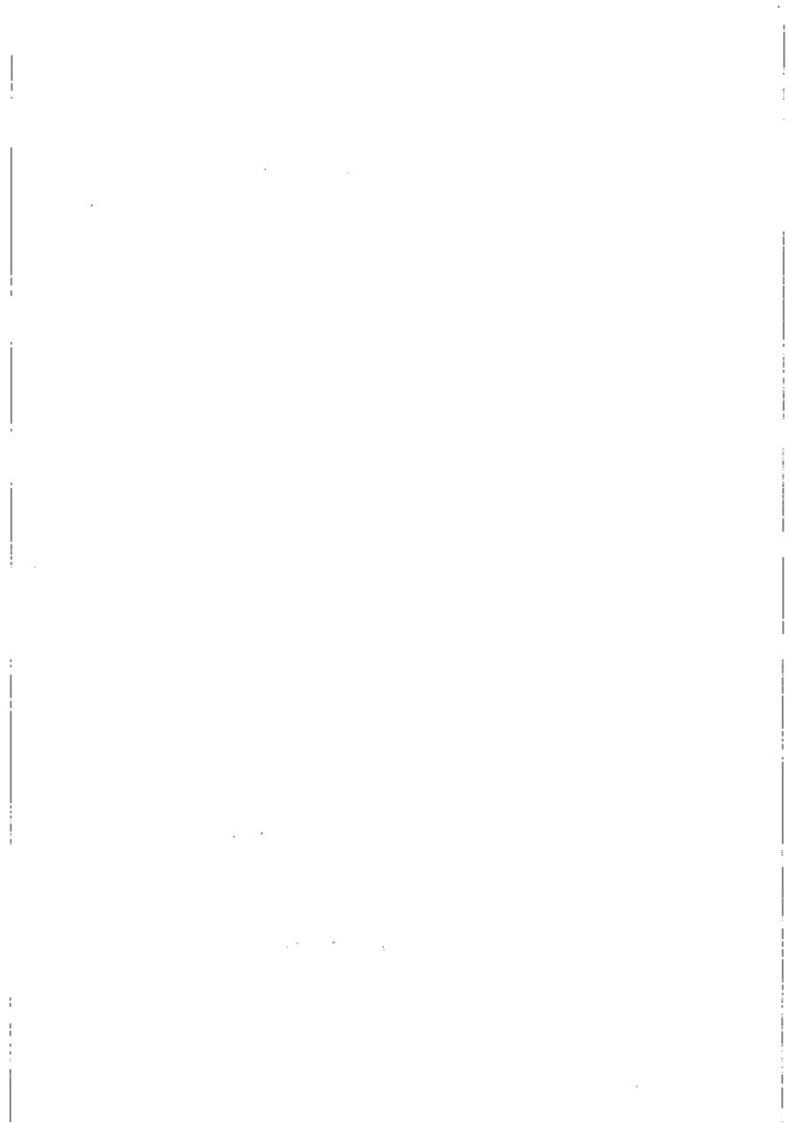
平成3・4年度

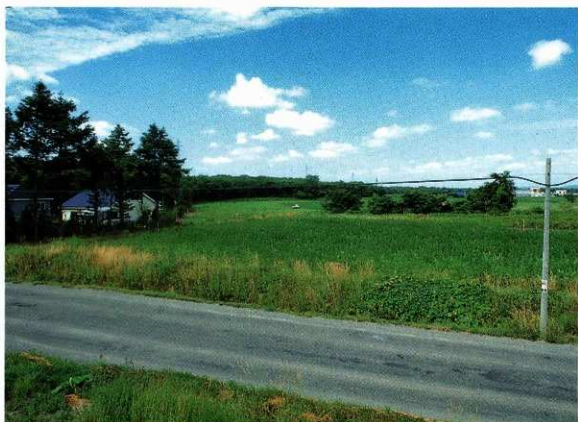
財団法人 北海道埋蔵文化財センター





統縄文時代の墓（上）と出土土器（下）





遺跡近景



焼土とアビット



例 言

- 1 本書は一般国道36号恵庭バイパス建設工事に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが、平成3年度および4年度に調査を実施した恵庭市ユカホシE5遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本書の編集と執筆は、発掘および整理にあたった下記の5名が行った。文責者は以下のとおりである。

鬼柳 彰：Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ-1-1)、Ⅳ-3-2)・3)、Ⅳ-4-2)、Ⅳ-5-1

田才 雅彦：Ⅲ-2、Ⅴ-1、Ⅴ-2-1) HP 2・3、Ⅴ-2-2) P 1・5・8~11、Ⅴ-2-3)、Ⅴ-2-4) TP 4・5・7・11・13・14・17・18・21・26・30~33、Ⅴ-2-5) FP 1~31・33~37・41、Ⅴ-2-6)・7)、Ⅴ-3-2・4

鎌田 望：Ⅲ-1、Ⅳ-4-1)、Ⅴ-2-1) HP 1、Ⅴ-2-2) P 2・3・6、Ⅴ-2-4) TP 1・3・24・25・27~29、Ⅴ-2-5) FP 32・38~40・42~58・60~71・73~75、Ⅴ-3-1)、Ⅴ-3-4

西脇対名夫：Ⅳ-1-2)、Ⅳ-2・3、Ⅳ-3-1)・4)、Ⅴ-2-2) P-7、Ⅴ-2-4) TP 15・16・19・20・22・23・32、Ⅴ-2-5) FP 72

倉橋 直孝：Ⅴ-2-2) P-4、Ⅴ-2-4) TP 2・6・8~10・12

- 3 植物種子等の同定および執筆については北海道大学文学部吉崎昌一教授に依頼した。
- 4 層序の記載については、花岡正光の教示を受けた。
- 5 整理後の遺物写真撮影は森岡建治が担当した。
- 6 実測図の縮尺は原則として次のとおりである。

竪穴住居跡 (HP) 1:40

Tピット (TP)・墓墳 (GP)・土坑 (P)・小土坑 (SP)・B地区の集石・焼土あるいは炭化物の集中地点 (FP) 1:20、Tピットの排土 1:40、A地区の集石 (X) 1:10

復元土器 1:4、土器拓本 1:3、剥片石器 1:2、礫石器 1:3

- 7 図中における遺物の表示は次のとおりである。

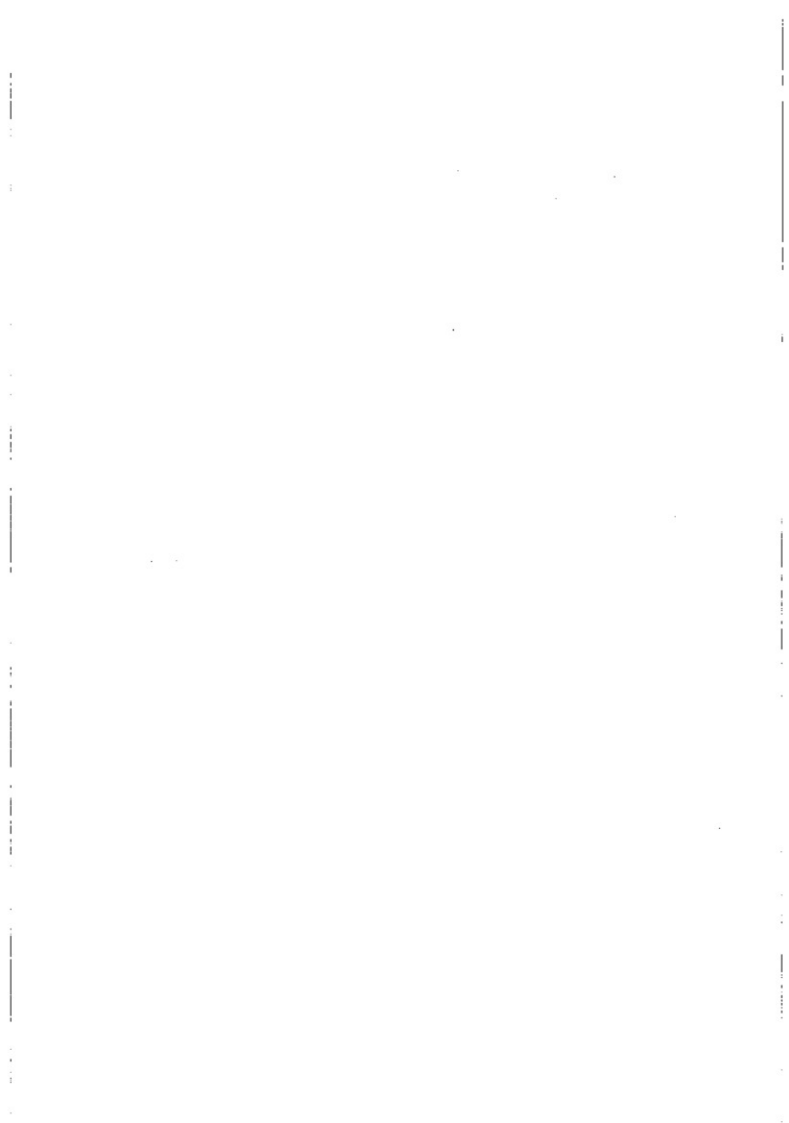
○ 土器、△ 剥片石器、□ 礫石器、・ 剥片

遺物の形を图示した場合には、P (土器)、Y (剥片石器)、B (礫石器)、F (剥片)の略号を付した。

- 8 調査にあたっては、下記の機関および人々の助言と協力を受けた (順不同、敬称略)。

恵庭市教育委員会、恵庭市郷土資料館、広島町教育委員会

上屋真一、松谷純一、佐藤幾子、松沢亜生、吉崎昌一、楢坂恭代、清水雅男、木村哲朗、工藤利幸、高橋興右衛門、中川重紀、石橋孝夫、工藤義衛、中島孝幸、乾 哲也、大谷敏三、田村俊之、高橋 理、豊田宏良、松田淳子、土屋周三、石神 敏、大島秀俊、石川直章、宮 宏明、菊池徹夫、大塚和義、梅原達治、平川善祥、山田悟郎、小林幸雄、右代啓視、手塚 薫、出利葉浩二、野中一宏、北沢 実、佐藤一夫、宮夫靖夫、工藤 肇、鈴木耕榮、大泉博嗣、加藤邦雄、上野秀一、羽賀憲二、仙庭伸久、横山英介、宮田栄二、福田祐二、沢田廣政、富樫哲夫、村元良夫



目次

I	調査の概要	1
1	調査要項	1
2	調査体制	1
3	調査の経過	1
4	調査結果の要旨	2
II	環境と地形	3
III	遺物の分類	6
1	土器の分類	6
2	石器の分類	7
IV	A地区	8
1	調査の方法	8
1)	発掘区の設定	8
2)	層序	8
2	II-1層の遺構と遺物	12
1)	小土壇	13
2)	炭化物の集中地点	15
3	II-3・4層の遺構と遺物	16
1)	土壇	16
2)	集石	17
3)	Tピット	22
4)	焼土および炭化物の集中地点	23
4	包含層出土の遺物	29
1)	土器	29
2)	石器	37
5	まとめ	48
1)	遺構と遺物	48
2)	地質・層序	49
V	B地区	50
1	調査の方法	50
1)	発掘区の設定	50
2)	層序	50
2	遺構と遺物	53
1)	竪穴住居跡	54
2)	土壇	72
3)	集石	81
4)	Tピット	82
5)	焼土	125
6)	F・C集中	146
7)	土壇墓	147
3	包含層出土の遺物	150
1)	土器・土製品	150

2) 石器類	171
4 まとめ	208
引用・参考文献	210
ユカンボシ E 5 遺跡出土の植物遺体 (吉崎昌一)	213
写真図版	217

I 調査の概要

1 調査要項

事業名	一般国道36号恵庭バイパス建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査
事業委託者	北海道開発局札幌開発建設部
遺跡名	ユカンボシE 5遺跡
所在地	恵庭市戸磯180-4ほか
調査面積	6,767㎡ 平成3年度 B地区3,285㎡ 平成4年度 A地区2,155㎡、B地区1,327㎡
調査期間	平成3年4月16日～平成4年3月27日（発掘 平成3年8月1日～10月26日） 平成4年4月21日～平成5年3月26日（発掘 平成4年5月7日～8月8日）

2 調査体制

財団法人北海道埋蔵文化財センター	理事長	寺山 敏保
	専務理事	永田 春男
	常務理事	中村 福彦
	業務部長	伊藤 庄吉
	調査部長	森田 知忠
	調査第1課長	鬼柳 彰（発掘担当者）
	主任	田才 雅彦（◇）
	嘱託	鎌田 望
	◇	倉橋 直孝〔平成3年度〕
	◇	西脇対名夫〔平成4年度〕

3 調査の経過

恵庭バイパスの建設事に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査は、恵庭市教育委員会が平成元年度に実施した柏木川11遺跡と当センターが平成3年5月から7月にかけて発掘したユカンボシE 4遺跡について、本遺跡の調査が3件目となる。

発掘調査区は、本遺跡のうちバイパス建設用地にかかるA・B両地区である。このうちB地区の約70%（グリッド5ラインから北側）は平成3年8月から10月にかけて発掘した。平成4年度はA地区全域とB地区南部の残る1,300㎡あまりについて、5月から8月初めまで発掘を行い、延べ6ヵ月にわたる調査を終了した。両地区とも、予想よりわずかに遺物包含層の範囲が広がることが判明したため、調査面積は当初計画よりA地区が45㎡、B地区は65㎡増加した。

B地区のうち、平成3年度調査区では縄文時代の竪穴住居跡や土壇のほかTピット、焼土が多数検出され、さらに2個体の土器を副葬した縄文時代の墓が1基みついている。出土遺物も縄文時代、縄文時代の各時期におよんでいることから、4年度も同様の遺構と遺物が検出されることが予想された。平成4年度調査区の面積はB地区全体の約30%に過ぎないが、遺構と遺物の量は前年度よりもかなり多い。本書ではA地区およびB地区の2ヵ年度分の調査について、まとめて報告する。なお、昨年度調査したユカンボシE 4遺跡の調査結果については、報告書〔「ユカンボシE 4遺跡」北埋調報75〕を刊行済みである。

4 調査結果の要旨

〈A地区〉発掘された遺構は土壇1基、Tピット2基、集石4ヵ所、焼土あるいは炭化物の集中地点12ヵ所と上部に鉄鍋が伏せられた小土壇1基である。このうち、Tピットと小土壇および炭化物集中地点3ヵ所を除くほかの遺構は、供伴した遺物から縄文時代早期のものとみられる。遺物包含層からは早期のコッタロ式、中茶路式、東銅路Ⅲ式に相当する土器片が出土しており、石器もこの時期の特徴をもつ石鉄やすり石などが多い。ほかに縄文時代前期、中期、後期の遺物もわずかに出土している。遺構と遺物の分布状態などから、調査区西側に縄文時代の集落跡があるものと推定される。

鉄鍋は現在、類例を見出すことができていないが、樽前a火山灰直下で出土したことから、1739年以前の遺物の可能性がある。

〈B地区〉2ヵ年の調査で発掘された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡3軒、土壇11基、Tピット32基、焼土75ヵ所および統縄文時代の土壇墓1基である。出土遺物から、住居跡のうち1軒は縄文時代前期、ほかの2軒は中期のものとみられる。土壇は早期および中期に属するものがある。Tピットと焼土は調査区全域で検出されたが、とくに南部に多く、等高線に沿って分布している。Tピットには楕円形と溝状のものがあり、構築時の排土も5ヵ所確認された。また、土壌のフローテーションにより、イネ科の種子などが検出されている。出土した土器や石器は、縄文時代早期から後期のものが大部分を占めるが、ほかに統縄文時代の後北式土器1個体と土壇墓から出土した北大式土器3個体がある。縄文時代の土器の多くは中期の萩ヶ岡2式と天神山式に相当するものである。石器も様々な器種が出土しているが、縄文時代早期および中期のものが多くを占める。

遺構・遺物一覧（遺物は破片点数）

A地区

遺 構		遺 物	
土 壇	1	土 器(縄文)	6,202
集 石	4	土 製 品	6
Tピット	2	剥片石器	201
焼土・炭化物 集中地点	12	礫石器	58
小土壇	1	剥 片	3,551
		礫	828
		鉄 鍋 (1個体)	42
計	20	計	10,656

B地区

遺 構		遺 物	
住 居 跡	3	土 器(縄文)	20,859
蓄 器	1	〃(統縄文)	255
土 壇	11	土 製 品	7
集 石	1	剥片石器	375
Tピット	33	礫石器	441
焼 土	75	剥 片	27,917
		礫	408
計	20	計	50,282

II 環境と地形

恵庭市の市街地南部の湧水に源をもつユカンボシ川は東流して、千歳川の支流の長都川に入っている。流路延長6.2km、幅は約2～4m、下流の千歳市側から改修工事が進んでいるが、上流の恵庭市側では今も蛇行をくりかえしている。本遺跡はこの川の中流部左岸に位置しており、平成3年度に調査した右岸のユカンボシE4遺跡とは指呼の間にある。

本遺跡の北側に接する河道跡は、今の恵庭駅あたりを水源とし東流していたユカンボシ川の支流で、本遺跡の東方で本流に入っていたらしい。付近の人の話によると、この川はトイソ川と呼ばれていたが、昭和の初め頃までに埋め立てられ水田化されたという。明治29年の仮製5万分1図には「トイソ川」と記されている。現在も旧トイソ川の跡は周囲より低く、空中写真や地形図からたどることができる。本遺跡付近では氾濫原とみられる低地の幅が約50mあるが、流路幅は今のユカンボシ川くらいだったものと思われる。現在、本遺跡付近では川跡を牧草地として利用しているが、今回の調査で、地表下には今も多量の水が流れていることが判明した。

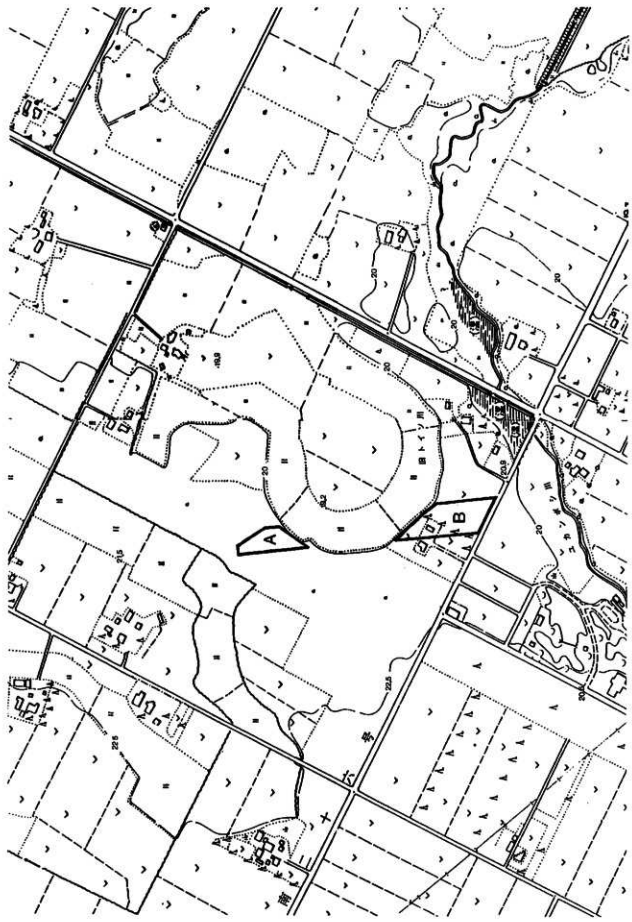
本遺跡は南西方向に大きく屈曲する旧トイソ川の右岸に沿って広がっている。今回、発掘を行ったところは、本遺跡のうちバイパス建設用地にかかる2つの地区である。このうちA地区は馬蹄形に蛇行する旧トイソ川の北西岸に位置しており、南端部を除いて大部分が国有保安林のなかにある。B地区はこれより150mほど下流の南西岸に位置しており、調査前までは畑や宅地であった。両地区とも旧トイソ川の右岸にあたる。A地区の保安林は明治26年に、「千歳原野植民地区画割」が設定された際、防風林として自然林が残されたものである。同様の防風林は恵庭市から千歳市にかけて、道路区画に沿って幅182m（100間）、延長10数kmにわたり国有保安林として管理されている。本遺跡付近では昭和の初め頃、東側の60間が国から払い下げられ農地に転換したという。B地区も払い下げ前まで西側の一部が保安林であったが、大半は明治中頃の開墾当時から畑地として利用されてきた所である。

このようなことから現在、A・B両地区の地形や植生はまったく異なっている。A地区には、ナラ、アカダモ、ハンノキ、ニレ、クルミなどの樹木が生い茂り、先史時代を思わせる景観が残っている。調査区の南端部には旧トイソ川の河道跡が湧出し、ここに西側を流れる小流が入っている。この小川の南側はB地区に続く段丘面で、調査区の南東端部がここにかかっている。A地区では表土下に樽前a火山灰（Ta-a、1739年降灰）が厚く残っており、人為的な改変をほとんど受けていないことが分かる。これに対してB地区は全域にわたって遺物包含層上部まで耕作されている。B地区は北海道教育委員会が平成2年度に行った範囲確認調査の結果から、南半部に遺構と遺物が多いことが判明していた。今回、調査区南端に接する南26号道路までを発掘したが、遺跡はさらに南方のユカンボシ川近くまで続いていたものと考えられる。付近の人の話によれば、この道路南側の畑には多くの土器や石器が散布していたが、ユカンボシ川左岸の河川敷に客土するため、かつて土取を行ったという。範囲確認調査では遺物がまったく出土していない。本遺跡はユカンボシ川の左岸にあることが、その名称の根拠になっているが、これらのことから判断するとA地区は旧トイソ川右岸に、B地区はユカンボシ川左岸に立地する遺跡とみることができよう。

ユカンボシ川の両岸には、水源から河口にかけて23ヵ所の遺跡が分布している。各種の工事に伴い現在まで本遺跡を含めて、11ヵ所の遺跡で発掘調査が行われた。これらの調査では縄文時代、続縄文時代、撥文時代さらにアイヌ文化期におよぶ遺構、遺物が発掘されており、先史時代からこの川が人間の活動にとって重要な位置を占めていたことが分かる。



図Ⅱ-1-1 遺跡の位置



図二一—2 渡船周辺の地形

Ⅲ 遺物の分類

1 土器の分類

今回の調査で出土した土器片は、A地区では縄文時代のもの6,202点（早期4,826点、前期692点、中期130点、後期66点、時期不明488点）である。なお、他に縄文時代早期の土製円盤が6点出土している。B地区では、縄文時代のもの20,859点（早期3,126点、前期263点、中期12,586点、後期2,137点、時期不明2,747点）、統縄文時代後北式のもの208点、北大式3個体の計20,859点と3個体である。なお、他に縄文時代中期の三角土製品が7点出土している。

基本的な分類は、昨年度のユカンボシE4遺跡の報告で記したものと変わっていない。

I群 縄文時代早期に属する土器を本群とする。大きく二つに分類される。

a類：貝類腹縁圧痕文、条痕文のある土器群。今年度の調査では出土していない。

b類：縄文、撚糸文、絡条体圧痕文、組紐圧痕文、貼付文のある土器群。更に四者に分けられる。

b1類：東銅路Ⅱ・Ⅲ式に相当するもの。

b2類：コッタロ式に相当するもの。

b3類：中茶路式に相当するもの。

b4類：東銅路Ⅳ式に相当するもの。今回の調査では出土していない。

Ⅱ群 縄文時代前期に属する土器を本群とする。大きく二つに分類される。

a類：胎土に繊維を含む、厚手で縄文の施された円底・尖底の土器群。更に二者に分けられる。

a1類：縄文土器に相当するもの。

a2類：静内中野式に相当するもの。

b類：円筒土器下層式、大麻Ⅴ式に相当する土器群。HP1とP1が本時期の遺構である。

Ⅲ群 縄文時代中期に属する土器を本群とする。大きく二つに分類される。

a類：円筒土器上層式、萩ヶ岡1・2式に相当するもの。大半の遺構は本時期のものと思われる。

b類：天神山式、柏木川式、北筒式等に相当するもの。更に三者に分かれる。

b1類：天神山式、萩ヶ岡3式に相当するもの。

b2類：柏木川式、萩ヶ岡4式に相当するもの。

b3類：北筒式に相当するもの。今回の調査では出土していない。

Ⅳ群 縄文時代後期に属する土器を本群とする。大きく三つに分類される。

a類：前葉の土器、余市式、手稲砂山式、入江式に相当するもの。

b類：中葉の土器。手稲式、鮫淵式、エリモB式に相当するもの。

c類：後葉の土器。堂林式、三ツ谷式、御殿山式に相当するもの。今回の調査では出土していない。

V群 縄文時代晩期に属する土器を本群とする。今回の調査では出土していない。

Ⅵ群 統縄文時代に属する土器を本群とする。大きく三つに分類される。

a類：大狩部式、恵山式及びそれに平行するもの。今回の調査では出土していない。

b類：後北式及びそれに平行するもの。今回の調査では後北C₂・D式が出土している。

c類：北大Ⅰ-Ⅱ式に平行するもの。このうち北大Ⅱ式には、斜行縄文と沈線の組合せでV字状モチーフを描くグループと、沈線のみで描くグループがあり、田才（1983）は前者を北大B式、後者を北大C式とした。今回の調査では、B地区で北大C式の土壌裏1基が確認されている。

2 石器の分類

今回の調査で出土した石器等は、A地区の総数は10,686点で、内訳は剥片石器類201点、剥片3,551点、礫石器類56点、方割礫350点、礫278点である。B地区の総数は29,141点で、内訳は剥片石器類375点、剥片27,917点、礫石器類441点、方割礫260点、礫148点である。

基本的分類については、「忍路土場遺跡・忍路5遺跡」の報告（1989）で示した基準を踏襲しているが、以下に特徴的なものあるいは本文中に用いる略語について記す。

搔器：ユカンボシE4遺跡の報告（1992）では、つまみ付きナイフとラウンド・スクレイパー以外には削・搔器として一括で扱ったが、今回はその刃部形態に着目して区分した。搔器としたものは、直角ないし直角に近い斜角の刃部をもつものと、粗い調整による波形の刃部をもつもので、それぞれ直角刃、斜角刃、波形刃としている。このうち波形刃は、その剝離痕や原石面の残り方から、剥片を剥いだ後の残核を転用している可能性が高い。

F・C集中：剥片（flake）・砕片（chip）が集中して出土した地点。

R・F（retouched flake）：二次加工（retouch）のある剥片。器種の特定できない各種石器類の未製品・破損品を含む。

U・F（utilized flake）：使用痕（肉眼での識別による）のある剥片。

ニードル：棒状原石をそのまま、あるいは剥片を棒状に作出し、石錐のような刃部加工をせずに刺す・突くなどの用途に用いたと思われるもの。

石斧：製作過程の素材残片や剥片、使用過程での剥片類を含む。

縞頁岩：木目状の白い縞がみられる珪質の頁岩で、珪化木の可能性がある。一般の頁岩・珪質頁岩と区別するため縞頁岩とした。なお、この原石は現在でも漁川上流部で採取できる。

板状礫：厚さ6cm未満の板状を呈する礫。石皿・台石の素材として、あるいはそのまま台石的に用いられたものと考えている。

方割礫：様々に割られた（割れた）礫で、焼けているものが目立つ。ワッカオイ遺跡の報告（1977）で鮑津が注目した「方割石」に準じ、破断面の数によってB型（1面）～E型（4面）と、その他の破片に細分した。なお破断面0のA型は礫として扱っている。

焼け弾け：加熱されたことによって、礫や黒曜石・メノウの原石・剥片などが割れたものを指す。破断面にバルブなどの加撃痕がみられず、破断面中央からリングが広がる特徴がある。なお、出土資料を奈良国立文化財研究所の松沢亜生氏に実見していただき、以下のコメントをいただいた。

- 1 打撃による剝離ではない。
- 2 熱による剝離・分解の可能性が高い。
- 3 表面の状態変化が少ないので、それほど高温ではないと思われる。
- 4 低めの温度で徐々に加熱された場合には表面の変化が少ない。
- 5 直接炎にあてるのではなく、土に埋めたりして温度調節をしている可能性がある。
- 6 木材を割るなどの加工に使用した楔などは、木の摩擦や圧力のため楔自体が非常に高温となり割れが発生すると考えている。こうした例は弥生時代の遺跡などにみられるが、実核はされていない。
- 7 本資料については、表面の稜線に摩耗やスレが認められないので楔の可能性は薄い。今後、いろいろな条件で加熱・冷却実験を行う必要がある。

なお、焼成実験の成果については、昨年度のユカンボシE4遺跡の報告書中で木村哲朗氏が述べられているので参照されたい。

IV A地区

1 調査の方法

1) 発掘区の設定

発掘区の設定にあたっては、恵庭バイパス建設予定地の用地境界杭を基準に用いた。測量基点としたR.57杭からL.57杭の方向(東)をX軸の正方向、R.58杭の方向(南)をY軸の負方向とする座標を設定、X軸とY軸をそれぞれ10m毎に区切り、調査区全域を10m×10mの発掘区に分割した。

この一辺10mの発掘区を大グリッドとし、それぞれをさらに、1m×1mの小グリッド100個に分割した。各グリッドの表示は大グリッドを1-0区、2-4区等とし、小グリッドの場合は1-0-00区、4-10-55区等々とした。なお、Y軸の方位はN-5°40'-Wである。

各基準杭の座標値は以下のとおりである。

R.57: X = -124,496.948, Y = -52,174.363

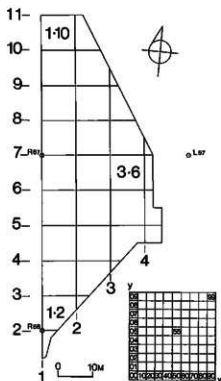
L.57: X = -124,492.624, Y = -52,129.576

R.58: X = -124,549.716, Y = -52,169.578

2) 層序

基本層序 A地区の層序は、B地区および平成3年度に調査したユカンボシE4遺跡の層序に対比してI層(表土、Ta-a降下火山灰の土壌化したもの)・II層(旧表土)・III層(黄褐色土)に大別した。調査区南西端にある流路から北側では腐植に乏しい間層が数枚観察されたので、これらのうち連続性のよいものを境にII層をII-1~4層に細分した。

- I層 : 暗褐色 細礫混じりシルト(礫はTa-a)やや鬆 下限は曖昧 現代の溝を検出
- a層 : 灰黄褐色 細~中礫(中位はシルト質粗粒砂~細礫)軟~鬆 下限は画然 Ta-a火山灰層
- II a層 : 黒褐色 粘土質シルト 軟 下限は判然 流路以南に分布 縄文中期遺物を検出
- II b層 : 黒色 粘土質シルト 軟 下限は判然 流路以南に分布 縄文中期遺物を検出
- II-1 a層 : 灰褐色(厚い部分では下部は黒褐色)粘土質シルト 軟(乾くと堅) 下限は判然~曖昧 分布広く、連続性よい 炭の集中・近世遺物を稀に検出
- b層 : 黄橙色~橙色(c層より赤みが強い)シルト(稀に炭を交える)軟 下限は判然 分布は広いが不連続 無遺物
- II-1 b層 : 黒褐色 粘土質シルト 軟 下限は判然 分布は広いが薄いためb層が欠ける地点ではII-1 a層との区別がしばしば困難 ほぼ無遺物
- c1層 : 黄褐色 粘土質シルト 軟 下限は判然~画然 分布広く連続性よい 無遺物
- II-2 a層 : 暗褐色 シルト質粘土 軟 下限は判然 不連続で厚さ2cm未満と薄い 無遺物
- c2層 : 黄褐色(c1層より明、鈍色)シルト 軟 下限は判然~画然 分布は広いが不連続



図N-1-1 発掘区の設定

無遺物

- II-2 b層：黒褐色 シルト質粘土 軟 下限は判然～曖昧 ほぼ無遺物
- d層：灰褐色～褐色 粘土質シルト 軟 下限は判然 分布広く連続性よい 無遺物
- II-3 a層：黒褐色～暗褐色 細～中礫混じり粘土質シルト（礫はe層のものと同じ） 軟 下限は判然 調査区の全域に分布する ほぼ無遺物
- e層：黄褐色 細～中礫混じりシルト 軟 下限は判然 広い範囲に分布するがごく不連続 Ta-c₂層のものに似た岩片に富む 無遺物
- II-3 b層：黒褐色～暗褐色 粘土質シルト 軟 下限は判然 調査区全域に分布する おもに縄文中期の遺物を検出
- II-3 c層：暗褐色 粘土質シルト 軟 下限は判然 比較的連続性よいが範囲に限られる ほぼ無遺物
- f層：黄褐色～灰黄褐色 粘土質シルト 下限は判然 比較的連続性よいが範囲に限られる 腐植の多い部分と少ない部分に細分することもできるがともに一連の堆積物とみられる 火山ガラスに富み植苗層に対比される可能性がある 無遺物
- II-4 a層：暗褐色（II-3 b層より明） 粘土質シルト 軟 下限は判然 調査区の全域に分布する 主に縄文早期の遺構・遺物を検出
- II-4 b層：灰黄褐色（明暗の土壌が混じる） シルト質粘土 軟 下限は漸移的 全域に分布する 稀に縄文早期の遺物を検出
- III層：黄褐色 粘土質シルト やや堅 下限は判然～曖昧

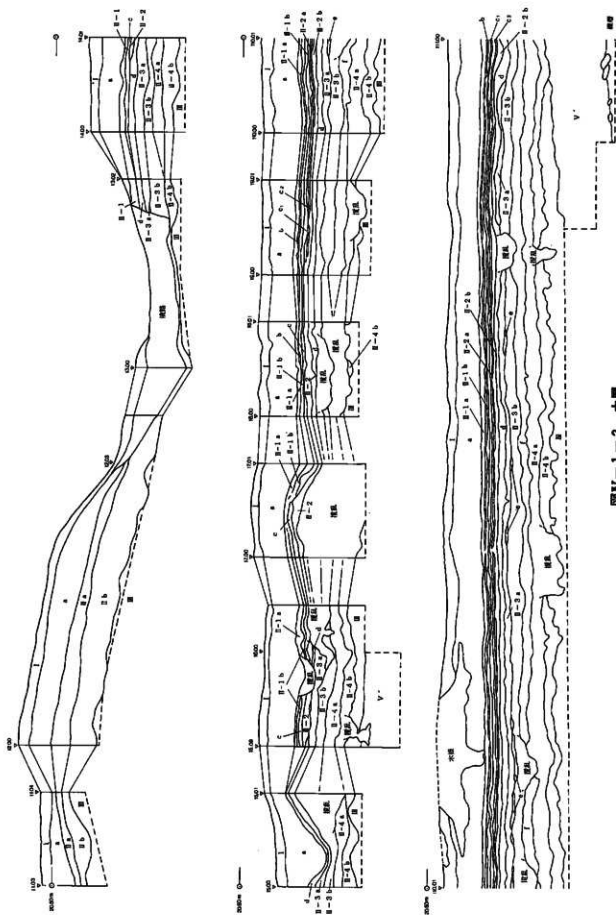
なおb・c1・c2層は土質、色調が類似しており、この3層が明瞭に区別されていない場所ではII-1 a・b、II-2 a・b各層の識別が困難であった。この場合その位置で認められる黄褐色粘土質シルトをc層と呼び、より上位の旧表土をII-1層、下位をII-2層として扱った。

間層のうちb・c1・c2層は降下火山灰とは考えがたいこと、またe層がTa-c₂（曾谷・佐藤1980）層に、さらにf層が植苗層（同前書）に対比される可能性があることについて花岡正光の教示を受けた（本章5節「まとめ」を参照）。d層はその層位と野外での外見からB-Tm火山灰に似ていると考えたが、火山ガラスに乏しいことなどから花岡により否定された。

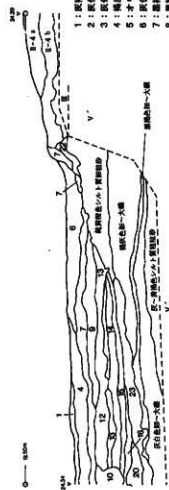
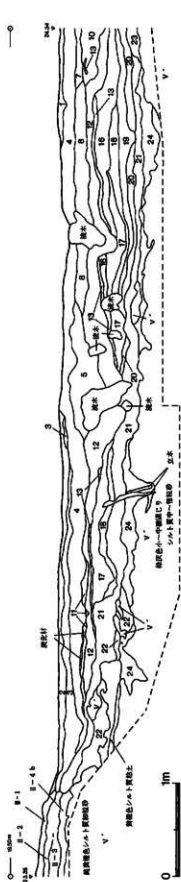
B地区およびユカンボシE4遺跡でIII層の下に堆積しているIV層（黄褐色中～細粒砂混じり粘土）V層（細礫混じり極粗～粗粒砂と軽石礫）は確認されていない。III層より下には砂を主として円礫層を挟む堆積が認められ、その下部にはB地区・E4遺跡のV層に見るような軽石礫の風化したものが含まれる。これらの堆積物を一括してV'層と呼ぶことにした。V'層はおそらくトイソ川あるいはユカンボシ川の旧氾濫原の堆積物で、その上面は小規模ながらB地区・E4遺跡の位置する面よりも新しい段丘面に当たるものと思われるが、詳しい検討をおこなっていない。調査区南端の流路を境に50cmほどの段差があり、これが新旧の段丘面の間の段丘崖に当たる可能性がある。

低湿部の層序 調査区の南東側にトイソ川の旧河道に連なる低地の湾入が2カ所以上認められる。ほぼ全体が地下水下面にあり、植物遺体の保存がよい。このうち1ヶ所の断面図を示した（図IV-1-3）。下位（18～24層）には腐植質の暗色粘土と明色シルトの互層がみられ、暗色粘土層から縄文後期土器などの遺物が出土する。上位（1～17層）では湾入の縁辺部を除いて粘土が主体である。

上位の堆積物の中にみられる灰白色の粘土層（11・13層、一部で炭化物を伴う）が基本層序のb・c層に対応するとすれば、湾入内が安定した水面になった時期は比較的新しく、d層の形成より後になる可能性が高い。下位の堆積の年代は出土遺物から推定できるが、遺物の原位置には問題がある。



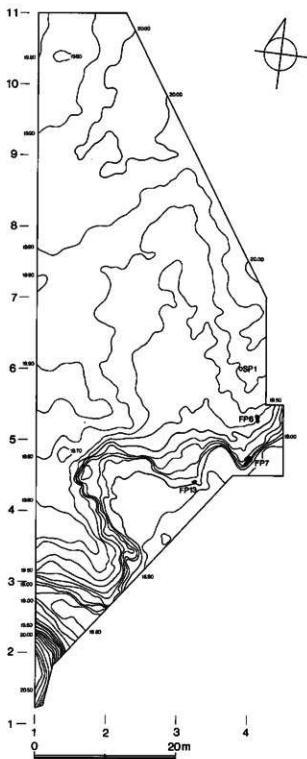
图IV-1-2 土层



- 1: 新井色 (2,578/2) シルト質粘土 砂層・植物遺体多い
- 2: 新井色 (574/1) シルト質粘土 植物遺体多い
- 3: 新井色 (574/1) 粗粒砂質粘土 砂はV'層厚みか 植物遺体多い
- 4: 新井色 (2,578/4) シルト質粘土 植物遺体多い
- 5: オリーブ褐色 (572/1) シルト質粘土 植物遺体多い、特に潜水付近
- 6: 新井色 (574/1) 粗粒砂質シルト～粘土 植物遺体多い
- 7: 新井色 (574/1) 粗粒砂質シルト～粘土 植物遺体多い
- 8: 新井色 (10792/1) 粗粒砂～シルト質粘土 植物遺体多い
- 9: オリーブ褐色 (2,577/1) シルト質粗粒砂 砂はV'層厚みか 植物遺体やや多い
- 10: 新井色 (10792/1) 粗粒砂～シルト質粘土 植物遺体多い 砂不混か
- 11: 新井色 (574/1) 粗粒砂～シルト質粘土 V'層を含む 植物遺体少ない
- 12: 新井色 (10792/1) シルト質粘土 植物遺体少ない
- 13: 新井色 (10792/1) 粘土 植物遺体少ない
- 14: オリーブ褐色 (2,577/1) シルト～粘土質粗粒砂 砂はV'層厚みか 植物遺体やや多い
- 15: 新井色 (574/1) 粗粒砂質シルト～粘土 植物遺体やや多い
- 16: 新井色 (574/1) 粗粒砂質シルト～粘土 植物遺体やや多い
- 17: 新井色 (10792/1) 粗粒砂～シルト質粘土 植物遺体やや多い
- 18: オリーブ褐色 (2,577/1) 粗粒砂じり粗粒砂質シルト 植物遺体少ない
- 19: 新井色 (10792.5/1) 粗粒砂質シルト～粘土 植物遺体少ない
- 20: オリーブ褐色 (2,577/1) 粗粒砂質シルト～粘土 V'層を含む 植物遺体多い
- 21: 新井色 (10792.5/1) 粗粒砂～シルト質粘土 植物遺体少ない
- 22: 新井色 (10792.5/1) 粗粒砂質シルト～粘土 V'層を含む 植物遺体少ない
- 23: 新井色 (10792/1) 粗粒砂質シルト 植物遺体少ない
- 24: 新井色 (10792/1) シルト質粗粒砂 V'層に厚層のみみこらるもの

図IV-1-2 及び図IV-1-3の実測位置

図IV-1-3 新井地土層断面図



図IV-2-1 II-1層の遺構位置図

2 II-1層の遺構と遺物

II-1・2層上面の地形

Ta-a火山灰を除去した段階の地形は、地表で観察されるものと大差がない。調査区の大部分は標高19.6~20mの弱い起伏をもつ段丘面で、南東側に旧トイン川の侵触によるとみられる湾入部がある。水成の堆積物で埋積された湾入部の内部は標高19m弱で非常に平坦であり、段丘面との境は狭い斜面ないし崖面となる。南西端には小さい流路を隔てて、標高20mを超えるより高位の段丘面の端が調査区に含まれている。この流路は現在、機能しているが、Ta-a火山灰の降下前にも存在していたかどうか不明である。

II-1層の遺構

II-1層では小土壌1基、炭化物の集中地点3ヵ所が確認された。このほかに低地部の堆積の上位で炭化物の集中地点が1ヵ所検出されており、不確実ながらII-2層より新しいものの可能性が高いので、II-1層の遺構とあわせて記載することにした。遺構はいずれもII-1層の人力調査を行った発掘区南部で確認したものである。

1) 小土竈

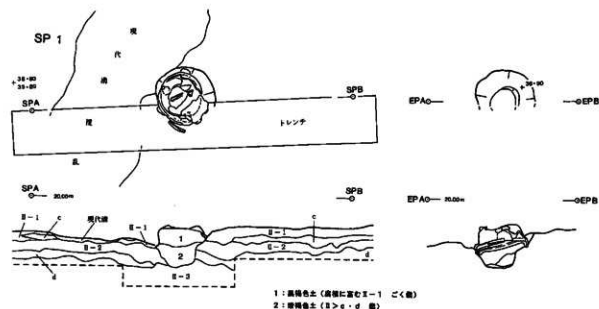
SP-1 確認面での径32cm、底径14cm、深さ16cm。

3・5-89区に位置する。Ⅱ-1層上面の調査中に底を上にして半ば埋没した鉄鍋を認め、これを断ち割る形で試掘溝を設けて精査したところ鍋の直下に小さな土竈を確認した。平面形はほぼ円形と思われ、底面・壁面ともあまり整った畑方ではない。覆土は締まりに乏しく、特にその上部(1層)は鍋の破損後に流入したものとみられる。おそらく小穴に蓋をするように鍋を倒置したもので、当初は遺構内に覆土のない空間があったと想像される。鍋の復元中に別個体の破片が2点混在していることに気付いた。本来どの位置にあったか記録がないが、復元個体とともに穴の上位にあったことは確かであり、あるいは復元個体の破損部を塞ぐように使われていたかとも思われる。

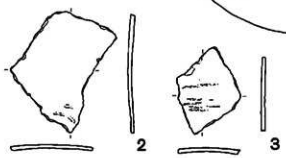
復元された鉄鍋(図Ⅳ-2-3)は口径約26.3cm、深さ10.5cm、脚から耳までの高さ14.3cmを測る比較的小型のもの。花卉状の吊耳一對と三脚がつき、口縁部と胴部の境に蓋受けの段があり、一文字溝口を備える。内部はほとんど腐蝕していない。外面の口縁部と胴部には木製の基型を回した痕、内面には内型を削った痕らしいものが見られる。脚は獸脚状の特徴あるもので、脚部の内面に湯冷えによる窪みが全く認められないことから、あるいは別脚の脚を鋳付けしたのではないかとも思われる。底部と胴部の境付近に、脚の型(あるいは脚そのもの)を外型に埋め込んだ痕跡らしいものがあり、ここでみると脚の周囲は砂ではなく、真土のようなきめ細かいものである。耳孔は各1か所。鉉は鍛造で、口縁に沿って倒した状態で両端が耳に鑄着していた。幅広い方の面が炉鉤にあたる形の鉉で、端部は捻らずに断面を丸く作る。遺跡出土の吊耳鉄鍋で一文字溝口のものは管見の範囲では他に例がなく、年代・産地についても現在のところ不明である。

図Ⅳ-2-2・3は上記の個体より大型の鍋か釜の破片で同一個体かと思われるもの。やはり外面には木製基型の痕があり、内部は全くと言ってよいほど腐蝕していない。

覆土中にはTa-a軽石がほとんど認められないので、火山灰の降下以前にSP-1の埋没が完了していたものと判断できる。一応1739年以前の遺構とみられるが、出土鉄製品の劣化が軽微なのが疑問である。遺構の性格も不明であるが、覆土及び遺構底面のⅡ-3層を採取して残存脂肪分析を依頼しており、現在分析の結果を検討中である。



図Ⅳ-2-2 SP-1



0 10cm

图IV-2-3 铁器

2) 炭化物の集中地点

3ヶ所確認された。いずれも旧河道に臨む段丘面の縁ないし氾濫原へ連なる斜面上に位置する。3ヶ所とも掘り込みを伴わない薄いもので、旧地表に形成されたことは分かるが、炭化物が現地性のものかどうか判断できない。炭化物の多くは木片と思われ、細かく砕けたもの(径2cm未満)が大半であった。

FP-6 長径120cm以上、短径70cm、厚さ2cm。

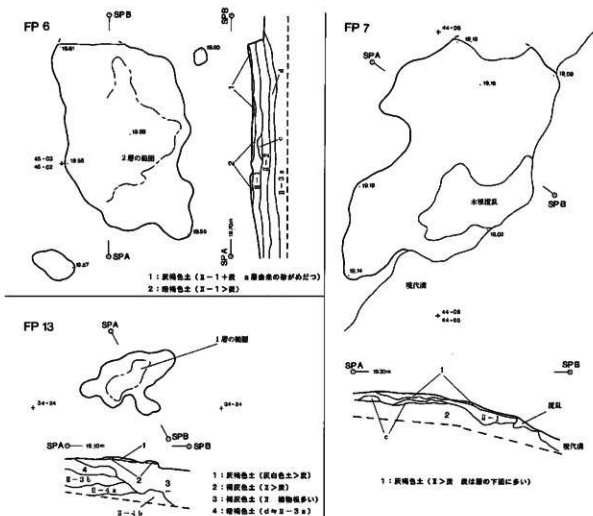
4・5-12区から13区にかけてa層の直下で確認。II-1層上面に炭化材片の集中があり(2層)、これを粒の細かいTa-a火山灰と炭化材片を交えた薄い層(1層)が覆う。遺物はない。Ta-a軽石降下にかかなり近い時期のものと思われる。

FP-7 長径155cm以上、短径80cm以上、厚さ3cm。

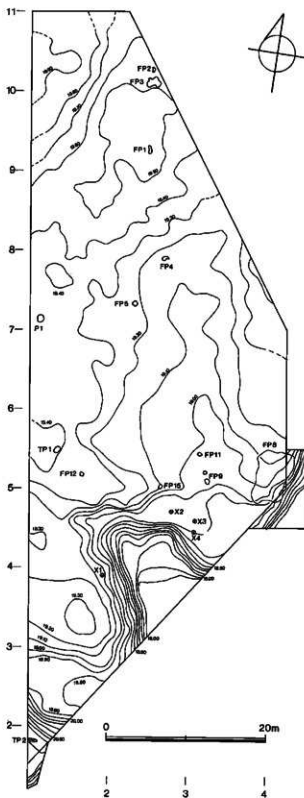
3・4-96区から4・4-06区にかけて確認したが、南東側は現代の溝や木根痕に攪乱されている。c1層とみられる黄褐色の粘土層より上位にあることは確実。炭化材片を交える層(1層)の直下に鈍い橙色のごく薄い土壌(焼土か)が観察されたが、これがb層に対応する可能性がある。遺物はない。

FP-13 長径54cm、短径36cm、厚さ1cm。

3・4-24区で確認。d層・II-3a層より新しい低地部の堆積物(3層)の上に形成され、中央部に灰らしいものを交える(2層)。遺物はない。



図IV-2-4 炭化物の集中地点



図Ⅳ-3-1 II-3・4層の遺構位置図

3 II-3・4層の遺構と遺物

II-3・4層からIII層上面にかけて土坑1基、Tピット2基、焼土4ヶ所、炭化物の集中地点4ヶ所が確認された。人為的なものかどうか疑問を残す焼土、炭化物の集中地点を別にすると、遺構は調査区の南西部に偏って分布している。

II-3層と4層は調査区北半部では明瞭に分層できるが、南に寄るほど薄くなり判別が困難であった。II-4層からは縄文時代早期の遺物、II-3層では早期のものとともに、わずかではあるが中期や後期の遺物が出土する傾向があった。しかし、二層出土のもので接合する土器、石器が多数確認されたことから、同一層位として取り扱うこととした。

II-3層で確認された遺構は、調査区南東隅にある規模の大きい焼土と炭化物の集中それぞれ1ヶ所があるのみで、しかも前述のように層位に多少疑問がある。

1) 土窖

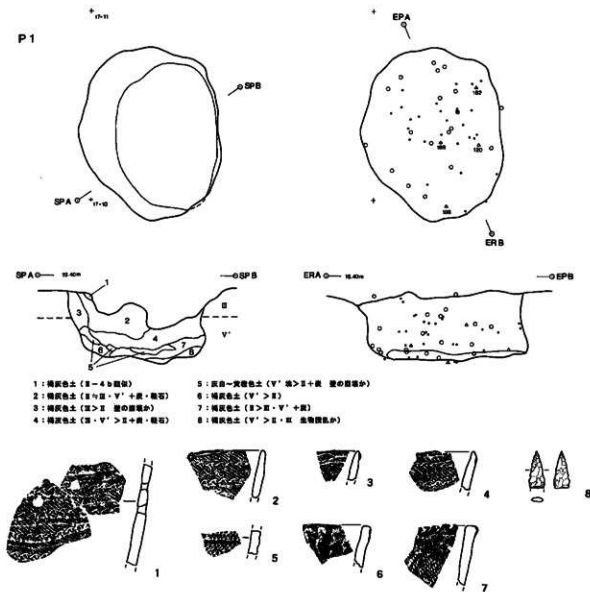
P-1 確認面での長さ93cm、幅75cm/底面の長さ78cm、幅55cm/深さ35cm。

1・7区の南西隅で確認。II層の調査を終えてIII層上面に認められる不整形の腐植土落ちこみを掘り上げたところ、その下位に整った平面形をもつ遺構が認められた。

平面形は楕円形、底面では概ね南北方向に長軸をもつ。底面はほぼ水平だが細かい凹凸が目立つ。壁面は垂直に近く、東側ではオーバーハングしている。北西側の壁面はより緩やかだが、これは崩壊の結果らしい。底部には腐植がちの覆土(7層)があり、これを覆って壁面の崩壊土とみられる5層が北西側に偏って形成される。上部にはロームがちの褐灰色土(2~4層)が堆積するが、これにはV層下部由来とみられる軽石を含み、別の深い遺構からの排土が流入している可能性を示す。

覆土からは土器32点と黒曜石製遺物41点が出土しており、特に底面に近い7層では同一個体とみられる中茶路式土器16点・石鏃1点・UF 1点などを検出した。石鏃は黒曜石製、基部を欠損しているが柳葉形のものともみられる。焼けたものか、光沢がない。

出土遺物から縄文時代早期末の遺構と考えられる。性格が不明であるが規模と形状から考えて土壌墓の可能性もある。



図Ⅳ-3-2 P-1

2) 集石

調査区南東端のII-4層にて、旧トイソ川の湾入部をとり囲むように、それぞれ小さな範囲にまとまった礫群が4ヵ所検出された。石の形態は円礫、垂円礫などで、安山岩と凝灰岩のものが混在しており、割れた石も多い。焼けた痕跡を残すものが多く、なかには炭化物が付着しているものもある。火熱をうけて割られたものとみられる石の破片も混入している。個数は10数個から100個以上までのものがあり、集中の密度も様々だが、検出層位や形態から4ヵ所とも同種の遺構と推定される。

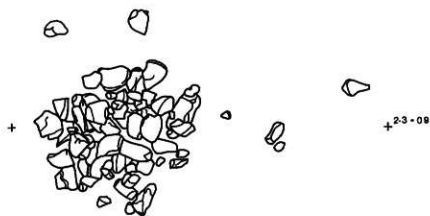
X-1 集中範囲の長径約45cm、短径約40cm

旧トイソ川湾入部西側の縁にちかいⅡ-4層上面にて検出した。ほかの3ヵ所に比べてすこし高い位置にある。100個以上の石が径50cm以内のほぼ円形の範囲に積み重ねられたようにまとまっており、その周辺にもいくつかの礫がみられる。中央部が少し高く盛り上げたような形になっているが、底面はほぼたいらである。礫は風化した凝灰岩が大半であるが、安山岩も混じっている。接合できたものは少ないが、凝灰岩は数個体の礫が割れたものの可能性がある。これらは火焼を受けて割れたものとみられるが、ほかの集石に比べて炭化物の付着が顕著であるものは少ない。安山岩は拳大の円礫で割れたものが多く、やはり火焼を受けたものとみられる。焼けた際に割れたものとみられる礫の破片も多く出土している。礫に混じって縄文時代早期の土器口縁部破片が1点出土した。下表には図Ⅳ-3-3にみられるものを記載したが、このほかにも数十個の礫片が出土している。

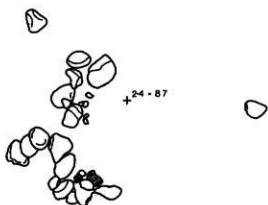
表Ⅳ-3-1 集石X-1

NO.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	種NO.	形態	備考
1	1・3-98	27.5	52.4	74.0	156.3	安山岩	545	梨門礫 破片	
2		86.7	62.5	33.6	206.9	安山岩	546	長円礫	
3		50.0	58.8	30.0	87.5	凝灰岩	547	梨門礫 破片	
4		190.2	88.8	63.6	1110.0	安山岩	548	円礫 破片	2点接合
5		62.5	64.0	31.6	124.3	凝灰岩	549	方割礫	
6		81.0	67.0	35.0	178.6	凝灰岩	550	梨門礫 破片	炭化物付着付録
7		66.4	60.5	18.0	109.1	凝灰岩	553	梨門礫 破片	
8		47.6	33.0	16.4	19.2	凝灰岩	554	梨門礫 破片	
9		32.8	30.7	24.0	15.9	凝灰岩	555	破片	
10		67.2	42.0	25.0	45.6	凝灰岩	556	破片	
11		48.5	46.9	39.1	57.4	凝灰岩	557	梨門礫 破片	2点接合
12		34.5	40.8	34.0	43.9	凝灰岩	560	破片	
13		60.0	50.0	32.2	93.6	凝灰岩	563	方割礫	
14		45.6	33.5	17.6	14.4	凝灰岩	564	破片	
15		33.6	29.4	16.6	10.5	凝灰岩	565	破片	
16		75.0	54.0	30.5	109.0	凝灰岩	566	破片	
17		45.0	31.7	19.2	22.0	凝灰岩	567-1	破片	
18		27.1	33.0	23.8	17.1	凝灰岩	567-2	破片	
19		57.8	42.4	37.4	69.5	凝灰岩	570	破片	2点接合
20		75.8	35.0	47.0	149.2	凝灰岩	571	角礫	2点接合
21		37.5	21.2	20.5	12.1	凝灰岩	572	破片	
22		39.2	65.1	39.4	63.4	凝灰岩	581	方割礫	
23	1・3-99	72.6	48.0	18.0	77.4	凝灰岩	536	方割礫	
24		128.7	71.3	41.2	320.0	安山岩	538	梨門礫	2点接合
25		30.0	78.0	64.0	157.8	凝灰岩	541	円礫 破片	
26		45.0	48.0	37.6	82.4	安山岩	542	方割礫	
27		67.0	57.0	30.7	145.0	安山岩	543	円礫 破片	
28		73.0	51.0	30.0	133.9	安山岩	544	円礫 破片	
29		81.6	51.0	31.0	137.6	凝灰岩	551	梨門礫 破片	
30		62.4	50.6	23.5	69.5	凝灰岩	552	円礫 破片	
31		56.0	56.0	31.8	99.8	安山岩	574	梨門礫 破片	
32		132.5	97.0	45.5	378.9	凝灰岩	576	方割礫	2点接合
33		53.0	51.1	45.0	118.9	凝灰岩	577	方割礫	
34		70.0	48.2	25.8	85.5	凝灰岩	578	梨門礫	
35		57.3	29.8	20.0	39.9	凝灰岩	580	梨門礫 破片	

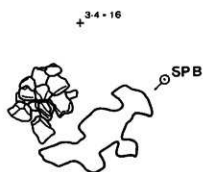
X1



X2



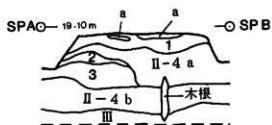
X3



X4



SPA ⊙



- a : 褐色黄粘土 (含むめて用い)
- 1 : 褐色黄粘土 (a+調整3)
- 2 : 黄粘土 (B-4 a+調整3)
- 3 : 暗褐色土 (B-4 a+B-4 b)

図N-3-3 集石 (縮尺 1:10)

X-2 集中範囲の長径約45cm、短径約30cm

旧トイン川湾入部北側縁のⅡ-4層にて検出した。約20個の安山岩あるいは凝灰岩のおもに円礫がまとまっている。南端部の礫の上には炭化物がわずかに出土した。礫は焼けたものが多く、表面に黒く煤や炭化物が付着したのもみられる。また、焼けた際に割れたものとみられる礫の破片も多く混入していた。土器や石器は出土していない。

X-3 集中範囲の長径約20cm、短径約16cm

旧トイン川湾入部北東縁にちかいⅡ-4層で検出。15個の安山岩と凝灰岩の礫が狭い範囲に積み上げられた状態で出土した。多くは円礫で、割れたものも入っている。半数ちかくの礫に焼けた痕跡があり、薄く炭化物が付着している。炭化物は礫表面と割れ口にも残っている。南西側に接するように焼土が検出されており、集石と合わせて一つの遺構を構成するものと推定される。集石中から、縄文時代早期の土器片が1点出土している。

X-4 集中範囲の長径約40cm、短径約45cm

旧トイン川湾入部東側縁のⅡ-4層にて検出。26個の安山岩礫がまとまっているが、密度はほかの3ヵ所に比べるとまばらである。礫は凝灰岩が多く安山岩はわずかである。大半が焼けた痕跡をもち、表面あるいは表面と割れ口に黒く煤が付着しているのが認められる。焼けた際に割れたものとみられる破片も少し混入している。

表Ⅱ-3-2 集石X-2

NO.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	遺物NO.	形態	備考
1	2・4-77	77.0	50.3	43.0	211.5	安山岩	679	重円礫	焼けている
2		60.0	50.6	25.2	88.1	凝灰岩	680	重円礫	
3		65.8	47.4	17.8	43.3	凝灰岩	681	重円礫	
4		97.3	48.6	25.2	111.9	凝灰岩	682	重円礫	焼けた痕跡、焼いている
5		62.1	42.4	31.2	102.2	安山岩	683	重円礫	
6		68.2	48.0	25.8	105.0	安山岩	687	重円礫	焼けている 炭化物付着
7		53.0	51.1	36.0	122.5	安山岩	688	重円礫	焼けている 炭化物付着
8		66.8	45.6	34.0	97.0	安山岩	689	重円礫	焼けている 炭化物付着
9		73.6	59.3	22.8	87.5	凝灰岩	690	角礫	
10		67.0	47.0	30.6	115.2	安山岩	691	重円礫	
11		46.6	39.7	10.8	14.9	凝灰岩	692	破片	
12		67.4	50.0	45.0	201.6	安山岩	693	重円礫	焼けている
13		39.0	29.6	12.2	10.9	凝灰岩	694	破片	
14		54.3	40.0	14.3	21.9	安山岩	695	破片	
15		73.6	38.6	8.8	25.4	安山岩	697	破片	
16		38.0	56.3	40.0	73.2	安山岩	698	重円礫	焼けている
17		48.0	45.8	21.8	58.0	安山岩	700	重円礫	焼けている 全面に炭化物付着
18		58.0	25.4	13.8	12.4	凝灰岩	701	重円礫	
19		70.4	58.0	30.0	106.6	凝灰岩	707	重円礫	炭化物付着

表M-3-3 集石X-3

NO.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(t)	石質	番号NO.	形態	備考
1	3-4-05	26.4	39.0	31.9	30.9	安山岩	728	亜円礫	2層集合
2		42.7	35.3	31.0	32.8	安山岩	729	新礫 断	
3		63.0	55.4	40.4	142.0	凝灰岩	730	新礫 断	
4		52.0	38.5	31.0	67.0	凝灰岩	731	新礫 断	
5		60.0	52.8	36.7	106.5	安山岩	732	亜円礫	
6		60.2	56.5	27.7	81.4	凝灰岩	734	新礫 断	
7		52.3	46.2	23.0	45.8	安山岩	735	新礫 断	
8		58.6	49.0	46.6	206.9	安山岩	736	亜円礫	削れている
9		66.2	65.0	57.6	232.6	安山岩	776	亜円礫	削れた量、削れている
10		86.4	38.8	37.1	138.8	凝灰岩	777	亜円礫	削れた量、削れている
11		60.0	36.0	47.0	87.1	凝灰岩	778	角礫	2層集合、削れている
12		32.4	29.5	24.6	29.0	凝灰岩	779	角礫	削れている
13		65.0	46.4	35.5	91.2	凝灰岩	780	角礫	
14		44.2	32.2	22.3	31.5	凝灰岩	781	破片	3層集合、削れた量、削れている
15		58.3	33.2	39.1	50.9	凝灰岩	783	亜円礫	削れた量、削れている

表M-3-4 集石X-4

NO.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(t)	石質	番号NO.	形態	備考
1	3-4-04	64.2	33.6	16.3	34.5	凝灰岩	737	破片	
2		30.0	24.5	17.8	13.8	凝灰岩	738	破片	3層集合
3		52.3	58.1	44.2	147.2	凝灰岩	739	破片	
4		30.0	25.0	17.0	9.2	凝灰岩	740	破片	
5		53.0	69.1	41.0	179.6	安山岩	741	長円礫	削れた量、削れている
6		73.3	46.4	30.5	115.2	安山岩	742	亜円礫	
7		32.4	29.0	11.0	8.7	安山岩	743	破片	
8		53.5	44.1	39.0	91.6	凝灰岩	744	亜円礫	削れている
9		57.0	57.1	22.7	55.6	凝灰岩	745	亜円礫	削れている
10		34.1	20.9	12.8	5.8	凝灰岩	746	破片	5層集合
11		33.2	22.0	8.6	5.2	凝灰岩	747	破片	
12		26.0	23.0	10.0	5.2	凝灰岩	748	破片	
13		29.4	35.2	14.3	10.4	凝灰岩	749	破片	
14		63.0	42.1	15.6	31.4	凝灰岩	750	破片	表面に炭化層付着
15		42.4	26.0	32.0	33.7	凝灰岩	751	破片	削れている
16		46.0	53.3	32.4	55.2	凝灰岩	752	亜円礫	2層集合
17		42.2	24.3	27.4	16.6	凝灰岩	753	亜円礫	削れている
18		34.4	27.8	13.6	12.4	凝灰岩	754	亜円礫	
19		26.0	25.4	16.1	8.2	凝灰岩	755	破片	
20		26.6	18.0	20.0	6.6	凝灰岩	756	破片	
21		51.1	42.6	28.2	52.4	凝灰岩	758	亜円礫	削れている
22		31.6	22.3	19.0	9.0	凝灰岩	759	破片	
23		30.5	21.2	15.0	9.0	凝灰岩	760	破片	
24		49.0	54.7	29.1	97.1	凝灰岩	761	亜円礫	削れた量、削れている
25		56.7	54.6	31.0	124.2	凝灰岩	762	亜円礫	表面全体が削れている
26		37.4	33.0	11.0	10.6	凝灰岩	763	破片	

3) Tピット

Tピットは2基発掘された。いずれも調査区南西部にあるが、形状や長軸方向が異なり、標高も異なることから同一列に属するものとはみられない。

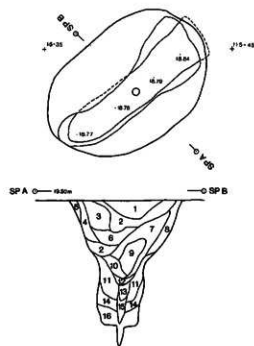
TP-1 長さ94cm、幅61cm、深さ77cm。

1・5-25・35区のⅡ-4層下位で確認したが、掘込み面はさらに上部だったものとみられる。確認面では小判型を呈するが、壁が崩落したことによるものと推定され、断面をみると上半部が大きく開いている。墳底の平面形は北東端が広く角ばり、他端は尖っている。北東側の壁はオーバーハングしている。墳底中央に杭跡が1ヵ所あり、土層断面でも杭の痕跡がみとめられた。杭は太さ約5cm、先端が尖がり、長さは30cm以上あったことが分かる。覆土1層から土器の小片1点が出土したが、摩耗しており時期、形式等は不明である。

TP-2 確認した長さ114cm、幅45cm、深さ115cm

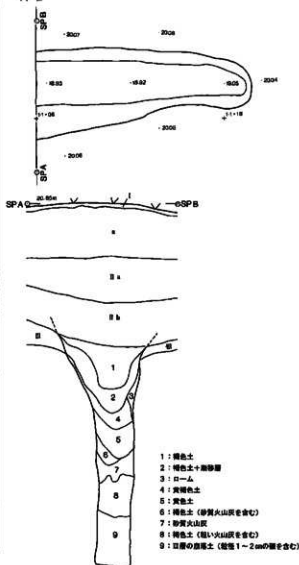
調査区西側を流れる小川によって区切られた南西端部の1・1-08区で確認した。この部分は

TP 1



- 1: 黄褐色土
- 2: 黄褐色土
- 3: 褐色土 (E>B)
- 4: 黄褐色土 (E+D)
- 5: 砂 (E>B)
- 6: 黄褐色土 (E) 砂
- 7: 褐色土 (E>B, 3よりEが少ない)
- 8: 黄褐色土 (E+D)
- 9: 黄褐色土 (E>B)
- 10: 黄褐色土 (E>D)
- 11: 黄褐色土 (E>B)
- 12: 褐色土 (E=B, 砂多量なし)
- 13: 黄褐色土 (E+D, 砂多量なし)
- 14: 黄褐色土 (E+D)
- 15: 黄褐色土, 砂多量なし
- 16: 黄褐色土, 粘性が強い

TP 2



- 1: 黄褐色土
- 2: 黄褐色土+黄砂層
- 3: ローム
- 4: 黄褐色土
- 5: 黄褐色土
- 6: 黄褐色土 (砂質火山灰を含む)
- 7: 砂質火山灰
- 8: 黄褐色土 (粗い火山灰を含む)
- 9: 黄褐色土 (埋土1-2mmの層を含む)

図N-3-4 Tピット

調査区の大部分をしめる北東部よりも高く、B地区の標高にちかい。確認した長さは1mあまり、西端部は調査区外にある。全体の長さは1.5mくらいあるものと考えられる。墳底の幅は約20cm、上部はわずかに崩落しているが土層断面をみると墳底にIV層の崩落土が堆積しており、構築時には墳口から墳底まで同じくらいの幅だったものと推定される。墳底の東端がわずかに高くなっている。

4) 焼土および炭化物の集中地点

9ヶ所確認された。下位と周囲に不整形の落ち込みを伴うものが大半で、層位的に問題が多い。また遺物を伴った例もなく、時期の決定は困難であった。調査区の全域に散在しており、南西部に集まる傾向はない。

FP-1 長さ107cm、幅34cm、厚さ13cm。

2・9-52区で確認。橙色の焼土(2層)の周囲に炭化物を含む腐植質土(1・3層)が分布する。遺物はない。2・9-32区付近を中心とする倒木痕とみられる落ち込みの端に位置し、攪乱を受けている可能性が高い。同じ落ち込みの他の部分からも炭化材が検出されている。

FP-2 長さ66cm、幅25cm、厚さ8cm。

2・10-52区で確認。FP-1に似て細長く形成された焼土(1層)の周囲に炭化物を含む腐植質土(2層)、さらに下位には周囲のII-4層より暗色の落ち込みが伴う(3層)。遺物はない。

FP-3 長さ172cm以上、幅143cm、厚さ15cm。

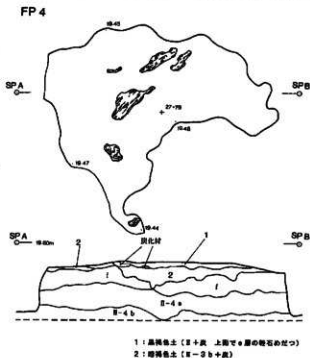
2・10-40区から51区にかけて確認。FP-1・2同様、細長い焼土(1層)の周囲に炭化物を含む腐植質土(4層)が見られ、その中にやや大きな炭化材が散在する。東割路Ⅲ式(?)土器3点が出土した。やはり不整形の落ち込みの中に位置するが、その下面が一部焼土化している(7層)ことからみて、この落ち込み自体樹木の株が焼けて陥没した跡ではないかと思われる。Ⅲ層の上面で認められる落ち込みの形状と、炭化物の散布範囲とはかなりよく対応している

FP-4 長径125cm以上、短径110cm以上、厚さ4cm。

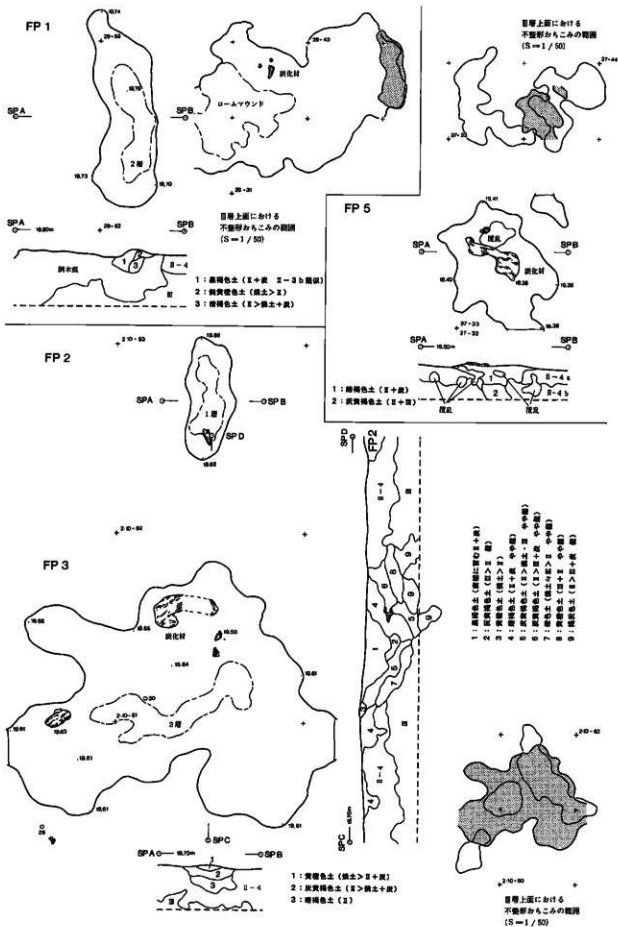
2・7-68区から97区にかけてII-3b層の下部で確認。比較的大きな炭化材を含む腐植土層(1層)の下位にII-3b層が不整形に落ち込んでいる(2層)。遺物はない。検出面付近でe層のものと思われる軽石を認めたが、炭化材とは混ざっていない。輪郭・断面形とも出入りの多い不整形形状であること、大きな炭化木の付近以外では炭化物の密度が低いことなどから、樹木の株が燃えた痕とも考えられる。f層とe層の間に形成されているが、新しい攪乱である疑いを残す。

FP-5 長さ74cm以上、幅58cm、厚さ12cm。

2・7-33区のII-4層上面付近で確認。ほぼ水平に横たわった薄い炭化材の周囲に材片を含む腐植質土(1層)が見られ、下位に不整形の落ち込みを伴う(2層)。FP-3などの焼土の周囲に形成



図Ⅳ-3-5 焼土(1)



図Ⅳ-3-6 焼土(2)

される炭化物を含んだ腐植質土層に似ている。遺物はない。

FP-8 長径396cm、幅256cm、厚さ10cm。

Ⅱ-3層の調査中に3・5区から4・5区にかけて焼土が広がり、調査範囲外へ続いているのを確認した。調査区を拡張して全体を検出し、平面・断面図の作成後小グリッドを単位として焼土を採取した。その一部について浮遊選別をおこなったが、検出された炭化物はわずかであった。

旧河道に臨む段丘面の縁に形成され、現状で段丘崖から3~5m程の奥行きがあるが南東側は焼土の形成後に侵蝕を受けているらしい。焼土は南東側で厚くなって4・5-11区付近では厚さ8~10cmの堆積がみられる一方、北東側ではやや薄くまた不連続になる。断面の観察からe層より下位にあることは確実である。焼土は均質な橙色の部分(3層)とその上の焼土混じりの腐植土(2層)に分かれ、一部ではⅡ-3b層の再堆積らしい腐植土(1層)に薄く覆われている。Ⅱ-3b層上面よりは深い位置にあるが、人為的な掘り込みは確認されない。

調査中に確認できた遺物は裸3点とわずかであった。

遺構の年代はe層(晩期中葉のTa-c降下火山灰と推定)以前。Ⅱ-4層より上位にあるので一応縄文早期末より新しいものと判断される。ただ焼土の下ではⅡ-3b層が周囲よりやや深い位置で見られるのが疑問で、これは真のⅡ-3b層ではない(あるいはⅡ-4層が焼土の下で還元を受け暗色になったものか)可能性もある。従ってこの焼土はⅡ-4a層上面に形成された早期の遺構ではないかという疑いが残る。

FP-9 長さ47cm、幅36cm、厚さ11cm。

3・5-20区で確認、やはり不整な落ち込み(3・4層)の中に焼土(1・2層)が陥没した状況。炭化物は目立たなかった。北西側に隣接して小さな焼土が見られる。遺物はない。

FP-11 長さ49cm以上、幅30cm以上、厚さ6cm。

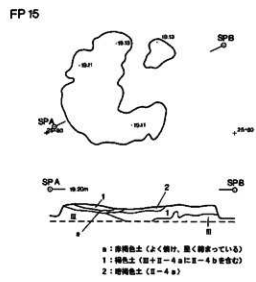
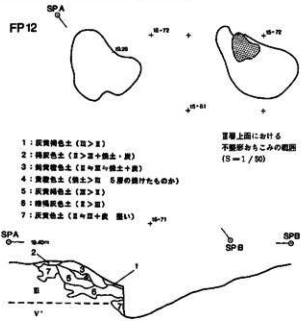
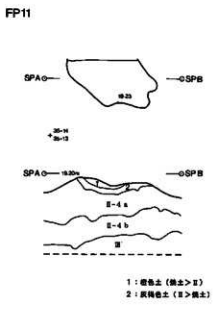
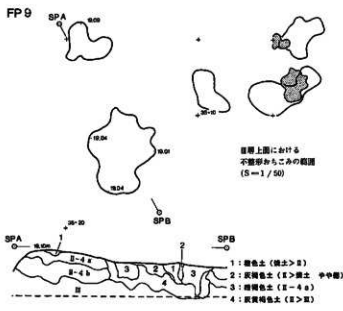
3・5-14区のⅡ-4層上面付近で確認。比較的薄く水平に広がり、旧地表か浅い掘り込みの中に形成されたものと思われる。炭化物は目立たなかった。遺物なし。

FP-12 長さ40cm、幅38cm、厚さ8cm。

1・5-61区付近のⅢ層上面で径1m余りの落ち込みを検出、半截して掘鉢状の不整な掘り方から自然のものであろうと判断したが、落ち込みの残り半分を掘り上げる際に焼土が確認された。落ち込みの底面からかなり浮いた位置に傾斜して形成されている。遺物はない。現地で焼けた形跡があるので(4層)、自然の窪みを利用した焚火などの跡と考えられる。

FP-15 長さ60cm、幅55cm

調査区南部の2・5-60区Ⅱ-4層にて検出。ほぼ水平に薄く広がっている。上面は赤褐色に焼け、堅く締まっている。遺物は伴っていない。



図IV-3-8 焼土(4)

表M-3-5 A地区遺構出土土器一覧

遺構名	東割田	コックロ	中実路	不明	合計
P-1	11	2	17	2	32
TP-1				1	1
FP-3	2				2
X-1	1				1
X-3	1				1
合計	15	2	17	3	37

表M-3-6 P-1層位別・分類別出土土器一覧

層位	東割田	コックロ	中実路	不明	合計
覆土上層				2	2
覆土1	4				4
覆土2	5				5
覆土3	2	2			4
覆土5			1		1
覆土7			16		16
合計	11	2	17	2	32

表M-3-7 P-1覆土7層出土土器一覧

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
1	1・7-11	割部	2	中実路	189	貼付帯、鏡紋文
—	1・7-11	口縁	1	中実路	190	貼付帯
—	1・7-11	割部	1	中実路	191	貼付帯、鏡紋文
2	1・7-11	口縁	1	中実路	193	貼付帯、鏡紋文
—	1・7-11	割部	1	中実路	194	磨耗
—	1・7-11	割部	4	中実路	196	嵌合、貼付帯
—	1・7-11	割部	1	中実路	197	貼付帯、刷毛縄文
—	1・7-11	口縁	1	中実路	198	貼付帯、刷毛縄文
3	1・7-11	口縁	4	中実路	199	貼付帯、刷毛縄文

表M-3-8 P-1覆土5層出土土器一覧

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
4	1・7-11	口縁	4	中実路	192	貼付帯、鏡紋文

表M-3-9 P-1覆土3層出土土器一覧

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・7-01	割部	1	東割田	184	刷毛縄文
—	1・7-11	割部	1	コックロ	181	嵌合体庄盛文?
5	1・7-11	割部	1	コックロ	182	嵌合体庄盛文?
—	1・7-11	割部	1	東割田	183	刷毛縄文

表M-3-10 P-1覆土2層出土土器一覧

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
6	1・7-11	口縁	4	東割田	179	刷毛縄文
7	1・7-11	口縁	1	東割田	180	口縁に刷毛縄文

表M-3-11 P-1覆土1層出土土器一覧

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・7-11	口縁	4	東割田	178	刷毛縄文

表M-3-12 P-1覆土上部出土土器一覧

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・7-11	割部	2	不明	171	破片、東割田?

表M-3-13 TP-1覆土出土土器一覧

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	4・5-29	割部	1	不明	100	破片、刷毛

表M-3-14 FP-3出土土器一覧

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・10-50	割部	1	東割田?	29	破片、磨耗
8	2・10-51	割部	2	東割田?	30	磨耗、磨本文?

表M-3-15 X-1出土土器一覧

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・3-99	口縁	1	東割田?	219	破片、口縁に刷毛

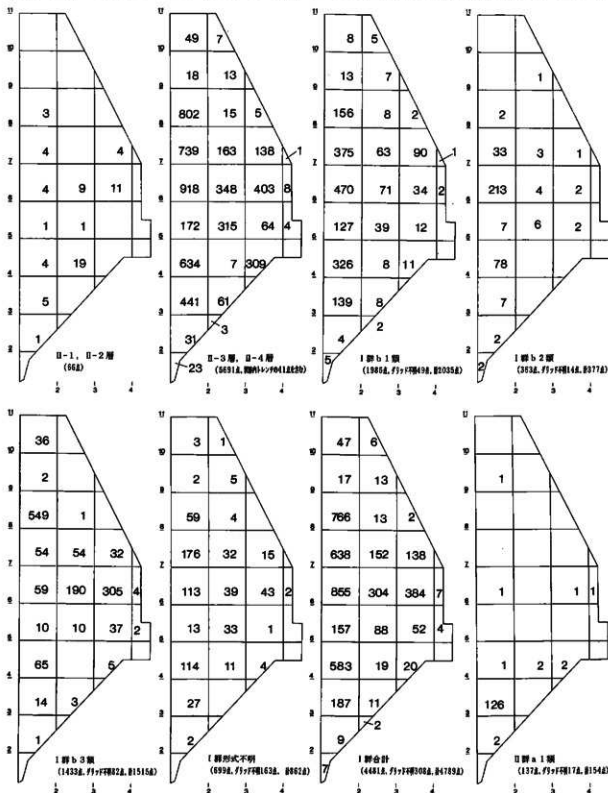
表M-3-16 X-3出土土器一覧

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・4-05	割部	1	東割田?	252	破片、刷毛

4. 包含層出土の遺物

1) 土器・土製品

包含層からは6165点の土器片が出土している。層位をⅡ-1～Ⅱ-4に分けて取り上げたが、Ⅱ-1・Ⅱ-2層とⅡ-3・Ⅱ-4層の2つにまとめられる。全体的な傾向としては前者が中期、後者が早・前期の土器の包含層といえるが、土器の多く分布するあたりでは層が近接し両者の判別はつき難い。



図Ⅳ-4-1 包含層出土の土器分布 (1)

出土点数は縄文時代早期が4789点と最も多く、次いで前期が692点である。このほか中期が130点、後期の土器が66点出土している。早期の土器は発掘区のほぼ全面から検出されているが、特に遺跡中央部の小高い地域に分布する。前期の土器はその周辺のやや下がった地域や沢の近くから出土している。中期の土器は前期の土器より沢に近い部分や沢の南の小高い部分で出土しており、この地区では異なる分布を示す。後期の土器のほとんどは沢跡のトレンチから出土している。便宜上これもⅡ-4層として集計した。Ⅱ群b類(2点)および時期不明の土器片(488点)の分布図は割愛した。

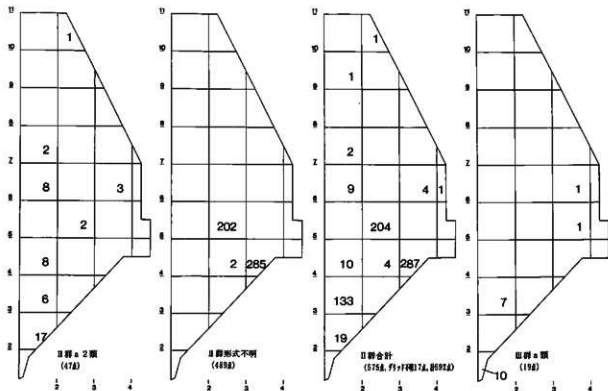
縄文時代早期の土器

I群b1類 (図番1・3~30)

底部が張り出す厚手のものが多く、器面に凹凸がある。口唇は施文の際につぶれて外側に張り出すものが多い。張り出しを貼付状にしたもの(3・4)もある。口唇に縄文による刻み(3・4)、縄線文(6)、縄文の押捺(7・8・10)、半截竹管による刻み(12)の施されているもの、平らに調整されたもの(9)がある。器面に断面三角形の貼付のあるものもある。貼付には縄端刺突(5)、縄の圧痕(14)が施される。器面には斜行縄文(3・4・13・21~23)、短縄文(5~9・11・13~16・23)、組紐圧痕文(9・12・20)、絡条体圧痕文(8・16・17)、縄線文(6・18・19)、縄端圧痕(18~20)などが組み合わせて施文される。底部のくびれには短縄文(24~30)が施されている。1は上面観楕円形の深鉢で、口唇が縄で刻まれ器面には短縄文が施されている。口径13.5×12、器高41.8、底径7cmをはかる。

I群b2類 (31~37)

底部はあまり張り出さず、口唇は厚みで丸みを帯び、縄文による刻み(31・34)や絡条体圧痕(32・33)のみられるものがある。器面には短縄文(33・34・36)、条の細い斜行縄文(31)、縄文(37)、結束羽状縄文(36)、絡条体圧痕文(32)、軸に細い紐を2本文差させた絡条体圧痕文(34・35)など



図Ⅳ-4-2 包含層出土の土器分布 (2)

が組み合わせて施文される。また、内面に短縄文のみられるもの(34)もある。

I群b3類 (38~50)

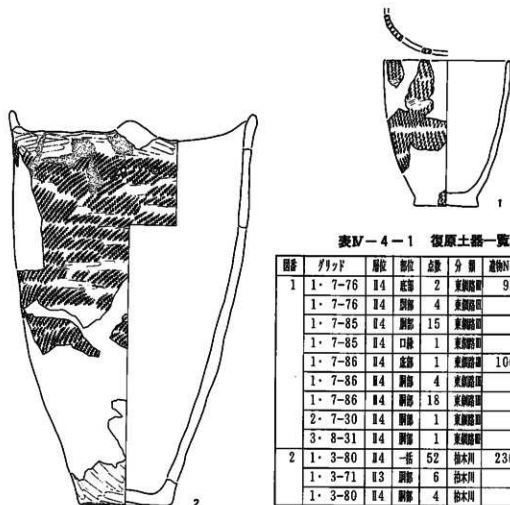
底部は張りださず丸みを帯びる。口唇は薄みで尖り気味。器面に細い貼付帯を横環あるいは縦(41)、縦横(47・48)、波状(42・47)に貼付し、その間に短縄文(45・46・49・50)、斜行縄文(38~40・42)、羽状縄文(47・48)、絡糸体圧痕文(44)などを施す。綾絡文のみられるもの(38)もある。

縄文時代前期の土器(II群a1類、II群a2類、II群b類、II群)

51~55は縄文式に相当する土器で器面には横走気味の太い縄文が施されている。56は器面と内面にLRの縄文が施されている。中野式に相当する。57・58は外傾する口唇と口縁に縄文が施されている。大麻V式に相当する土器はこの2点のみである。59はLRの縄文が斜め、横に入り乱れて施された肩部破片である。489点出土している。前者3形式とは異なるものとして分類した。

縄文時代中・後期の土器(III群a類、III群b2類、III群、IV群b類)

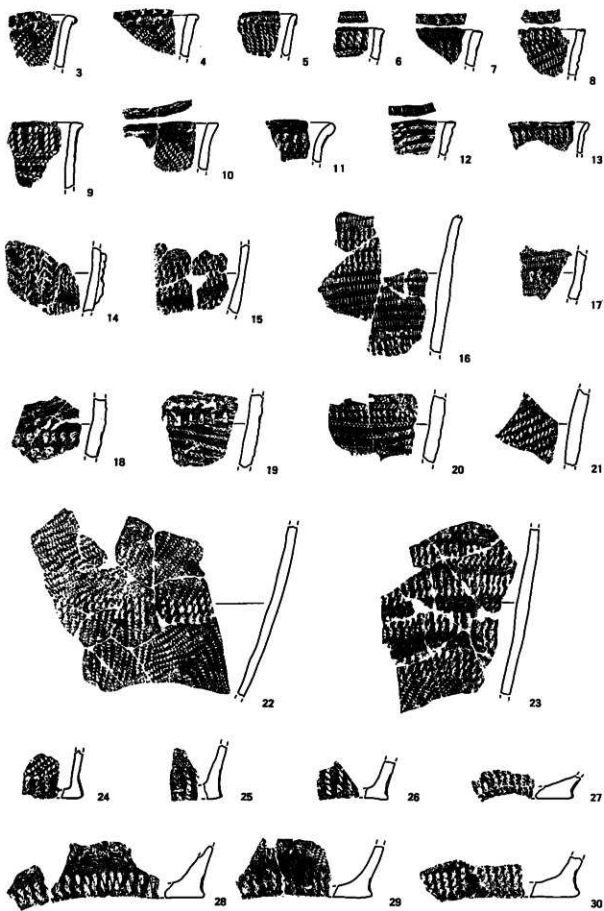
60は口縁に山形突起をもつ深鉢の破片で、貼付された粘土紐に撚糸圧痕が施されている。器面には馬蹄形の撚糸圧痕が見られる。円筒上層式に相当する。62は半截竹管による刺突と沈線のみられる突起部分で荻ヶ岡2式に相当する。2は口縁に小突起をもつ深鉢で、器面にはLRの斜行縄文が施されている。口径26.5、器高41.8、底径10cmを計る。柏木川式に相当する。62はLRの斜行縄文のみられる肩部である。形式不明のIII群に分類した。63~65は口縁に沈線が施されている。65は波状口縁である。手稲式に相当する。他にグリッド不明で天神山式に相当する土器片が1点出土している。



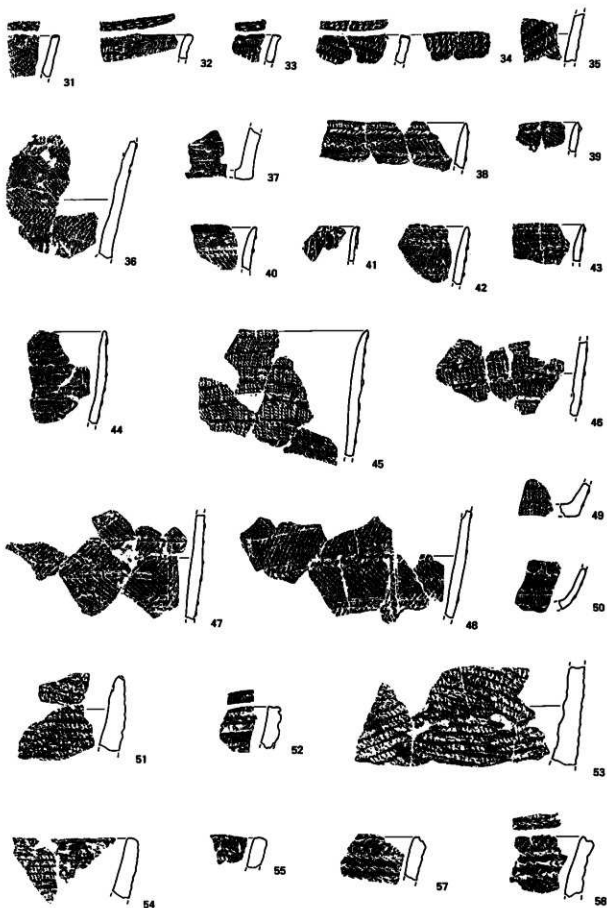
表N-4-1 復原土器一覧

図番	グリッド	層位	部位	数量	分期	遺物No.	備考
1	1・7-76	II4	底部	2	東銅路式	95	口唇に
	1・7-76	II4	胴部	4	東銅路式		縄の跡み、
	1・7-85	II4	胴部	15	東銅路式		器面に
	1・7-85	II4	口縁	1	東銅路式		短縄文
	1・7-86	II4	底部	1	東銅路式	106	
	1・7-86	II4	胴部	4	東銅路式		
	1・7-86	II4	胴部	18	東銅路式		
	2・7-30	II4	胴部	1	東銅路式		
	3・8-31	II4	胴部	1	東銅路式		
	2	1・3-80	II4	一拵	52	柏木川	236
1・3-71		II3	胴部	6	柏木川		器面に
1・3-80		II4	胴部	4	柏木川		LR

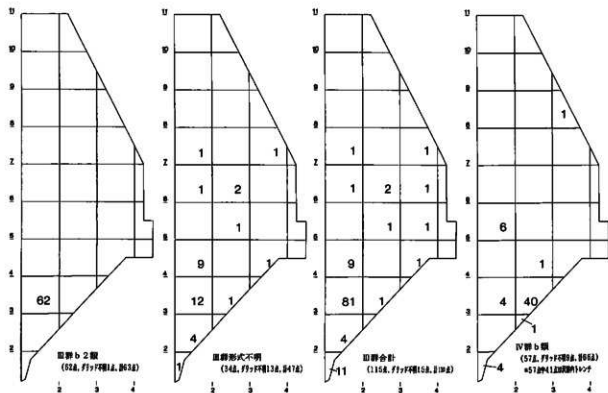
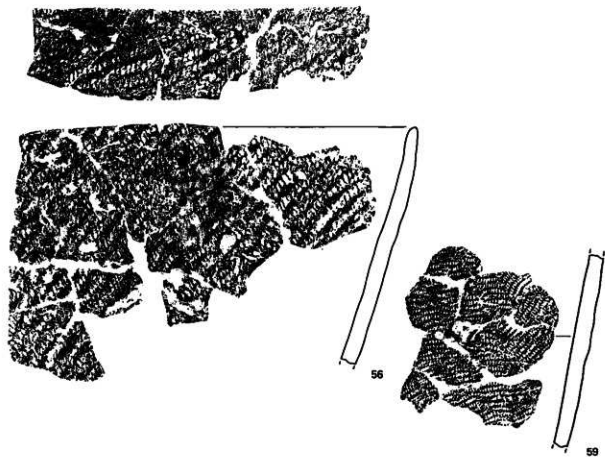
図N-4-3 復原土器(東銅路Ⅱ式・柏木川式)



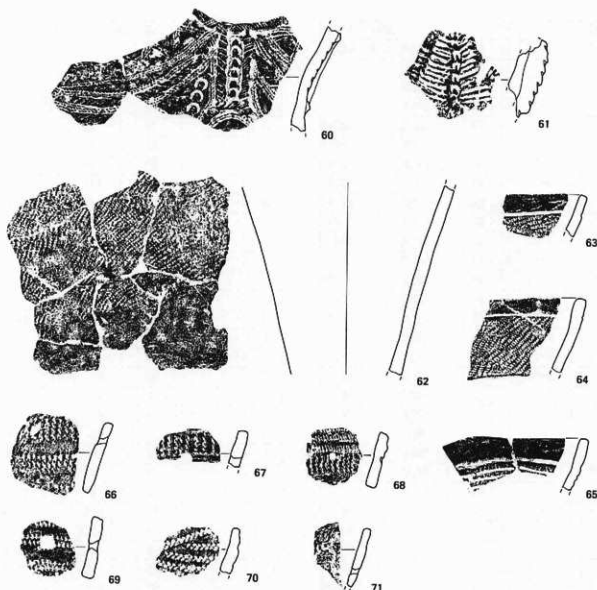
図Ⅳ-4-4 縄文時代早期の土器



図IV-4-5 縄文時代早・前期の土器



図Ⅳ-4-6 縄文時代前期の土器・包含層出土の土器分布 (3)



図M-4-7 縄文時代中・後期の土器、土製品

土製品

短縄文・組紐疋痕文・絡条体疋痕文などが施されている土器片を削り、穿孔したもので、未貫通のもの(68)もある。67・70・71は穿孔部分で割れている。土器片はいずれも東銅路Ⅲ式に相当する。

表M-4-2 包含層掲載土器一覧

図番	グリッド	層位	部位	点数	分類	遺物No.	備考
3	1・7-20	Ⅱ4	口縁	1	東銅路Ⅲ	57	縄の跡み
4	1・6-73	Ⅱ4	口縁	1	東銅路Ⅲ	169	縄の跡み
5	1・4-45	Ⅱ4	口縁	1	東銅路Ⅲ	224	縄条刺突
6	1・3-78	Ⅱ4	口縁	1	東銅路Ⅲ	221	縄刺文
7	1・5-72	Ⅱ4	口縁	1	東銅路Ⅲ	210	縄の押跡
8	1・7-00	Ⅱ4	口縁	1	東銅路Ⅲ	56	縄の押跡
9	3・7-00	Ⅱ4	口縁	2	東銅路Ⅲ	75	口唇掘出計

図番	グリッド	層位	部位	点数	分類	遺物No.	備考
10	1・7-02	Ⅱ4	口縁	1	東銅路Ⅲ	62	縄の押跡
	1・7-13	Ⅱ4	口縁	1	東銅路Ⅲ	65	
11	1・7-38	Ⅱ4	口縁	1	東銅路Ⅲ	84	短縄文
12	2・7-09	Ⅱ4	口縁	1	東銅路Ⅲ	69	組紐疋痕文
13	1・7-12	Ⅱ4	口縁	1	東銅路Ⅲ	71	短縄文
14	1・7-12	Ⅱ4	口縁	1	東銅路Ⅲ	72	
	1・6-40	Ⅱ4	胴部	1	東銅路Ⅲ	154	貼付

番号	グレード	層位	部数	点数	分類	建物No.	備考
15	1・7-76	14	副都	1	東武線	259	短編文
	1・7-85	14	副都	1	東武線		
	2・7-47	14	副都	2	東武線		
	2・7-48	14	副都	1	東武線		
16	1・4-05	14	副都	5	東武線	260	終身保証
17	1・7-37	13	副都	1	東武線	17	終身保証
18	2・9-29	14	副都	1	東武線	28	短期保証
19	1・10-50	13	副都	1	東武線	20	短期保証
20	1・9-35	14	副都	1	東武線	35	短期保証文
21	1・5-61	14	副都	1	東武線	207	併行編文
22	1・5-61	14	副都	11	東武線	261	併行編文
	1・5-62	14	副都	1	東武線	262	
23	1・5-61	14	副都	7	東武線	263	11点集合 短編文
	1・5-62	14	副都	4	東武線	264	
	1・5-72	14	副都	3	東武線	265	
	1・5-73	14	副都	6	東武線	266	
24	1・6-18	14	底都	1	東武線	138	短編文
25	2・8-96	14	底都	1	東武線	51	短編文
26	1・6-49	13	底都	1	東武線	25	短編文
27	1・6-65	14	底都	1	東武線	159	短編文
28	1・7-42	14	底都	1	東武線	63	短編文
	2・5-96	14	底都	1	東武線	188	
29	1・6-03	14	底都	1	東武線	226	短編文
	1・6-03	14	底都	1	東武線	227	
30	1・5-61	14	底都	1	東武線	213	短編文
31	2・5-36	14	口都	1	コックロ	164	鏡の輝砂
32	1・4-05	14	口都	1	コックロ	242	終身保証
33	1・4-04	14	口都	1	コックロ	241	終身保証
34	1・6-29	13	口都	1	コックロ	1	終身保証
	1・7-10	14	口都	1	コックロ	88	
35	1・6-29	14	口都	2	コックロ	267	終身保証
36	1・4-53	14	副都	6	コックロ	268	終身保証
37	2・6-96	14	底都	1	コックロ	165	短編文
38	3・5-90	14	一話	3	中京路	249	短編文
39	1・8-54	14	口都	1	中京路	87	併行編文
	1・8-54	14	口都	1	中京路		
40	1・8-31	14	口都	1	中京路	50	併行編文
41	2・6-56	14	口都	1	中京路	149	鏡に曇村
42	1・8-31	14	口都	1	中京路	49	鏡に曇村
43	3・6-01	14	口都	1	中京路	144	併行編文
44	3・6-54	14	口都	7	中京路	269	4点集合
	3・6-65	14	副都	9	中京路	270	
45	3・7-31	14	口都	1	中京路	102	6点集合 短編文
	3・6-28	14	副都	2	中京路	271	
	3・6-39	13	副都	4	中京路	272	

番号	グレード	層位	部数	点数	分類	建物No.	備考
	3・6-48	14	副都	1	中京路		
	3・6-59	14	副都	1	中京路	273	
46	2・6-80	14	副都	1	中京路	274	短編文
	3・6-11	14	副都	6	中京路	275	
47	1・8-31	13	副都	1	中京路	42	鏡、鏡 鏡に曇村
	1・8-31	13	副都	2	中京路	43	
	1・7-19	13	副都	1	中京路	276	
	1・8-30	13	副都	2	中京路	277	
48	1・8-02	13	副都	2	中京路	37	鏡、鏡 に曇村
	1・8-02	13	副都	1	中京路	38	
	1・8-02	13	副都	3	中京路	278	
	1・8-03	13	副都	4	中京路	279	
	1・10-34	13	副都	1	中京路	280	
49	3・7-21	14	底都	1	中京路	101	短編文
50	1・3-34	14	底都	1	中京路	234	短編文
51	1・3-84	14	口都	2	鏡文	281	RL
52	4・6-06	14	口都	1	鏡文	145	口都角部
53	1・3-84	14	副都	5	鏡文	282	RL
54	1・3-55	14	口都	1	鏡文	283	口都角部
	1・3-64	14	口都	1	鏡文	284	
55	1・3-56	14	口都	1	鏡文	214	口都角部
56	1・2-97	14	口都	14	中野	251	11点集合
57	1・4-84	14	口都	1	大森V	244	短編文
58	1・3-74	13	口都	1	大森V	285	短編文
59	2・5-70	14	副都	111	前野	205	14点集合
60	1・1-29	13	口都	1	丹野上野	204	短編文
	1・1-07	13	口都	2	丹野上野	295	
61	1・3-16	14	副都	2	家ノ間2	81	手書き管
	1・3-16	14	副都	2	家ノ間2	296	
62	1・3-55	13	副都	12	中野	297	13点集合 LR
	1・3-56	13	副都	1	中野		
	1・3-66	13	副都	1	中野		
	1・3-76	13	副都	1	中野		
63	1・5-21	14	口都	1	手書き	209	短編
64	2・3-1	14	伊藤屋	1	手書き	298	短編
65	2・3-1	14	伊藤屋	2	手書き	299	鏡に曇村

表M-4-3 土製円盤一覽

番号	グレード	層位	部数	点数	分類	建物No.	備考
66	1・3-89	13	副都	1	東武線	253	短編文
67	1・3-59	14	副都	1	東武線	254	短期保証文
68	1・7-31	14	副都	1	東武線	255	終身保証
69	1・7-05	14	副都	2	東武線	256	短編文
70	1・8-10	14	副都	1	東武線	257	短期保証文
71	3・7-95	14	副都	1	東武線	258	短期

2) 石器

A地区では各種の石器が出土しているが、遺構や土器と同様に9ライン以北と3ライン以南では非常に少なく、調査区中央部のおもに西側一帯に多く分布する傾向があった。とくに調査区西端部では濃く分布する地点がある。また、器種による分布の差異も多少みられる。

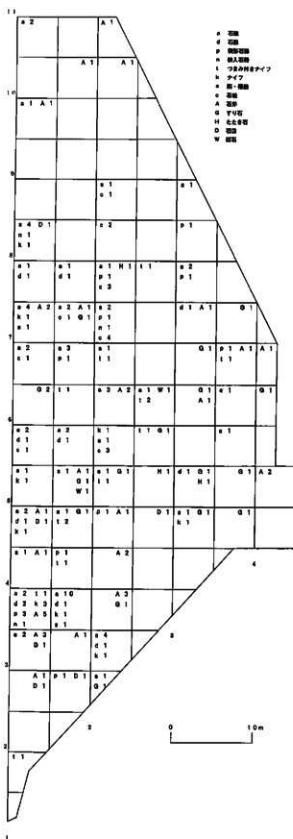
比較的、点数が多い石鏃や石斧の出土地点はほぼ上記の範囲全体に広がっているが、1・3区と1・7区付近とくに多くなっている。

つまみ付きナイフ、楔形石器、およびすり石の点数は多くはないが、旧トイン川岸に平行するように帯状に分布している。石核は調査区中央付近の西寄りの狭い範囲で出土している。16点のうち半数が2・7区にあり、ここからは剥片類も比較的多く出土した。石器製作に関連するものかも知れない。

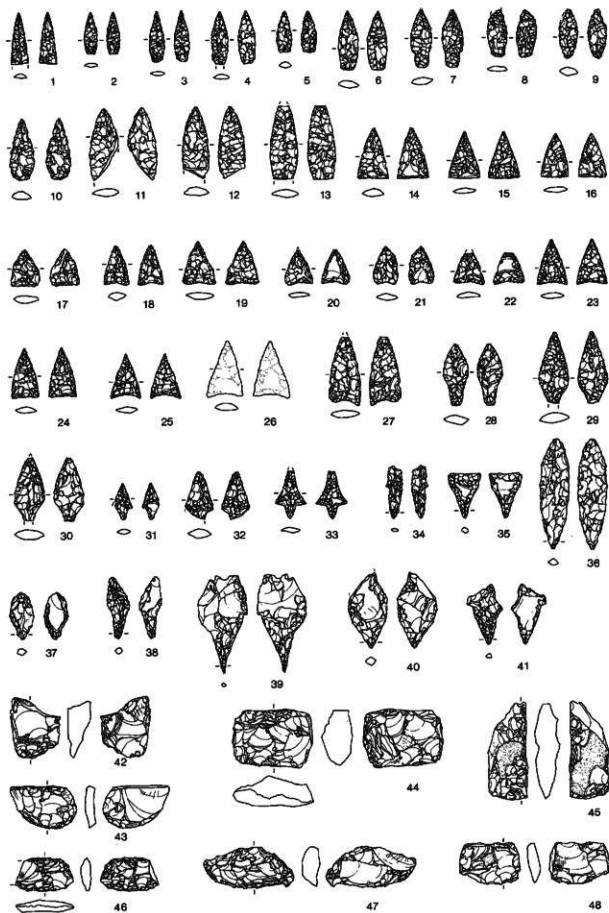
このほかの器種も出土点数は少ないが、おおむね調査区中央部西寄りに分布する傾向にある。

剥片石器の石材は黒曜石が大部分を占めており、赤井川産とみられるものがかなり多い。

剥片類は明示しなかったが、黒曜石を主として3,513点が出土している。また、安山岩や凝灰岩の礫が362点出土した。これらは地山の石とは異なり、周辺から持ち込まれたものと思われる。



図M-5-1 石器分布図



圖N-5-2 石器(1)

石鏝(図Ⅳ-5-1 1-33)計63点出土した。調査区内での分布状況は、西南部のとくに中央部と南部に多く、ここから離れるにつれて少なくなる。

形態別の内訳は縄文時代早・前期のものとみられる柳葉形のもの13点、無柄平基69点、無柄凹基8点、中期以降のものとみられる有柄のものが6点、石材は頁岩製のものが1点あるが、ほかはすべて黒曜石である。

図版の1~13は柳葉形のものである。1は基部を欠損しているが、長身の柳葉形の鏝とみられる。11、12、13はいずれも一部欠けているが、3~10に比べて大型のものである。10は焼けており光沢がなくなっている。14~17は無柄平基。18~27は無柄凹基のもの。20と21は片面に主刺離面が残る。26は全体が焼けており、表面はわずかに発泡して細かい凹凸ができている。28~33は有柄のもの。このうち28~30は菱形にちかい。石鏝は図示したもの以外に30点出土しているが、

表Ⅴ-5-1 石鏝一覧(1)

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	材質	厚数	種別No.	形状	備考
1	1-3-16	19.5	13.2	3.9	0.8	黒曜石	18	76	無柄凹基	
2	26	28.7	9.8	2.0	0.5	黒曜石		79		未成品
3	31	31.5	12.2	5.8	2.0	黒曜石		246	有柄凹基	先端欠損
4	34	21.0	15.4	2.9	0.6	黒曜石		248	無柄凹基	
5	59	15.1	16.6	3.0	0.6	黒曜石		83	無柄凹基?	基部欠損、両面に主刺離面を欠す
6	56	22.3	17.1	3.6	0.9	黒曜石	19	217	無柄凹基	
7	66	19.7	13.4	3.5	0.7	黒曜石	21	215	無柄凹基	未成品?
8	68	16.2	15.5	2.7	0.6	黒曜石	22	219	無柄凹基	先端欠損
9	75	14.8	10.0	2.7	0.4	黒曜石		206	無柄凹基?	基部欠損
10	75	29.3	19.3	3.9	1.7	黒曜石	26	214	無柄凹基	全周削けており、チツツしている
11	76	19.1	15.5	4.2	1.1	黒曜石	17	216	無柄平基	
12	78	23.6	15.8	3.0	0.8	黒曜石	23	218	無柄凹基	
13	80	20.7	16.0	3.6	1.0	黒曜石	25	259	有柄凹基	先端欠損
14	94	23.1	8.0	3.2	0.6	黒曜石		262	柳葉形	
15	1-4-07	31.6	10.4	3.3	1.0	黒曜石		238	柳葉形	
16	11	26.6	12.0	4.6	1.1	黒曜石		253	柳葉形	未成品
17	98	14.8	9.8	2.0	0.2	黒曜石		183	柳葉形?	基部欠損、先端のみ
18	1-5-00	37.9	14.1	4.8	2.0	黒曜石	11	220	柳葉形?	下部欠損
19	08	12.5	10.0	2.2	0.2	黒曜石		27	?	先端のみ
20	28	18.0	13.5	2.4	0.5	黒曜石	20	201	無柄凹基	片面に主刺離面を欠す
21	66	26.2	10.4	4.5	1.0	黒曜石	9	212	柳葉形	先端欠損
22	79	32.8	13.4	4.7	1.6	黒曜石	28	222	有柄凹基	
23	1-6-08	27.3	9.8	2.4	0.6	黒曜石		16	柳葉形	
24	09	14.2	10.4	3.6	0.4	黒曜石		86	?	先端のみ、削けている
25	58	28.0	7.8	2.2	0.4	黒曜石	3	19	柳葉形	
26	68	20.4	10.2	4.3	0.9	黒曜石		159	柳葉形	削けている
27	89	27.9	8.6	3.0	0.7	黒曜石	4	157	柳葉形	
28	1-7-11	16.6	10.4	2.9	0.5	黒曜石		65	柳葉形	基部のみ
29	21	35.4	14.3	4.9	2.3	黒曜石	12	87	柳葉形	
30	27	21.8	8.1	3.0	0.5	黒曜石	5	9	柳葉形	
31	32	24.8	10.4	2.3	0.6	黒曜石	8	48	柳葉形	先端欠損
32	38	19.8	8.8	3.1	0.4	黒曜石		8	柳葉形	基部欠損
33	50	18.9	9.4	2.8	0.5	黒曜石		66	柳葉形	基部のみ
34	59	19.8	9.8	3.2	0.6	黒曜石		99	柳葉形	基部のみ
35	90	33.2	16.0	5.2	2.6	黒曜石	30	113	有柄	
36	1-8-20	13.8	15.2	3.7	0.6	黒曜石		33	無柄凹基?	基部欠損
37	20	31.4	10.8	3.5	0.9	頁岩	6	32	柳葉形	
38	21	23.2	19.0	4.3	1.8	黒曜石		31	木製形?	基部のみ
39	22	30.4	11.2	3.5	1.0	黒曜石	7	34	柳葉形	先端欠損

表Ⅳ-5-2 石鏢一覽(2)

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	頁数	遺物No.	形態	備考
40	1・9-28	21.7	16.0	3.1	0.8	黒曜石	25	26	短棒形	
41	1・10-06	38.5	14.6	3.7	2.1	黒曜石	13	14	柳葉形	先端、および基部欠損
42	39	26.2	16.4	4.1	1.3	黒曜石	14	4	短棒形	
43	2・2-18	18.0	16.1	3.9	1.1	黒曜石		267	短棒形	先端部欠損
44	2・3-03	24.4	14.9	4.2	1.2	黒曜石		269	短棒形	
45	04	16.7	16.1	3.6	1.1	黒曜石		270	玉形	基部欠損
46	11	24.4	10.4	3.5	0.8	黒曜石		264	有柄	
47	23	16.5	9.0	2.0	0.3	黒曜石		271	有柄	基部欠損
48	2・5-22	37.9	15.8	4.7	2.1	黒曜石	29	199	短棒形	
49	2・6-23	9.6	10.2	3.1	0.2	黒曜石		276	?	先端部のみ
50	30	14.7	8.8	2.5	0.4	黒曜石		129	柳葉形	先端、基部欠損
51	38	22.2	6.6	1.9	0.2	黒曜石	2	20	柳葉形	
52	42	25.7	14.2	3.2	0.9	黒曜石	24	128	短棒形	
53	83	31.9	13.0	4.2	1.3	黒曜石	10	151	柳葉形	
54	2・7-06	19.1	9.1	2.6	0.3	黒曜石	31	11	有柄	
55	21	27.4	8.9	2.5	0.5	黒曜石	1	69	柳葉形	基部欠損
56	36	18.5	9.7	2.4	0.3	黒曜石		50	柳葉形	先端部のみ
57	2・8-46	24.4	16.4	2.2	0.7	黒曜石	15	37	短棒形	
58	3・4-07	31.5	12.4	5.1	1.8	黒曜石		243		未製品
59	3・5-56	25.0	14.2	4.9	1.3	黒曜石	32	178	有柄	先端、基部欠損
60	3・6-62	22.8	14.2	2.6	0.6	黒曜石	16	133	短棒形	
61	3・7-07	24.6	10.8	3.2	0.9	黒曜石		102	柳葉形	
62	26	33.6	16.4	3.6	2.0	黒曜石	27	36	短棒形	先端部欠損
63	3・8-08	24.9	16.0	2.8	0.6	黒曜石	33	107	有柄	先端部欠損

破片や未成品が多い。

石鏢(34~41) 調査区中央部から南部にかけて散点的に出土した。出土数は計11点である。黒曜石製が7点、頁岩製が4点である。形態別にみると棒状のものと、つまみ部をもつものに分かれる。棒状のものは図示した1以外に3点ある。36は頁岩製で肉厚のものである。39は先端部が鋭く尖がっているが、ほかは潰れている。

楔形石器(42~49) 12点出土した。旧トイソ川に平行するように散点的に分布している。すべて黒曜石製である。1面あるいは2面に原石面を残すものが多い。44、48はほぼ四角形、ほかは楔形である。

挟入石器(50・51) 2点出土。両方とも1面に原石面を残しており、側面に1カ所の挟りがある。51は焼けて光沢がなくなっている。

つまみ付ナイフ(52~63) 調査区の西部で13点が出土。このうち、53、54と遺物No.255の3点が黒曜石、ほかの10点は頁岩製である。形態は縦長のものと斜めのものがある。いずれも縄文時代早・前期のものと思われる。53、54、57は周辺加工、55、56、58、60~63は片面加工のものである。

削器・搔器(64~68) 調査区中央西側で4点出土した。64~66は楕円あるいは方形にちかいかいもの。67はバチ形の片面加工のものである。

石槍またはナイフ(69~71) 調査区西寄りで11点出土した。頁岩製のもの2点、ほかの9点は黒曜石製である。図示したもののほかに、7点出土している。

R・F(72・73) 図示したものは調査区中央付近で出土した2点である。このほかにも11点出土している。

表M-5-3 石錐一覽

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(t)	石質	原産地No.	形態	備考
1	1・3-16	43.0	13.4	7.3	4.1	黒曜石	225	棒状	
2	47	48.2	9.2	7.2	3.2	黒曜石	231	棒状	
3	75	23.0	17.1	3.6	1.1	黒曜石	35	207	有屑
4	1・4-29	58.6	15.4	8.6	7.5	頁岩	36	3	棒状
5	1・5-18	24.8	13.2	5.0	1.5	黒曜石	37	28	有屑
6	68	32.4	11.7	6.1	1.9	頁岩	38	221	有屑
7	1・7-27	39.9	21.2	9.0	6.2	頁岩	40	84	有屑
8	68	51.4	26.5	13.0	10.6	黒曜石	39	135	有屑
9	2・3-14	27.5	7.4	4.4	1.0	黒曜石	266	棒状	
10	3・5-21	27.8	9.0	3.8	0.7	黒曜石	34	177	棒状
11	3・7-04	31.7	19.0	4.4	1.9	頁岩	41	67	有屑

表M-5-4 楔形石器一覽

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(t)	石質	原産地No.	形態	備考
1	1・2-59	32.2	26.2	13.8	9.5	黒曜石	42	5	楔形
2	1・3-39	23.0	32.7	6.6	5.4	黒曜石	43	72	楔形
3	47	31.2	42.8	16.2	21.3	黒曜石	44	74	四角形
4	48	20.1	52.1	13.1	14.0	黒曜石	45	73	両面に黒石面を嵌す
5	1・4-61	18.2	28.4	6.0	3.2	黒曜石	46	187	楔形
6	1・6-56	20.8	35.3	6.2	4.6	黒曜石	117		
7	2・4-36	27.7	26.7	7.4	5.0	黒曜石	105		
8	2・7-28	22.4	48.4	9.0	9.1	黒曜石	47	118	
9	31	22.0	32.3	10.0	6.6	黒曜石	48	95	四角形
10	3・6-58	33.4	19.4	9.8	6.7	黒曜石	49	127	
11	3・7-08	15.8	36.6	12.3	6.8	黒曜石	101		
12	3・8-12	38.7	29.2	11.2	11.8	黒曜石	279		

表M-5-5 挟入石器一覽

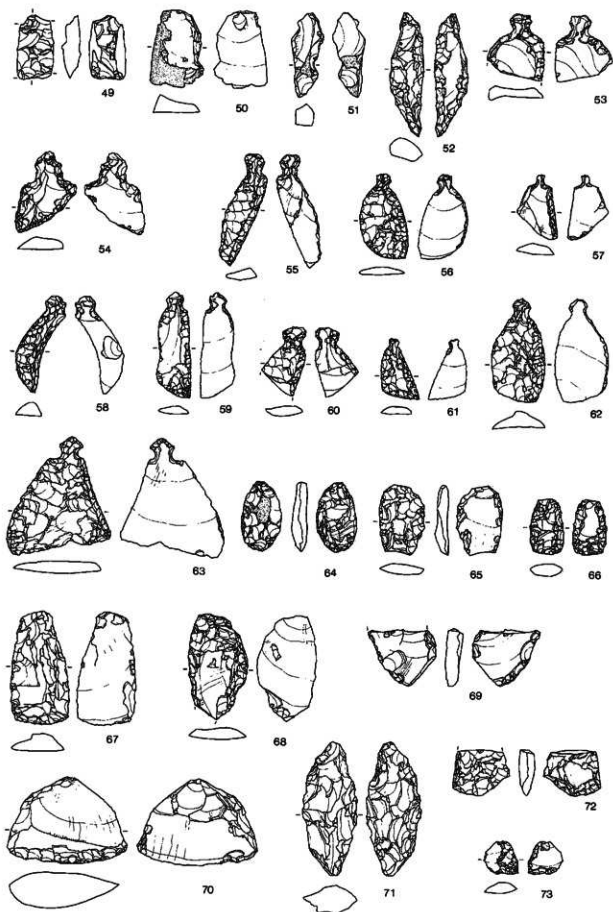
No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(t)	石質	原産地No.	形態	備考
1	1・3-26	40.5	27.7	9.3	9.7	黒曜石	50	77	挟り1箇所 2面に黒石面を嵌す
2	2・7-31	45.3	16.4	11.9	6.2	黒曜石	51	92	挟り2箇所 嵌りている

表M-5-6 つまみ付ナイフ一覽

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(t)	石質	原産地No.	形態	備考
1	1・1-15	65.7	18.2	10.9	13.5	頁岩	52	194	縦長 つまみ付欠損
2	1・3-26	32.5	31.0	7.0	5.4	黒曜石	53	78	縦長 下半部欠損
3	1・4-58	30.0	39.4	6.8	7.5	黒曜石	54	184	斜め
4	65	60.4	15.6	5.4	5.6	頁岩	55	192	斜め
5	1・4-74	55.5	37.5	7.0	12.6	黒曜石	255	縦長	下半部欠損、断面を含み全体が削れている
6	1・6-70	43.0	24.1	4.3	4.6	頁岩	56	172	縦長
7	2・5-24	32.0	20.5	6.9	3.2	頁岩	57	147	縦長
8	89	56.3	18.4	4.6	4.2	頁岩	59	186	縦長
9	2・6-46	36.1	20.9	5.3	4.0	頁岩	60	22	斜め
10	63	52.0	15.6	8.2	5.7	頁岩	58	134	斜め
11	91	30.0	20.3	3.6	2.1	頁岩	61	152	縦長
12	2・7-77	58.0	54.0	6.3	20.1	頁岩	63	62	縦長
13	3・6-55	54.3	27.7	8.3	9.6	頁岩	62	126	縦長

表M-5-7 削・掻器一覽

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(t)	石質	原産地No.	形態	備考
1	1・3-56	36.5	21.3	7.5	5.6	黒曜石	64	210	縦長 片面に黒石面を嵌す
2	1・5-61	34.8	23.2	6.4	5.8	頁岩	65	197	縦長 片断面加工
3	1・7-22	29.0	18.1	6.8	4.4	頁岩	66	88	縦長 両面加工
4	2・5-47	60.2	31.4	12.2	20.7	頁岩	67	145	縦長 片断面加工



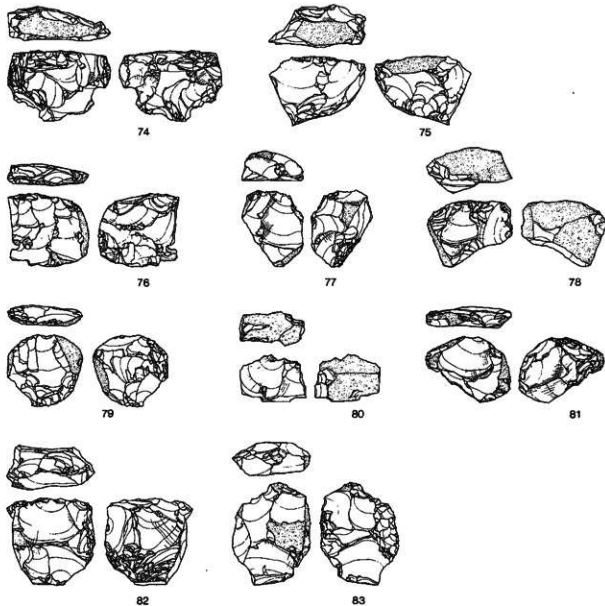
图M-5-3 石器(2)

表Ⅳ-5-8 石槍・ナイフ一覧

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	断面	植物No.	形状	備考
1	1・3-39	56.2	31.9	8.8	13.5	黒曜石	68	81		片端円滑加工
2	37	36.4	25.5	7.9	6.7	黒曜石		273		基部欠損
3	48	47.2	25.3	9.0	10.2	黒曜石		240	有割?	
4	55	36.5	31.7	6.9	8.8	黒曜石	69	209		両端加工
5	1・4-26	45.0	30.2	6.0	8.8	黒曜石		257		両端加工
6	1・5-44	63.6	41.3	17.9	48.8	頁岩	70	213		両端加工 内厚
7	1・7-13	33.4	28.0	10.2	11.1	黒曜石		49		木製部
8	1・8-20	71.7	29.1	15.2	24.8	頁岩	71	132	木製部	ポイント
9	2・3-21	39.0	21.5	8.4	5.4	黒曜石		265	有割	
10	2・5-37	43.4	32.4	11.7	13.8	黒曜石		24		基部欠損
11	3・4-16	54.4	21.4	8.8	10.5	黒曜石		245		片端加工 基部欠損

表Ⅳ-5-9 R・F一覧

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	断面	植物No.	備考
1	2・5-45	29.4	24.5	7.0	4.9	頁岩	72	205	一端基部加工
2	3・6-49	20.0	17.6	5.4	1.6	黒曜石	73	2	一端基部加工



図Ⅳ-5-4 石器(3)

石核 (74~83) 調査区中央部の2・7区を中心に16点が出土した。すべて黒曜石である。このうち75、79は焼けており、光沢がなくなっている。76、78、80、83は白い脈が入っており、赤井川産の同一母岩の可能性がある。75、79は焼けて光沢がなくなっている。76には二つの穴があいているが、自然のものである。79は両面とも焼けており、光沢がない。

表Ⅳ-5-10 石核一覧

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	調査No.	備考
1	1・5-09	28.6	41.8	16.0	22.0	絹頁岩	200	一面に黒石面を焼く
2	1・6-08	37.1	54.7	18.2	34.4	黒曜石	74 17	一面に黒石面を焼く
3	1・7-70	35.2	34.6	19.2	23.7	黒曜石	98	一面に黒石面を焼く
4	2・5-47	32.4	31.9	14.8	14.4	黒曜石	143	一面に黒石面を焼く
5	47	19.1	28.1	11.7	5.6	黒曜石	144	一面に黒石面を焼く
6	48	36.0	51.8	17.3	32.2	黒曜石	75 23	削けている 一面に黒石面を焼く
7	2・7-28	49.1	40.6	10.3	19.6	黒曜石	76 52	不規則削けた穴が2つある
8	29	40.0	31.9	14.8	16.7	黒曜石	77 59	一面に黒石面を焼く
9	29	30.7	44.2	20.4	27.3	黒曜石	78 56	二面に黒石面を焼く
10	30	38.4	41.1	9.8	15.0	黒曜石	79 68	削けている 一面に黒石面を焼く
11	30	19.8	34.2	18.2	11.8	黒曜石	80 108-1	二面に黒石面を焼く
12	31	34.4	47.5	9.5	13.9	黒曜石	81 91	二面に黒石面を焼く
13	31	28.2	31.5	8.8	7.2	黒曜石	93	全周削けており、表面はじりけている
14	2・8-01	51.0	43.3	17.4	36.0	黒曜石	83 39	削けている 一面に黒石面を焼く
15	11	24.3	29.4	14.0	10.2	黒曜石	112	二面に黒石面を焼く
16	39	47.1	45.0	24.1	51.2	黒曜石	82 111	一面に黒石面を焼く

石斧 (84~95) 調査区の全体から出土しているが、とくに南西部のトイソ川湾入部の低湿地やその付近に多い。計29点あるが図示した11点以外は破片である。石材は蛇紋岩あるいは泥岩が使用されている。すり切り痕を残すものが多い。84は低湿地から出土した完形品である。85は蛇紋岩製、1側縁の両面に擦り切り痕が残る、その間は調整されていない。刃部も作出されていないことから未成品とみられる。86は泥岩製、刃部が反っている。88は擦り切り磨製のものだが、刃部がなく未成品とみられる。90は片岩製の局部磨製石斧とみられるが刃部は残っていない。91は蛇紋岩の大型のもの。片面に斜めに浅い擦り切り痕がある。92~95は刃部または基部を欠損したものである。

すり石 (96~102) 調査区中央部から南西部にかけて、18点が出土した。このうち10点が断面三角形のものですべて1点を除くほかは安山岩製である。また、北海道式石冠の破片が2点出土している。

たたき石 (103~105) たたき石とみられるものは、図に示した3点のみである。いずれも調査区中央部で出土した。いずれも安山岩製である。107は両端に敲打痕をもつ、いわゆるトチむき石状のものである。478は三面に敲打痕がある。

石皿 写真図版24右下は調査区南東部の旧トイソ川縁で出土した、大型の石皿の破片である。このほかにも小片が3点出土している。

砥石 図示していないが、破片が2点出土している。

表M-5-11 石斧一覽

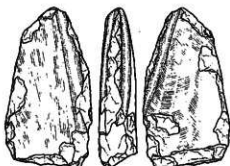
No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(t)	石質	目版	建物No.	備考
1	1・2-19	99.2	40.0	11.6	48.8	片岩		798	未製品
2	1・3-06	128.6	69.0	30.0	405.0	蛇紋岩	85	95	両面に盛りまり痕が残り、未製品
3	15	22.4	27.7	8.8	4.6	片岩		96	
4	15	31.5	23.8	5.7	5.1	泥岩		588	破片
5	37	76.2	46.2	22.0	130.3	泥岩		596	基部欠損
6	38	97.4	41.4	11.1	72.9	泥岩	86	92	刀部が欠けている
7	53	105.0	48.8	13.2	92.0	片岩		709	未製品
8	1・4-07	59.0	22.5	25.0	36.1	泥岩		672	破片
9	1・5-50	99.6	31.5	13.3	71.4	泥岩	88	5	盛りまり痕、刀部が折れ込んでいない 未製品
10	1・7-00	97.3	52.0	24.2	163.5	蛇紋岩	87	76	刀部欠損
11	04	36.4	52.1	14.8	34.5	蛇紋岩		121	刀部のみ
12	1・9-27	33.4	33.7	14.6	17.0	凝灰岩		18	破片
13	1・10-91	115.9	55.3	22.2	210.8	蛇紋岩	89	17	刀部欠損
14	2・3-	30.0	68.1	17.4	44.6	蛇紋岩	-	-	基部、刀部欠損
15	"	52.2	37.7	13.0	49.9	蛇紋岩	-	-	刀部のみ
16	"	73.8	42.4	27.0	112.2	凝灰岩	-	-	刀部のみ
17	2・4-30	86.4	31.7	14.0	74.4	泥岩	84	-	完形品
18	32	101.8	40.6	18.1	136.6	片岩	90	119	刀部欠損
19	48	48.2	34.0	10.0	30.2	泥岩	93	433	基部欠損
20	2・6-22	59.4	35.7	8.5	36.0	泥岩	95	143	基部欠損
21	44	39.4	27.9	7.8	13.1	泥岩	92	133	刀部欠損
22	2・10-09	21.2	54.8	12.1	14.9	蛇紋岩		11	刀部のみ
23	31	43.0	43.3	8.3	25.2	片岩	94	310	基部欠損
24	3・6-20	93.3	59.9	22.2	207.2	蛇紋岩	91	207	基部欠損 片面に斜めに深い盛りまり痕が残る
25	3・6-56	74.9	39.2	10.5	40.6	泥岩		129	破片
26	3・7-22	24.2	44.8	13.4	14.5	泥岩		111	刀部のみ
27	4・5-02	59.0	38.4	24.6	82.4	泥岩		670	基部のみ
28	33	99.2	40.6	15.2	97.6	泥岩		668	
29	4・6-18	65.0	24.0	11.5	20.5	泥岩		786	破片

表M-5-12 すり石一覽

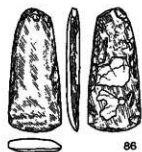
No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(t)	石質	目版	建物No.	備考
1	1・2-06	160.0	53.6	82.7	800	安山岩		805	断面三角形
2	1・3-34	123.2	53.3	81.0	805.0	安山岩		654	断面三角形
3	1・4-85	66.3	53.3	56.8	216.8	安山岩	97	332	断面三角形 割線破片
4	1・5-74	44.3	46.2	51.6	119.1	安山岩	96	507	断面三角形 割線破片
5	1・6-23	50.4	50.5	50.8	145.0	凝灰岩		153	北海道式石筥 破片
6	-42	50.5	65.8	79.4	263.0	凝灰岩		147	北海道式石筥 約3分の1
7	1・7-73	84.0	59.2	34.3	216.3	凝灰岩		101	2品組合
8	2・2-09	161.0	72.2	67.6	985.0	安山岩	99	16	断面三角形
9	2・3-	95.5	70.2	66.2	583.7	安山岩	-	-	断面三角形
10	2・5-11	110.6	40.3	80.4	455.8	安山岩	100	273	断面三角形 一般欠損
11	96	47.8	35.8	70.3	115.2	砂岩		344	長門県の割線にすり面
12	3・4-69	140.8	42.4	89.7	800.0	砂岩		440	長門県の割線にすり面
13	3・5-40	58.8	58.0	69.4	214.8	安山岩	101	477	
14	64	123.2	63.6	40.4	371.2	凝灰岩		768	
15	3・6-31	68.5	44.4	56.8	250.7	安山岩	98	185	断面三角形 一般欠損
16	47	47.6	59.0	53.0	139.9	凝灰岩		70	断面三角形
17	3・7-62	136.9	33.8	61.6	136.9	凝灰岩		113	長門県の割線にすり面
18	4・6-20	96.1	39.6	53.7	253.8	安山岩	102	206	断面三角形 割線破片



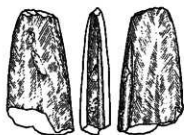
84



85



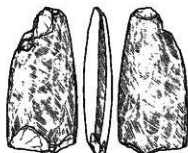
86



87



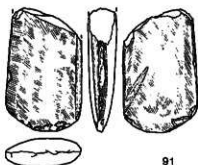
88



89



90



91



92



93



94



95



96



97



98

圖N-5-5 石器(4)

表M-5-13 たたき石一覧

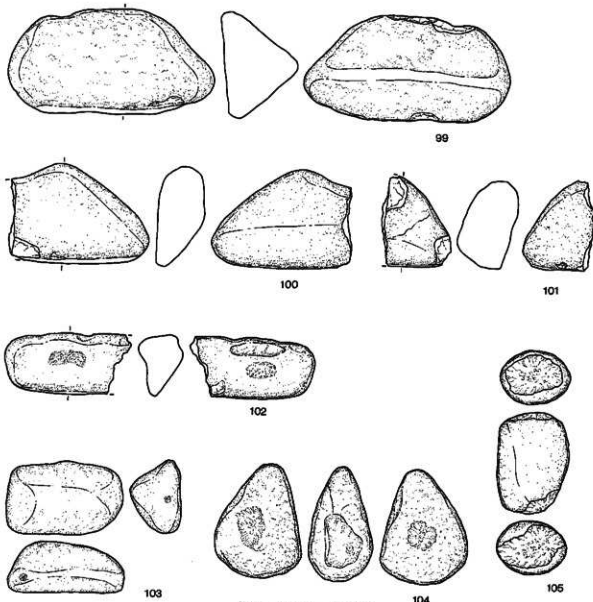
No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	調査 地点	発物No.	備考
1	1・5-72	59.4	51.4	13.1	47.8	砂岩		452	新
2	2・6-63	59.6	45.2	11.9	35.1	砂岩		212	新

表M-5-14 石皿一覧

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	調査 地点	発物No.	備考
1	2・5-70	80.0	58.0	43.3	310.4	安山岩	105	434	河原川遺跡
2	2・7-48	91.8	58.8	42.2	303.6	安山岩	103	81	一基、一跡川遺跡
3	3・5-21	92.9	73.3	59.6	352.4	安山岩	104	478	河原川遺跡

表M-5-15 砥石一覧

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	調査 地点	発物No.	備考
1	1・2-69	70.2	59.4	65.0	115.0	砂岩		12	2品組合
2	1・4-28	108.0	81.2	86.7	471.1	凝灰岩		586	2品組合
3	1・8-31	32.1	55.0	40.1	74.8	砂岩		69	新
4	2・4-98	35.2	34.8	45.9	67.9	砂岩		436	新



図M-5-6 石器(5)

5 まとめ

1) 遺構と遺物 A地区の遺物包含層下位(Ⅱ-3・4層)では縄文時代早期から後期の遺物が出土した。6,000点あまりの土器のうちコックロ式、中茶路式、東釧路Ⅲ式など早期に属するものが約8割を占めており、出土点数は前、中、後期の順に少なくなる。石器は約200点。石鏃、つまみ付きナイフ、すり石などの剥片石器をみると早期や前期の形態的特徴をもつものが多い。剥片石器の多くは黒曜石が用いられているが、赤井川産とみられる白い脈が入ったものが多数ある。

遺物は調査区全域に分布しているが、土器、石器とも中央部から南西部で多く出土した。また、土器形式や石器の器種による分布状態のちがいがみられる。調査区南端の旧トイソ川湾入部は遺物包含層が地表下1mちかくにまで達しており、今も伏流水が流れているが、ここからも縄文時代前期および後期の土器、断面三角形のすり石や蛇紋岩製の石弁などが出土している。蛇紋岩で作られた石弁は昨年度調査したユカンボシE4遺跡や本遺跡B地区で出土していない。

Ⅱ-3・4層で検出された遺構のうち、土壇P-1と集石X-3、焼土FP-8からも、わずかではあるが早期の土器片が出土している。検出層位や形態が類似することからみて、Tピットを除くこのほかの遺構(集石X-1・2・4、焼土あるいは炭化物集中地点FP-1-5・9・11・12・15)も同時代のものと考えられる。焼土や炭化物の集中地点には、自然に形成されたとみられるものも含まれているが、これを除く各遺構は、いずれも調査区南部に流入する旧トイソ川岸に近いところに位置している。このような遺構と遺物のあり方は、河川に依存した人間の活動を反映しているものと推定される。今回の調査では竪穴住居跡など、集落跡の存在を直接示す遺構は発掘されていないが、このようなことから調査区の近くに縄文時代の集落跡が埋もれている可能性が強いものと考えられる。

調査区内の南西端部は旧トイソ川に入る小流を境に、西側がおおよそ1mほど北東側より高くなっている。この段丘面は本遺跡B地区へ続いており、南西端部を除くA地区の大部分はこれより一段低い面にあたる。B地区ではA地区の遺構と時期は異なるが、竪穴住居跡が発掘されていること、A地区の北部では遺構、遺物が稀薄であること、A地区の大半を占める低い段丘面では、川の氾濫により水が付く可能性が大きいことなどからも、調査区西側のより高い段丘面が居住に適していたものと考えられる。近くに住む人たちの話によると、調査区西側の保安林では、かつて排水溝の掘削などで多くの土器や石器がみつかったという。

4ヶ所の集石は検出された石の数にかなり差異があるが、いずれも炭化物が薄く付着したのや焼けた痕跡をもつ安山岩や凝灰岩の礫を含んでいる。また、ほとんどの石が割れているが、強い火熱を受けたことによるものが多いと推定される。これらの集石が形成あるいは構築された理由については、想像の域を出ないが、旧トイソ川での漁獲物を調理した跡ともみられる。調査区西側にある土壇P-1は規模や形態から墓の可能性が考えられる。

縄文時代前期以降の遺物は出土量が少ないが、とくに前期および後期の土器は湾入部の肩や縁、さらに伏流水が流れる旧トイソ川内の土層からも出土している。前期の中野式や後期の手稲式土器の大半はこの部分でみつかった。手稲式土器は本遺跡より1kmほど上流にあるユカンボシE3遺跡で恵庭市教育委員会の調査により、多くの遺構とともに出土しているが、本遺跡周辺にも同時期の集落跡が残されている可能性がある。Tピットは二つの段丘面のそれぞれに1基ずつが位置しており、規模や形態が異なっている。それぞれ調査区西側の保安林中に続くTピット列のひとつと推定される。

調査区南東部で発掘された鉄鍋は、重機により表土および構前a火山灰の大部分を除去した後、火山灰の直下でみつかったものである。さらに、その下には小土壇SP-1があり、鉄鍋はこれに蓋をしたような状態になっていた。ほかに同時期のものとみられる遺構、遺物は皆無であったこと、今回、

類例をみつけることができなかつたことなどから、鉄鍋の製作時期については今のところ明確にはできない。樽前 a 火山灰直下で出土したことから判断すると、鉄鍋はこの火山灰が降下した1739年以前のもと考えられるが、SP-1が樽前 a 火山灰の上部から掘りこまれた遺構である可能性も否定できないことから、近代の遺物という見方も残されている。

2) 地質・層序 地質・層序に関する所見のうちでは、旧表土(Ⅱ層)中に6枚にわたって観察された間層の存在が目ざれよう。これらのうち e 層および f 層は、花岡正光の予察的な検討によればそれぞれ Ta-c₂層(曾屋・佐藤1980)および植苗層(同前書)に対比しうる可能性があるという。Ta-c 火山灰降下の痕跡は以前から恵庭市内の遺跡で確認されていたが(遠藤ほか1987など)、Ta-c と Ta-d の間に位置する植苗層は苫小牧市域外の発掘調査で確認された例がほとんどない。恵庭市域あるいはそれ以北でも今後これらの火山灰層の認識によって、縄文時代遺跡の分層の調査が可能になる例が増加するものと期待される。

また b・c 層については当初、かなり鮮やかな橙色の色調と範囲の広さから降下火山灰ではないかと考えたが、花岡によれば火山ガラスに富むものの、炭化植物片を含み保水性もよいなど、一次的な火山灰層としては不自然であるという。最近、函館市の中野 A・B 遺跡付近に広く分布する銭亀沢層(佐々木ほか 1970)あるいは P、D、3 層(函館市教育委員会 1977)が従来考えられていたような火山灰ではなく、焼土であるとの意見(花岡 1992・1993、近藤 1993)が提出されている。本遺跡でも比較的規模の大きい焼土(FP-8)が確認されており、b・c 層についても一種の焼土である可能性を考慮すべきであるかも知れない。しかし仮に焼土であるとしても、その性格が不明であることに変わりはなく、今後の問題を残している。

V B地区

1. 調査の方法

1) 発掘区の設定

発掘区は、A地区同様道路建設予定地の用地境界杭を基準として設定した(図V-1-1)。測量基点としたのはR62杭で、この点をX=0、Y=8とし、L62杭方向(東)をX軸の正方向、R61杭方向(北)をY軸の正方向とする座標を設定した。

なお、Y軸の方位はN-5°40'Wである。

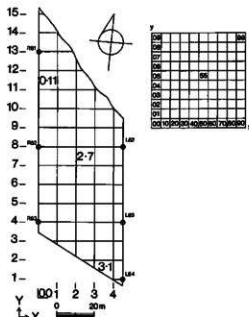
グリッドは(XY)で表示する10m×10mの大グリッドを基本とし、各々の大グリッドを1m×1mの小グリッド(xy)100個に分割した。各グリッドの表示は、大グリッドの場合、3・1区、2・7区、0・11区などとし、小グリッドを差す場合には、3・1-00区、2・7-55区などとした。なお、図中では省略して31-00などとしている。

各基準杭の座標は以下の通りである。

R62杭：X=-124,745.787、Y=-52,150.399

R61杭：X=-124,696.018、Y=-52,155.193

L62杭：X=-124,741.473、Y=-52,105.606



図V-1-1 発掘区の設定

2) 層序

調査区の土層は東側壁面であった(図V-1-2・3)。基本層序は昨年度調査したユカンボシE4遺跡と同様で、以下の通りである。

I層：表土(耕作土)。

a層：白色火山灰。樽前a降下軽石層(Ta-a、1739年降灰)。平坦面では耕作土中に混在するが、沢への傾斜部分では10-20cmの厚さで残されている。

II層：黒色ないし黒褐色土。上部が縄文時代及び統縄文時代、半ばが縄文時代中・後期、下部が縄文時代早・前期の遺物包含層。なお、上面に耕作機械による溝状の攪乱(Ta-a層が入っている)がほぼ東西方向に走る。

III層：暗褐色ないし黄褐色土(漸移層)。上面が縄文時代早期の遺物包含層。

IV層：黄褐色土。

V層：V a層(黄褐色大粒軽石、粒径1・2cmから20cmに達するものもある。いずれも角がとれて丸い)とV b層(灰白色砂)が互層をなしている。土層断面図には現われないが、Tピットの下部など深い部分ではV c層(青灰色細粒砂)、V d層(灰黄褐色砂質粘土)もみられる。

なお、IV・V層については、いずれも水成堆積物(IV層についてはユカンボシ川の氾濫原堆積物、V層については漁川の扇状地堆積物)と考えている。詳細については、昨年度当センターが刊行したユカンボシE4遺跡の報告書(第III章3)を参照されたい。

Figure 1

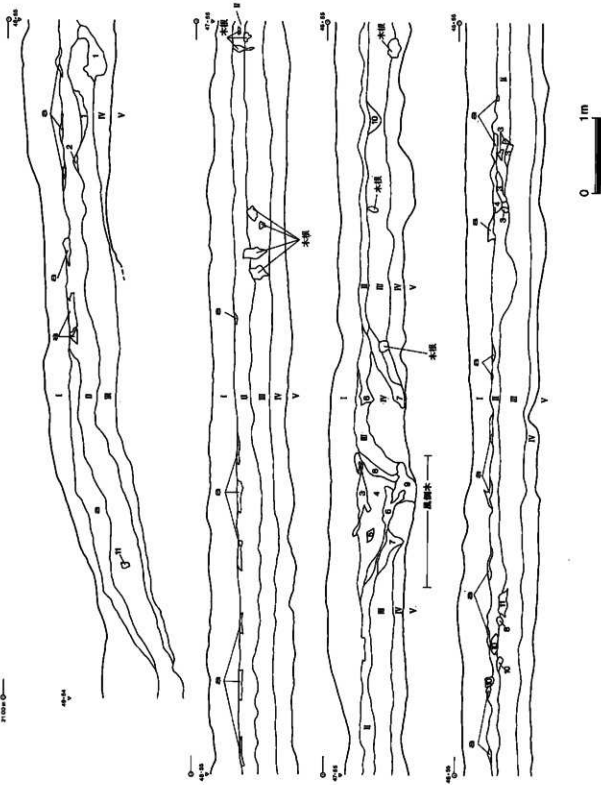
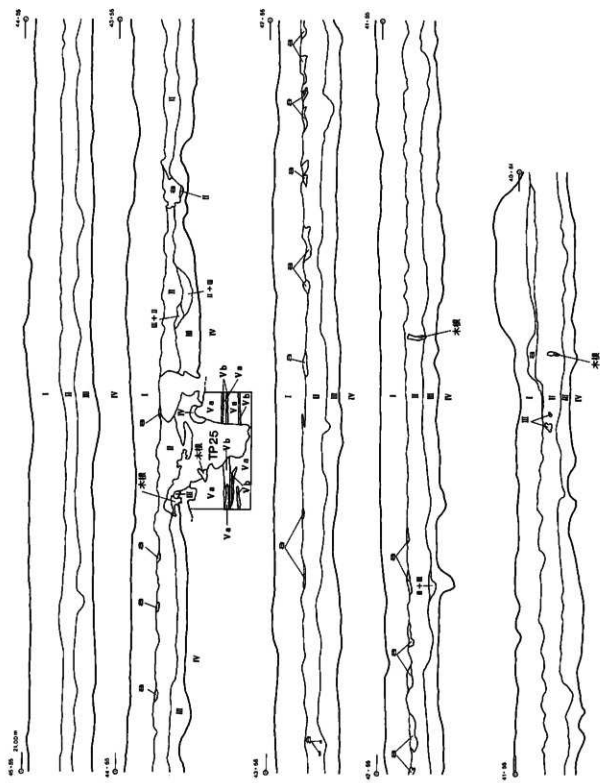


圖 V-1-2 土層断面 (1)



圖V-1-3 土層剖面 (2)

2. 遺構と遺物

確認した遺構は、竪穴住居跡3軒、土壇11基、集石1ヵ所、Tピット33基（うち1基は排土のみ）、焼土75ヵ所、土壇墓1基である（右図）。なお、剥片・砕片集中地点（F・C集中）及び石斧・石斧片集中地点については、石器の項でそれぞれ述べる。

竪穴住居跡は、1（3・7、4・7区）が縄文時代前期（大麻V式）に、小型の2（3・4、4・4区）と大型の3（1・3、1・4区）が中期（萩ヶ岡2式）に属するものである。平面形は前者が隅丸長方形、後者は楕円形を呈している。

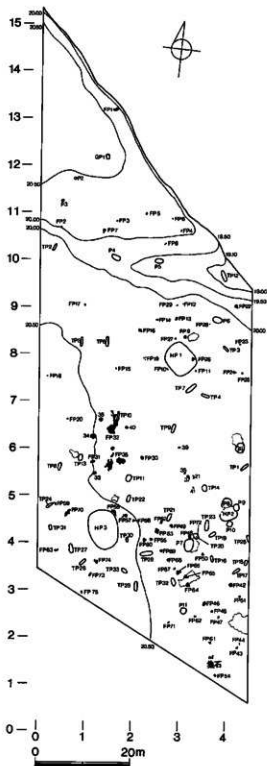
土壇のうち、Y=9ラインの沢跡より北に位置するものは、小型で浅い2・3（0・11区）のみである。沢跡周辺に分布する4～6は、良く似た形態と規模をもつもので、江別市高砂遺跡の報告（1987）において、中期の墳墓の可能性が強いとされている「長円形土壇」と同種の遺構と考えられる。他の土壇は全て沢跡の南側に位置し、そのうち比較的大型で台形に近い平面形を有す1（45-29、46-20区）は縄文時代前期（大麻V式）、他は中期の遺構である。

集石（3・1-75区）は、周辺の遺物などから中期の遺構と思われる。

Tピットは、幅広く墳底に杭穴をもつもの（11・13・14・18・20・30）と杭穴をもちず細長いタイプに大別できる。また、特徴的なものとして墳底に段差をもつ21～23がある。分布をみると、5と6、11と13・14、21～23のように2ないし3基で1セットをなしているようである。

焼土は、東鋼路Ⅲ式土器を伴う62以外は中期の所産と思われる。分布をみると、沢跡の北側縁に並ぶもの（2～8）と、1・4、1・6区に集中するもの（30～34・36・38・40）、1・4区（58）から41区（43、44）にかけてほぼ一列の並ぶものが目立つ。なお詳細は後述するが、26周辺及び32・38周辺からは、多量の焼けた石器・方割礫、剥片類が出土しており、また32はTP10が埋没後に残された焼土である。焼土の在り方やTピットの時期的な問題も含めて興味深い。

土壇墓は、沢跡北側の小舌状部（1・12-41区）に単独で確認された北大期のもので、平面形は隅丸長方形で、墳底隅に口縁打欠の土器を収めた袋状掘込をもつ。



図V-2-1 発掘区の地形と遺構の位置

1) 竪穴住居跡

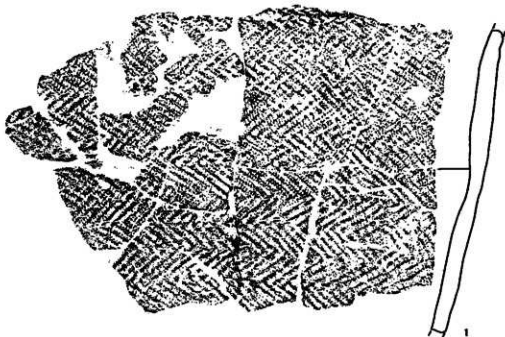
HP 1 長さ580cm 幅572cm 深さ32cm

3・8-00区を中心とする範囲で確認した。平面形は隅丸方形に近く、立上りは明瞭である。中心に1本、四隅に各1本と竪穴の周囲に柱穴をもつ。南隅の柱穴と周囲のいくつかの柱穴は検出しえなかった。地床炉はほぼ中央に位置する。覆土は4層からなり、接合関係および土器形式から覆土1・2層を覆土上層、覆土3・4層を覆土下層とした。15点出土した床面の土器片と覆土下層の70点のうち60点の土器片は大麻V式である。他の床面の遺物として、たたき石1点、石斧片4点、剥片3点がある。出土遺物から大麻V式期の住居跡と思われる。

土器は203点あり、床面および覆土下層は大麻V式、覆土上層は縄文中期の土器が主体である。1は床面と覆土下層の土器で、住居中央部と壁際に四散して出土したものが接合した。2は覆土下層のもの。口唇は外傾し、口唇と口縁に縄線文が認められる。3は2の胴部。床面・覆土下層・覆土上層のものが接合した。いずれも大麻V式で胎土に繊維を含み器面に羽状縄文が施されている。4~14・16は覆土上層のもの。4は台形の小突起をもち、口縁にめぐらせた粘土紐に爪による刻みがみられる。突起頂部は平らに調整されている。5は胴部にめぐらせた貼付帯が爪により刻まれている。いずれも萩ヶ岡1式。6は突起部分を欠いている。口唇が外傾し半載竹管状工具により刻まれ、口縁には竹管による太い沈線が引かれている。大木8a式相当のものと思われる。8~13は天神山式。7・9・12・13には半載竹管状工具による沈線が認められる。8は口縁肥厚帯に竹管文、棒状突起とブリッジ状の垂下帯は半載竹管状工具により施文されている。重

表V-2-1 層位・分類別出土土器一覧

層位	東岡崎	中栗路	大麻V	丹波上層	萩ヶ岡1	萩ヶ岡2	大木8a	天神山	飯木川	合計
覆土上層	2	4	8	3	35	6	1	47	12	118
覆土下層		3	60	2	1	3		1		70
床面			15							15
合計	2	7	83	5	36	9	1	48	12	203



図V-2-2 HP1出土の土器 (1)

表V-2-2 HP-1床直・覆土掲載土器一覽
(大麻V式)

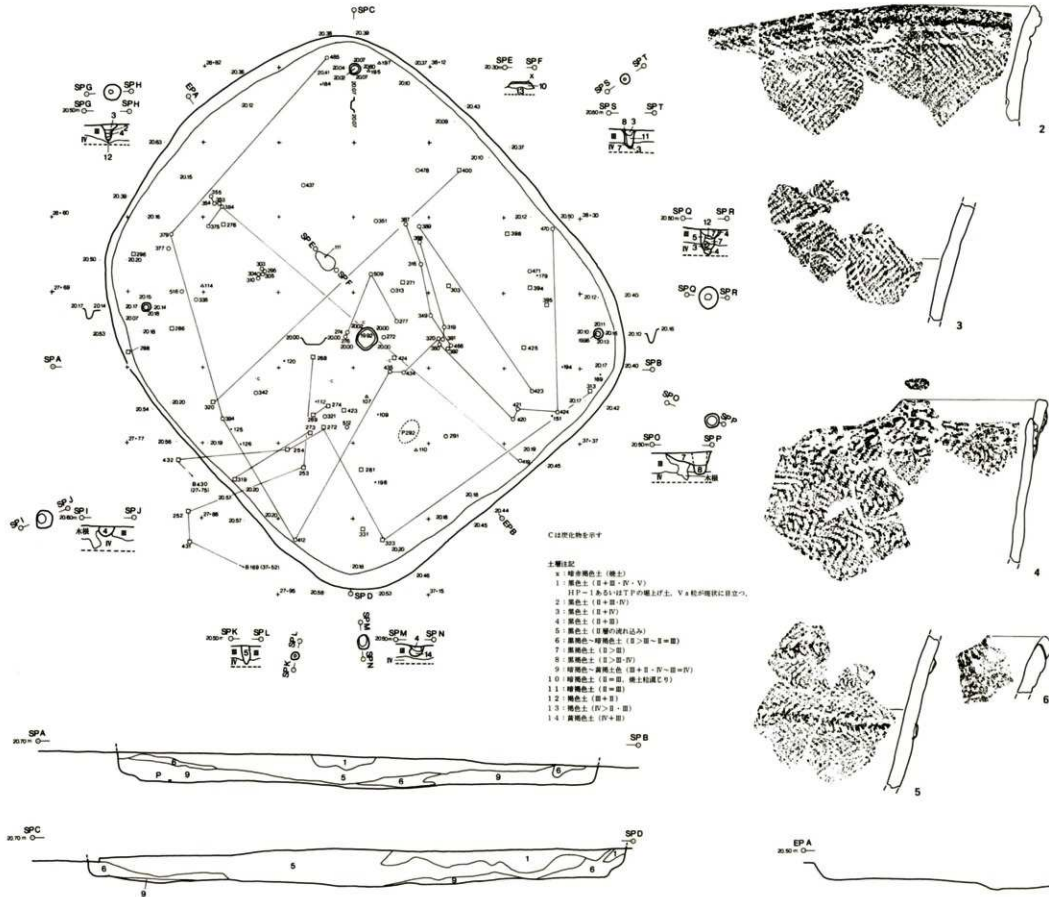
図番	層位	グリッド	部位	点数	遺物No.	備考
1	床直	2・7-79	胴部	1	379	横溝文、羽状溝文
	床直	2・7-87	胴部	1	394	
	床直	3・7-18	胴部	1	350	
	床直	3・7-27	胴部	1	420	
	床直	3・7-29	胴部	1	470	
	下層	2・7-95	一括	18	412	
	下層	2・8-92	口縁	1	485	
	下層	3・7-07	胴部	1	435	
	下層	3・7-07	胴部	1	434	
	下層	3・7-18	胴部	1	320	
2	下層	3・7-27	胴部	1	424	口唇外縁、 横溝文、羽状溝文
	下層	3・7-09	口縁	1	389	
	下層	3・7-27	口縁	4	423	
3	床直	3・7-09	胴部	2	387	2の胴部、 羽状溝文
	下層	3・7-18	胴部	1	466	
	上層	3・7-09	胴部	1	316	
—	上層	3・7-19	胴部	1	349	

図番	層位	グリッド	部位	点数	遺物No.	備考	
—	床直	3・7-09	胴部	1	388	羽状溝文	
	床直	3・7-18	胴部	1	391		
	下層	3・7-18	胴部	1	319		
	床直	3・7-18	胴部	3	392		L.R
	床直	3・7-29	胴部	3	471		複合、L.R
	下層	2・7-79	胴部	1	516		
	下層	2・7-79	胴部	1	377		L.R
	下層	2・7-97	口縁	4	321		口唇外縁、 横溝文、羽状溝文
	下層	3・7-09	口縁	1	313		横溝文、羽状溝文

*388号は313号まで2、3と同一図番

表V-2-3 HP-1覆土掲載土器一覽
(紋付罎1式、大木8a式相当)

図番	層位	グリッド	部位	点数	遺物No.	備考
4	上層	2・7-98	胴部	2	276	台形の小さな器、 胴部に爪の跡、 底面羽状溝文
	上層	2・7-98	口縁	1	274	
	上層	3・7-08	口縁	6	277	
5	上層	2・8-80	胴部	1	355	胴部に爪の跡、 羽状溝文
	上層	2・8-80	胴部	1	354	
6	上層	2・8-80	胴部	5	353	内面内縁
	上層	2・7-97	口縁	1	512	



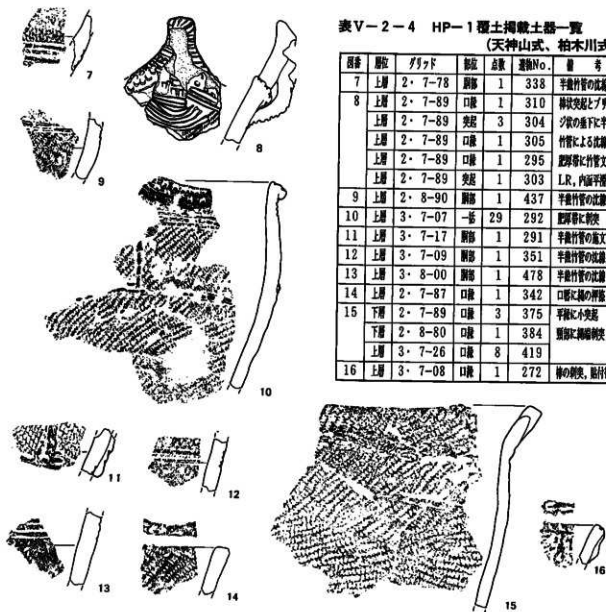
図V-2-3 HP1平面及び断面・出土の土器 (2)

下帯の右側の肥厚帯とその下には沈線が引かれている。10は口縁肥厚帯に半截竹管状工具による刺突が施されている。同様の工具により、口縁には沈線、横環・垂下する貼付帯には押し引きが施されている。11は垂下帯と胴部の三角状突起に半截竹管状工具による押し引きが施されている。また三角状突起から横環する沈線が認められる。14~16は柏木川式に相当する。14は口縁に縄の押捺が認められる。15は覆土下層と上層のものが接合した土器。外反する口縁は平縁で小突起がある。頸部には縄端刺突がめぐらされている。16は口唇・口縁貼付帯・垂下帯に棒状工具による刺突が認められる。

石器類にはたたき石、石斧片、方割礫などがある。図番1は覆土上層出土の掻器で、縞頁岩を素材とし先端に波形刃を作出している。2は床面西側出土の半分と、東側の覆土2層出土の半分が接合した珪質岩素材のたたき石である。3は覆土下層を中心とした石斧片の接合資料で、素材は黒緑色珪質岩である。石斧片は、他に黒緑色泥岩、白緑色泥岩、緑色泥岩、黒緑色片岩の割片類がある。出土地点は、比較的土器片の出土量が少ない住居跡南側四半分に片寄っており、住居外の包含層との接合関係もみられる。

表V-2-4 HP-1覆土掲載土器一覽
(天神山式、柏木川式)

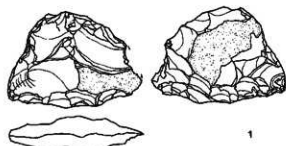
図番	層位	グリップ	形状	点数	遺物No.	備 考
7	上層	2・7-78	胴部	1	338	半截竹管の沈線
8	上層	2・7-89	口縁	1	310	棒状突起とグリップの垂下に半截竹管による沈線
	上層	2・7-89	突起	3	304	
	上層	2・7-89	口縁	1	305	
	上層	2・7-89	口縁	1	295	腹厚帯に竹管文、L.R. 内面平縁
	上層	2・7-89	突起	1	303	
9	上層	2・8-90	胴部	1	437	半截竹管の沈線
10	上層	3・7-07	一帯	29	292	腹厚帯に刺突
11	上層	3・7-17	胴部	1	291	半截竹管の腹文
12	上層	3・7-09	胴部	1	351	半截竹管の沈線
13	上層	3・8-00	胴部	1	478	半截竹管の沈線
14	上層	2・7-87	口縁	1	342	口縁に縄の押捺
15	下層	2・7-89	口縁	3	375	平縁に小突起
	下層	2・8-80	口縁	1	384	頸部に縄端刺突
	上層	3・7-26	口縁	8	419	
16	上層	3・7-08	口縁	1	272	棒の刺突、貼付帯



図V-2-4 HP1出土の土器 (3)

表V-2-5 HP-1出土石器等一覧

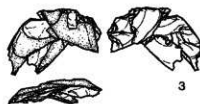
No.	グリッド	層位	径(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)	石質	分類	発掘No	備考	
1	79	2・7-78 土直	21.0	13.0	3.0	0.9	燧石	石斧	286	割片、磨面あり	
		土直	38.2	13.3	3.4	1.8	燧石	石斧	296	割片、磨面あり	
		床直	6.1	3.4	2.1	+	燧石	石斧	398	割片	
2	2・7-78	土直	137.8	90.9	77.4	1,110	凝灰岩	方割礫D	298		
3	2・7-79	土直	70.7	50.0	15.6	48.8	礫質岩	礫器	1 114	土直・土直で磨面あり	
4	3・7-29	土直	33.6	19.3	6.3	4.2	燧石	石斧	319	割片、273(27-97、土直)と給	
		土直	24.0	11.5	2.0	0.6	燧石	石斧	271	割片	
5	2・7-86	土直	-	-	-	0.4	黒曜石	剥片	126		
6	2・7-87	土直	-	-	-	0.4	黒曜石	剥片	125		
7	2・7-87	土直	54.0	52.0	44.0	209.1	珉質岩	たたき石	2 320	400(38-10、土直)と給	
8	2・7-89	土直	93.2	54.8	56.0	279.3	黒色泥岩	方割礫B	276		
9	98	2・7-89 土直	75.3	43.4	15.6	35.3	燧石	石斧	3 272	割片、430・432・254(27-75・76・77、土直)、313(37-37、土直)と給	
		土直	-	-	-	-	-	-	96、111、323(37-05、土直)	269	割片、274(27-97、土直)と給
		土直	32.7	29.0	6.2	4.8	燧石	石斧	272	割片、431・252・253・169(27-75・76・86、37-52、土直)と給	
		土直	54.2	33.0	7.7	10.1	燧石	石斧	268		
		土直	-	-	-	-	-	-	-	-	
3・7-05	08	土直	39.3	15.0	4.8	2.2	燧石	石斧	331	割片	
		土直	23.5	15.3	3.6	1.6	燧石	石斧	424	割片	
		土直	32.4	18.0	3.8	2.4	燧石	石斧	394	割片	
29	土直	-	-	-	-	-	-	-	2給あり		
10	2・7-97	土直	-	-	-	-	黒曜石	剥片	112	2給あり	
11	2・7-97	土直	91.0	42.7	36.0	190.8	安山岩	楕円礫	423		
12	2・7-98	土直	-	-	-	+	黒曜石	剥片	120		
13	2・7-99	土直	-	-	-	+	黒曜石	剥片	111		
14	2・8-91	土直	-	-	-	0.4	黒曜石	剥片	184		
15	3・7-06	土直	11.4	8.6	1.9	0.2	黒曜石	R・F	110	磨面ありの割片	
16	3・7-06	床直	-	-	-	0.5	黒曜石	剥片	196		
17	3・7-06	土直	58.0	65.4	41.0	151.4	安山岩	方割礫D	281		
18	3・7-07	土直	26.3	23.0	4.0	2.2	黒曜石	R・F	107	磨面ありの礫	
19	3・7-07	土直	-	-	-	0.2	黒曜石	剥片	109	2給あり	
20	3・7-19	床直	37.0	21.2	5.8	4.0	緑色泥岩	石斧	303	割片	
21	3・7-27	床直	-	-	-	0.1	黒曜石	剥片	151		
22	3・7-28	床直	24.6	19.0	5.8	2.0	燧石	石斧	395	割片	
23	3・7-28	土直	52.8	41.0	17.0	29.4	凝灰岩	方割礫B	425		
24	3・7-28	土直	-	-	-	+	黒曜石	剥片	194		
25	3・7-29	土直	-	-	-	0.1	黒曜石	剥片	179		
26	3・7-37	床直	-	-	-	0.3	黒曜石	剥片	189		
27	3・8-01	土直	18.8	11.6	2.4	0.8	黒曜石	R・F	195	磨面ありの割片、磨りかたがみあり	
28	3・8-02	土直	17.1	9.2	3.5	0.6	黒曜石	石鏝	197	磨面ありの礫	
29	磨六排土	土直	35.5	12.3	8.0	5.1	頁岩	楕円礫	149	磨面ありの礫、磨面ありの礫	



1



2



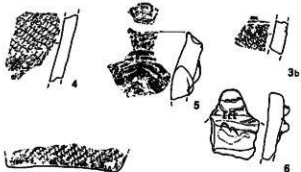
3

図V-2-5 HP-1出土の石器

HP 2 長さ392cm 幅332cm 深さ30cm

4・4-05区を中心とする範囲で確認した。西側を試掘穴により失っているが、平面形は楕円形に近く、立上りは明瞭である。柱穴や炉跡はなく、床面のほぼ中央に石皿が残されていた。他の床面出土遺物には、石斧片8点と黒曜色の剥片1点があるので、土器は出土していない。従って時期の確定はできないが、覆土や本遺構を切っているP8の出土遺物などから荻ヶ岡2式期の遺構と思われる。なお東側にあるP9は本遺構に切られているが、伴う遺物はなく時期は不明である。またP10は、土層断面から同時期に存在したものと考えられ、本遺構に属する土壌と思われる。遺物は横立ちの状態で出土した白石の他に、多量の黒曜石剥片(7,625点)や破損した石器類(11点)がみられ、周囲にも313点の剥片類が散っていた。その他、4・4-27区のP9東側からは剥片類127点、石斧片73点が比較的多く出土しており、こうした点から本遺構は石器制作に関わるもので、P10や4・4-27区の遺物は一括廃棄された剥片類と考えられる。

覆土出土の土器のほとんどは荻ヶ岡2式である。1～3bは覆土下層、4・5は上層、6・7はⅡ層出土の土器である。1は器面にLRとRLの縄文が認められる。地文は羽状縄文と思われる。内面は平滑で、胎土に砂粒を含む。2は底部に近い胴部破片。地文はRLで堅く焼き締まる。3aは摩耗しておりRLの縄文が認められる。胎土に砂粒を含む。3bには細い竹管状工具による沈線が引かれている。4はRLの縄文の上にLRの縄文が認められる内面は平滑である。5は棒状突起、口縁肥厚帯とその下の三角状突起に竹管状工具により沈線が施されている。突起頂部には指頭による圧痕と爪跡がある。6は摩耗しているが、突起に貼付した粘土紐に竹管状工具による刺突が施されている。口縁肥厚帯には刺突とLRの縄文がみられる。7はやや上げ底気味の底部で、器面と底面にLRの縄文が施されている。堅く焼き締まる。



表V-2-6 HP-2
層位・分類別出土土器一覧

層位	荻ヶ岡2	天神山	合計
Ⅱ		2	2
覆土上層	40	2	42
覆土下層	13	1	14
合計	53	5	58

表V-2-7 HP-2覆土下層出土土器一覧

図番	グリップ	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	4・4-06	胴部	1	荻ヶ岡2	1086	胎土に砂
1	4・4-07	胴部	1	荻ヶ岡2	1143	羽状縄文
2	4・4-14	胴部	1	天神山	1049	RL
3a, b	4・4-17	胴部	11	荻ヶ岡2	1142	RL・沈線

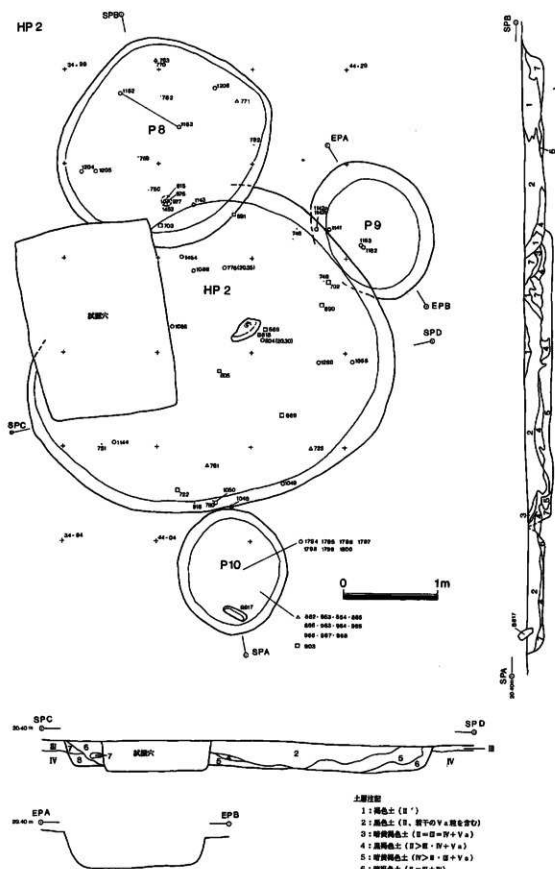
表V-2-8 HP-2覆土上層出土土器一覧

図番	グリップ	部位	点数	分類	遺物No.	備考
4	3・4-95	胴部	1	荻ヶ岡2	1144	羽状縄文
5	4・4-04	突起	1	天神山	1048	半管竹管の体部
—	4・4-04	胴部	1	荻ヶ岡2	1050	刺突、胎土に砂
—	4・4-06	胴部	1	荻ヶ岡2	1085	RLとLR
—	4・4-07	一括	34	荻ヶ岡2	1453	LRとRL、刺突
—	4・4-07	胴部	1	天神山	1454	半管竹管の体部
—	4・4-15	胴部	2	荻ヶ岡2	1280	刺突、胎土に砂
—	4・4-25	底部	1	荻ヶ岡2	1055	沈線、底面平滑

表V-2-9 HP-2上Ⅱ層出土掘取土器一覧

図番	グリップ	部位	点数	分類	遺物No.	備考
6	4・4-06	突起	1	天神山	804	半管竹管の刺突
7	4・4-06	底部	1	天神山?	776	底面にRL

図V-2-6 HP-2出土の土器

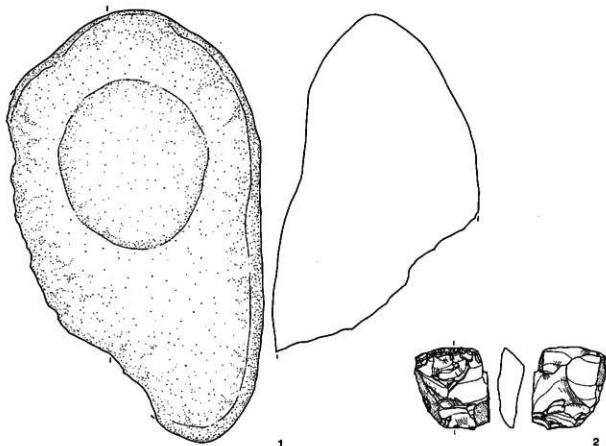


図V-2-7 HP2・P8~10平面及び断面

表V-2-10 HP-2出土石器等一覧

No.	グリッド	層位	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)	材質	分類	発掘No	備考
1	3・4-95	床直	—	—	—	+	黒曜石	剥片	751	2鉢
2	4・4-04	社址	26.7	29.2	21.6	14.2	黒曜石	石核	781	三稜形破片
3	4・4-04	床直	27.0	13.5	5.5	1.5	白磁器	石斧	722	磨片
4	4・4-04	社址	—	—	—	0.6	黒曜石	剥片	780	2鉢
5	4・4-04	社址	—	—	—	6.0	頁岩	剥片	816	磨片
6	4・4-05	社址	96.9	93.6	82.3	1,020	安山岩	方割礫C	805	破片
7	4・4-06	床直	340.0	193.0	170.0	11900	安山岩	石皿	1 818	面付(凹) 破片
8	4・4-07	床直	21.9	37.4	4.6	2.5	白磁器	石斧	703	磨片
9	4・4-07	社址	78.8	61.1	40.6	162.9	安山岩	方割礫B	691	
10	4・4-14	社址	44.8	38.3	12.7	24.7	黒曜石	石核	2 725	三稜形破片
11	4・4-15	床直	34.0	23.4	5.7	3.7	白磁器	石斧	669	磨片
12	4・4-16	床直	20.8	20.7	3.7	1.4	緑色泥岩	石斧	689	磨片
13	4・4-16	床直	26.4	20.6	4.2	2.4	緑色泥岩	石斧	690	磨片
14	4・4-16	床直	27.3	25.5	5.3	4.0	白磁器	石斧	702	磨片
15	4・4-16	床直	—	—	—	0.1	黒曜石	剥片	748	
16	4・4-17	床直	—	—	—	0.2	黒曜石	剥片	749	

石器類の出土量は、付属するP10に比較すると極端に少ない。図番1の石皿は安山岩の大型楕円礫を素材としたもので、両面に明瞭なすりくぼみ部分がみられ、裏側の使用部分が半分失われていることから、欠損後に図示した面を用いたものかと思われる。前述したように床面出土の遺物はこの石皿を除くと、石斧片と黒曜石の剥片のみである。2は覆土上層出土の黒曜石石核である。覆土上層出土の遺物は、他に石核・方割礫各1点と剥片3点があるが、これらは一度P10内に廃棄されたものが流れ出したものの可能性が高い。



図V-2-8 HP2出土の石器

HP 3 長さ834cm 幅630cm 深さ28cm

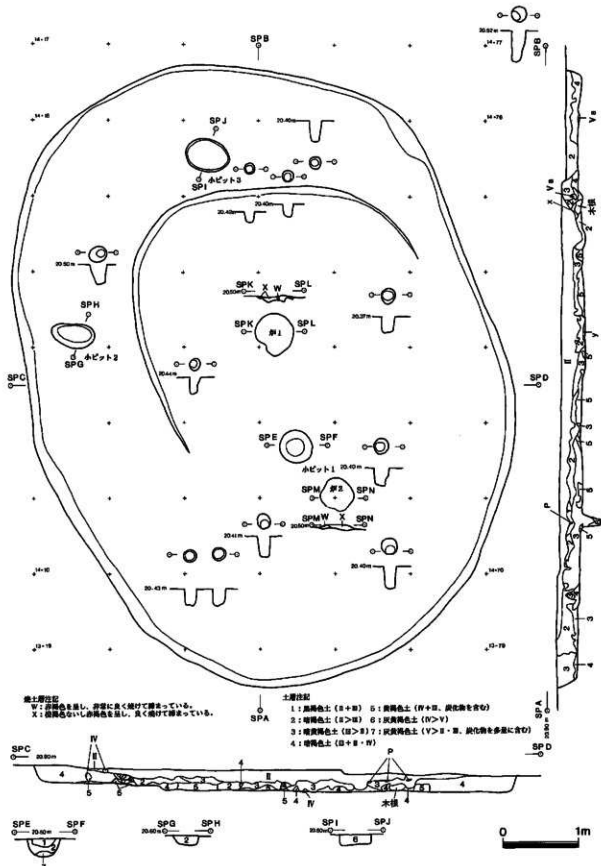
2・4-42区周辺で確認した。出土土器から萩ヶ岡2式期の住居跡と思われる。墳底に、北東側から西側に廻る段が確認され、ベンチをもつ住居の可能性が考えられたが、土層断面及び炉の位置、床面の状況などから、当初は、炉1を中心とする4～5m前後の規模をもつ住居であったものが、その後大幅に拡張され上記の規模をもつ長円形の大型住居になったことが判明した。最終的な床面は、北西側から北東側にわずかに傾斜しており、そのため北寄りに当初の床面が残っているが、拡張時にこの部分を埋めた形跡はない。柱穴と考えられるものは住居内に11ヵ所と住居外に1ヵ所確認されているが、配列ははっきりしない。柱根部の太さは12～15cm、深さは20～40cmである。2ヵ所の炉はいずれも良く焼けて締まっている。炉1は当初から使用され、拡張後も引き続き使用されたものと思われる。炉2の焼土中には炭化物が認められた。両方共焼土をフローテーションしたが、植物及び動物遺体は検出できなかった。小ピット1は床面中央南側にあり、円形で25cmほどの深さをもつ。墳底は丸みを帯び、炭化物を多量に含む層がみられる。遺物はその上面から萩ヶ岡2式土器片5点と石磯基部片と思われる焼けたR・F1点、剥片9点が出土している。西側に設けられた小ピット2は、長円形を呈し墳底は平坦で、深さは12cmである。ピット内の出土遺物は、萩ヶ岡2式土器の細片3点と黒曜石剥片2点である。北側の小ピット3は、楕円を呈し、墳底は凹凸が激しく遺物は出土していない。

遺物の分布をみると、床面覆土とも当初範囲の内側は希薄で、東西の壁近くに集中しているのが認められる。床面出土土器では、小ピット2及びその南側が最も多く、復元個体のうち2個体はこの部分からの出土である。次いで東側、南側の順に多く、これらの間には接合関係がある。床面出土の石器類も、土器同様東西の壁近くに集中するが、石斧片やR・F、破損品が主体である。石斧片は東西間及び住居外との接合関係がある。なお、黒曜石の剥片・破片類の集中出土地点が6ヵ所確認されている。このうち最も集中していたのは東壁中央付近(No.57、遺物No.886)で、6,967点の剥片・破片が出土した。また、そのやや北側にはそれぞれ1,889点と504点の集中も認められている。この他、北壁側で2ヵ所(52点と19点)、西側の段差部分に1ヵ所(17点)の小さな集中がある。

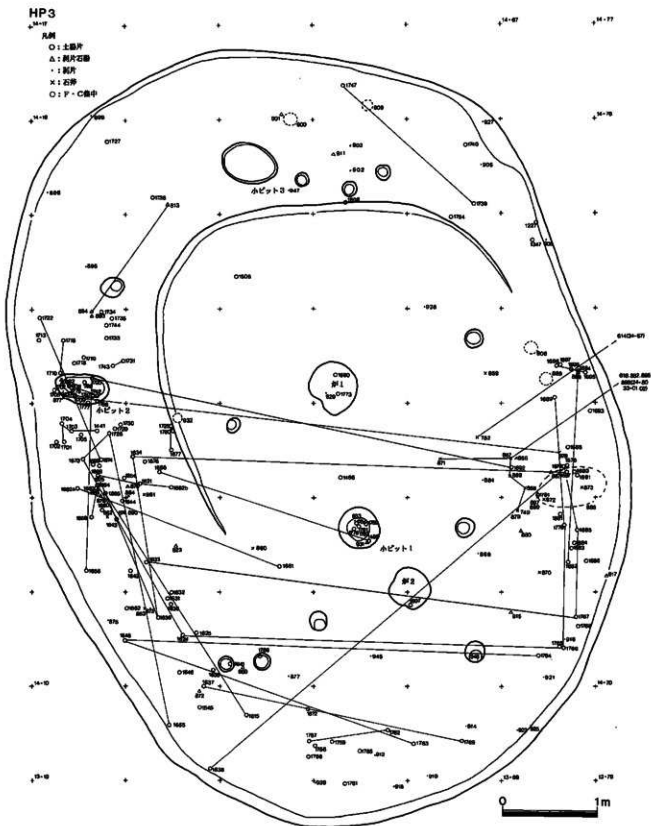
土器片は総点数761点が出土している。柱穴・小ピット・炉出土の12点中11点、床面出土の204点中199点が萩ヶ岡2式に相当するものである。

復元できた土器は4個体で、いずれも図示した部分以外は欠けている。図番1は西側床面出土の土器で、推定口径28cm、同器高22cm。2は西側床面と覆土上層出土の破片が接合したもので、口径24.0cm、推定器高34cm。3は覆土上層出土で、口径20.0cm、器高33.2cm、底径9.0cm。4は覆土上層とII層出土のものが接合しており、推定口径23.5cm、同器高35.5cm、同底径12cmを計る。1・2・4は台形の突起をもち、口縁に粘土紐を貼り付けた下に垂下帯を付し、半載竹管状工具による沈線を施文している。3は緩い突起をもち、口縁には細い粘土紐を貼り付け、やはり垂下帯をもつ。地文は1・2はLR+RL、3はRL+LR、4はLR+RLとRL+LRの結束羽状縄文である。5は柱穴内、6～7は小ピット1内出土の萩ヶ岡2式で、いずれも胎土に砂粒を含む。5はLR+RLの縄文をもち内面は平滑である。6はRL+LRの結束羽状縄文と思われる。7は貼付け部分から沈線が引かれている。8は炉1出土の円筒上層で、外傾した口唇に縄の押捺が認められ、その下にための沈線が引かれている。内面は平滑で胎土に砂粒を含む。9～21は床面出土のものである。9は覆土上層出土の破片と接合した東銅路Ⅲ式の底部で、縄端疔痕がみられる。10・11は萩ヶ岡1式に相当する。10は垂下帯に縄の押捺が認められる。11は内面が平滑で、

HP 3

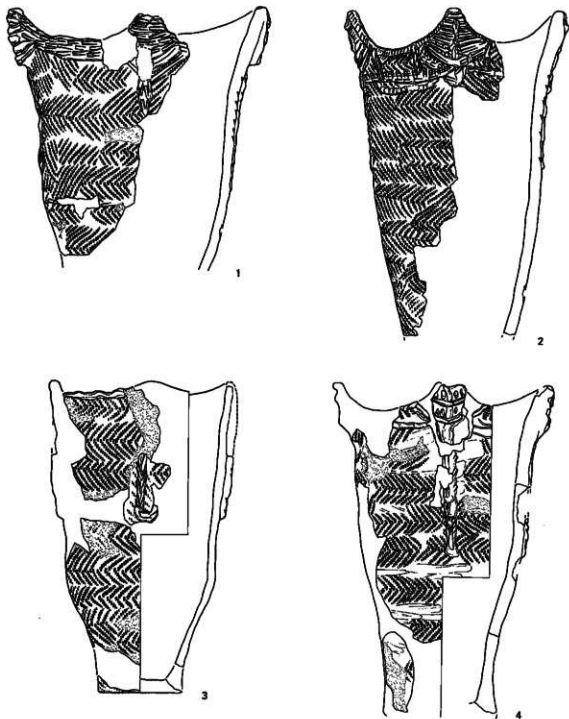


図V-2-9 HP3平面及び断面



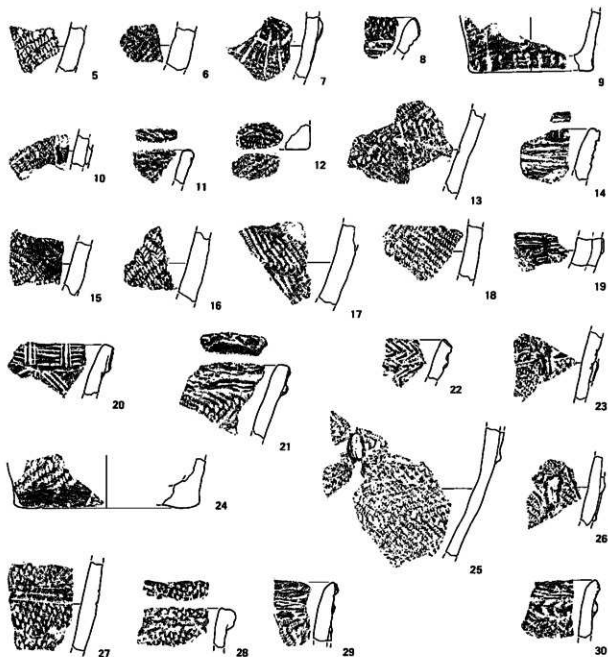
図V-2-10 HP3遺物分布

口縁に貼付帯があり、口唇には爪によると思われる刻みがある。12-21は萩ヶ岡2式と思われる。12は底面にも縄文が施文されている。13・14は内面が平滑で胎土に砂粒を含む、13は器面にLR+RLの結束羽状縄文が認められる。14は口縁に粘土紐が貼付され、その上半截竹管状工具による沈線が引かれている。15はLR+RL、16はRL+LRの結束羽状縄文が施されている。17は砂っぽい胎土で堅く焼き締まり、結節のある縄文が施されている。18はLRとRLの縄文が認められる。19は内面が平滑で貼付帯と垂下帯に半截竹管状工具による沈線が施されている。20は胎土が良く、器内外とも平滑で茶褐色を呈す。LR縄文を地文とし、貼付帯には横・縦、その下位には縦・斜めの沈線が半截竹管状工具によって施文されている。22-26は覆土下層出土の萩ヶ



図V-2-11 HP3出土の土器 (1)

図2式である。22は内面が平滑で、二条の粘土紐を半截竹管状工具によって矢羽状に刻んでいる。23は内面が平滑で胎土に砂粒を含む。垂下帯に細い半截竹管状工具による押し引きが、器面には同様工具による沈線がみられる。24はやや張出し気味の底部でLR縄文がみられる。25・26は垂下帯に竹管状工具による太い沈線が引かれている。25は胎土に小礫がみられる。27～30は覆土上層出土で、27・28は天神山式、29・30は萩ヶ岡2式で胎土に砂粒を含む。27は複節縄文を地文とし半截竹管状工具による沈線が加えられている。28は口唇にも縄文が施され、肥厚帯の下が調整されている。包含層で棒状突起をもつ同様の土器が出土しているが、いずれも胎土が粉っぽく、堅く焼き締まる。29は口縁に貼付した粘土紐と垂下帯に、半截竹管状工具による沈線と押し引きが認められる。30は器面が摩擦しているが、口縁貼付帯に半截竹管状工具による沈線と爪による刻みがある。



図V-2-12 HP3出土の土器(2)

表V-2-11 HP-3層位・分類別出土土器一覽

層位	発掘層	円筒土層	家ノ間1	家ノ間2	天神山	不明	合計
Ⅱ				59			59
覆土上層	1		26	95	28	220	370
覆土下層			8	79	19	10	116
床直	1		4	199			204
地床P1		1		1			2
地床P2				1			1
SP1				5			5
SP2				3			3
柱穴内				1			1
合計	2	1	38	443	47	230	761

表V-2-12 HP-3実測土器一覽(竈ヶ岡2)

図番	層位	グリッド	部位	点数	遺物No.	備考
1	床直	1・4-22	一拵	36	1677	半農竹管
			胴部	1	1725	結末羽状
			底部	2	1780	
2	床直	1・4-22	一拵	42	1666	半農竹管の残部
			胴部	1	1485	結末羽状
3	上層	1・4-34	一拵	37	1505	垂下口流
4	上層	1・4-12	胴部	1	1701	垂下口流
			上層	5	1704	
			上層	3	1703	
			Ⅱ	59	1441	

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
13	1・3-39	胴部	1	家ノ間2	1757	結末羽状, 粘土
		口縁	1	家ノ間2	1762	
14	1・3-49	口縁	1	家ノ間2	1758	半農竹管の残部
15	1・4-12	胴部	1	家ノ間2	1663	結末羽状陶文
16	1・4-12	胴部	1	家ノ間2	1668	結末羽状, 粘土
17	1・4-13	胴部	1	家ノ間2	1733	RL, 結末
18	1・4-20	胴部	1	家ノ間2	1631	羽状陶文, 粘土
19	1・4-22	胴部	1	家ノ間2	1676	胴付口流
20	1・4-61	口縁	1	家ノ間2	1686	半農竹管の残部
21	1・4-63	口縁	2	家ノ間2	1698	胴付口流

表V-2-13 HP-3柱穴出土陶製土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
5	1・4-30	胴部	1	家ノ間2	1789	羽状陶文

表V-2-14 HP-3小ピット1出土陶製土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
6	1・4-41	胴部	1	家ノ間2	1776	羽状陶文
7	1・4-41	胴部	1	家ノ間2	1784	竹口流

表V-2-15 HP-3地床P1出土陶製土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
8	1・4-43	口縁	1	円筒土層	1773	流線, 口縁に属

表V-2-16 HP-3床直出土陶製土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
9	1・4-12	底部	1	実測層	1674	陶輪削突, 黄土
		底部	1	実測層	1722	覆土上層
10	1・3-39	胴部	1	家ノ間1	1756	胴付口流
11	1・4-60	口縁	1	家ノ間1	1768	口縁に属の残部
12	1・3-39	底部	2	家ノ間2	1672	底部にも属文

表V-2-17 HP-3覆土下層出土陶製土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
22	1・4-11	口縁	1	家ノ間2	1660	矢羽状の残部
23	1・4-15	胴部	1	家ノ間2	1727	半農竹管の残部
24	1・4-20	底部	1	家ノ間2	1652	粘土に砂
25	1・4-46	胴部	3	家ノ間2	1747	垂下口流の底文
		胴部	1	家ノ間2	1739	結末羽状陶文
26	1・4-55	胴部	1	家ノ間2	1740	垂下口流の底文

表V-2-18 HP-3覆土上層出土陶製土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
27	1・4-42	胴部	1	天神山	1486	流線の陶文
28	1・4-45	口縁	1	天神山	1608	口縁肥厚部に属文
29	1・4-64	口縁	1	家ノ間2	1347	胴付口流
30	1・4-64	口縁	1	家ノ間2	1227	胴付口流と流線

表V-2-19 HP-3小ピット1出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・4-41	胴部	1	灰+陶2	1781	細片, 摩耗
—	1・4-41	胴部	1	灰+陶2	1783	細片, 羽織
—	1・4-41	胴部	1	灰+陶2	1782	細片, 摩耗

表V-2-20 HP-3小ピット2出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・4-13	胴部	1	灰+陶2	1786	摩耗, 細片
—	1・4-13	胴部	1	灰+陶2	1787	細片, 胎土砂
—	1・4-13	胴部	1	灰+陶2	1788	細片, 胎土砂

表V-2-21 HP-3地床炉1出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・4-43	胴部	1	灰+陶2	1680	細片, LR

表V-2-22 HP-3地床炉2出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・4-50	胴部	1	灰+陶2	1607	細片, 摩耗

表V-2-23 HP-3床直出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・3-29	胴部	1	灰+陶2	1655	胎土砂
	1・4-12	胴部	1	灰+陶2	1728	結晶羽状織文?
	1・4-12	胴部	1	灰+陶2	1673	摩耗, 細片
	1・4-20	胴部	1	灰+陶2	1624	結晶羽状織文?
	1・4-60	胴部	1	灰+陶2	1766	結晶羽状織文?
	1・4-61	胴部	1	灰+陶2	1779	摩耗, 細片
	1・4-63	胴部	1	灰+陶2	1689	摩耗, 細片
—	1・3-29	胴部	1	灰+陶2?	1645	摩耗, 細片
—	1・3-29	胴部	1	灰+陶2	1638	摩耗, 細片
—	1・4-62	胴部	1	灰+陶2	1678	細片
—	1・3-39	胴部	1	灰+陶2	1615	胎土砂
	1・4-12	胴部	2	灰+陶2	1666	半農竹管の沈積
	1・4-20	胴部	1	灰+陶2	1636	半農竹管の沈積
	1・4-22	胴部	1	灰+陶2	1634	半農竹管の沈積
	1・4-62	胴部	2	灰+陶2	1687	結晶羽状織文
	1・4-63	胴部	1	灰+陶2	1696	半農竹管の沈積
	1・4-63	胴部	2	灰+陶2	1695	半農竹管の沈積
—	1・3-48	胴部	1	灰+陶2?	1761	細片, 羽織
—	1・3-49	胴部	1	灰+陶2	1759	細片, 胎土砂
—	1・3-49	胴部	1	灰+陶2	1785	細片, 羽織
—	1・3-59	胴部	1	灰+陶2	1763	細片, 胎土砂
	1・4-10	胴部	1	灰+陶2	1648	細片, 胎土砂
	1・4-60	胴部	1	灰+陶2	1764	細片, 胎土砂

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・3-59	胴部	1	灰+陶2	1769	半農竹管の沈積
	1・4-20	胴部	1	灰+陶2	1637	結晶羽状織文
—	1・4-11	胴部	1	灰+陶2	1658	細片, LR
	1・4-13	胴部	1	灰+陶2	1720	細片, LR
	1・4-62	胴部	1	灰+陶2	1692	LR, 胎土砂
—	1・4-11	胴部	1	灰+陶2	1659	摩耗, 胎土砂
	1・4-12	胴部	1	灰+陶2	1664	摩耗, 胎土砂
—	1・4-11	胴部	1	灰+陶2	1643	LR
	1・4-12	胴部	1	灰+陶2	1675	LR, 胎土砂
	1・4-12	胴部	2	灰+陶2	1654	結晶羽状織文
	1・4-22	胴部	1	灰+陶2	1621	LR, 胎土砂
	1・4-22	胴部	1	灰+陶2	1662b	LRとRL
—	1・4-11	胴部	1	灰+陶2?	1644	LR, 胎土砂
—	1・4-12	胴部	1	灰+陶2	1662a	RL
	1・4-31	胴部	1	灰+陶2	1661	
—	1・4-12	底部	1	灰+陶2	1705	摩耗, 裏り出付
—	1・4-12	胴部	1	灰+陶2	1699	LR, 内面平滑
—	1・4-12	胴部	1	灰+陶2	1665	摩耗, 胎土砂
	1・4-20	胴部	1	灰+陶2	1636	摩耗, 胎土砂
	1・4-22	胴部	1	灰+陶2	1634	摩耗, 胎土砂
	1・4-62	胴部	1	灰+陶2	1687	摩耗, 胎土砂
	1・4-63	胴部	1	灰+陶2	1696	摩耗, 胎土砂
	1・4-63	胴部	1	灰+陶2	1695	摩耗, 胎土砂
—	1・4-12	胴部	1	灰+陶2	1729	摩耗, 胎土砂
—	1・4-12	胴部	1	灰+陶2	1730	細片に沈積
—	1・4-13	胴部	1	灰+陶2	1713	摩耗, 細片
—	1・4-13	胴部	1	灰+陶2	1706	細片
—	1・4-13	胴部	2	灰+陶2	1710	細片, 胎土砂
	1・4-13	胴部	1	灰+陶2	1716	細片, 胎土砂
—	1・4-13	胴部	1	灰+陶2?	1707	摩耗, 胎土砂
—	1・4-13	胴部	1	灰+陶2	1708	結晶羽状織文
	1・4-13	胴部	1	灰+陶2	1742	
—	1・4-13	胴部	1	灰+陶2	1775	LR, 胎土砂
—	1・4-13	胴部	1	灰+陶2?	1709	細片, 胎土砂
—	1・4-13	胴部	1	灰+陶2	1718	細片, 胎土砂
—	1・4-13	胴部	1	灰+陶2	1719	半農竹管の沈積
—	1・4-13	胴部	1	灰+陶2?	1777	細片, 胎土砂
—	1・4-13	胴部	1	灰+陶2?	1734	細片, 胎土砂
—	1・4-13	胴部	1	灰+陶2	1744	摩耗, 胎土砂
—	1・4-13	胴部	1	灰+陶2	1735	羽状織文
—	1・4-13	胴部	2	灰+陶2	1743	羽織, LR
—	1・4-13	胴部	1	灰+陶2	1731	胎土砂
—	1・4-20	胴部	1	灰+陶2?	1630	細片, 胎土砂

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・4-20	割部	1	灰ヶ岡2?	1646	剥離, 磨土文
—	1・4-20	割部	1	灰ヶ岡2	1625	結核羽状破片
—	1・4-20	割部	4	灰ヶ岡2	1635	LR, 磨土文
—	1・4-21	割部	2	灰ヶ岡2	1642	割片, 磨土文
—	1・4-21	割部	1	灰ヶ岡2	1633	磨土文
—	1・4-60	割部	1	灰ヶ岡2	1767	LR, 磨土文
—	1・4-61	割部	1	灰ヶ岡2	1685	磨部孔, LR
—	1・4-62	割部	1	灰ヶ岡2	1679	LR, 磨土文
—	1・4-21	割部	1	灰ヶ岡2	1632	結核羽状破片
—	1・4-22	割部	1	灰ヶ岡2	1725	結核羽状破片
—	1・4-22	割部	2	灰ヶ岡2	1780	
—	1・4-25	割部	1	灰ヶ岡2	1736	結核羽状破片?
—	1・4-30	割部	1	灰ヶ岡2	1641	手鍬竹管の破片

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・4-54	割部	1	灰ヶ岡2?	1754	磨部, LR
—	1・4-60	割部	1	灰ヶ岡2	1765	磨部, 磨土文
—	1・4-61	割部	1	灰ヶ岡2	1681	磨片に磨の押痕
—	1・4-61	割部	1	灰ヶ岡2	1682	磨部, 磨土文
—	1・4-63	割部	1	灰ヶ岡2	1694	磨部, 磨土文
—	1・4-61	割部	1	灰ヶ岡1	1683	磨片? 破片
—	1・4-61	割部	1	灰ヶ岡2	1684	手鍬竹管の破片
—	1・4-62	割部	2	灰ヶ岡2	1791	磨片, 磨土文
—	1・4-62	割部	2	灰ヶ岡2	1688	結核羽状破片
—	1・4-62	割部	1	灰ヶ岡2	1690	結核羽状破片
—	1・4-62	割部	2	灰ヶ岡2	1691	磨部, 磨土文
—	1・4-62	割部	1	灰ヶ岡2	1693	磨片
—	1・4-63	割部	1	灰ヶ岡2?	1697	剥離, 磨土文

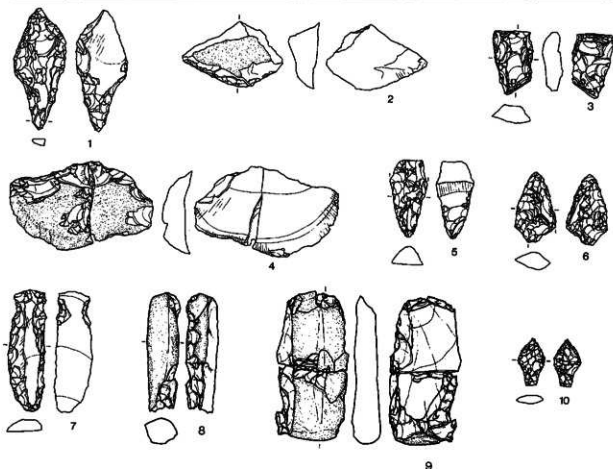
石器類は総計9,563点が出土している。このうち9,506点が黒曜石の剥片（うち1点が焼け）で、頁岩の剥片はわずか1点である。剥片石器類は22点あり、内訳は半数の11点がR・F（うち4点が焼け）で、他に石礫3点（1点は焼け、他の2点は基部片）、石槍未製破損品・石錐・楔形石器・つまみ付きナイフが各1点、破損した削器とU・F各2点となっている。礫石器類は、石斧片34点のみで他の器種は全く出土しておらず、この点が極めて特徴的である。

出土分布は、先に記したように東西の壁近くに集中し、中央部は稀薄である。また、F・C集中の在り方、破損品が多い点などから、壁際に一括廃棄されたものの可能性が想定される。

図番1の石錐と7のつまみ付きナイフは、南側の覆土下層出土である。1は珪質頁岩製で刃部側縁はつぶれており、先端を欠く。7は頁岩製で、素材剥片の打点側を先端とし刃部の厚みを確保して、先端及び図の右側縁に直角刃を作出している。2は頁岩製のR・Fで、西側の床面直上出土である。原石面を残す肉厚の横長剥片を素材とし、先端側に刃部加工を施し、一端を切り出し状にしている。3は小ビット2上面の床から出土した黒曜石製楔形石器で、四辺がつぶれている。図の上下辺は使用によって弾けた部分に、更に敲打痕が残されている。4は西側の覆土下層出土の右半分と覆土Ⅱ層出土の半分が接合したR・Fで、黒曜石の横長礫皮片を素材としている。5も西側覆土下層出土である。肉厚の黒曜石剥片を素材とした切り出し削器の先端部で、つまみ付きナイフの可能性もある。刃部はつぶれ、腹面に使用による擦痕がみられる。6は西側床面出土の石槍未製破損品である。素材は黒曜石で、図の右側縁基部側に礫皮部分があり、そこが肉厚のまま残って折れている。また、その部分と反対側縁に楔形石器状のつぶれと割離がみられ、楔形石器に転用されていることが分かる。8は東側覆土上層出土の礫皮片（図上下端に接合している2点）と、3・4-67区出土の破片が接合したもので、図右側縁全体に敲打痕がみられる。素材は緑色泥岩である。9は東側床面出土の細片（図中央右側に接合している3点）と、東側覆土下層出土の破片（図上）、包含層出土の破片が接合したもので、素材は青色泥岩（2・4-80区Ⅱ層出土の図左下細片のみ茶色化）である。腹面の側縁に敲打割離がみられ、この後に背面中央部が加撃され二つに折られている。床面出土の剥片はこの際に割がれたものである。なお3・3-01区出土の下半分は、破断面の腹側に敲打割離がみられるが、単独で使用された使用痕かどうかは判然としない。10は覆土上層出土の石礫で焼けている。なおNo.63-68は調査のミスにより正確な出土地点を把握できなかった。

表V-2-25 HP-3出土石器等一覽 (2)

No.	グリッド	層位	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)	石質	分類	図番No	備考
45	1・4-52	床直	-	-	-	0.1	黒曜石	剥片	884	
46	1・4-54	床直	-	-	-	+	黒曜石	剥片	928	
47	1・4-55	土層	-	-	-	3.1	黒曜石	剥片	905	907付注、2録り
48	1・4-55	床直	-	-	-	+	黒曜石	剥片	927	
49	1・4-60	床直	17.7	12.6	3.4	0.7	黒曜石	石鏃	915	鋸片
50	1・4-60	土層	-	-	-	1.6	黒曜石	剥片	921	
51	1・4-60	床直	-	-	-	0.3	黒曜石	剥片	916	
52	1・4-61	床直	14.5	27.6	3.3	1.6	白磁器	石斧	870	鋸片
	62	床直	14.5	18.9	2.7	0.4	白磁器	石斧	866	鋸片
	62	床直	26.0	15.0	3.3	1.2	白磁器	石斧	873	鋸片
53	1・4-61	床直	18.5	25.2	3.2	1.1	黒曜石	R・F	880	阿波川の焼物跡、断面は射
54	1・4-61	床直	-	-	-	0.6	黒曜石	剥片	879	
55	1・4-62	床直	-	-	-	0.8	黒色片岩	石斧	899	2録り、F・C軸(Y886)内から
56	1・4-62	床直	20.2	10.9	3.4	0.6	黒曜石	R・F	887	阿波川の焼物跡、射ている
57	1・4-62	床直	-	-	-	120.0	黒曜石	F・C軸	886	881・885付注、6, 967録り
58	1・4-63	床直	26.4	20.2	4.8	2.4	黒曜石	R・F	888	阿波川の焼物跡、射ている
59	1・4-63	土層	-	-	-	11.2	黒曜石	F・C軸	906	504録り
60	1・4-63	床直	-	-	-	28.7	黒曜石	F・C軸	889	1,889録り
61	1・4-64	土層	-	-	-	0.4	黒曜石	剥片	908	
62	1・4-71	土層	17.2	34.4	2.5	1.3	黒曜石	U・F	917	阿波川の焼物跡
63	-	土層	39.1	28.2	5.6	3.6	黒曜石	U・F	950	阿波川の焼物跡、射ている
64	-	土層	25.0	14.4	4.3	1.3	黒曜石	石鏃	10 953	阿波川の焼物跡、射ている
65	-	土層	11.1	10.1	3.2	0.3	黒曜石	石鏃	956	鋸片
66	-	土層	55.8	38.3	12.3	18.5	頁岩	削器	974	阿波川の焼物跡、射ている
67	-	土層	21.1	21.0	4.5	1.8	黒曜石	R・F	954	阿波川の焼物跡、断面は射
68	-	土層	15.7	12.4	2.5	0.6	黒曜石	R・F	955	阿波川の焼物跡



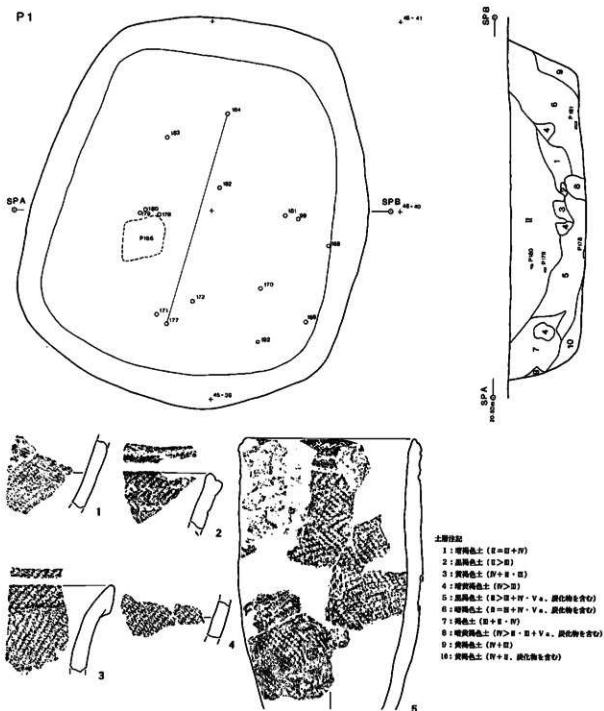
図V-2-13 HP3出土の土器

2) 土質

P1 長さ208cm 幅175cm 深さ40cm

4・5-29、4・6-30区で確認した縄文時代前期の土壌で、台形に近い平面形を呈す。墳底はⅤa層まで掘り込まれており、ほぼ平坦で、立上りは明瞭である。覆土は炭化物を含む層が主体で、中央部にブロック状の堆積が多々みられることから埋め戻しの可能性が考えられる。本土壌に伴う遺物としては、覆土上層に流れ込んでいるⅡ層土直下から、比較的まとまって出土した大麻Ⅴ式土器(166、下図5)と、墳底及び覆土下層出土の同時期の土器片(図1~4)がある。

なお、99・192はそれぞれ覆土Ⅱ層中出土の荻ヶ岡2式土器片と石斧片である。



図Ⅴ-2-14 P1平面及び断面・出土の土器

P 2 長さ66cm 幅54cm 深さ11cm

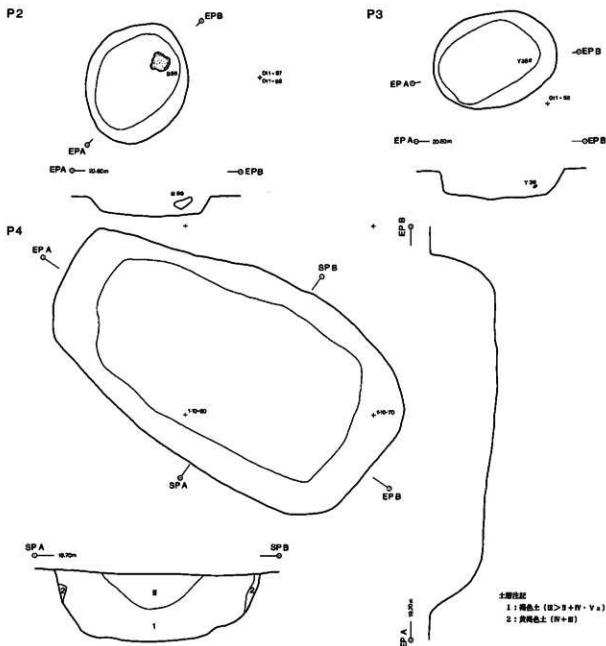
0・11-76区、0・11-77区で確認した。楕円形を呈す。墳底はⅢ層中にありほぼ平坦である。覆土は全体に均一でⅡ層が主体である。覆土中より磁石が出土している。

P 3 長さ66cm 幅50cm 深さ15cm

0・11-42区で確認した。楕円形を呈す。墳底はⅢ層中にあり隅丸長方形を呈す。ほぼ平坦である。覆土は全体に均一でⅡ層が主体である。覆土中より黒曜石のB・Fが出土している。

P 4 長さ194cm 幅109cm 深さ36cm

1・10-60区で確認した。隅丸長方形に近い輪郭を呈す。縄文時代前期には既に固れていたと思われる沢跡の中に位置している。墳底はV a層のブロックや砂利を含むⅣ層土の二次堆積層にある。覆土は全体にほぼ均一で、Ⅲ層土にⅡ・Ⅳ・V a層土が混在する。遺物は出土していないが、位置・形態・覆土の状況から、P 5と同様の遺構と考えられる。



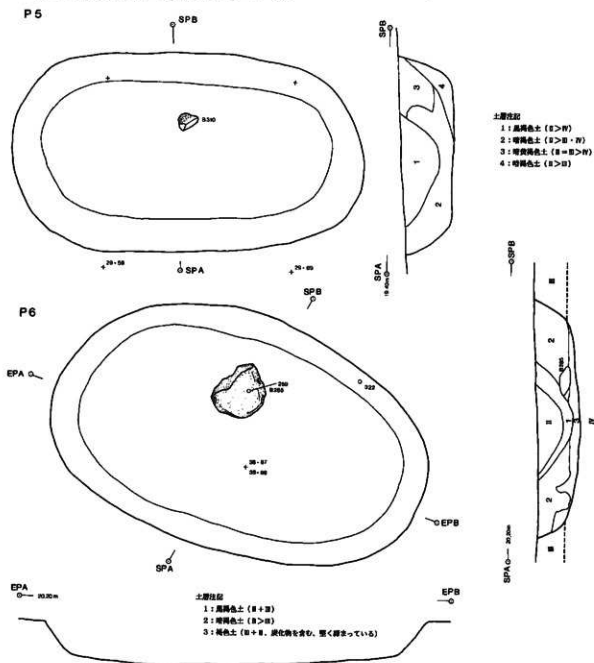
図V-2-15 P2~4平面及び断面

P 5 長さ187cm 幅106cm 深さ29cm

2・5-59区で確認した。P 4 同様沢跡内に位置し、長楕円形を呈す。墳底はVa層にあり、ほぼ平坦である。覆土はⅡ層土が主体であるが、墳底面に見られる大粒（径5～10cm）の軽石が目立ち、殊に覆土1層と2層の境目部分に多く認められた。遺物は墳底中央北寄りの位置から、石冠1点が横倒しの状態で出土している。こうした形態と堆積を示す土壌は、前述したように江別市高砂遺跡のP 173などがあり、本土墳も縄文時代中期の墓の可能性がある。

P 6 長さ203cm 幅127cm 深さ23cm

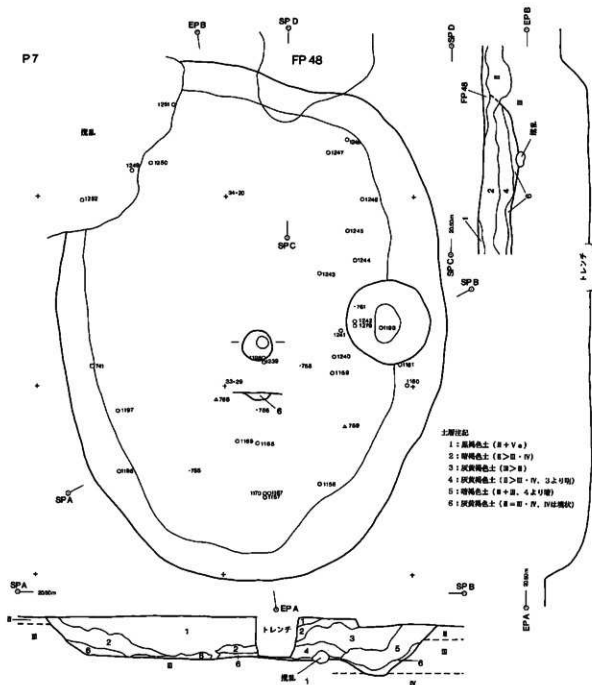
3・8-76区から3・8-87区にかけて位置する。長楕円形を呈す。確認面で中央部にⅡ層の落ち込みが認められた。墳底はⅣ層中にありほぼ平坦である。覆土1・2層はⅡ層、覆土3層はⅢ層が主体である。遺物は、覆土から土器片2点（覆土2層より中茶路式、覆土1層より天神山式）、覆土2層中央北寄りで石皿が出土している。



図V-2-16 P5・6平面及び断面

P7 長さ277cm 幅206cm 深さ24cm

3・3-18区から3・4-30区にかけて位置し、TP16排土の土層観察のために設けたトレンチで確認した。北西隅に攪乱を受けているが楕円形に近い輪郭をもつものと思われ、長軸は北西-南東方向にある。浅く、壁の立上がりも緩やかだが、底面はほぼ平坦でほぼ水平。墳底の中央と東壁ぎわに浅い円形の落ち込みが見られる。墳底は汚れたⅢ・Ⅳ層が薄く覆い（6層）、さらに腐植がちの覆土（2・4・5層）が堆積する。土壌の東寄りでは2層と4層の間に遺構排土かと思われるやや明色の土層（3層）が観察された。覆土の上位にはⅡ層が流れ込み（1層）、さらにTP16排土が覆う。出土遺物は土器片33点（萩ヶ岡1・2式、天神山式）、黒曜石製遺物9点、方割礫1点と少なく、底面直上の6層では萩ヶ岡1式1点、同2式2点、天神山式1点と黒曜石



図V-2-17 P7平面及び断面

の剥片 6 点が出土している。層位的に TP 16 排土および FP 48 より古いものと考えられる。出土した土器からみて縄文時代中期の遺構である可能性が高い。性格は不明で、小規模な住居跡とも考えたが炉跡・柱穴等は確認できなかった。

P 8 長さ220cm 幅204cm、深さ22cm (P 8-10の図はHP 2の項参照)

3・4-97、4・4-07区で確認した。HP 2 を切っている。円形に近い形態で、壊底はⅣ層上面と浅く、緩い凹凸が目立つ。覆土は大半がⅡ層土の流れ込みである。壊底から出土した遺物は、萩ヶ岡 2 式土器片とメノウの剥片各 1 点のみである。覆土の遺物には萩ヶ岡 2 式土器片のほかに、黒曜石製の焼けた搦器片と U・F 各 1 点、R・F 2 点、剥片類がある。性格は不明であるが、HP 2 同様の石器制作に関する作業小屋の用途が想定される。

P 9 長さ150cm 幅(128)cm 深さ40cm

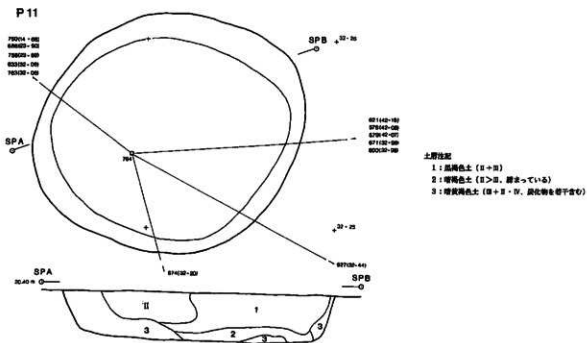
4・4-26・27区で確認した。HP 2 に切られているが、ほぼ楕円形を呈する。立上りは明瞭で壊底はⅣ層下位に達し平坦である。遺物は、覆土最上部から天神山式土器片 4 点(うち 2 点接合)が出土しているのみで、時期・性格は不明である。

P 10 長さ133cm 幅117cm 深さ18cm

4・4-03・13区で確認した。平面形は楕円で、壊底はⅣ層上面と浅く、凹凸の多い雑な面になっている。HP 2 の項で述べたように、横立ち状態で出土した安山岩の台石の他、多量の剥片・砕片(7,625点を一括して遺物No.866で取り上げている)と破損した石器類、土器片が壊底から覆土上面までほとんど隙間なく混在し、一部は土壌の周辺にも散っていることから、HP 2 に付属し剥片類を一括廃棄するための土壌と思われる。

P 11 長さ147cm 幅128cm 深さ25cm

3・2-15区で確認した。平面形はほぼ楕円で、壊底はⅣ層中にある。壊底付近と壁際に炭化物を含む層が見られ、上層はⅡ層土が主体である。遺物は覆土上部から砂岩の方割礫 D 1 点が出土している。この破片は遺物No.750(1・4-68区)と接合し、その他四方に散っている破片を併せて楕円礫となる。なお、この楕円礫は割れた後に焼けている。時期・性格は不明である。



図V-2-18 P11平面及び断面

表V-2-26 P-1床直出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分量	遺物No.	備考
—	4・5-29	胴部	2	大麻V	171	破片, 純磨
—	4・5-29	胴部	2	大麻V	178	接合, LR
1	4・5-29	胴部	1	大麻V	177	LR
	4・6-30	胴部	1	大麻V	184	
2	4・5-29	口縁	1	大麻V	172	縄織文, LR
—	4・5-39	胴部	2	大麻V	170	接合, RL
3	4・5-39	胴部	1	大麻V	181	LR
4	4・5-39	口縁	1	円筒上層	169	口縁肥厚, LR
—	4・5-39	胴部	1	大麻V	168	LR斜行縄文

表V-2-27 P-1覆土下層出土土器一覽

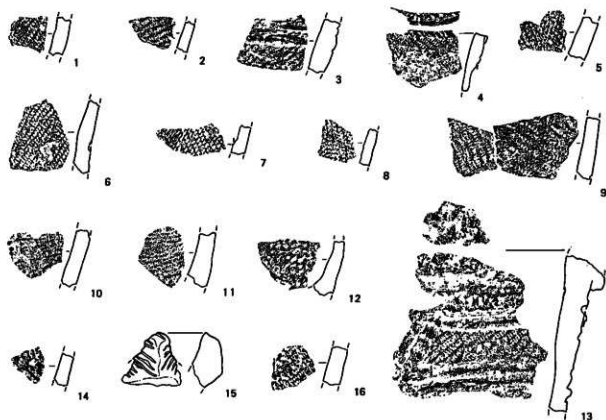
図番	グリッド	部位	点数	分量	遺物No.	備考
—	4・6-20	胴部	1	大麻V?	183	磨耗, RL

表V-2-28 P-1覆土上層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分量	遺物No.	備考
5	4・5-29	一拵	80	大麻V	166	16点接合
—	4・5-39	口縁	1	葦+骨2	99	手載竹管の収蔵
—	4・6-30	胴部	2	大麻V	182	破片, 純磨

土壌出土の土器

図V-2-14の1-5はP1出土の土器である。1・2・4・5は大麻V式、3は円筒上層式に相当する。2・5は口唇が外傾し口唇と口縁に縄織文が施されている。地文は1・2・4はLR、5はLRとRLの縄文を羽状縄文風につけている。いずれも胎土に繊維を含む。3は口縁が肥厚し、内面は平滑である。地文はLRである。図V-2-19の1-8はP7出土の土器である。1・2・6は器面にLRの縄文が認められる。胎土に砂粒を含む。3には半截竹管状工具により沈線が施されている。4は口縁貼付帯が縄により刻まれている。5・7・8には複節の縄文が認められる。9-12はP8出土の土器である。9は壺底と覆土2層の土器が接合したもの。9・12にはRL、10・11にはLRの縄文が認められる。13はP9出土の土器である。厚手で口縁肥厚帯・貼付帯・器面に竹管状工具による施文がある。14-16はP10出土の土器である。14は磨耗しているが地文は羽状縄文。15は突



図V-2-19 P7~10出土の土器

表V-2-29 P-6覆土2層出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・8-87	胴部	3	中須弥	322	接合, 銅片

表V-2-30 P-6覆土1層出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・8-87	胴部	1	天神山	259	摩耗

表V-2-31 P-7覆土6層出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・3-28	胴部	1	葦ヶ岡2	1169	銅片, 摩耗
—	3・3-28	胴部	1	葦ヶ岡1	1168	摩耗
—	3・3-29	胴部	1	葦ヶ岡2	1243	銅片, LR
—	3・4-10	胴部	1	天神山	1249	銅片, LR

表V-2-32 P-7覆土5層出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・3-29	胴部	2	葦ヶ岡2	1279	摩耗, 銅片
1	3・3-29	胴部	1	葦ヶ岡2	1244	LR, 胎土比

表V-2-33 P-7覆土4層出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・3-19	胴部	1	葦ヶ岡2	1252	摩耗, LR
2	3・4-10	胴部	1	葦ヶ岡2	1250	摩耗, LR

表V-2-34 P-7覆土3層出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・3-29	胴部	1	葦ヶ岡2	1240	銅片, LR
3	3・3-29	胴部	1	葦ヶ岡2	1245	半截竹管の残片
—	3・3-29	胴部	1	天神山	1242	内面平滑
4	3・4-10	胴部	1	葦ヶ岡1	1251	胎土に異の胎

表V-2-35 P-7覆土2層出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・3-18	胴部	1	葦ヶ岡2	1197	摩耗
—	3・3-18	胴部	1	葦ヶ岡2	1196	網痕
—	3・3-28	胴部	2	天神山	1157	RLR
—	3・3-29	胴部	1	天神山	1239	半截竹管の残片
—	3・3-29	胴部	1	葦ヶ岡2	1159	LR, 胎土比
5	3・3-29	胴部	1	天神山	1246	RLR
6	3・3-29	胴部	1	葦ヶ岡2	1199	LR
—	3・4-20	胴部	1	天神山	1247	LR
—	3・4-20	胴部	1	天神山	1248	LR

表V-2-36 P-7覆土1層出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・3-28	胴部	1	葦ヶ岡2	1170	摩耗, 胎土比
7	3・3-28	胴部	3	天神山	1167	接合, RLR
8	3・3-28	胴部	2	天神山	1158	摩耗, 胎土
—	3・3-29	胴部	1	天神山	1198	胎土比
—	3・3-29	胴部	1	天神山	1241	銅片, LR
—	3・3-29	胴部	1	天神山	1161	摩耗
—	3・3-29	胴部	1	天神山	1160	銅片, LR

表V-2-37 P-8墳底出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
9	3・4-98	胴部	1	葦ヶ岡2	1152	摩耗, RL
	4・4-08	胴部	1	葦ヶ岡2	1163	層土2

表V-2-38 P-8覆土2層出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
10	3・4-97	胴部	1	葦ヶ岡2	1204	胎土のLR
11	3・4-97	胴部	2	葦ヶ岡2	1205	胎土のLR
12	4・4-08	胴部	1	葦ヶ岡2	1206	RL, 胎土比

表V-2-39 P-9覆土1層出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	4・4-17	胴部	2	天神山	1141	半截竹管の残片
13	4・4-27	胴部	1	天神山	1153	口縁部厚割
	4・4-27	胴部	1	天神山	1162	半截竹管の底文

表V-2-40 P-10覆土2層出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
14	4・4-03	一括	73	葦ヶ岡2	1794	羽状織文
15	4・4-03	口縁	2	葦ヶ岡2	1795	半截竹管の残片
—	4・5-03	胴部	1	葦ヶ岡2	1799	摩耗
—	4・5-03	一括	12	葦ヶ岡2	1800	半截竹管の残片

表V-2-41 P-10覆土1層出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	4・4-03	胴部	1	葦ヶ岡2	1796	銅片
16	4・4-04	胴部	1	葦ヶ岡2	1797	胎土比, LR
—	4・4-14	一括	31	葦ヶ岡2	1798	半截竹管の底文

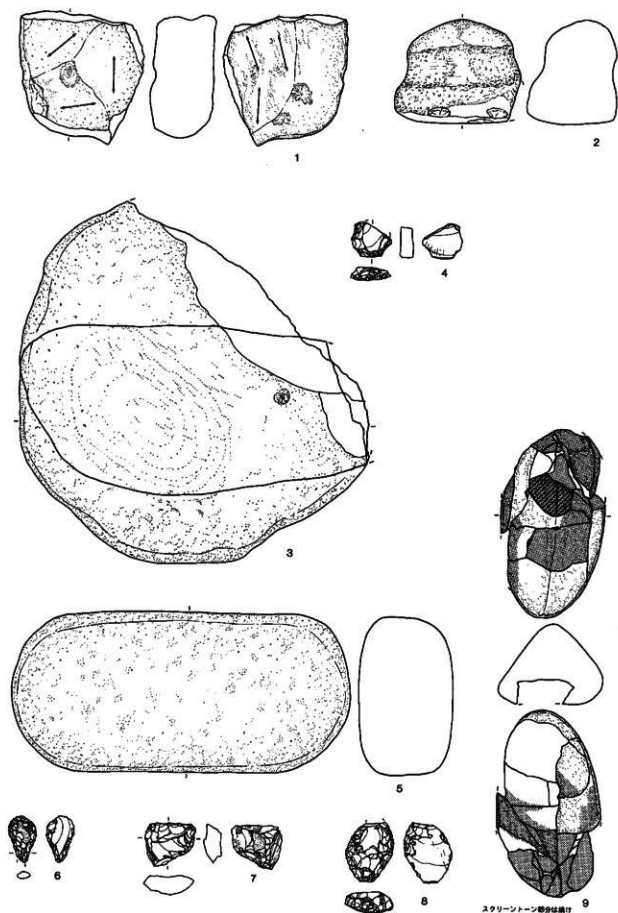
起に半截竹管状工具による沈線が施されている。16の器面にはLRの縄文が認められる。胎土に砂粒を含む。1～3・6・9～12・14～16は葦ヶ岡2式、4は葦ヶ岡1式、5・7・8・13は天神山式に相当する。

表V-2-42 土壌出土石器等一覧

No.	グリッド	層位	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)	材質	分類	図番No	備考	
1	4-5-39	社2	29.6	13.3	4.0	1.6	青色片岩	石斧	192	新	
2	0-11-77	社中	93.5	101.7	47.8	585.0	凝灰岩	礫石	1	新、両面磨製	
3	0-11-42	社中	22.0	16.3	3.4	1.6	黒曜石	B・F	86		
5	2-9-59	墳底	100.9	60.5	81.7	805.0	安山岩	石冠	2	310	
6	3-8-77	社2	270	282	154	13300	安山岩	石皿	3	285	
7	3-3-18	社1	18.0	31.2	13.1	4.3	黒曜石	R・F	768	新川の焼片、焼けておける	
	18	社6	—	—	—	—	+	黒曜石	剥片	755	
	19	社1	38.3	22.3	9.0	6.3	安山岩	方割礫B	741		
	28	社3	12.9	30.8	8.4	2.5	黒曜石	R・F	759	新川の焼片、焼けておける	
	28	社6	—	—	—	0.3	黒曜石	剥片	756	757・760付、2並り	
	29	社4	—	—	—	0.8	黒曜石	剥片	758	779付、2並り	
	29	社6	—	—	—	0.1	黒曜石	剥片	761	775付、2並り	
8	3-4-97	社2	—	—	—	6.6	黒曜石	剥片	750		
	98	社2	—	—	—	1.8	黒曜石	剥片	769		
	99	社1	34.2	15.1	4.7	2.6	黒曜石	U・F	763	新川の焼片、焼けておける	
	99	社1	—	—	—	0.6	黒曜石	剥片	770		
	4-4-07	社2	26.3	12.3	3.7	1.2	黒曜石	R・F	815	新川の焼片	
	07	社2	20.0	16.4	9.1	2.6	黒曜石	R・F	976	新川の焼片、焼けておける	
	07	社2	—	—	—	0.8	黒曜石	F・C中	977	16並り	
	4-4-08	社2	16.8	21.4	6.9	2.8	黒曜石	撈番	4	771	
	08	社2	—	—	—	1.9	黒曜石	剥片	762		
	18	墳底	—	—	—	6.2	メノウ	剥片	782		
10	4-4-03	社中	275.0	130.0	72.0	4,700	安山岩	台石	5	817	
	03	社中	24.9	14.7	4.5	1.4	黒曜石	石錐	6	862	
	03	社中	25.2	16.1	5.3	1.8	黒曜石	R・F	863	新川の焼片、焼けておける	
	03	社中	10.0	8.0	3.5	0.2	黒曜石	石錐	864	新	
	03	社中	9.6	5.8	3.0	0.2	黒曜石	石錐	865	新	
	03	社中	—	—	—	123.6	黒曜石	F・C中	866	7,625並り	
	13	社中	17.6	9.5	4.3	0.5	黒曜石	R・F	964	新川の焼片	
	13	社中	18.4	11.0	2.6	0.4	黒曜石	石錐	965	新	
	13	社中	13.4	13.3	2.8	0.4	黒曜石	R・F	966	新川の焼片	
	4-4-14	社中	—	—	—	0.2	緑色泥岩	石斧	903	新	
	14	社中	19.2	16.6	3.9	1.2	黒曜石	R・F	963	新川の焼片、焼けておける	
	14	社中	26.7	9.0	23.0	5.6	黒曜石	楔形石器	7	967	
	14	社中	34.6	24.2	9.6	9.0	黒曜石	撈番	8	968	
11	3-2-05	社1	139.7	71.5	68.5	685.0	砂岩	方割礫D	9	764	
			627-600-671	579-578-621	14-68, 23-88-90, 32-06-20, 44-96-98, 42-07-08-18)						新川の焼片、焼けておける
	15	社1	—	—	—	0.3	メノウ	剥片	784		

土壌出土の石器

1はP2出土の礫石で、両面に各々3カ所ずつの使用痕を残す。破損後たき石としても使用されており両面に敲打痕がみられる。2はP5出土の石冠で一端を欠く。使用面は弧状に減っており、面側縁の下部にも使用面がある。3はP6出土のはほぼ半分に割れた石皿で、一面には比較的明瞭なすりくぼみ痕と敲打痕がみられ、他面はわずかにすりくぼんでいる。4はP8出土の焼けたラウンドスクレイパーで、刃部がつぶれている。5～8はP10の石器類である。5は横立ち状態で出土した白石で、一面がみがかれて平滑になっている。6は横長の礫皮片を素材とした石錐で、刃部先端を欠き、焼けている。7は四方を使用している楔形石器で、図の左側縁と下縁を使用により欠いている。8は刃部全体につぶれが顕著にみられるラウンドスクレイパーで、若干の摩耗がみられる。なお、7・8は焼けている可能性もあるが伴然としない。9はP11出土の方割礫(図の斜線部分)と、各区出土の方割礫が接合したもので、割れた後幾つかが焼けている。



図V-2-20 土壌出土の石器

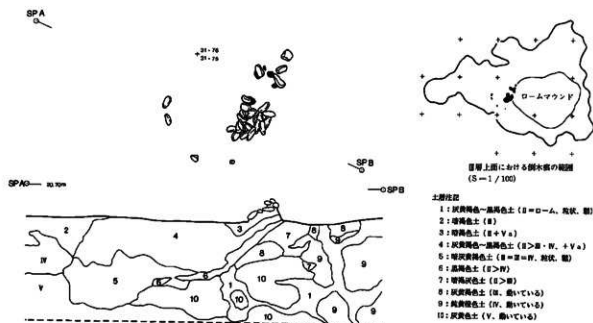
3) 集石

集石 礫の平面分布の長径76cm 短径51cm 垂直分布の範囲31cm

3・1-75区のⅡ層中で確認。集石の上面が南東から北西へ顕著に傾いていたので、下位に土壌などがあることを予想し、傾斜方向に立ち割りを設けて層位を検討した。その結果集石は倒木痕にともなう黒色土の落ち込みの中に位置していることを確認した。おそらく本来は平坦に形成されていた集石が風倒木のために傾斜したものと推定される。集石の中心からやや西側に離れて出土した3点の礫は、このとき黒色土と共に深い位置へずり落ちた可能性が高い。なお集石周辺の黒色土にV a層の軽石が少量混じっているのが注意され(3層)、人為的な覆土をもつ遺構が集石に伴っていた可能性は残る。32点出土した礫のうち19点は長さ6~8cm、幅3~4cm、重さ50~100g程度の長手の円礫(下表)で、特に集石の中央にはこの種の礫が集まっている。北東側部分に混在する拇指頭大以上の軽石円礫(火山礫)は偶然3層に含まれていたものの可能性がある。礫に隣接して天神山式土器1点が出土している。

表V-2-43 集石出土礫一覧

No.	グリッド	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)	石質	遺No	備考
1	3・1-75	69.4	40.5	26.2	90.3	安山岩	620-1	新礫
2	3・1-75	67.4	30.7	22.2	53.9	安山岩	620-2	新礫
3	3・1-75	40.1	30.9	21.4	25.1	凝灰岩	620-4	新礫
4	3・1-75	29.8	26.2	17.2	19.4	泥岩	620-5	新礫
5	3・1-75	80.0	29.8	21.0	67.5	泥岩	620-6	新礫
6	3・1-75	61.5	34.6	19.1	58.0	安山岩	620-7	新礫
7	3・1-75	75.8	35.7	15.2	54.1	安山岩	620-8	新礫
8	3・1-75	85.8	30.7	25.4	91.2	安山岩	620-9	新礫
9	3・1-75	61.1	32.5	27.9	69.0	珪質岩	620-10	新礫
10	3・1-75	61.6	36.5	23.1	68.6	凝灰岩	620-11	新礫
11	3・1-75	60.1	35.1	48.3	71.2	凝灰岩	620-12	新礫
12	3・1-75	61.4	36.1	28.6	74.8	凝灰岩	620-13	新礫 割れ目
13	3・1-75	74.9	31.7	22.2	72.2	安山岩	620-14	新礫
14	3・1-75	68.5	34.3	26.9	73.6	安山岩	620-15	新礫
15	3・1-75	58.1	30.4	25.8	57.0	安山岩	620-16	新礫
16	3・1-75	69.1	32.3	26.4	64.4	凝灰岩	620-17	新礫
17	3・1-75	63.9	30.8	22.7	52.0	安山岩	620-18	新礫
18	3・1-75	69.8	25.1	23.9	56.9	安山岩	620-19	新礫
19	3・1-75	65.2	38.3	17.2	61.2	安山岩	620-20	新礫
20	3・1-75	62.3	39.9	19.9	46.7	凝灰岩	620-21	新礫
21	3・1-75	54.4	24.6	24.9	47.8	安山岩	620-22	新礫
22	3・1-75	68.3	42.2	20.5	63.5	凝灰岩	620-23	新礫
23	3・1-75	64.9	32.3	19.3	59.1	安山岩	620-24	新礫
24	3・1-75	64.9	44.3	24.6	35.2	火山礫	620-25	新礫
25	3・1-75	73.0	35.9	30.7	96.3	凝灰岩	620-26	新礫B. 620-27と隣接
26	3・1-75	51.6	33.8	29.4	59.6	凝灰岩	620-28	新礫
27	3・1-75	51.5	45.3	27.2	65.0	凝灰岩	620-29	新礫
28	3・1-75	33.7	22.6	17.8	4.2	火山礫	620-30	新礫
29	3・1-75	35.7	26.0	24.5	9.8	火山礫	620-31	新礫
30	3・1-75	64.6	38.2	30.7	99.5	凝灰岩	620-32	新礫
31	3・1-75	36.1	27.7	16.9	6.1	火山礫	620-33	新礫
32	3・1-75	58.2	32.3	23.3	69.8	安山岩	620-34	新礫

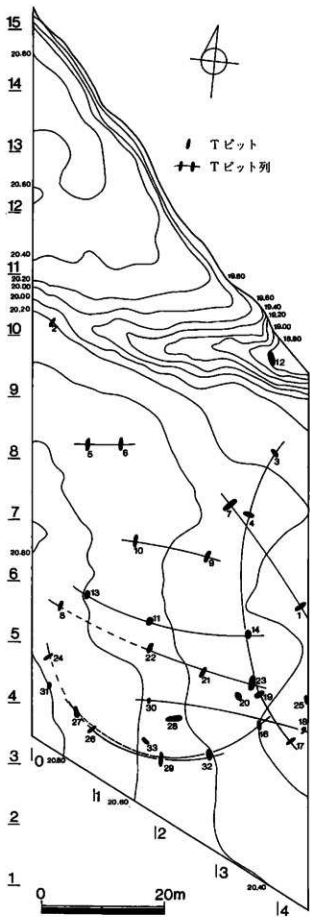


図V-2-21 集石平面及び断面

4) Tピット

32基 (15は排土のみで除外) を確認した。分布をみると沢跡の中に1基、南側に31基で、北側に位置するものはない。形態的には杭穴をもつものが6基あり、そのうち20のみが2本、他の5基は1本である。墳底の長幅比は全て3未満で、深さは30が56cmともっとも浅く、11が136cmと深い。杭穴をもたないものは26基あり、その長幅比は31の2.4から24の17.1までばらつきがある。深さは31が59cmと極端に浅く、9が152cmと深い。これらを「苫小牧東部工業地帯の遺跡群II」における大泉の分類 (1987) にあてはめると、A₂型 (長幅比9.0以上、長さ2m未満、杭穴なし) が15基、B₁型 (長幅比4.1～8.9、杭穴なし) 10基、C₁型 (長幅比4.0以下、長さ2m未満、杭穴なし) 1基、C₂型 (長幅比4.0以下、長さ2m未満、杭穴あり) 6基となる。更にこれらの底面形や位置・深さを考慮して細分すると、次頁の図に示したように2ないし3基で1セットの列をなすようで、その列方向は概ねコンターに直交する。

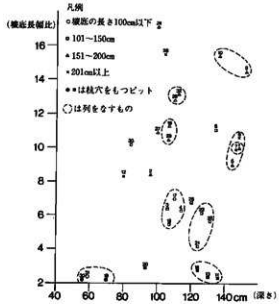
極めて特徴的な形態をもつものに、11・13・14のグループと21～23のグループがある。前者は墳底の平面形が西洋の棺桶のような六角形を呈するもので、中段より上は楕円形を呈す。中央に杭穴を1本もち深さは130cm前後である。後者は墳底北側が一段高く、墳底全体も南側に極端な傾斜をみせるもので、杭穴はない。最大の深さはほぼ134cm前後であるが、段の上位まではほぼ100cmである。



図V-2-22 Tピットの分布

表V-2-44 Tピット計測値一覧

No	グリッド	深 (m)	傾斜面 長	傾斜面 幅	傾斜 角	備 考
1	4・5	148	180	18	10.0	7と兼付、埋PP1面計あり
2	0・10	96	159	19	8.4	
3	3・8	106	102	16	6.4	4と兼付、埋PP1面計あり
4	3・7	114	126	20	6.3	3と兼付、埋PP1面計あり
5	0・8	144	189	21	9.0	6と兼付
6	1・8	148	211	20	10.6	5と兼付
7	3・7	146	238	24	9.9	1と兼付
8	0・5	134	144	13	11.1	埋PP1面計あり、埋PP1面計あり
9	2・6	152	188	13	14.5	10と兼付
10	1・6	136	200	13	15.4	9と兼付、埋PP1面計あり
11	1・5	136	102	44	2.3	1 13・14と兼付、埋PP1面計あり
12	3・9	80	216	26	8.3	埋PP1面計あり
13	0・5	130	106	44	2.4	1 11・14と兼付、埋PP1面計あり
14	3・5	124	102	36	2.8	1 11・13と兼付、埋PP1面計あり
15	4・2	-	-	-	-	埋PP1面計あり
16	3・3	107	158	14	11.3	29と兼付、埋PP1面計あり
17	4・3	110	140	20	7.0	19と兼付、埋PP1面計あり
18	4・3	70	80	36	2.2	1 30と兼付、埋PP1面計あり
19	3・4	107	121	22	5.5	17と兼付、埋PP1面計あり
20	3・4	93	117	40	2.9	2 埋PP1面計あり
21	2・4	124	117	28	4.2	22・23と兼付、埋PP1面計あり
22	1・4	131	119	21	5.7	21・23と兼付、埋PP1面計あり
23	3・4	126	148	24	6.2	21・22と兼付、埋PP1面計あり
24	0・4	100	154	9	17.1	25・32と兼付
25	4・4	120	122	18	6.8	埋PP1面計あり
26	0・3	110	154	12	12.8	32と兼付、埋PP1面計あり
27	0・3	100	152	14	10.9	16・29と兼付
28	3・3	104	202	13	15.5	
29	2・3	106	168	16	10.5	16と兼付
30	1・4	56	74	34	2.2	1 18と兼付
31	0・4	59	76	32	2.4	
32	2・3	112	159	12	13.2	26と兼付
33	1・3	84	133	13	10.2	



図V-2-23 Tピット計測値の分布

TP1

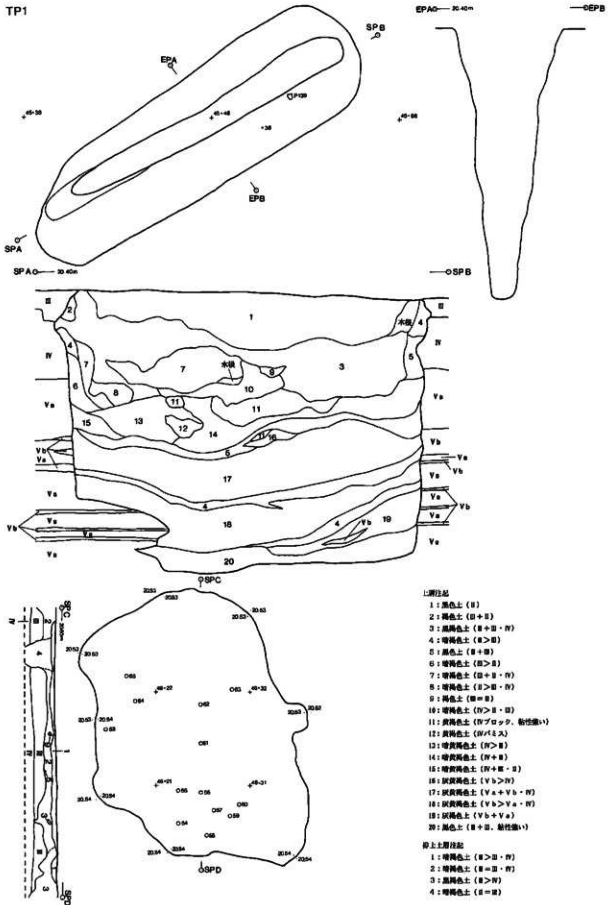


図 V-2-24 TP1 平面及び断面

TP 1 長さ199cm 幅62cm 深さ180cm

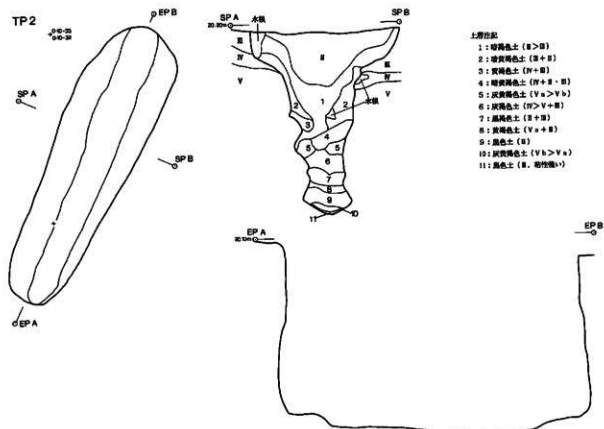
4・5-35区で確認した。杭穴はなく墳底は角をもたない。掘り直されたと思われるピットで、墳底は西南部分で2段になる。下の段の墳底は中央部南西寄りてくぼみ、上段の墳底はこのくぼみに傾斜する。墳底直上には厚くⅡ層土主体の土が見られ、その上にⅤ層土主体の土を挟み3枚のⅡ層土主体の土が帯状に堆積して、上のⅣ層主体の層と一線を画している。位置的にみて7と対になるものと思われる。遺物は、覆土3層中から東銅路Ⅲ式土器片、覆土1層中から刺片が出土している。北側の4・6-21・22区で排土を確認した。規模は長径314cm×短径238cm。南側にあるP1の一部を覆っている。排土2・3層から荻ヶ岡2式・天神山式土器片13点が得られた。

TP 2 長さ158cm 幅64cm 深さ96cm

0・10-32区で確認した。墳底は角をもたない。杭穴はない。長軸方向の壁面は、北東側、南西側共に底部付近でオーバーハングしている。セクション面での壁面は墳底から約40cmまでの部分は残っているが、それより上方は崩落している。墳底部に漆黒色土の堆積が見られ、覆土10の堆積後、再び黒色土が堆積している。墳底部付近の張出しは、その2回目の黒色土の堆積時に生じたものとする。遺物は出土していない。

TP 3 長さ148cm 幅44cm 深さ106cm

3・8-90・91区で確認。長軸は概ねコンターに並行する。杭穴はない。墳底は南西側に傾斜し角をもつ。墳底直上にはⅡ層土が先ずみられ、その上にⅡ層土主体の土、Ⅴ層土主体の土が厚く堆積している。壁面の崩落は南西側でやや目立つ程度で、全体には些程ではない。位置、形態などから4と対をなす。南側の17・19とも一連の列をなすものと思われる。フロレーションにより覆土12層からイネ科の種子1粒、マタビ属の種子2粒、キハダ属片1点、不明種子2粒が



図V-2-25 TP2平面及び断面

得られた。西側の3・8-23・33区に長径119cm×短径78cmの規模で排土を確認した。

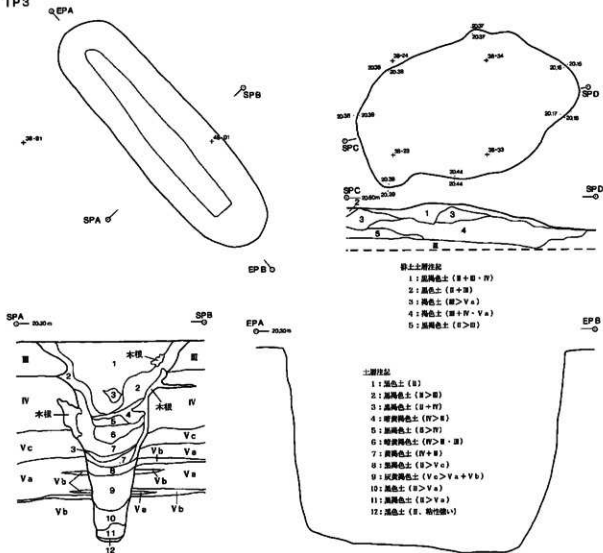
TP 4 長さ150cm 幅44cm 深さ114cm

3・7-50区で確認した。長軸はコンターにはほぼ直交する。杭穴はない。墳底は平坦で、両端が斜めに角張り平行四辺形のような形態を呈す。覆土の堆積は、墳底直上にはV層土を若干含むII層土が比較的厚く見られ、その上にV層土を中心とした崩落土が入り混じっており、流れ込み堆積と思われる5層より上の部分と一線を画している。壁面は、東端で掘開当初の立ち上がりが一部残っているものの、西端部では大きくオーバーハングし墳底面まで袋状に崩落している。位置、形態などから3と対をなすもので、南側の17・19とも列をなすものと思われる。

TP 5 長さ198cm 幅76cm 深さ144cm

0・8-91区で確認した。長軸は溜れ沢にはほぼ直交する。杭穴はない。墳底は平坦で、ほぼ一直線を呈し、角はもたない。墳底直上にはV層土主体の土が先が見られ、その上にII層土主体の土が厚く堆積している。壁面の崩落は南端の一部で袋状に見られるが、全体に些程ではなく、墳底から確認面までほぼ垂直な立ち上りを維持している。規模・形態から6と対をなすものと思われる。遺物は、覆土7層中から石斧の刃部側片(刃部の過半が欠損している)が出土しており、2・5-66区出土の基部側片と接合した。

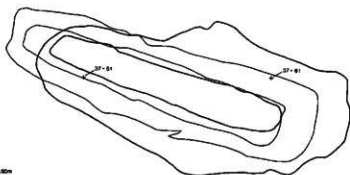
TP 3



図V-2-26 TP 3平面及び断面

TP4

SPA

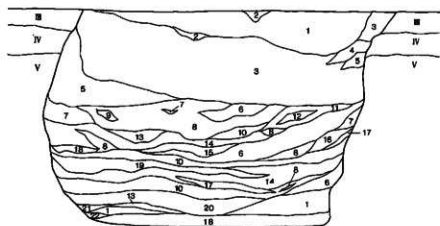


SPA

0 20.00m

SPB

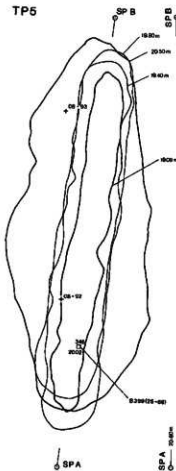
0 20.00m



土層定数

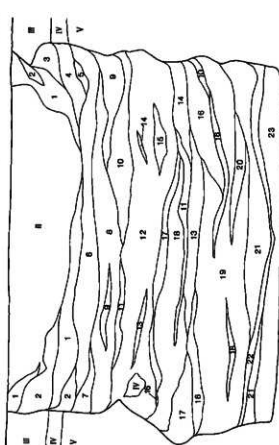
- 1: 黒色土 (H>B)
- 2: 暗褐色土 (H>B)
- 3: 黒褐色土 (H>B)
- 4: 暗褐色土 (H>B)
- 5: 暗褐色土 (H>B)
- 6: 黒褐色土 (H>B)
- 7: 暗褐色土 (H>B)
- 8: 黒褐色土 (H)
- 9: 暗褐色土 (V+H)
- 10: 暗褐色土 (V+H)
- 11: 暗褐色土 (H+H)
- 12: 暗褐色土 (V+H)
- 13: 暗褐色土 (H>V)
- 14: 暗褐色土 (Vh>Va+H)
- 15: 暗褐色土 (H+H)
- 16: 暗褐色土 (H+V)
- 17: 灰白色砂 (Vb)
- 18: 黒褐色土 (H+V)
- 19: 暗褐色土 (H+V)
- 20: 暗褐色土 (V+H)
- 21: 黒褐色土 (H>H+V)
- 22: 黒褐色土 (H=Vh+Va)

TP5



SPA

SPA 0 20.00m



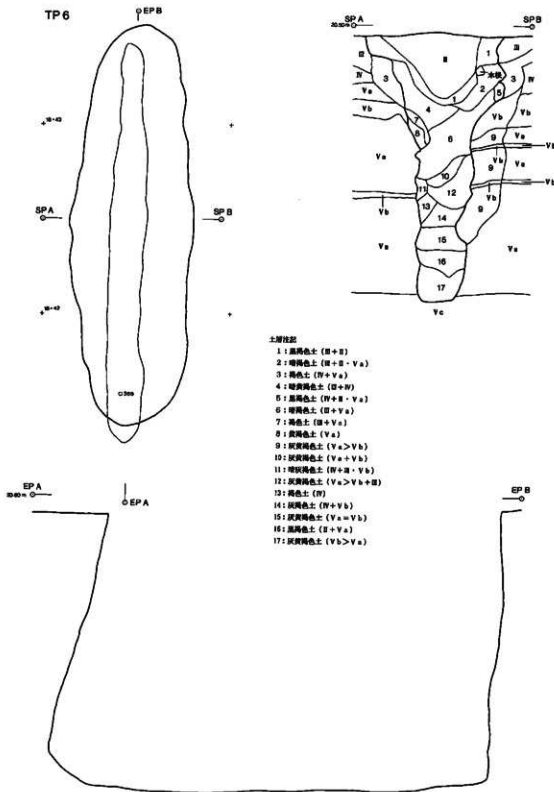
土層定数

- 1: 黒褐色土 (H>B)
- 2: 暗褐色土 (H>B)
- 3: 暗褐色土 (H+H)
- 4: 暗褐色土 (H>B)
- 5: 暗褐色土 (H>H+V)
- 6: 暗褐色土 (H>H+V)
- 7: 暗褐色土 (H=H+V)
- 8: 暗褐色土 (H=H+V)
- 9: 暗褐色土 (H+H)
- 10: 暗褐色土 (H+V)
- 11: 暗褐色土 (V+H)
- 12: 暗褐色土 (V+H)
- 13: 暗褐色土 (H+H+V)
- 14: 暗褐色土 (H+V)
- 15: 暗褐色土 (V+H+H)
- 16: 暗褐色土 (Vh>Va)
- 17: 暗褐色土 (H>H)
- 18: 暗褐色土 (H+V)
- 19: 暗褐色土 (Va=Vb)
- 20: 暗褐色土 (V>H)
- 21: 暗褐色土 (H+V)
- 22: 暗褐色土 (H>V)
- 23: 暗褐色土 (V+H)

図V-2-27 TP4・5平面及び断面

TP 6 長さ211cm 幅66cm 深さ148cm

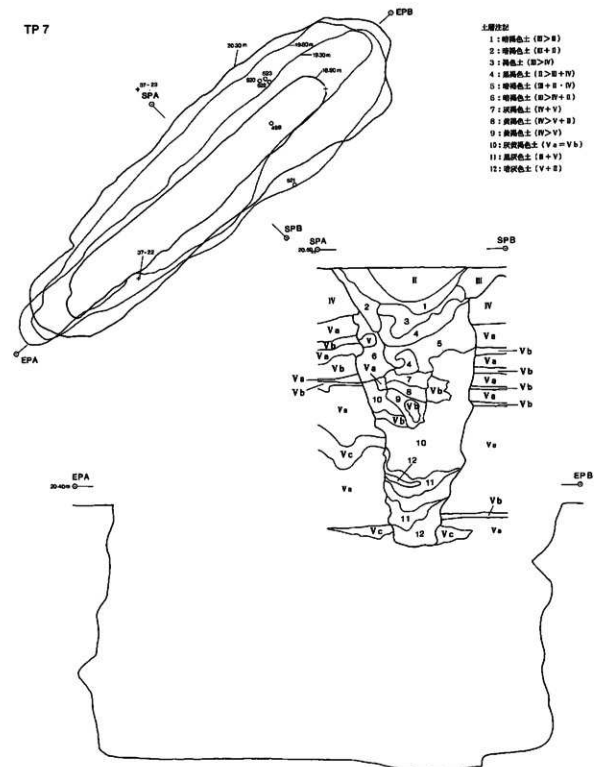
1・8-42区で確認した。墳底は角をもたない。杭穴はない。長軸方向の南側墳底付近で壁面がオーバーハングしている。短軸方向の壁面は、墳底から約25cmまでの部分は残っているが、それより上方は崩落している。遺物は出土していない。



図V-2-28 TP6平面及び断面

TP 7 長さ238cm 幅66cm 深さ146cm

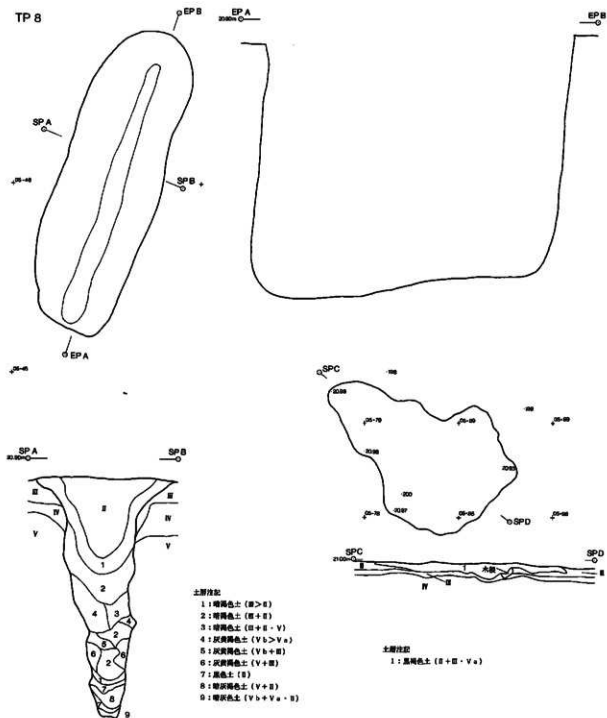
3・7-11区で確認した。杭穴はない。墳底はほぼ一直線で角をもたない。墳底直上にはV層土主体の土が先ず見られ、その上にII層土主体の土が堆積している。壁面両端の崩落は些程大きくない。覆土1・3層中より荻ヶ岡2式土器片が出土している。位置的にみて1と対になるものと思われる。



図V-2-29 TP7平面及び断面

TP 8 長さ164cm 幅54cm 深さ134cm

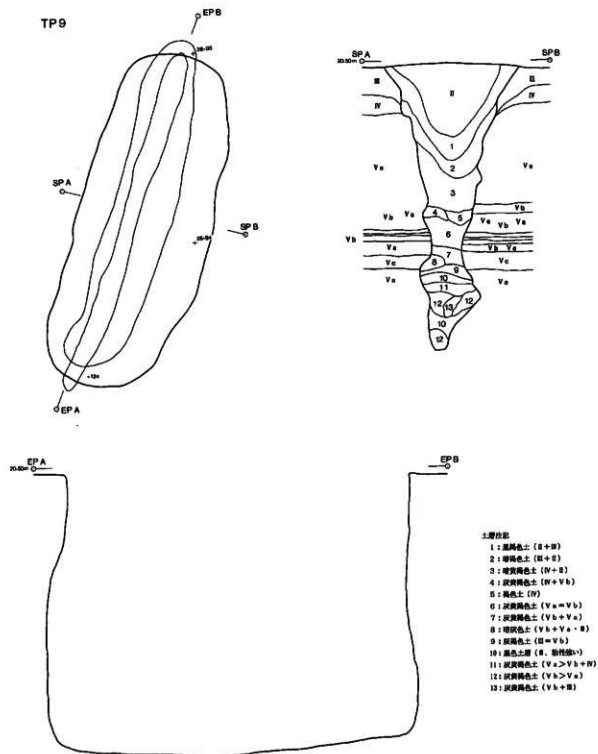
0・5-45区で確認した。杭穴はない。墳底は左右に若干うねっており細い。角はもたず、南側に傾斜している。こうした傾斜をもつものには21-23のグループがあり、本Tビットもその列の延長線上に位置している。長さや深さもほぼ同規模であるが、本Tビットのみ墳底の幅が極端に細い点が異なる。覆土の堆積は、墳底直上にVb層主体の土がみられ、その上にII層土が流れ込んでいる。壁面の崩落は些程顕著ではない。なお、北東側に排土の広がり認められ、その中から黒曜石の剥片3点(うち1点は焼けている)が得られた。



図V-2-30 TP 8 平面及び断面

TP 9 長さ181cm 幅72cm 深さ152cm

2・6-83区で確認した。墳底は角をもたない。杭穴はない。墳底面の幅が極めて狭く、左右に波打っている。墳底直上にはV層の崩落土がみられ、その上に粘性の強い黒色土が堆積している。長軸方向両端はオーバーハングしている。短軸方向の壁面は、崩落が顕著で、墳底から10cm位までしか残っていない。遺物は緞頁岩の剥片1点が覆土Ⅱ層から出土している。位置・形態などがら10と対をなすものと思われる。



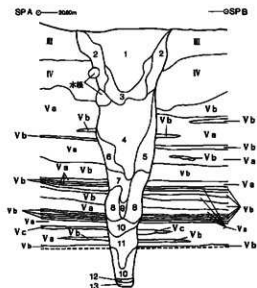
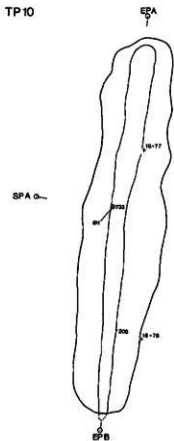
- 土層付記
- 1: 黒褐色土 (I+II)
 - 2: 暗褐色土 (III+IV)
 - 3: 暗黄褐色土 (IV+V)
 - 4: 灰黄褐色土 (IV+Vb)
 - 5: 褐色土 (IV)
 - 6: 灰黄褐色土 (Va=Vb)
 - 7: 灰黄褐色土 (Vb+Va)
 - 8: 暗褐色土 (Vb+Va+II)
 - 9: 灰褐色土 (II=Vb)
 - 10: 黒色土層 (II, 粘性強い)
 - 11: 灰黄褐色土 (Va>Vb+IV)
 - 12: 灰黄褐色土 (Vb>Va)
 - 13: 灰黄褐色土 (Vb+II)

図V-2-31 TP9平面及び断面

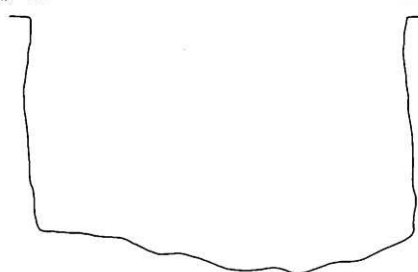
TP10 長さ200cm 幅45cm 深さ136cm

1・6-66・67区で確認した。杭穴はない。墳底は左右に若干うねっており細長い。角はもたず中央部に傾斜し凹凸がある。北側が膨らみ南側が細くわずかにオーバーハングする。覆土は、最下層にⅡ層土、その上にⅤ層土主体の土が堆積する。遺物は覆土1より土器片2点(東割路Ⅲ式・円筒上層式)と剃片19点(1点は焼けている)が出土した。TP9と列をなす。本ピット上には萩ヶ岡2式土器を伴うFP32が確認されている。

TP10



EPAD 20.00m



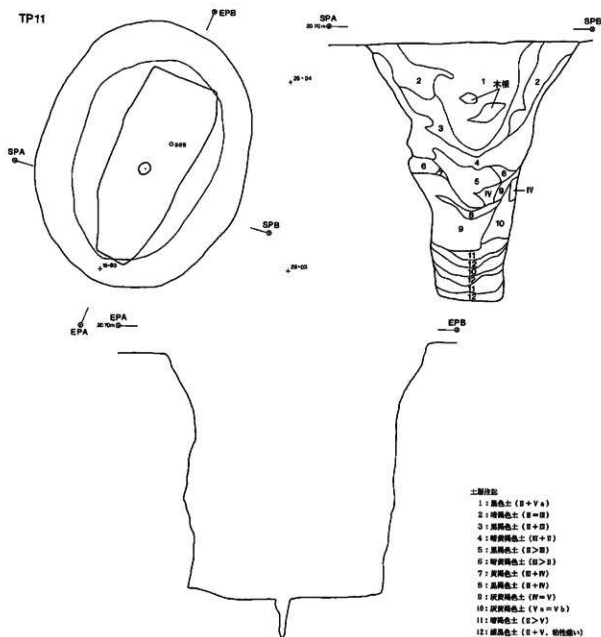
土層記号

- 1 : 黒色土 (Ⅱ)
- 2 : 暗褐色土 (Ⅱ+Ⅲ)
- 3 : 黒色土 (Ⅱ+Ⅲ)
- 4 : 暗黄褐色土 (Ⅱ+Ⅲ・Ⅴa)
- 5 : 灰黄褐色土 (Ⅱ+Ⅴa・Ⅴb)
- 6 : 暗黄褐色土 (Ⅱ+Ⅲ)
- 7 : 暗黄褐色土 (Ⅱ+Ⅲ・Ⅳ)
- 8 : 灰黄褐色土 (Ⅴa+Ⅴb, 粘性大)
- 9 : 暗灰黄褐色土 (Ⅴa=Ⅴb+Ⅲ)
- 10 : 黒色土 (Ⅱ, 粘性あり)
- 11 : 灰黄褐色土 (Ⅴa+Ⅴb, 粘性小)
- 12 : 灰褐色土 (Ⅴc+Ⅴa)
- 13 : 黒色土 (Ⅱ, 粘性強い)

図V-2-32 TP10平面及び断面

TP11 長さ142cm 幅110cm 深さ136cm

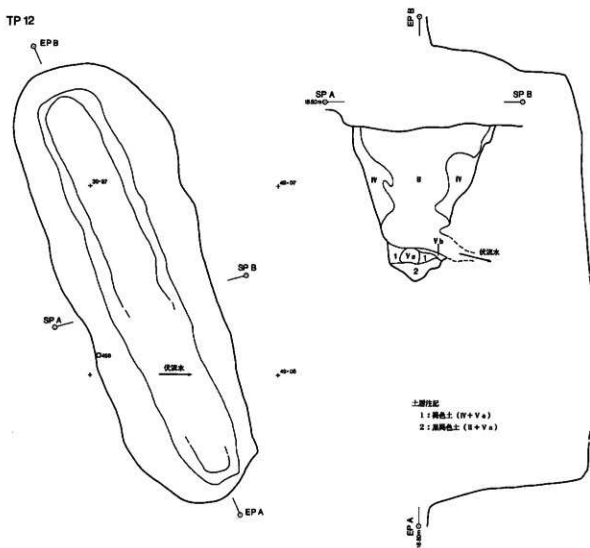
1・5-93区で確認した。墳底中央に杭穴1本が見られる。この杭穴は先細りで尖っており、上部が若干太くなっているものの根固めの跡は見られず、杭の打ち込みによるものと思われる。墳底はほぼ平坦で六角形に近い形態を示しているが、壁面中位より上は楕円形を呈す。壁面の形状及び覆土中にV層土が極端に少ない点から、本ピットは構築当初からこうした形態をもっていたものと思われる。なお、同様の形態をもつものに13・14があり、緩い弧状の列をなしている。覆土には、粘性の強い漆黒色土(12層)が墳底直上を含め3枚見られる。9層より上位は、若干の壁面の崩落と流れ込みによる堆積と思われるが、その中でII層土を主体とし帯状の堆積を示す黒褐色土(8層)が、確認面からはほぼ90cm下位に見られることは、13・14との整合性からも注意が必要であろう。遺物には崩落土の覆土10層中から出土した天神山式土器片2点と、流れ込みの覆土1層から出土した萩ヶ岡式土器片1点がある。



図V-2-33 TP11平面及び断面

TP 12 長さ244cm 幅82cm 深さ80cm

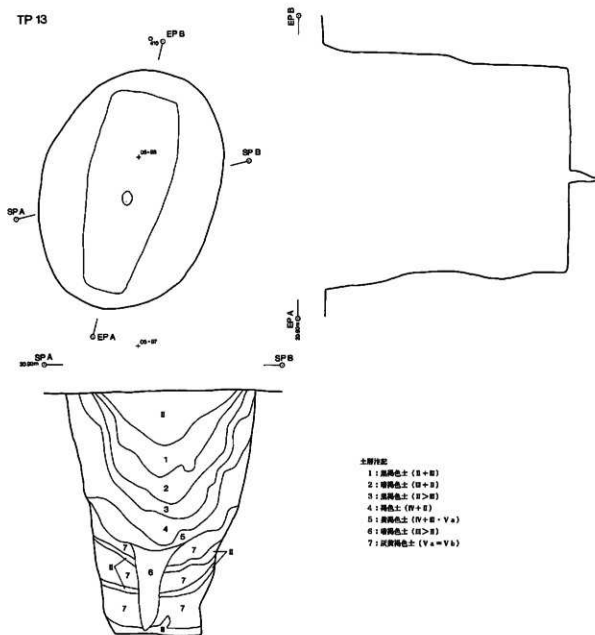
1・5-93区の、縄文時代前期には既に陥っていたと思われる沢跡内に位置しており、確認段階ではP 4-6のような楕円形土坑と考えていた。調査を進めるにつれTビットであることが判明し、同時に湧水が激しくなり、坑底付近のレベルで沢跡に沿ってその地下を流れる伏流水が確認された。本ビットも壁面の一部がこの伏流水のために破壊されており、それに惑わされて坑底の一部を誤って掘り抜いてしまった。床面はほぼ平坦で一直線をなし、角はもたないものと思われる。覆土は、坑底直上にⅡ層土主体の土が堆積し、その上にⅣ・Ⅴ層の崩落土が見られる。しかし多くは伏流水のために流失したものと思われ、水流より上位は流れ込みのⅡ層土が主体である。壁面をみると側壁の崩落は顕著であるが、両端部の残りは比較的良好である。遺物は、覆土Ⅱ層中から焼けた方割礫Cが1点出土している。



図V-2-34 TP12平面及び断面

TP 13 長さ128cm 幅94cm 深さ130cm

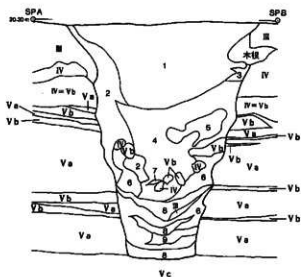
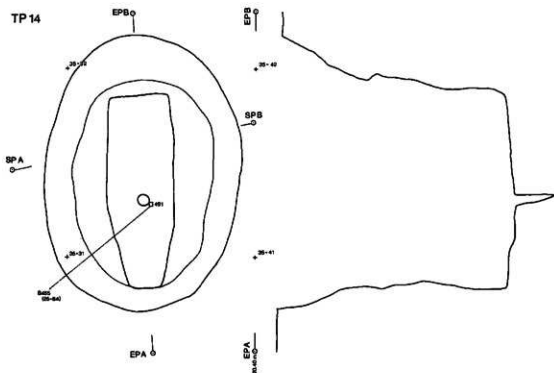
0・5-87区で確認した。形態・規模とも11と同様で、杭穴も打ち込みによるものが墳底中央に1本見られる。なお、覆土6層はこの杭の痕跡と思われるもので、墳底から7層上面まで続いている。覆土下位は、黒色土の帯状堆積（Ⅱ層）と崩落土と思われるV層土（7層）の互層で、その上位の帯状堆積は、11の8層と同様に確認面からほぼ90cmのレベルにみられる。5層より上位は、ほぼ流れ込みによる堆積と思われる。



図V-2-35 TP13平面及び断面

TP 14 長さ146cm 幅104cm 深さ124cm

3・5-31区で確認した。形態・規模・杭穴とも11と同様である。墳底はVc層上面でほぼ平坦である。黒色土の帯状堆積は3枚で、その上位の層はやはり確認面から90cmのレベルに見られる。なお11・13と異なり、この黒色土より上位にもV層の崩落土が相当量みられる。遺物は、覆土Ⅱ層中から出土した方割礫B1点がある。これは2・5-84区出土の方割礫Bと接合して偏平楕円礫となった。



土層注記

- 1: 黒色土 (II+Va)
- 2: 暗褐色土 (II+III+Va)
- 3: 暗褐色土 (II+III+IV)
- 4: 黒褐色土 (II+III+Va)
- 5: 暗褐色土 (II+III)
- 6: 灰褐色土 (Va>Vb)
- 7: 暗褐色土 (II)
- 8: 黒色土 (II+V)
- 9: 暗褐色土 (V+II)

図V-2-36 TP14平面及び断面

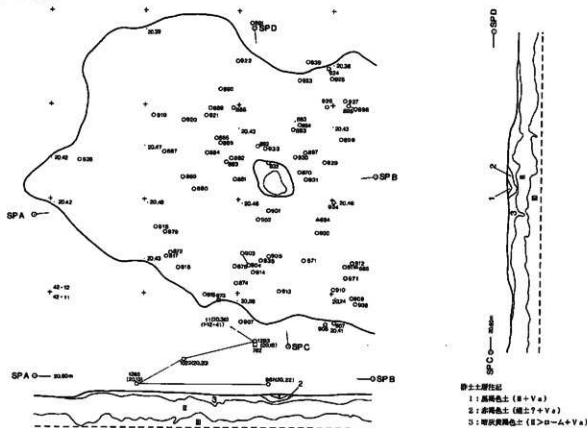
TP15 排土 長さ354cm 幅315cm 深さ9cm (いずれも調査区内で確認できる範囲)

4・2区中央付近で、耕作土直下のⅡ層中にⅤa層の軽石が分布しているのを確認し、Tピットの排土とみなして精査した。平面形は北西-南東方向に長い不整形を呈すものと思われ、東端は調査区外に延びている。上面は耕作のために削平されたとしく、また下面は木の根などによる落ち込みで凹凸が激しい。軽石の散布は分布の外縁でまばらになり、排土の形成後に雨などで拡散したことを示すようだが、本来の排土と再堆積との境界を認めることは困難。なお、排土の中央付近に小さな黒色の落ち込みがあり(1層)、その周囲52×36cmほどの範囲で排土がやや赤みを帯びているのが観察された(2層)。焼土の可能性もある。遺物は、排土上中下及び周辺から萩ヶ岡2式や天神山式の土器片が多数出土し、黒曜石製遺物4点もある。また、南側のやや低いレベルから天神山式土器がまとめて出土し(図Ⅴ-2-54)、その下からは精円礫1点も出土している。

TP16 長さ146cm 幅66cm 深さ107cm

3・3-66区と、隣接のグリッドに位置する。細長い溝状の形態で長軸は概ねコンターに平行する。杭穴はなく中央が両端より少し深い。底面の長さが確認面のそれを上回り、長軸断面は両裾の少し開いた袋状となる。底面から20cm程度は垂直に近い側壁が残っているが、それ以上は次第に崩れが大きくなる。墳底と覆土上部の黒色土の他に、覆土のやや下部にも腐植がちの層がある(7層)。これらの間を壁面の崩落による堆積が埋めており、Ⅲ・Ⅳ層の崩落が大きいらしい。遺物は覆土の上部から萩ヶ岡2式土器片2点と天神山式土器片1点、中部から黒曜石剥片1点が出土している。なお、エレベーションの図には検出面、底面の輪郭、墳底の傾斜が変換する線なども併せて投影した。

TP15 排土



図Ⅴ-2-37 TP15排土平面及び断面

TP 16 排土 長さ455cm 幅273cm 厚さ7cm

3・3区の南寄りではⅤa層軽石の分布を認め、Ⅱ層上面から約5cm掘り下げた面で範囲を記録した。最も近接するTピットは32である。FP 64・65を覆って形成され、一部は抜根跡とみられる攪乱で壊されている。平面形は不整、長軸は北東-南西方向にあってコンターに直交、上面は概ね平坦で南西から北東へ緩やかに傾斜。下面はⅡ層中にある大きな落ち込みはないが凹凸が激しい。遺物は排土中及び下面で萩ヶ岡2式土器が多く出土し、黒曜石とメノウの剥片も各1点得られている。

TP 17 長さ180cm 幅44cm 深さ110cm

4・3-11区で確認した。杭穴はない。墳底はほぼ一直線で北東端に角をもち、そちら側へ若干傾斜している。覆土はⅡ層土主体の層が墳底直上にみられ、その中に薄い帯状の漆黒色土が入っている。その上層はⅤ層の崩落土が厚く堆積しているが、その中でもⅡ層土の薄い帯がみられる。遺物は、覆土Ⅱ層中から萩ヶ岡2式と大木8a式土器及び黒曜石製のサイド・スクレイパー1点が出土している。位置・形態などから19と対をなすものと思われ、その弧の延長線上には3・4の列が位置する。

TP 18 長さ112cm 幅54cm 深さ70cm

4・3-45区で確認した。小型のもので、深さも70cmと浅い。墳底中央部に打ち込みによる杭穴1本をもつ。墳底は北側に角をもつようであるが、11などのような六角形にはならない。また底面は平坦でなく中央部分が低くなっている。覆土は墳底直上にⅡ層がちの黒褐色土が堆積し、その上に漆黒色土が比較的厚く堆積している。Ⅴ層の崩落はほとんどなく、Ⅳ層中位まではほぼ原形を保っている。同一の形態を呈すものに30があり、これと列をなすものと思われる。

TP 19 長さ164cm 幅75cm 深さ107cm

3・4-61区、71区で確認した。やや幅の広い溝状のTピットで、長軸は概ねコンターに平行し、杭穴はない。底面は平坦かつ水平で、東端が角張る特徴はTP 17に同じ。北側壁面はかなり上位まで垂直に近い立りを見せるが、南側は大きく崩れている。底部に比較的厚く腐植質土が堆積した後(12~14層)、南側を主とする壁の崩壊で一気に埋没が進んだものとみられ(7~11層)、地山土壌の大きな塊が落ち込んでいる(10層)。遺物は覆土上部で萩ヶ岡2式土器片3点と中茶路式土器片1点が出土している。

TP 19 排土 長さ325cm 幅274cm 深さ8cm

3・3区から3・4区にかけて耕作土直下のⅡ層中にⅤa層由来の軽石がまばらに散布しているのを認め、若干掘り下げて軽石の密度が濃くなった範囲を確認した。長軸のはっきりしない不整な平面形をもち、P 7・FP 48の上位に重複して分布する。隣接するTP 20の覆土上部(1・2層)にはⅤa層軽石を含み、それが排土と一連のものであるなら排土はTP 20より新しいことになるが、この排土自体がTP 20に由来する可能性も考えられる。確認面では中央部がわずかに高まり、下面も中央寄りで幾分深い。下面はやはり木の根などとみられる凹凸が激しい。遺物は排土中で萩ヶ岡2式土器片2点、黒曜石製搔器1点が出土し、下面でも萩ヶ岡2式土器片と黒曜石製の石鏃や方割鏃、楕円鏃が出土している。

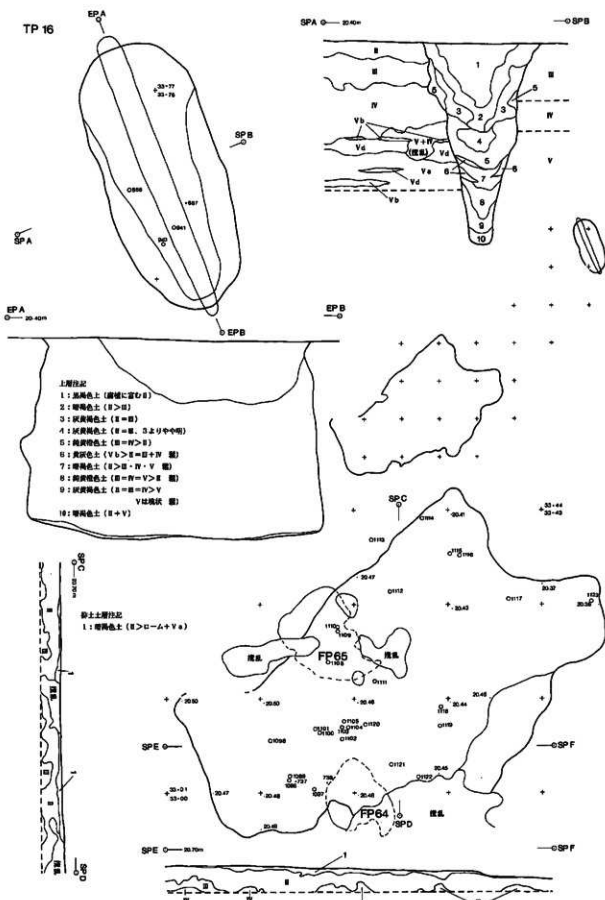
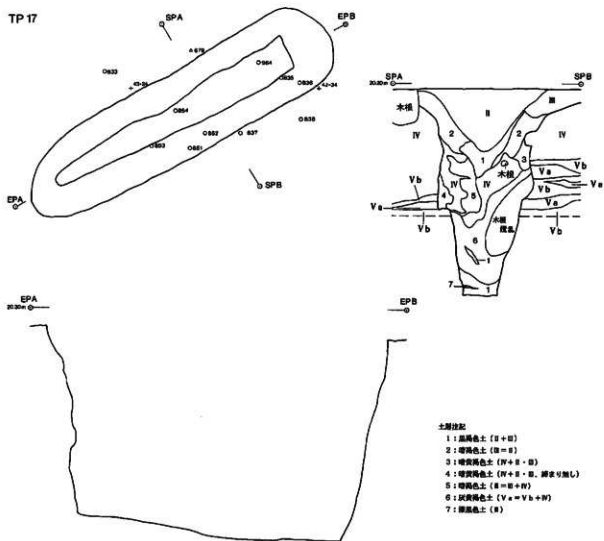
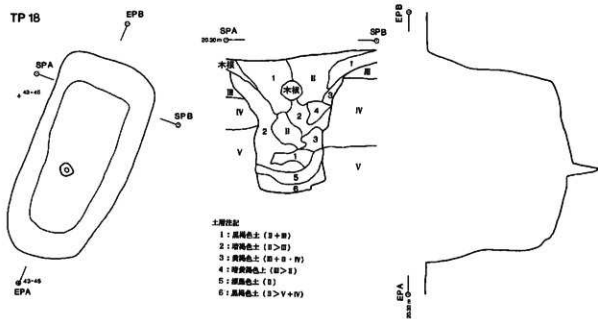


図 V-2-38 TP16・TP16排土平面及び断面

TP 17



TP 18

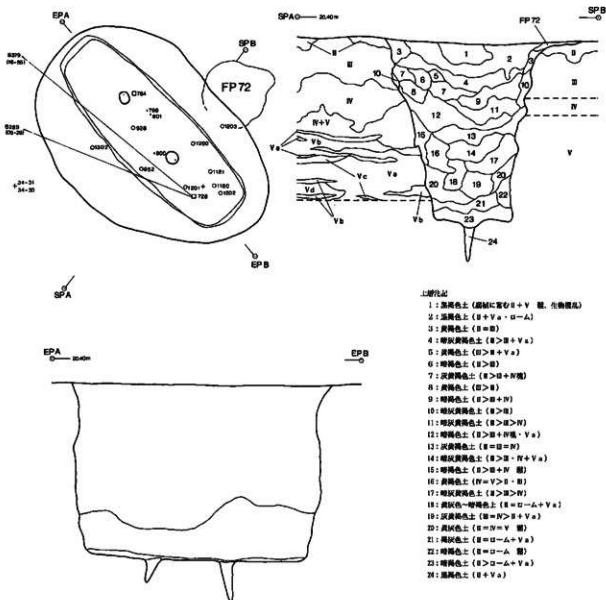


図V-2-39 TP17・18平面及び断面

TP 20 長さ137cm 幅92cm 深さ93cm

3・4-30・31・40・41区で確認。杭穴を2つ備えるTピットで長軸は概ねコンターに直交する。底面は長方形に近く、中ほどやや幅広くなる。誤って実測の際に断ち割ってしまったが底はほぼ平坦でほぼ水平、遺構下部の壁面はほぼ垂直。杭穴は先細りで打ち込み杭の跡と思われる、遺構の中央方向へ少し傾く。杭穴の壁面に沿って材の痕跡と思われる褐色の薄い粘土層が観察される。底部の腐食質土(23層)の上には急速な埋没を思わせるブロック状の堆積(14~21層)があるが、側壁の崩壊のみでこれだけの土量が生じるかどうかやや疑問。上部の腐食質土にはV a層由来の軽石が含まれ、遺構排土の流入を示す。なお北東側に重複する焼土FP 72はTピットに先行するものと考えられる。遺物は覆土上・中部で土器7点(萩ヶ岡2式・天神山式)・三角土製品1点と、黒曜石製遺物4点・たたき石1・垂角礫1点が出土している。

TP 20



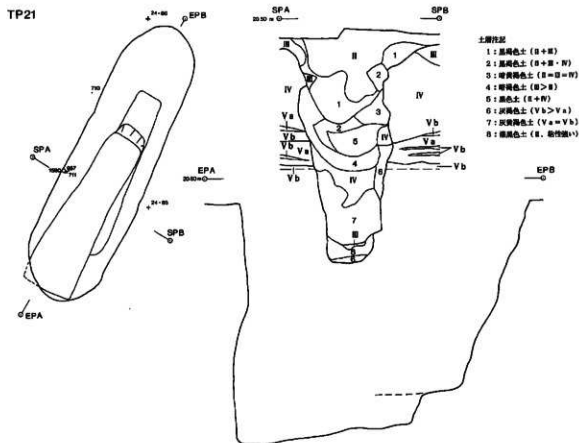
図V-2-41 TP20平面及び断面

TP21 長さ156cm 幅46cm 深さ124cm

2・4-75区で確認した。杭穴はない。墳底に明瞭な段がみられ、浅い面と深い面では長軸方向にずれがみられる。深い部分の墳底は、長方形に近い形状を呈し南側に若干傾斜している。浅い部分の墳底は北側に角をもち南側は丸い。覆土は、最下位にV層の崩落土が若干みられ、その上に粘性の強い漆黒色土が堆積し浅い部分の墳底を形作っている。遺物は、覆土Ⅰ層中から黒曜石素材の石核とR・F各1点が、覆土Ⅱ層中から萩ヶ岡2式土器1片と割片81点（うち3点が焼けている）が得られている。墳底の段と長軸のずれは掘り直しによるものと考えられているが、列をなす22・23では、墳底が極端に南側に傾斜しているものの、明瞭な段や長軸方向へのずれは認められていない。

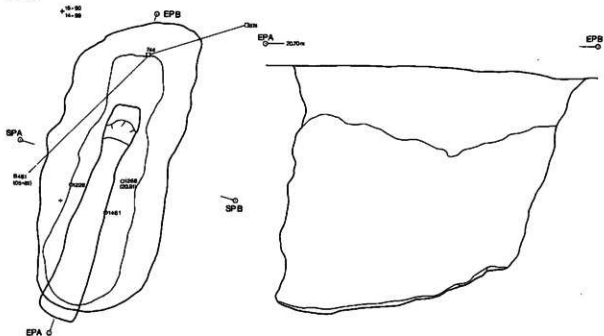
TP22 長さ158cm 幅67cm 深さ131cm

1・4-98・99区で確認。やや幅の広い溝状Tピットで長軸はほぼコンターに平行。両端が角張って南西側が少し広がった撥形の底面をもち、また墳底は南西側へ向かって深くなる。いずれもTP21・23に共通する特徴で、特にTP21とは規模・長軸方向もほとんど一致する。またTP21ほど明瞭ではないが墳底の北西寄りに段差がある。しかし底部の覆土はこの段差に関係なく連続しており、掘り直しの確証はない。側壁は底面から20cmほど垂直な立ち上がりがあり、南西端の壁はTP21・23と同様に弱くオーバーハングする。底面には掘り返されたV層（20層）の上に炭化した植物遺体（主に草木かと思われ、脆い）を含む腐食質土（19層）が見られ、さらに急速な埋没を思わせるブロック状の堆積（8～17層）が厚く覆っている。遺物は覆土Ⅰ層から2層にかけて土器2点（萩ヶ岡2式・天神山式）と石皿片1点が出土した。

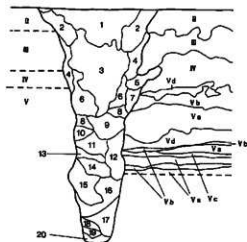


図V-2-42 TP21平面及び断面

TP 22

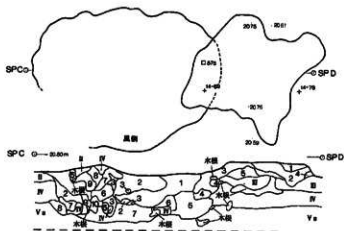


SPA 200m SPB



土層注記

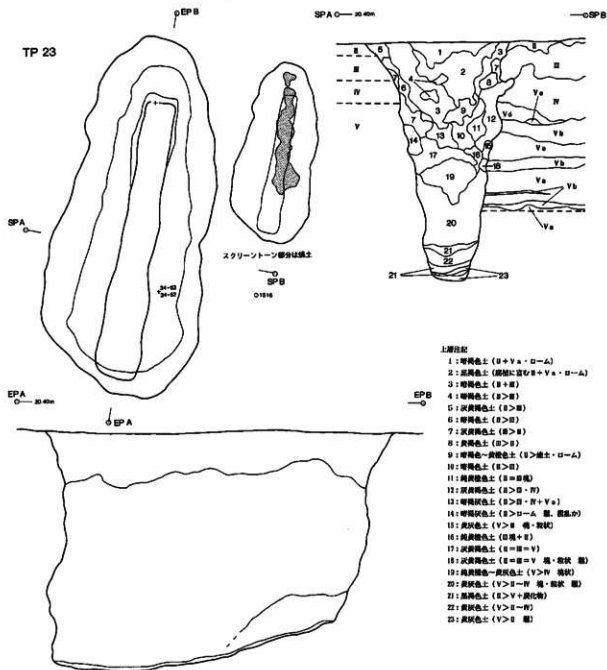
- 1: 黒褐色土 (腐植に富む H+V a)
- 2: 暗褐色土 (H+H+H IVは腐植)
- 3: 暗褐色土 (H>H+H)
- 4: 灰黄褐色土 (H>H)
- 5: 灰黄褐色土 (H=H+H、生物腐植の)
- 6: 暗灰黄褐色土 (H>H-A+H)
- 7: 灰黄褐色土 (H=H-V>H)
- 8: 灰黄褐色土 (H>H+H+V)
- 9: 暗灰黄褐色土 (H>H-A+H+V a 層)
- 10: 暗褐色土 (H>H-A+V a)
- 11: 暗黄褐色土 (H>H+V a)
- 12: 灰黄褐色土 (V>H+H+H 層)
- 13: 灰褐色土 (V>H)
- 14: 均質暗褐色土 (均質+H+V)
- 15: 均質灰土 (V>H+H Vbは均質 層)
- 16: 均質灰土 (V 層)
- 17: 均質灰土 (H>V Vbは均質 層)
- 18: 均質灰土 (V>H)
- 19: 均質灰土 (腐植に富む H+V-炭化物 層)
- 20: 灰土 (V+H 層)



図V-2-43 TP22・TP22横土平面及び断面

TP 23 長さ190cm 幅85cm 深さ126cm

3・4-43区と隣接のグリッドに存在。比較的幅広の溝状で、底面は両端が角張り南西側が広い楕円形である。南西に向かって傾斜している点と共に TP 21・22 に共通するが、それらより少し長くまた竪底の段差は認められない。壁面は底近くまで崩壊し、側壁では北西寄り部分の底から20cm程度が垂直に近い状態が残るのみである。底部には腐食質土とロームの互層が見られ、(21-23層)、前者(21層)には脆い炭化植物遺体(主に草木か)が多く含まれる点 TP 23 に類似している。その上に壁面の大きな崩壊を示す地山土壌の厚い堆積(19・20層)、さらにブロック状の覆土(10-17層)が形成される。覆土上部の腐食質土の中に焼土(9層)が広がっているが、現地性のものかどうかははっきりしない。覆土1層にはV a層由来の軽石をかなり多く含み、遺構の排土が流入したものとみられる。遺物は覆土上部で荻ヶ岡式土器片6点が出土した。



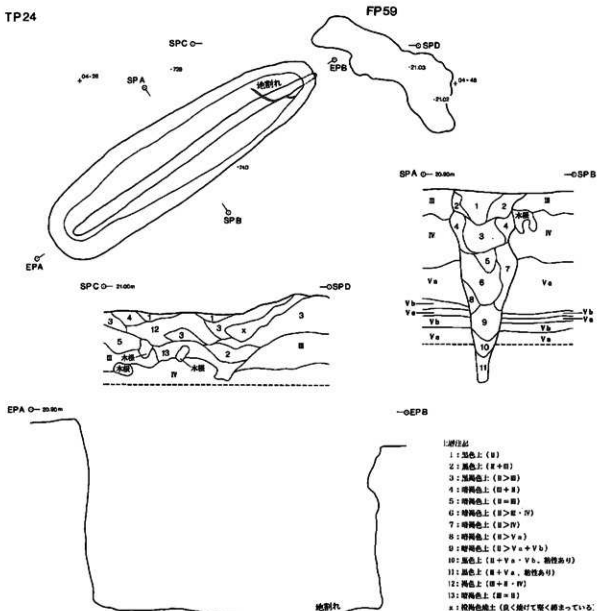
図V-2-44 TP23平面及び断面

TP 24 長さ163cm 幅44cm 深さ100cm

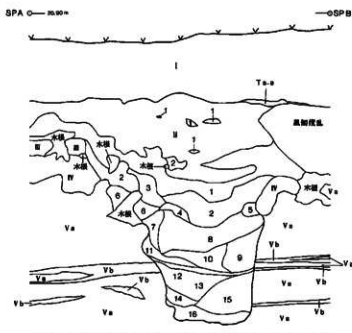
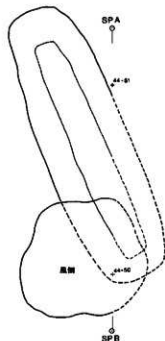
0・4-27区で確認した。杭穴はない。墳底は細長く角をもたない。わずかに起伏がある。北東部分で東に振れ、オーバーハングしている。北東部分の崩落が大きく、壁面・墳底には地割れが入っており、壁面のⅣ層まで達している。覆土は全体にⅡ層土が目立ち、壁面の崩落は些程なかったものと思われる。遺物は覆土1層より時期不明の土器片が1点出土している。フローテーションにより覆土11層からイネ科の種子が3点出土している。ピットの北東にはFP 59が確認されている。TP 24が埋没したくぼみを利用したものと思われる。焼土は橙褐色を呈し、良く焼けて堅く締まる。焼土横から荻ヶ岡2式の土器片が2点出土している。

TP 25 長さ152cm 幅47cm 深さ120cm

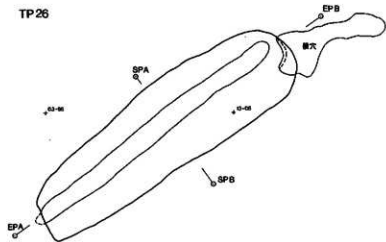
4・4-40・41・50区で確認した。杭穴はない。南側を風倒れにより壊され、南東部分は発掘区外にある。墳底は平坦で長方形に近い形を呈す。東側の壁が大きく崩落している。墳底直上にⅡ層土主体の土が堆積しその上にⅡ層土・Ⅴ層土、Ⅲ層土、Ⅴ層土主体の土が堆積する。その上にはⅡ層土主体の帯状堆積がみられる。



TP25

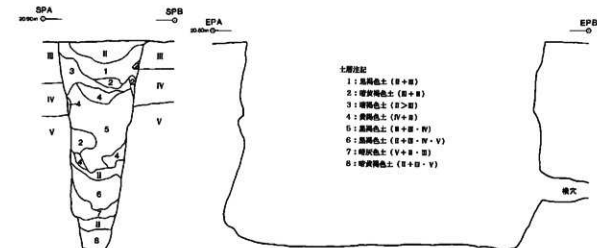


TP26



上層注記 (TP25)

- 1: 黒色土 (E+H)
- 2: 暗褐色土 (H>B-N)
- 3: 黒褐色土 (E>B)
- 4: 黒褐色土 (E+IV)
- 5: 暗黄褐色土 (N>B)
- 6: 灰褐色土 (IV+Va)
- 7: 暗褐色土 (E>IV)
- 8: 暗褐色土 (E>IV-Va)
- 9: 暗黄褐色土 (Vb+Va-E)
- 10: 褐色土 (E+Va)
- 11: 暗褐色土 (E+H)
- 12: 黒褐色土 (E+Va)
- 13: 灰褐色土 (Va>Vb)
- 14: 褐色土 (E+Vb)
- 15: 暗褐色土 (E=Va-Vb)
- 16: 黒色土 (E+Va-Vb)



上層注記

- 1: 黒褐色土 (E+H)
- 2: 暗黄褐色土 (E+H)
- 3: 暗褐色土 (E>B)
- 4: 暗褐色土 (IV+H)
- 5: 暗褐色土 (E+H-N)
- 6: 黒褐色土 (E+H-V-V)
- 7: 暗褐色土 (V+H-III)
- 8: 暗黄褐色土 (E+H-V)

図V-2-46 TP25・TP26平面及び断面

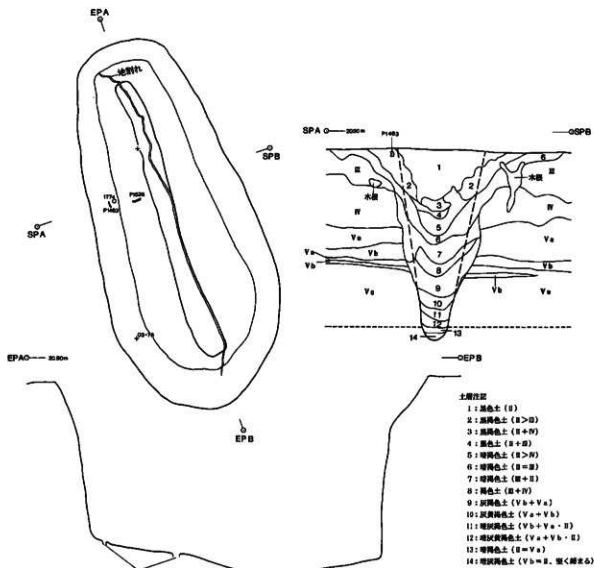
TP-26 長さ158cm 幅46cm 深さ110cm

0・3-95区で確認した。杭穴はない。墳底はほぼ平坦であるが、わずかに左右に振れており角はもたない。覆土は全体にⅡ層土が目立ち、壁面の崩落は些程なかったと思われる。なお、北東側端部の壁面に横穴がみられた。横穴内の土は覆土6層と同じであるが、全体に締まりがなく一部空洞の部分もみられた。その位置や方向からしても人為的なものとは考えられず、動物による攪乱と判断した。規模や位置関係から32と列をなすものと思われる。

TP 27 長さ200cm 幅92cm 深さ100cm

0・3-78区で確認した。長軸はコンターに並行する。杭穴はない。墳底は角をもたず、左右に若干うねっている。墳底中央のくぼみにゆるく傾斜する。墳底に地割れが走っており、長軸の壁面のⅣ層にまで達している。セクション面の覆土9層と壁面の間に地割れがみられることから、地割れはピット埋没後に入ったものと思われる。覆土2層から萩ヶ岡2式の土器片、覆土1層から萩ヶ岡1式と萩ヶ岡2式の土器片各1点が出土している。

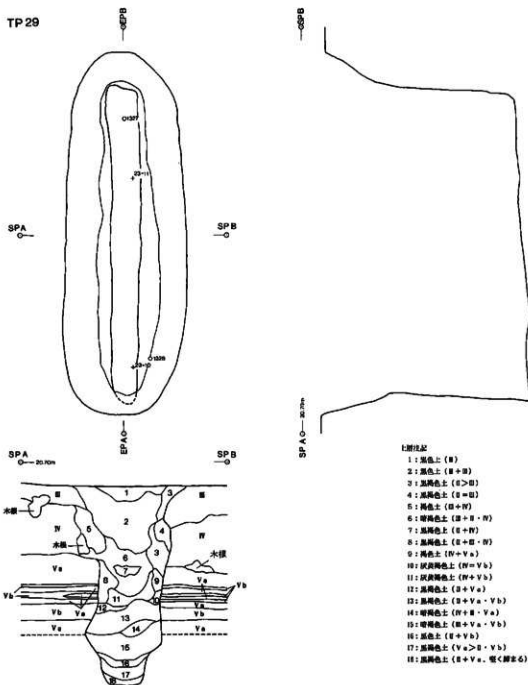
TP 27



図V-2-47 TP27平面及び断面

TP 29 長さ190cm 幅65cm 深さ106cm

2・3-00・10・01・11区で確認した。長軸はコンターに並行する。杭穴はない。墳底はほぼ平坦で、北端は斜めに角張る。南端は角がなく、わずかにオーバーハングしている。側壁は墳底より15cmほど立上りが残り、その上は大きく崩落している。覆土は墳底直上にⅡ層土主体の土が堆積し、堅く締まっている。Ⅴ層土主体の17層とⅡ層土主体の16層が乗り、Ⅲ層土主体の15層が厚く堆積する。位置的に TP 16と列をなすものと思われる。遺物は、覆土1層から荻ヶ岡2式の土器片が2点得られている。



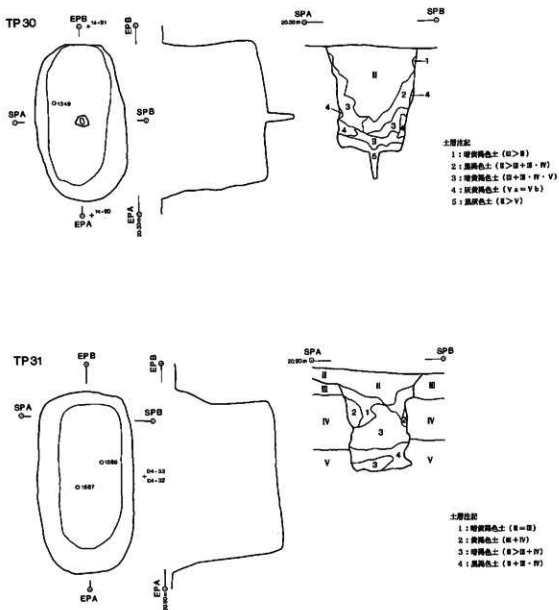
図V-2-49 TP29平面及び断面

TP 30 長さ82cm 幅48cm 深さ56cm

1・4-90区で確認した。最も小さいものである。墳底中央に打ち込みによる杭穴1本があるが、他のTピットと異なりその先端は尖っていない。墳底は楕円に近い形態で、わずかに南側に傾斜するがほぼ平坦である。覆土は、墳底直上にⅡ層がちの黒灰色土が堆積しその上にⅡ層土が乗るが、このⅡ層土中にも杭の痕跡が認められた。壁面の崩落はほとんどなく、ほぼ原型を保っている。遺物は覆土Ⅱ層中から萩ヶ岡2式土器片1点が得られている。同一の形態を呈すものに18があり、これと列をなすものと思われる。

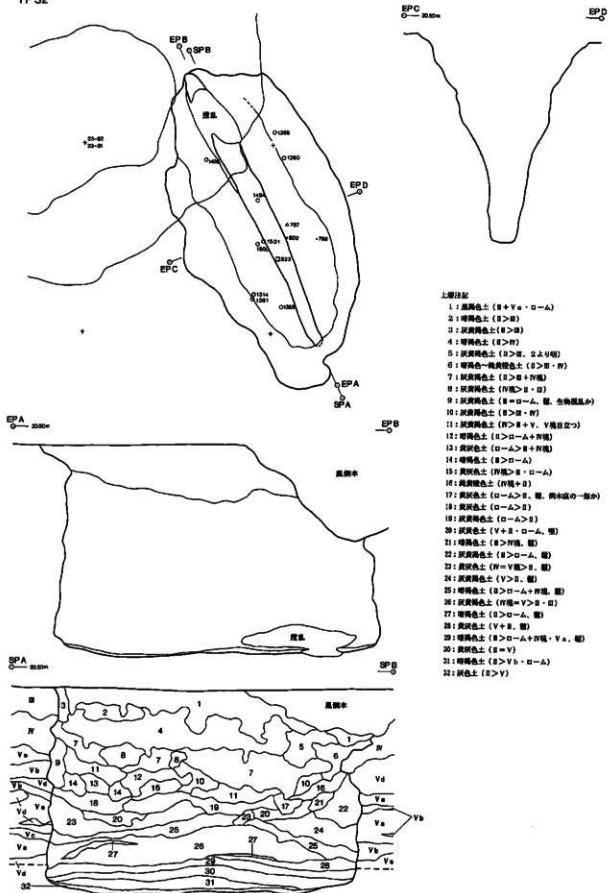
TP 31 長さ96cm 幅50cm 深さ59cm

0・4-22区で確認した。形態と規模は18・30に近く、位置的に列をなすものと考えられるが、杭穴をもたない。墳底は南側に傾斜している。覆土は全体にⅡ層土が目立つが、帯状の堆積はみられない。遺物は、覆土Ⅱ層中から萩ヶ岡2式土器片2点が得られている。



図V-2-50 TP30・31平面及び断面

TP32



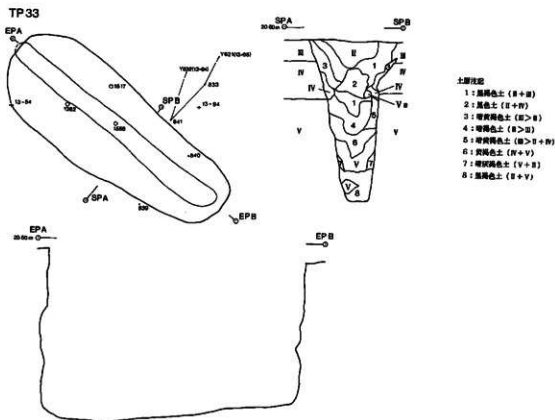
図V-2-51 TP32平面及び断面

TP 32 長さ180cm 幅93cm 深さ112cm

2・3-81区、91区で確認した。北西端は倒木痕に切られる。細長い溝状のピットで、長軸はコーナーにはほぼ平行する。底面は少し弓なりに曲がり、端部が角張る特徴はない。墳底は概ね平坦だが両端でやや浅くなる。側壁では底から30cm余りの垂直な立上りが残り、また端部の壁面は多少オーバーハングする。底部には腐植質土とローム層の互層が水平に堆積し(27~32層)、その後中央で高くなる弧状の覆土(25・26層)はあまり発達しないままブロック状の急速な堆積(6~24層)へ移行する。両端付近にはオーバーハングした壁面の崩壊を示唆する崖壁状の覆土(西脇1991:205)が認められる(22~25層)。覆土上部にもVa層由来の軽石を含み、遺構排土の流入を示す。遺物は覆土上部で萩ヶ岡1式土器片8点(1式1点、2式7点)、黒曜色のU・Fと剥片各1点、砥石片1点が出土したほか、墳底に近い29層で萩ヶ岡2式土器片1点を認めた。

TP 33 長さ136cm 幅50cm 深さ84cm

1・3-83区で確認した。杭穴はない。墳底は狭長で角はもたず、わずかにうねって北西側に傾斜している。覆土は、墳底直上にII層土主体の黒褐色土が厚く堆積し、その上にV層の崩落土がみられる。側壁に比して端部の崩落はわずかである。遺物は、覆土1層中から萩ヶ岡2式土器片6点、頁岩のR・Fと剥片各1点(剥片は1・3-94、95区と接合)、黒曜石の剥片2点が出土している。



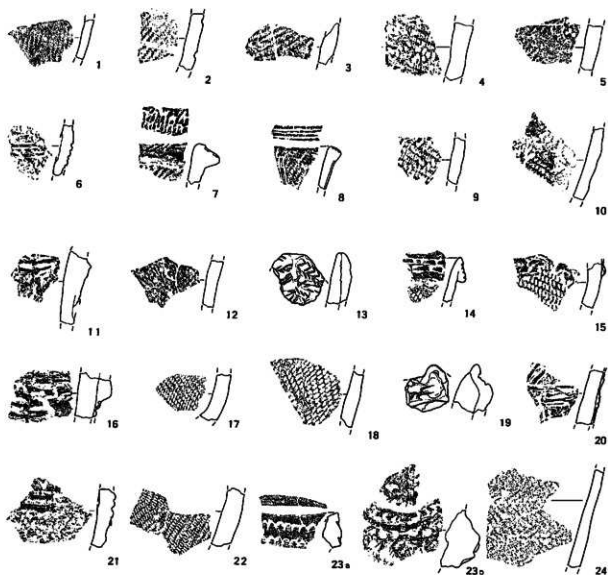
図V-2-52 TP33平面及び断面

Tピット出土の土器 (図V-2-53-55)

33基のTピットのうち20基から90点、7ヵ所のTピット排土のうち4ヵ所から172点の土器が出土した。そのほとんどは縄文中期の土器で、萩ヶ岡2式相当のものが大半を占める。

1はTP 1の覆土1層出土の東訓路Ⅲ式土器片である。燃糸による斜行縄文もしくは羽状縄文と思われる。2-8はTP 1排土2層出土のものである。2はLRの縄文に竹管による沈線がみられる。胎土に砂粒を含む。3は摩耗しており胎土が粉っぽい。4は貼付に竹による施文が認められる。5-8は半截竹管状工具により施文されている。5・6は沈線が施されている。7は口縁肥厚帯に刺突が施されている。8は口唇に沈線が引かれ、垂下する沈線がみられる。9・10はRLの縄文で10の器面は剝落している。9はTP 6覆土1層、10はTP 7覆土3層出土。11はTP 7覆土1層出土で、口縁下の三角状突起に半截竹管状工具で沈線が施されている。12はTP 11覆土1層出土。地文は複節である。13はTP 13の横、確認面より10cm上から出土した。台形の突起に粘土紐を貼り付け、半截竹管状工具で刻んでいる。

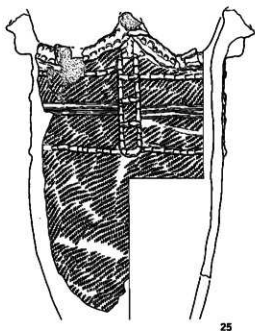
14-24はTP 15排土出土のものである。14-16、19-23aは半截竹管状工具により施文されている。14-19は排土直下から出土した。14は口縁肥厚帯に押し引きがみられる。15は貼付と垂下に押し引き



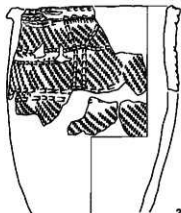
図V-2-53 Tピット出土の土器 (1)

と刺突がある。16は三角状突起に沈線が施され、突起下に押し引きがされている。17・18の地文はRLで胎土に砂粒を含む。19は口縁肥厚帯とその上の小突起に刺突と沈線がみられる。20～24はTP15排土中出土のものである。20には縦、横、斜めの貼付に沈線が施されている。内面は平滑である。21は沈線が施されている。器面は剝落している。22は堅く焼き締まる。LRの縄文が認められる。23aは口縁肥厚帯に刺突がみられる。23bは口縁突起の下につけられる胴部突起である。頂部は菱形を呈す。24はLR+RLの結束羽状縄文が施されている。胎土に砂粒を含み、小砂利もみられる。

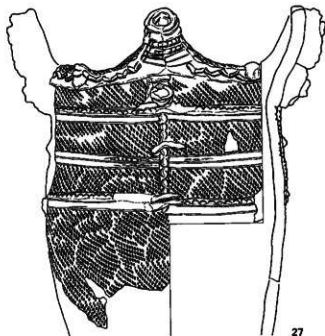
25～27はTP15排土の南側から出土した天神山式土器である。この周辺ではIV層に達するレベルにII層が堆積しており、何らかのくぼみがあったものと推定される。TP15の排土はこのくぼみに投棄されたものと思われる。これらの土器は検出しえなかった遺構に伴う可能性もある。25・27は波状の口縁に肥厚帯あり、突起をもつ。口縁貼付帯・肥厚帯下の突起・垂下帯・貼付帯などには半載竹管状工具による刺突・押し引き・沈線が組み合わせて施文されている。27の突起は角柱状である。肥厚帯には地文もみられる。26は口縁は平縁で、肥厚帯には半載竹管状工具による刺突が施されている。突起を欠いている。胴部上半には、垂下帯を模した押し引きと横環する押し引きが施されている。地文は25がLR、26・27はRLの斜行縄文である。いずれも底部を欠いている。



25

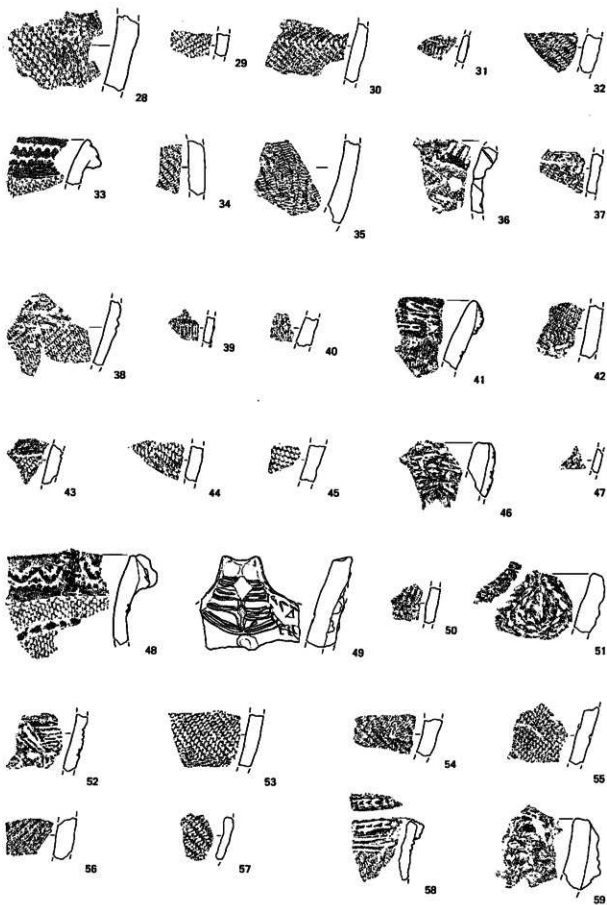


26



27

図V-2-54 Tピット出土の土器(2)



図V-2-55 Tピット出土の土器 (3)

28・29はTP 16覆土1

層のもの。28は厚手で複節の縄文が施されている。29は胎土が良く、内面は平滑である。LRの縄文が認められる。

30～32はTP 16排土直下から出土。30は器面にLR + RLの結束羽状縄文が施されている。胎土に砂粒を含む。31は中茶路式の土器片である。扁平な貼付帯の上下が擦り消され、短縄文が施されている。32にはRLの縄文が認められる。

33～35はTP 16排土中出土。33は口縁肥厚帯に半截竹管状工具により刺突が施されている。肥厚帯の下面は平らに調整されている。地文は複節。34・35は胎土に砂粒を含む。

36～38はTP 17覆土1層出土の太木8 a式相当の土器片である。36は口縁肥厚帯と器面に竹管により太めの沈線が引かれており、補修孔が穿たれている。37・38にも同様の沈線がみられる。いずれも器面にLRの縄文が認められる。

39・40はTP 19覆土1層出土のもの。39には扁平な貼付帯が付けられ、器面に短縄文が施されている。40は器面にLRの縄文が認められる。41～44はTP 19排土直下から出土したもの。41・43に竹管状工具による施文がみられる。41は口縁貼付帯に押し引きが施され、器面にLRの縄文が認められる。胎土に砂粒を多く含む脆い感じを受ける。42・44はRL、43には沈線とLRの縄文が施されている。

45はTP 20覆土中出土の三角土製品である。縄文時代中期のものと思われる。便宜上、荻ヶ岡2式として集計した。46・47はTP 20覆土上出土。46にはRLの縄文が認められる。堅く焼き締まる。46は台形の突起で粘土紐を貼付し、半截竹管状工具による沈線が施文されている。胎土に砂粒を含む。48はTP 22覆土1層のもの。口縁は外反し、口縁肥厚帯に波状に粘土紐を貼付して小突起と繋ぎ、半截竹管状工具による刺突が施されている。肥厚帯の縁にも同様の刺突がめぐらされている。肥厚帯の下の貼付には押し引きが施されている。地文は複節の縄文である。堅く焼き締まる。49はTP 22の上から出土した。台形の突起に粘土紐が貼付されている。粘土紐には半截竹管状工具による沈線が施されている。突起から口縁にめぐらされた貼付には、同様の工具による刺突がみられる。突起頂部は指頭により潰され内傾する。50はTP 23覆土3層出土でLR + RLの結束羽状縄文が認められる。51は

表V-2-45 TピットおよびTピット排土出土土器一覧

TP番号	東側器種	中茶路	円筒土器	荻ヶ岡1	荻ヶ岡2	太木8a	天神山	不明	合計
1	1								1
1層土					9		4		13
6					1				1
7					4		1		5
10	1		1						2
11							2		2
15層土					67		36	3	106
16					2		1		3
16層土		3			22		2		27
17					2	14			16
19		1			3				4
19層土					26				26
20					7		1		8
21					1				1
22					1		1		2
23					3			2	5
24								1	1
27				1	2				3
28					15		2		17
29					2				2
30					1				1
31					2				2
32				1	8				9
33					5				5
合計	2	4	1	2	183	14	50	6	262

表V-2-46 TP-1覆土3層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分層	遺物No.	備考
1	4・5-46	副部	1	東側副部	139	土器文

表V-2-47 TP-1排土3層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分層	遺物No.	備考
—	4・6-20	副部	1	灰層2	58	銅片, 土器文

表V-2-48 TP-1排土2層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分層	遺物No.	備考
2	4・6-11	副部	1	灰層2	53	半截竹管の破片
3	4・6-11	副部	1	天神山	64	摩耗, LR
—	4・6-12	副部	1	灰層2	65	銅片, 土器文
4	4・6-20	副部	1	灰層2	54	脇付に付て蓋文
—	4・6-20	副部	1	天神山	55	摩耗
5	4・6-20	副部	1	灰層2	56	半截竹管の破片
—	4・6-20	副部	1	灰層2	57	銅片, 土器文
6	4・6-20	副部	1	天神山	59	半截竹管の破片
—	4・6-20	副部	1	灰層2	60	銅片, 土器文
—	4・6-21	副部	1	灰層2	61	銅片, 土器文
7	4・6-21	口縁	1	天神山	62	肥厚帯に剥裂
8	4・6-22	口縁	1	灰層2?	63	半截竹管の破片

表V-2-49 TP-6覆土1層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分層	遺物No.	備考
9	1・8-41	副部	1	灰層2	365	土器文

表V-2-50 TP-7覆土3層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分層	遺物No.	備考
10	3・7-22	副部	1	灰層2?	489	RL, 土器文

表V-2-51 TP-7覆土1層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分層	遺物No.	備考
—	3・7-22	副部	1	灰層2	521	銅片, 土器文
11	3・7-23	副部	1	天神山	520	三角突起に剥裂
—	3・7-23	副部	1	灰層2?	523	摩耗, 土器文
—	3・7-23	副部	1	灰層2?	522	摩耗, 土器文

表V-2-52 TP-10覆土1層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分層	遺物No.	備考
—	1・6-66	副部	1	門奥土層	733	土土きめ細か
—	1・6-66	副部	1	東側副部	738	銅片, 土器文

表V-2-53 TP-11覆土1層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分層	遺物No.	備考
12	1・5-93	副部	2	天神山	569	接合, 複層

表V-2-54 TP-13関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分層	遺物No.	備考
13	0・6-98	突起	1	灰層2	410	径, 10cm土

表V-2-55 TP-15排土下出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分層	遺物No.	備考
14	4・2-13	口縁	1	灰層2	936	半截竹管の破片
—	4・2-21	副部	3	灰層2	915	銅片, 摩耗
—	4・2-22	副部	2	不明	918	銅片, 摩耗
—	4・2-22	副部	1	灰層2	917	銅片, 土器文
—	4・2-22	副部	1	灰層2	916	銅片, 土器文
—	4・2-23	副部	1	灰層2	919	半截竹管の破片
—	4・2-23	副部	1	灰層2	920	銅片, 土器文
—	4・2-23	副部	2	灰層2	921	接合, 土器文
—	4・2-24	副部	2	灰層2	922	半截竹管の破片
—	4・2-31	副部	1	灰層2	907	銅片, 土器文
—	4・2-31	副部	1	灰層2	906	銅片, 摩耗
—	4・2-32	副部	1	灰層2	935	銅片, 摩耗
—	4・2-32	副部	1	灰層2	914	銅片, 土器文
15	4・2-32	副部	1	天神山	913	半截竹管の破片
—	4・2-33	副部	1	灰層2	933	銅片, 土器文
—	4・2-33	副部	1	灰層2	932	銅片, 土器文
—	4・2-33	副部	1	不明	930	銅片, 剥離
—	4・2-33	副部	1	灰層2	931	銅片, 土器文
—	4・2-33	副部	1	灰層2	929	LR, 内面平滑
—	4・2-33	副部	2	灰層2	926	半截竹管の破片
—	4・2-34	副部	2	灰層2	923	RL, 土器文
—	4・2-34	副部	1	灰層2	939	摩耗, 土器文
—	4・2-34	副部	1	灰層2	924	銅片, 土器文
—	4・2-34	副部	4	灰層2	925	銅片, 土器文
16	4・2-41	副部	1	天神山	907	三角突起に剥裂
—	4・2-41	副部	1	灰層2	909	RL, 土器文
17	4・2-41	副部	2	灰層2	908	RL
18	4・2-42	副部	3	灰層2	910	RL, 土器文
—	4・2-42	副部	3	灰層2	934	銅片, 土器文
19	4・2-42	突起	1	天神山	971	肥厚帯に本突起
—	4・2-42	副部	1	灰層2	911	RL, 土器文
—	4・2-42	副部	2	灰層2	912	銅片, 土器文
—	4・2-44	副部	1	灰層2	927	底面剥離文

表V-2-56 TP-15排土中出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分層	遺物No.	備考
—	4・2-21	副部	1	天神山	873	半截竹管の破片
—	4・2-22	副部	1	灰層2	879	銅片, 土器文
—	4・2-22	副部	1	灰層2	875	銅片, 土器文
—	4・2-22	副部	1	灰層2	874	銅片, 土器文
—	4・2-23	副部	1	天神山	887	銅片, 剥離

図番	グランド	部位	点数	分 類	遺物No.	備 考
—	4・2-23	胴部	1	冢ヶ岡2	880	細片, 胎土残
—	4・2-23	胴部	1	冢ヶ岡2	884	細片, 胎土残
—	4・2-23	胴部	2	冢ヶ岡2	889	半截竹管の破片
20	4・2-23	胴部	1	冢ヶ岡2	886	細片, 胎土残
—	4・2-23	胴部	1	冢ヶ岡2	885	細片, 胎土残
—	4・2-23	胴部	1	冢ヶ岡2	883	細片, LR
21	4・2-23	胴部	1	天神山	882	半截竹管の破片
—	4・2-23	胴部	1	天神山	888	壺く徳を締まる
—	4・2-23	胴部	1	天神山	881	細片, 胎土
—	4・2-24	胴部	1	天神山	890	三角突起の細片
22	4・2-32	胴部	1	天神山	903	壺く徳を締まる
—	4・2-32	胴部	1	天神山	904	LR
—	4・2-32	胴部	3	冢ヶ岡2	902	竹管の破片
—	4・2-32	胴部	1	天神山	901	胎土
23ab	4・2-32	口縁	4	天神山	905	口縁と胴部突起
—	4・2-32	胴部	5	天神山	900	壺く徳を締まる
—	4・2-33	胴部	1	天神山	892	半截竹管の破片
—	4・2-33	胴部	1	天神山	893	壺く徳を締まる
—	4・2-33	胴部	1	天神山	894	壺く徳を締まる
—	4・2-33	胴部	4	天神山	897	壺く徳を締まる
—	4・2-43	胴部	2	冢ヶ岡2	898	細片, 胎土残
24	4・2-43	胴部	2	冢ヶ岡2	896	胎土残
—	4・2-44	胴部	3	冢ヶ岡2	895	

表V-2-57 TP-15排土上出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分 類	遺物No.	備 考
—	4・2-22	胴部	1	冢ヶ岡2	872	細片, 胎土残
—	4・2-23	胴部	1	冢ヶ岡2	869	細片, 胎土残
—	4・2-32	胴部	8	天神山	871	壺く徳を締まる
—	4・2-33	胴部	1	冢ヶ岡2	870	細片, 胎土残
—	4・2-34	胴部	1	冢ヶ岡2	891	半截竹管の破片

表V-2-58 TP-15排土関連Ⅲ層出土土器一覽
(排土下より下のⅢ層)

図番	グランド	部位	点数	分 類	遺物No.	備 考
25	4・2-11	一拵	33	天神山	1285	小突起
26	1・12-41	口縁	1	天神山	11	口縁肥厚部
	3・2-70	胴部	1	天神山		半截竹管の破片
	4・2-11	胴部	1	天神山	1285	
	4・2-20	胴部	5	天神山		
—	4・2-21	一拵	11	天神山	1022	
27	4・2-31	一拵	13	天神山	961	口縁肥厚部
	4・2-31	一拵	18	天神山		胎土と小突起
	4・2-31	一拵	27	天神山	1283	半截竹管の破片
	4・2-41	胴部	1	天神山		

表V-2-59 TP-16覆土2層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分 類	遺物No.	備 考
—	3・3-76	胴部	1	冢ヶ岡2	940	半截竹管の破片

表V-2-60 TP-16覆土1層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分 類	遺物No.	備 考
28	3・3-66	胴部	1	天神山	855	RLR移行期
29	3・3-76	胴部	1	冢ヶ岡2	941	LR, 胎土残

表V-2-61 TP-16排土下面出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分 類	遺物No.	備 考
—	3・3-11	胴部	1	冢ヶ岡2	1101	半截竹管の破片
—	3・3-11	胴部	1	冢ヶ岡2	1100	半截竹管の破片
30	3・3-11	胴部	1	冢ヶ岡2	1102	胎土残
—	3・3-11	胴部	1	冢ヶ岡2	1105	細片, LR
—	3・3-11	口縁	1	冢ヶ岡2	1104	半截竹管の破片
—	3・3-12	胴部	1	中条路	1108	胎土残, 胎土残
—	3・3-12	胴部	1	冢ヶ岡2	1109	細片, 胎土残
—	3・3-12	胴部	1	冢ヶ岡2	1110	細片, RL
—	3・3-21	胴部	1	冢ヶ岡2	1119	胎土, 胎土残
—	3・3-22	胴部	1	冢ヶ岡2	1111	細片, 胎土残
—	3・3-23	胴部	1	中条路	1113	胎土残, 胎土残
—	3・3-23	胴部	1	冢ヶ岡2	1112	細片, 胎土残
—	3・3-23	口縁	1	冢ヶ岡2	1114	RL, 口縁内縁
31	3・3-33	胴部	1	中条路	1115	胎土残, 胎土残
—	3・3-33	胴部	1	冢ヶ岡2	1116	細片, 胎土残
—	3・3-33	胴部	1	冢ヶ岡2	1117	細片
32	3・3-43	胴部	2	冢ヶ岡2	1123	RL, 胎土残

表V-2-62 TP-16排土中出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分 類	遺物No.	備 考
—	3・3-11	胴部	1	冢ヶ岡2	1098	細片, 胎土残
—	3・3-11	胴部	1	冢ヶ岡2	1096	細片, 胎土残
—	3・3-11	胴部	1	冢ヶ岡2	1099	細片, 胎土残
33	3・3-11	口縁	1	天神山	1097	肥厚部と突起
34	3・3-11	胴部	1	冢ヶ岡2	1103	RL
35	3・3-21	胴部	1	冢ヶ岡2	1120	RL, 胎土残
—	3・3-21	胴部	1	冢ヶ岡2	1121	細片, 胎土残
—	3・3-21	口縁	1	天神山	1122	半截竹管の破片
—	3・3-21	胴部	1	冢ヶ岡2	1118	細片, 胎土残

表V-2-63 TP-16排土トレンチ出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分 類	遺物No.	備 考
—	3・3-02	胴部	1	冢ヶ岡2	1806	細片, 胎土残

表V-2-64 TP-17層土1層出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
36	4・3-14	口縁	1	大木8a	833	大穴遺跡
—	4・3-23	胴部	1	大木8a	853	LR, 内面平滑
—	4・3-23	胴部	1	灰ヶ岡2	854	摩耗, 胎土文
—	4・3-23	胴部	1	大木8a	852	大穴遺跡, LR
—	4・3-24	胴部	3	大木8a	834	LR, 内面平滑
—	4・3-24	胴部	1	灰ヶ岡2	837	柄線, 胎土文
37	4・3-24	胴部	1	大木8a	964	大穴遺跡, LR
38	4・3-24	胴部	3	大木8a	835	大穴遺跡, LR
—	4・3-24	胴部	2	大木8a	836	
—	4・3-24	胴部	2	大木8a	838	

表V-2-65 TP-19層土1層出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
39	3・4-61	胴部	1	中実器	953	胎土文, 胎土文
—	3・4-71	胴部	1	灰ヶ岡2	1003	柄線, 胎土文
—	3・4-71	胴部	1	灰ヶ岡2	954	摩耗, 胎土文
40	3・4-71	胴部	1	灰ヶ岡2	1140	LR, 内面平滑

表V-2-66 TP-19層土下出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・3-18	胴部	1	灰ヶ岡2	1033	細片, 柄線
—	3・3-29	胴部	1	灰ヶ岡2	1032	細片, LR
41	3・3-29	口縁	1	灰ヶ岡2	1089	半截竹管の碎片
42	3・3-37	胴部	1	灰ヶ岡2	1046	RL
—	3・3-38	胴部	1	灰ヶ岡2	1047	細片
—	3・3-38	胴部	1	灰ヶ岡2	1044	細片, 摩耗
—	3・3-38	胴部	2	灰ヶ岡2	1043	細片, 摩耗
—	3・3-38	胴部	1	灰ヶ岡2	1042	細片, 摩耗
—	3・3-38	胴部	1	灰ヶ岡2	1045	細片, 柄線
—	3・3-38	胴部	1	灰ヶ岡2	1041	摩耗
—	3・3-39	胴部	1	灰ヶ岡2	1088	LR, 内面平滑
—	3・3-39	胴部	1	灰ヶ岡2	1039	細片, 柄線
—	3・3-39	胴部	1	灰ヶ岡2	1087	細片, LR
43	3・3-39	胴部	1	灰ヶ岡2	1040	半截竹管の破片
—	3・3-49	胴部	1	灰ヶ岡2	1037	細片, 摩耗
—	3・3-49	胴部	1	灰ヶ岡2	1038	細片, 摩耗
—	3・4-20	胴部	1	灰ヶ岡2	1031	細片, 柄線
44	3・4-20	胴部	1	灰ヶ岡2	866	RL
—	3・4-30	胴部	1	灰ヶ岡2	865	摩耗
—	3・4-30	胴部	1	灰ヶ岡2	864	摩耗
—	3・4-30	胴部	1	灰ヶ岡2	1035	細片, 柄線
—	3・4-30	胴部	1	灰ヶ岡2	1036	摩耗

表V-2-67 TP-19層土中出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・4-20	胴部	2	灰ヶ岡2	1030	細片
—	3・4-30	胴部	1	灰ヶ岡2	1034	柄線, 胎土?

表V-2-68 TP-20層土中出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
45	3・4-40	胴部	1	中期	1202	三角土製品

表V-2-69 TP-20層土上出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・4-30	胴部	1	灰ヶ岡2	1201	細片, 摩耗
—	3・4-31	胴部	1	灰ヶ岡2	1302	柄線, 胎土文
—	3・4-31	胴部	1	灰ヶ岡2	928	LR, 胎土文
46	3・4-31	胴部	1	天狗山	952	RL
—	3・4-31	胴部	1	灰ヶ岡2	1200	柄線, 胎土文
—	3・4-41	胴部	1	灰ヶ岡2	1181	摩耗, 胎土文
47	3・4-41	突起	1	灰ヶ岡2	1180	半截竹管の破片
—	3・4-41	胴部	1	灰ヶ岡2	1203	半截竹管の破片

表V-2-70 TP-21層土出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・4-75	胴部	1	灰ヶ岡2	1590	細片, 柄線

表V-2-71 TP-22層土1層出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・4-98	胴部	1	灰ヶ岡2	1461	柄線, 胎土文
48	1・4-99	口縁	1	天狗山	1226	胎土帯に似

表V-2-72 TP-22間道Ⅱ層出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
49	1・4-99	突起	1	灰ヶ岡2	1268	22m上

表V-2-73 TP-23層土3層出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
50	3・4-52	胴部	1	灰ヶ岡2	1516	胎土帯状文

表V-2-74 TP-23層土1層出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・4-53	胴部	2	灰ヶ岡2	1591	細片, RL
—	3・4-54	底縁	2	不明	1592	破片, 細片

表V-2-75 TP-24層土11層出土土器一覽

図番	グロット	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	0・4-28	胴部	1	不明	1793	細片, 柄線

表V-2-76 TP-27覆土2層出土土器一覽

図番	グリップ	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	0・3-68	胴部	1	灰ヶ岡2	1774	柄線, 胎土沈

表V-2-77 TP-27覆土1層出土土器一覽

図番	グリップ	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	0・3-68	胴部	1	灰ヶ岡2	1463	柄片, 沈線
51	0・3-78	突起	1	灰ヶ岡1	1528	爪による刺突

表V-2-78 TP-28覆土2層出土土器一覽

図番	グリップ	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-37	口縁	1	灰ヶ岡2	1392	摩耗, 胎土沈
52	2・3-37	胴部	1	灰ヶ岡2	1393	半截竹管の沈線
53	2・3-37	胴部	1	天神山	1394	RL
54	2・3-37	胴部	1	灰ヶ岡2	1395	RL
—	2・3-37	胴部	1	灰ヶ岡2	1397	柄片, 摩耗
55	2・3-37	胴部	1	天神山	1398	RLR
—	2・3-37	胴部	1	灰ヶ岡2	1400	柄片, 柄線

表V-2-79 TP-28覆土1層出土土器一覽

図番	グリップ	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-27	胴部	1	灰ヶ岡2	1305	柄片, 柄線
—	2・3-27	胴部	1	灰ヶ岡2	1304	柄片, 柄線
—	2・3-27	胴部	4	灰ヶ岡2	1303	柄片, 柄線
—	2・3-27	胴部	1	灰ヶ岡2	1308	柄片, 柄線
—	2・3-27	胴部	1	灰ヶ岡2	1306	柄片, 柄線
—	2・3-37	胴部	1	灰ヶ岡2	1396	柄片, 柄線
—	2・3-37	胴部	1	灰ヶ岡2	1399	柄片, 柄線

表V-2-80 TP-29覆土土器一覽

図番	グリップ	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-01	胴部	1	灰ヶ岡2	1327	摩耗, 胎土沈
56	2・3-10	胴部	1	灰ヶ岡2	1328	羽状編文, 摩耗

表V-2-81 TP-30覆土1層出土土器一覽

図番	グリップ	部位	点数	分類	遺物No.	備考
57	1・4-80	胴部	1	灰ヶ岡2	1349	柄線, RL

表V-2-82 TP-31覆土3層出土土器一覽

図番	グリップ	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	0・4-22	底面	1	灰ヶ岡2	1587	内面平滑
—	0・4-23	胴部	1	灰ヶ岡2	1586	柄片, 柄線

表V-2-83 TP-32覆土29層出土土器一覽

図番	グリップ	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-81	胴部	1	灰ヶ岡2	1501	柄片, 柄線

表V-2-84 TP-32覆土7層出土土器一覽

図番	グリップ	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-81	胴部	1	灰ヶ岡2	1500	柄片, 柄線

表V-2-85 TP-32覆土1層出土土器一覽

図番	グリップ	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-81	胴部	1	灰ヶ岡2	1495	柄片, 柄線
58	2・3-81	口縁	1	灰ヶ岡2	1314	半截竹管の柄片
—	2・3-81	口縁	1	灰ヶ岡2	1494	柄片, 柄線
—	2・3-91	胴部	1	灰ヶ岡2	1358	柄片, 柄線

表V-2-86 TP-32覆土上出土土器一覽

図番	グリップ	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-81	胴部	1	灰ヶ岡2	1361	柄片, 柄線
—	2・3-91	胴部	1	灰ヶ岡2	1360	柄片, 柄線
59	2・3-92	口縁	1	灰ヶ岡1	1359	胎土に爪の押痕

表V-2-87 TP-33覆土1層出土土器一覽

図番	グリップ	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・3-83	胴部	2	灰ヶ岡2	1588	柄片, 柄線
—	1・3-84	胴部	2	灰ヶ岡2	1362	柄片, 柄線
—	1・3-84	胴部	1	灰ヶ岡2	1517	柄片, 柄線

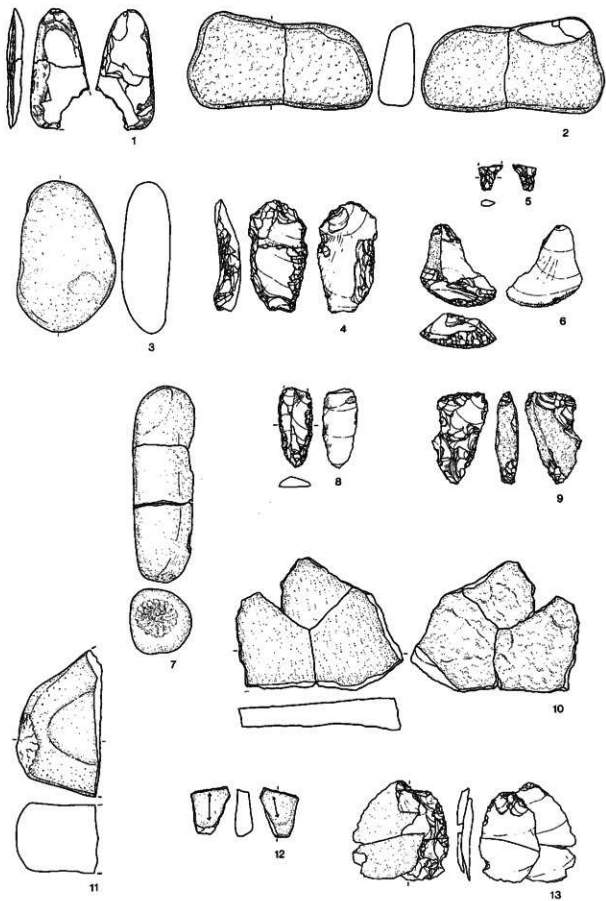
TP 27覆土1層出土の灰ヶ岡1式土器の突起である。突起の中央に指でつまんだくぼみがある。その周囲には爪による刺突が施されている。突起の左側縁には縄文が押捺されている。胎土に砂粒を含む、脆い感じを受ける。

52-55はTP 28覆土2層出土のもの。52・58には半截竹管状工具による施文がみられる。52は横と斜めの沈線が引かれている。内面は平滑。53には整ったRLの縄文が施されている。堅く焼き締まる。54は摩耗しているがRLの縄文が認められる。胎土に砂粒を含む。55の地文は複節である。56はTP 29覆土1層から出土したもの。摩耗しておりLRとRLの縄文が認められる。胎土に砂粒を含む。57はTP 30覆土1層のもの。RLの縄文が認められる。胎土に小砂粒を含む脆い。内面は割落。58はTP 32覆土1層から出土した。口唇と口縁貼付帯に押し引き、貼付帯の下には沈線が施されている。乱れたLRの縄文が認められる。胎土は良く、器面は茶褐色を呈する。内面は割落。59はTP 32覆土

上出土の萩ヶ岡1式土器片である。器面は大部分剥落している。垂下帯が縄で刻まれている。胎土に砂粒を含む。

Tピット出土の石器(図V-2-56)

1は両刃の磨製石斧で、基部側はTP5の覆土7層(南端に近い部分でⅡ層上の崩落した部分)中にあり、刃部は2・5-66区のⅡ層中から出土し接合したものである。刃部は過半を欠いており、基部両面にも敲打による剥離痕がみられる。2はTP14の覆土1層から出土した半分(図左側)と、2・5-84区のⅡ層中から出土した半分が接合した偏平楕円礫である。図の下面左右2カ所にわずかに敲打痕らしき跡がみられるが判然としない。3はTP15排土の南側、天神山式土器(No.1283)がまがまってみられた地点の直下から出土した偏平楕円礫で、使用痕はみられない。4はTP17に流れ込んでⅡ層中から出土した撚器で、湾曲とねじれのみられる若干摩耗した剥片を素材としている。楔形石器としても用いられており、両側縁特に図の左側に顕著なつぶれと階段状の剥離がみられる。5・6は、共にTP19の排土直下(P7覆土最上層)から出土したもので、5は有柄凸基の石鎌基部片、6は板状原石の礫皮片を素材としたエンド・スクレイパーである。7・8はTP20から出土したものである。7は覆土2層中から出土した端部片(図の上)と、0・5-29区のⅡ層から出土した中央部片、1・6-86区のⅡ層から出土した端部片が接合したもので、一端と一側縁に敲打痕がみられる。8は摩耗が顕著で湾曲した剥片を素材とし、先端を切り出し状に作出した削器である。基部を欠いているがつまみ付きナイフの可能性もある。9はTP21の覆土1から出土した石核で、素材は板状原石である。剥離状況や四辺にみられるつぶれから、両極打法が用いられていたと思われる。なお、TP21の覆土1層上面から覆土Ⅱ層にかけては、この他にR・F(背面加工の端部片)1点と剥片92点(うち3点は焼けている)がまがまってみて出土しており、Tピットのくぼみ内に一括廃棄された遺物の可能性もある。10は板状礫を素材とした石皿片で、TP22の覆土1層から出土した破片(図の右)と、覆土Ⅱ層から出土した破片(図の左)が、0・5-81区のⅡ層から出土した破片と接合した。11は、TP28の覆土12層から出土した両面にすりくぼみがみられる石皿の端部片であるが、端部に顕著な敲打痕がみられ、この状態でたき石として用いられている。12はTP32の覆土1層から出土した砥石片で、両面に使用痕がみられる。13はTP33の覆土1層から出土した礫皮片(図の左下)が、周辺のⅡ層から出土したR・F、礫皮片と接合したものである。



図V-2-56 Tピット出土の石器

表V-2-88 Tピット出土石器等一覧

No.	グリッド	層位	長(m)	幅(m)	厚(m)	重量(g)	石質	分類	図番No.	備考
1	4-6-45	社1	-	-	-	0.2	黒曜石	剥片	36	
5	0-8-91	社7	94.6	45.7	10.7	58.6	緑色泥岩	石斧	1 346	前記 遺跡付録 399(25-66. 1層)と給
8	0-5-78	社1	-	-	-	0.1	黒曜石	剥片	200	
	79	社1	-	-	-	0.6	黒曜石	剥片	198	
	89	社1	-	-	-	0.8	黒曜石	B・F	199	
9	2-6-83	社1	-	-	-	5.2	頁岩	剥片	124	
10	1-6-66	社1	-	-	-	1.4	黒曜石	剥片	611	612-613, 619, 623~627, 629~635と社. 16並り
	66	社1	-	-	-	0.1	黒曜石	B・F	628	
	66	社1	-	-	-	0.4	黒曜石	剥片	206	207と社. 2並り
12	3-9-96	社1	56.2	47.1	21.1	66.1	安山岩	方割礫C	459	削いた
14	3-5-31	社1	144.8	75.7	27.8	507.4	安山岩	方割礫B	2 491	455(25-84)と給付部付録 社と給
15	4-2-31	社1	119.2	78.3	37.5	510.0	安山岩	削片	3 762	P12830の給付
	32	社1	20.0	23.6	19.2	8.6	黒曜石	石核	684	
	32	社1	-	-	-	1.6	黒曜石	剥片	684	
	33	社1	-	-	-	0.2	黒曜石	剥片	683	
	42	社1	18.8	30.8	15.0	5.8	黒曜石	R・F	685	削いた礫片. 給付
16	3-3-11	社1	-	-	-	0.2	メノウ	剥片	737	
	11	社1	-	-	-	1.9	黒曜石	剥片	738	
	76	社1	-	-	-	2.0	黒曜石	剥片	687	
17	4-3-24	社1	57.7	30.2	9.9	18.8	黒曜石	縁器	4 679	給・前記付録 削いた給
19	3-3-19	社1	13.0	12.7	3.5	0.4	黒曜石	石核	5 733	給付. 給片
	19	社1	56.1	55.4	31.8	72.7	凝灰岩	楕円礫	667	
	29	社1	39.0	40.8	13.9	14.0	黒曜石	縁器	6 722	エンド・スクレイパー. 給付付録. 削いた給
	38	社1	27.8	15.3	12.5	4.9	玄武岩	方割礫B	668	
20	3-4-30	社2	154.3	51.7	48.6	619.7	安山岩	たたき石	7 728	一層一敷層. 289-379(05-29. 16-86. 1層)と給
	31	社2	48.0	40.1	25.8	36.1	凝灰岩	亜色礫	784	
	31	社2	-	-	-	0.2	黒曜石	剥片	801	
	31	社2	-	-	-	7.2	黒曜石	剥片	799	
	31	社7	-	-	-	0.2	黒曜石	剥片	800	
	32	社1	42.4	18.0	5.4	4.2	黒曜石	削器	8 952	削いた. 前記付録. 給付. 削いた給付
21	2-4-75	社1	50.0	26.2	12.0	14.9	黒曜石	石核	9 951	2層. 削いた給
	75	社1	24.2	11.1	6.5	1.3	黒曜石	R・F	957	削いた給
	75	社1	-	-	-	0.3	黒曜石	B・F	711	3並り
	75	社1	-	-	-	29.2	黒曜石	剥片	710	711と社. 78並り
22	1-4-59	社1	31.3	18.7	2.8	1.9	凝結礫	石斧	875	削片
	99	社1	128.1	103.0	25.5	360.2	安山岩	石皿	10 744	削. 481-874(05-81, 14-99)と給
28	2-3-37	社1	68.1	117.7	56.8	700.0	安山岩	石皿	11 822	削片. 削いた給. 給付. 削片
	47	社2	-	-	-	0.4	黒曜石	剥片	819	
32	2-3-91	社1	23.4	23.4	4.1	1.9	黒曜石	U・F	797	
	91	社1	-	-	-	7.5	黒曜石	剥片	798	802と社. 2並り
	91	社1	30.2	35.4	14.2	17.8	砂岩	砥石	12 823	削. 前記付録
33	1-3-83	社1	38.6	22.8	8.6	7.6	頁岩	R・F	962	削いた給
	83	社1	53.2	51.8	7.9	17.6	頁岩	接合資料	13 841	832(13-94)+621(13-95)削・F (削付付録)と833(13-94)削と給
	83	社1	-	-	-	5.0	黒曜石	剥片	839	840と社. 2並り

5) 焼土

75ヵ所を確認した。分布から7つのグループに分けられる。

- A. 発掘区北側の段丘縁にあるもの (FP 1)
- B. 沢跡北側に分布するもの (2~8)
- C. 沢跡南側に分布するもの (10~19・22~29)
- D. 1・5、1・6区に集中するもの (20・30~34・36・38・40)
- E. 3・5区に集中するもの (21・35・37・39・41)
- F. 0・4区~4・1区にかけてほぼ一列に並ぶもの (42~53・55~60・64~70)
- G. Fより南側に分布し、発掘区の南に連なるとされるもの。(54・61~63・71・73~75)

FP 1と62を除き縄文時代中期の所産と思われる。Dは多量の遺物が出土しており、焼土出土の遺物と周囲の遺物との関わり、TP 10との関係などについて「まとめ」で詳述する。なお、FP 59は106ページのTP 24に記載した。

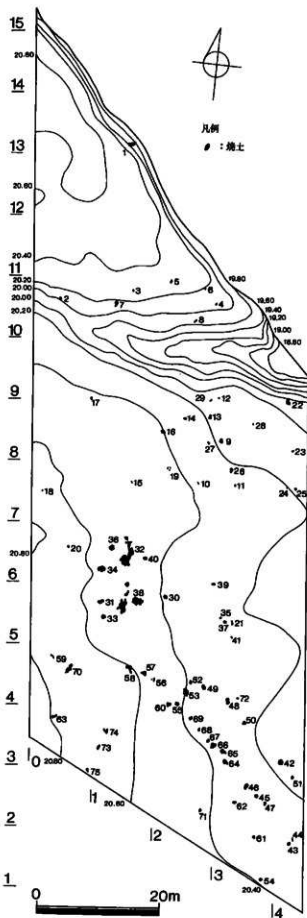
FP 1 1・13区の段丘縁で確認した。確認面はⅡ層上面で、続縄文時代以降のものと思われる。上下2枚の焼土が認められた。いずれも良く焼けて締まっており、bは炭化物を含む。フローテーションでaからはクルミの殻が、bからは不明種子粒1点が得られている。

FP 2 2~8は、沢跡北側に分布する焼土である。いずれもフローテーションを実施したが、植物種子は検出されていない。2はⅡ層中位で確認した。小規模で、焼けも弱く締まっていない。

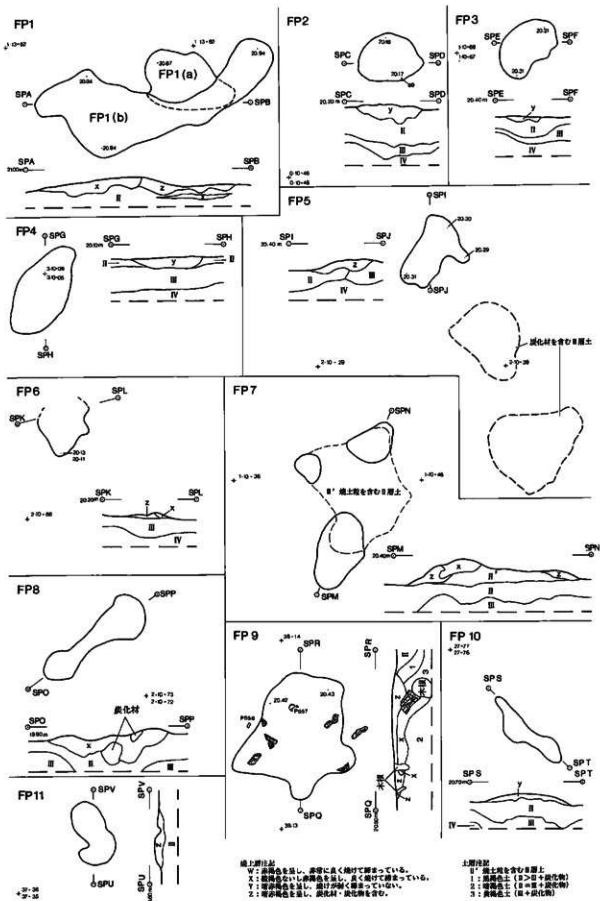
FP 3 Ⅱ層中位で確認した。2同様小規模で焼けも弱く締まっていない。

FP 4 Ⅱ層下位で確認した。焼けが弱く締まっていない。

FP 5 Ⅱ層中位で確認した。焼土とⅡ層とが入り混じった様子で、暗赤褐色を呈し全体に炭化材を含む。すぐ南側に、本焼土に伴う2ヵ所の炭化材集中範囲がある。



図V-2-57 焼土の分布

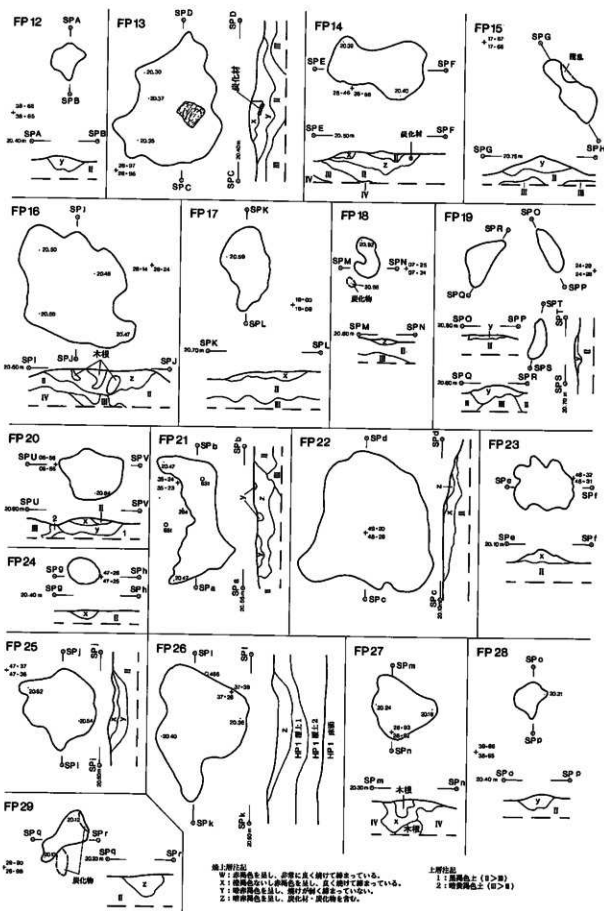


炭化層上
 V: 炭化層を呈し、非常に良く焼けて固まっている。
 X: 炭化層を呈し、赤褐色を呈し、長く焼けて固まっている。
 Y: 暗赤褐色を呈し、炭化層を呈していない。
 Z: 暗赤褐色を呈し、炭化材・炭化層を含む。

土層上
 1: 炭化層を含む層上
 2: 暗赤褐色土 (2>30%炭化材)
 3: 暗赤褐色土 (炭+炭化材)

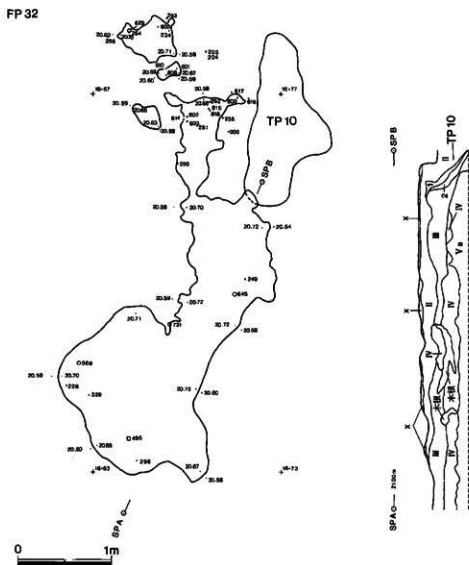
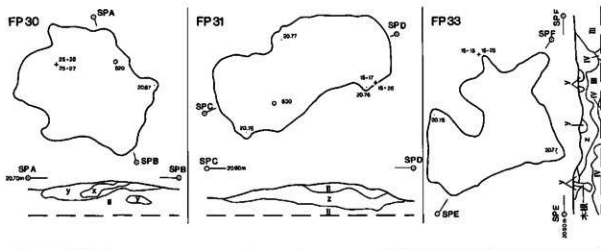
図V-2-58 焼土平面及び断面 (I)

- FP 6 北側を調査ミスで失った。沢跡北側では、唯一Ⅲ層上面で確認した焼土である。部分的に良く焼けて橙褐色を呈し、その他の部分には炭化物を含む。
- FP 7 Ⅱ層中位で確認した。炭化物混じりの焼土3ヵ所があり、その間に焼土粒混じりの層が広がっている。
- FP 8 Ⅱ層中位で確認した。炭化材を含み、良く焼けて締まっている。
- FP 9 Ⅱ層中位で確認した。多量の炭化材を含み、良く焼けて締まっている。焼土中及び西縁から萩ヶ岡2式土器片が出土している。
- FP 10 Ⅱ層上位で確認した。焼けが弱く締まっていない。
- FP 11 Ⅱ層上位で確認した。炭化物を含む。
- FP 12 沢跡南縁のⅡ層中位で確認した。小規模で、焼けが弱く締まっていない。
- FP 13 Ⅱ層中位で確認した。中央部分は炭化物を含み、良く焼けて締まっている。フローテーションでマタタビ属の種子1点が検出されている。
- FP 14 Ⅱ層中位で確認した。炭化材を含み、良く焼けている。
- FP 15 Ⅱ層上位で確認した。焼けが弱く締まっていない。
- FP 16 Ⅱ層中位で確認した。炭化物を含み比較的厚く焼けているが、焼けは弱く締まっていない。フローテーションで不明種子粒1点が検出されている。
- FP 17 Ⅱ層中位で確認した。薄いが良く焼けている。
- FP 18 Ⅱ層中位で確認した。小規模で炭化物を含む。両側にも小範囲に炭化物がみられる。
- FP 19 Ⅱ層中位で3ヵ所の小規模な焼土を確認した。いずれも焼けは弱く締まっていない。
- FP 20 Ⅱ層中位で確認した。上部は良く焼けて締まっている。
- FP 21 Ⅱ層中位で確認した。炭化物を含み比較的厚く焼けているが、焼けは弱く締まっていない。焼土中から萩ヶ岡2式土器片と黒曜石の焼けた割片各1点が出土している。
- FP 22 沢跡南縁のⅡ層中位で確認した。比較的規模が大きく、炭化物を含み良く焼けている。
- FP 23 Ⅱ層中位で確認した。良く焼けて締まっている。
- FP 24 Ⅱ層中位で確認した。小規模だが良く焼けて締まっている。
- FP 25 Ⅱ層中位で確認した。上部は良く焼けて締まっている。焼土上から萩ヶ岡2式土器片1点が出土している。
- FP 26 HP 1の覆土上面に位置する。炭化物を含み締まりはない。
- FP 27 Ⅳ層上面で確認した。木根による攪乱で動かされているが、良く焼けており締まっている。
- FP 28 Ⅱ層中位で確認した。小規模で焼けも弱く締まっていない。
- FP 29 沢跡南縁のⅡ層中位で確認した。小規模で、炭化物を多く含む。フローテーションでクルミの殻が検出されている。
- FP 30 Ⅱ層中位で確認した。炭化物を含み良く焼けている部分(x)と流れて広がった範囲(y)に分かれる。焼土中から萩ヶ岡2式土器の底部片が出土している。またフローテーションで、不明種子粒2点が得られている。
- FP 31 Ⅱ層中位で確認した。炭化物を含み良く焼けている。焼土中から萩ヶ岡2式土器細片が出土している。
- FP 32 Ⅱ層中位で確認した。大規模で焼けが弱く締まっていない。TP 10が埋没したのちに形成されている。焼土上面より萩ヶ岡2式土器片5点、石鏃、R・F各1点、焼土中より天神山式土器片1点、亜円礫1点が出土した。また、黒曜石の焼けた割片が大量に出土している。



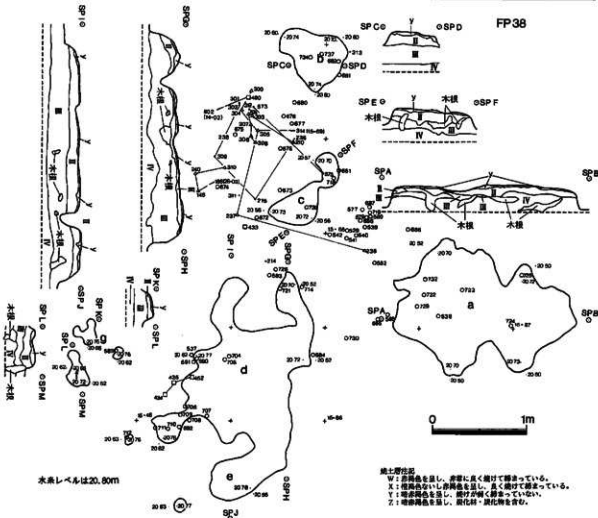
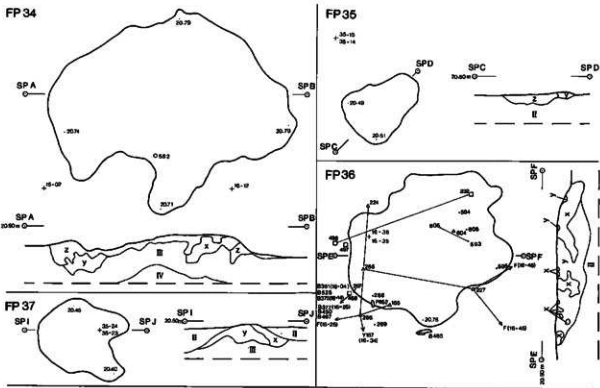
図V-2-59 焼土平面及び断面 (2)

- FP 33 Ⅲ層上面で確認した。炭化物を多く含むが、焼けは弱く締まりもない。
- FP 34 Ⅲ層上面で確認した。比較的大規模で、炭化物を多く含む。焼土上面及び周辺から石斧片が出土している。またフローテーションでクルミの殻が検出されている。
- FP 35 Ⅱ層中位で確認した。炭化物を含むが、焼けは弱く締まりもない。
- FP 36 Ⅱ層中位で確認した。比較的大規模で、良く焼けて締まっている部分を中心に線を引いた範囲以上に焼土混じりのⅡ層が広がっている。焼土上面から石斧、石斧片、焼けた礫、掘器、焼けたR・F、U・F、黒曜石の剥片が出土し、これらは周辺から出土した遺物と密接な接合関係がある。また、萩ヶ岡2式土器片も1点出土している。
- FP 37 Ⅱ層中位で確認した。橙褐色を呈し良く焼けて締まっている部分と、焼けの弱い部分がある。
- FP 38 Ⅱ層中位で確認した。大規模で焼けが弱く締まっていない。a～gを中心に、一帯に焼土混じりのⅡ層が広がっている。掘器、掘器、石斧、R・F、黒曜石の剥片、方割礫が出土しており、石器のほとんどは焼け弾けている。これらは周辺から出土した遺物と密接な接合関係がある。土器片は円筒上層式3点、萩ヶ岡1式1点、萩ヶ岡2式11点が出土しており、周辺からも萩ヶ岡2式を中心とした同時期の土器片、試し焼き粘土と思われるものが出土している。
- FP 39 Ⅱ層中位で確認した。焼けが弱く締まっていない。焼土上面からメノウ剥片2点、黒曜石の焼けた剥片1点、焼土中より萩ヶ岡2式土器片が1点出土している。
- FP 40 Ⅱ層中位で確認した。焼けが弱く締まっていない。
- FP 41 Ⅱ層中位で確認した。焼けは弱く締まりもない。
- FP 42 Ⅱ層中位で確認。良く焼けて締まっている部分と、焼けが弱く締まっていない部分がある。焼土上面から天神山式土器片1点、焼土中から萩ヶ岡2式土器片2点が出土した。
- FP 43 Ⅱ層中位で確認。良く焼けて締まっている部分と炭化物を含む部分、流れて拡がった部分に分かれる。フローテーションにより萩ヶ岡2式土器片1点が得られた。
- FP 44 Ⅱ層中位で2ヶ所の小規模な焼土を確認した。炭化物を含み良く焼けて締まっている。
- FP 45 Ⅱ層下位で確認。良く焼けて締まっている部分と、焼けが弱く締まっていない部分がある。焼土上面と焼土中から萩ヶ岡2式土器片が1点ずつ出土した。
- FP 46 Ⅱ層下位で確認。良く焼けて締まっている部分と、焼けが弱く締まっていない部分がある。萩ヶ岡2式、天神山式土器片、黒曜石の焼けた礫皮片が出土している。
- FP 47 Ⅱ層下位で確認した。良く焼けて締まっている。
- FP 48 Ⅱ層下位で確認。良く焼けて締まっている部分と、焼けが弱く締まっていない部分がある。焼土下面から石斧片が1点出土している。
- FP 49 Ⅱ層下位で確認。良く焼けて締まっている部分と、焼けが弱く締まっていない部分がある。焼土中から萩ヶ岡2式土器片が1点出土している。
- FP 50 Ⅱ層中位で確認。良く焼けて締まっている部分と、焼けが弱く締まっていない部分がある。焼土中から萩ヶ岡2式土器片が3点出土している。
- FP 51 Ⅱ層下位で確認。良く焼けて締まっている部分と、焼けが弱く締まっていない部分がある。焼土上面から萩ヶ岡2式土器片が2点出土している。
- FP 52 Ⅱ層中位で確認。良く焼けて締まる。焼土の下から萩ヶ岡2式土器片が出土している。
- FP 53 Ⅱ層下位で確認した。比較的大規模で、良く焼けて締まっている部分と流れて拡がった部分がある。焼土上面から石礫1点、縞頁岩のR・F1点、黒曜石の剥片2点が出土している。いずれも焼けている。



焼土層の記号
 W:赤褐色を呈し、赤褐色に近く焼けて跡残っている。
 X:橙褐色を呈し、赤褐色を呈し、良く焼けて跡残っている。
 Y:暗赤褐色を呈し、良好に焼けていない。
 Z:暗赤褐色を呈し、炭化材・炭化物を含む。

図V-2-60 焼土平面及び断面 (3)



図V-2-61 焼土平面及び断面 (4)

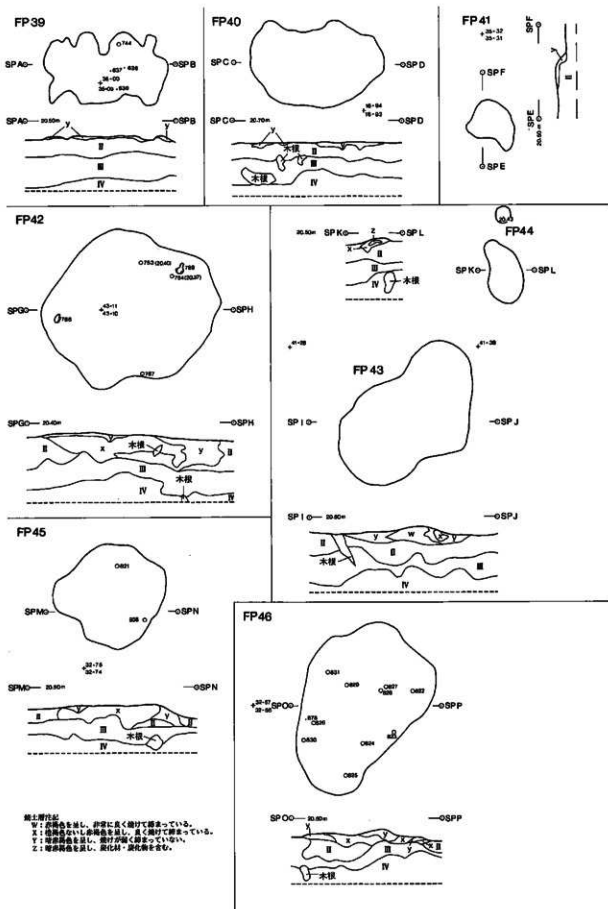
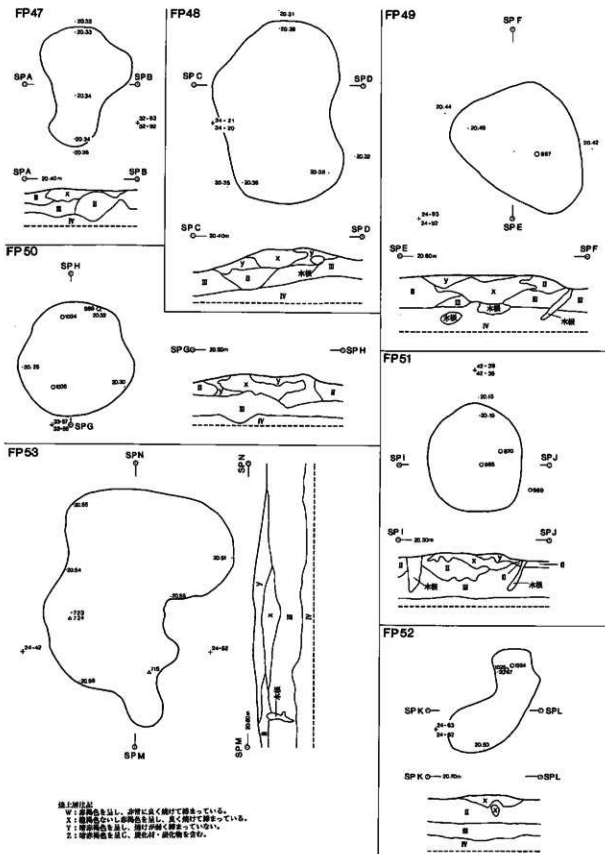
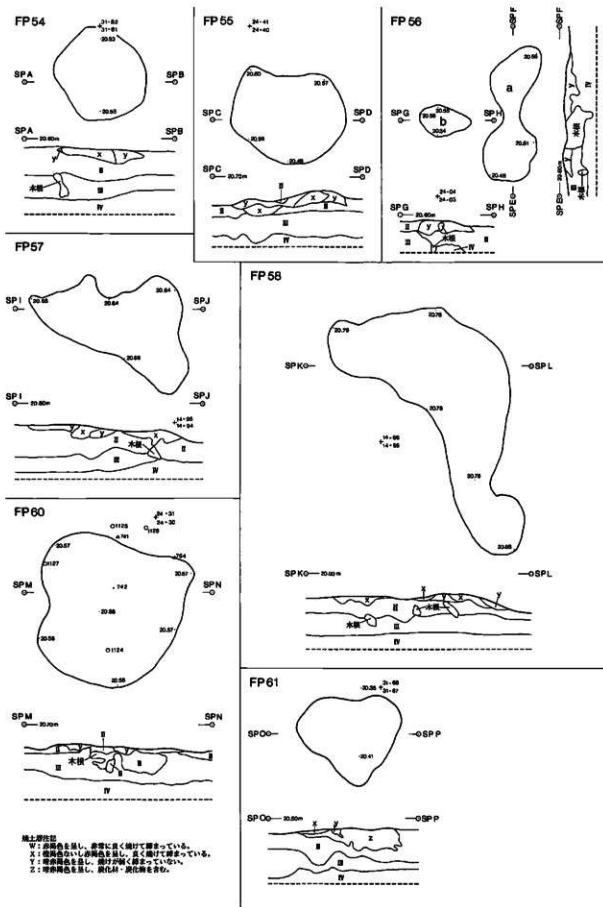


図 V-2-62 焼土平面及び断面 (5)

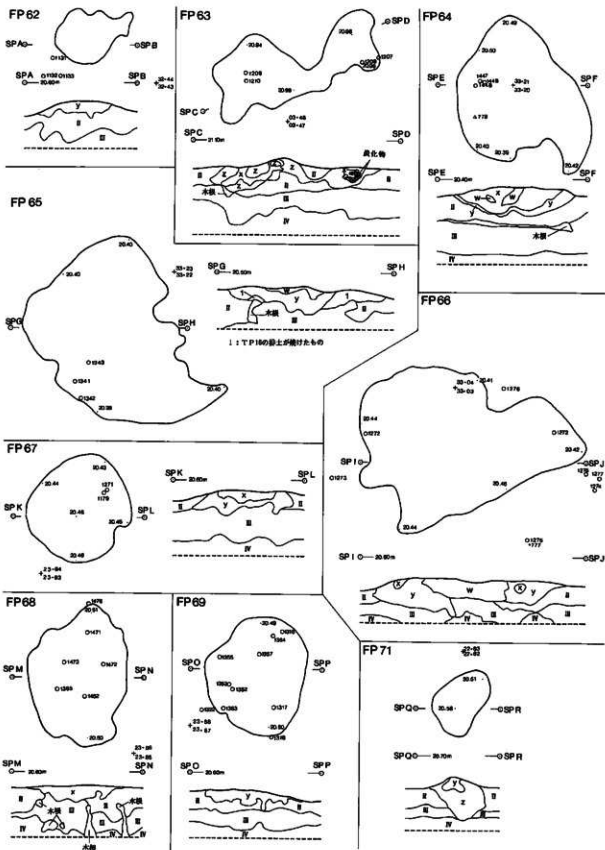
- FP54 II層中位で確認。良く焼けて締まっている部分と、焼けが弱く締まっていない部分がある。
- FP55 II層下位で確認。良く焼けて締まっている部分と、焼けが弱く締まっていない部分がある。
- FP56 II層下位で確認した。木根の攪乱により動かされている。a、bのあいだにも焼土混じりのII層が広がっている。焼けが弱く締まっていない。
- FP57 II層中位で確認。良く焼けて締まっている部分と、焼けが弱く締まっていない部分がある。
- FP58 II層中位で確認。比較的大規模で、良く焼けて締まる部分と流れて広がった部分がある。
- FP60 II層下位で確認した。焼けが弱く締まっていない。焼土上面から萩ヶ岡2式、天神山式土器片が各3点、楔形石器、R・F、焼けた剥片が各1点出土している。
- FP61 II層中位で確認。良く焼けて締まっている部分、焼けが弱く締まっていない部分、炭化物を含む部分がある。
- FP62 II層中位で確認した。焼けが弱く締まっていない。焼土上面からU・Fが1点、焼土横に東銅路Ⅲ式土器片が4点出土している。
- FP63 II層中位で確認。多量の炭化物を含み、良く焼けて締まっている。焼土中から萩ヶ岡2式土器片が4点出土している。
- FP64 TP16排土下II層中位で確認した。非常に良く焼けて締まる部分、良く焼けて締まっている部分、焼けが弱く締まっていない部分がある。
- FP65 TP16排土下II層中位で確認。良く焼けて締まる部分と焼けが弱く締まっていない部分がある。焼土上面から萩ヶ岡2式土器片が3点とR・F、黒曜石の焼けた剥片各1点が出土した。
- FP66 II層中位で確認した。非常に良く焼けて締まる部分、良く焼けて締まっている部分、焼けが弱く締まっていない部分がある。焼土中から萩ヶ岡2式土器片が1点出土している。
- FP67 II層中位で確認した。良く焼けて締まっている部分、焼けが弱く締まっていない部分がある。焼土中から萩ヶ岡2式土器片が2点出土している。
- FP68 II層中位で確認した。良く焼けて締まっている。焼土中から萩ヶ岡2式土器片が1点、焼土上面から萩ヶ岡2式土器片5点が出土している。
- FP69 II層中位で確認した。焼けが弱く締まっていない。萩ヶ岡2式土器片が焼土中から4点、焼土上面から7点出土している。
- FP70 II層中位で確認した。風倒のくぼみを利用したものと思われる。比較的大規模が大きく、良く焼けて締まっている部分と焼けが弱く締まっていない部分がある。
- FP71 II層中位で確認した。小規模で焼けが弱く締まっていない。多量の炭化物を含む。
- FP72 II層下部で確認、TP-20の北東側に重複しこれに切られる。規模は小さいが下位の土壌は比較的深くまで焼け締まりを見せる(x層)。遺物は出土していない。
- FP73 II層中位で確認した。良く焼けて締まっている部分と焼けが弱く締まっていない部分がある。焼土中から天神山式土器片1点が出土している。
- FP74 II層中位で確認した。木根の攪乱により動かされている。線を引いた部分を中心に焼土混じりのII層が広がっている。焼土上から萩ヶ岡2式土器片が3点出土している。
- FP75 II層中位で確認した。炭化物を含み焼けが弱く締まっていない。



図V-2-63 焼土平面及び断面 (6)



図V-2-64 焼土平面及び断面 (7)



焼土層分布

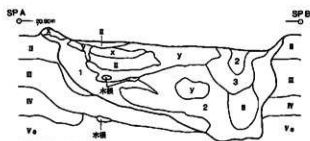
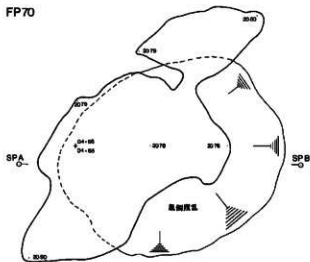
W:赤褐色を呈し、非常に長く続けて残っている。
 X:赤褐色を呈し、やや褐色を呈し、長く続けて残っている。
 Y:赤褐色を呈し、やや暗く残っている。
 Z:暗褐色を呈し、炭化物・炭化物を含む。

土層分布

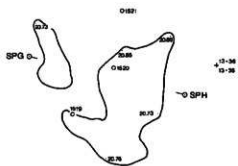
I:赤褐色を呈する土
 1:黒褐色土 (I+II+炭化物)
 2:暗褐色土 (I+II+炭化物)
 3:黄褐色土 (III+炭化物)

図V-2-65 焼土平面及び断面 (a)

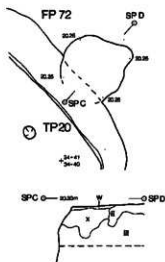
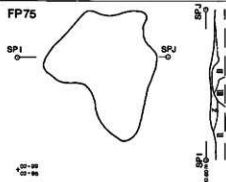
FP70



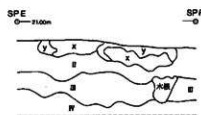
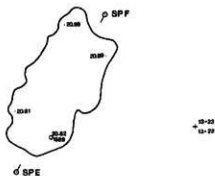
FP74



FP75



FP73



焼土層位記

- W : 赤褐色を呈し、砂質によく焼けて固まっている。
- X : 暗褐色ないし赤褐色を呈し、よく焼けて固まっている。
- Y : 暗褐色を呈し、砂質で焼く程度が不十分である。
- Z : 暗褐色を呈し、炭化材・炭化物を含む。

土層位記

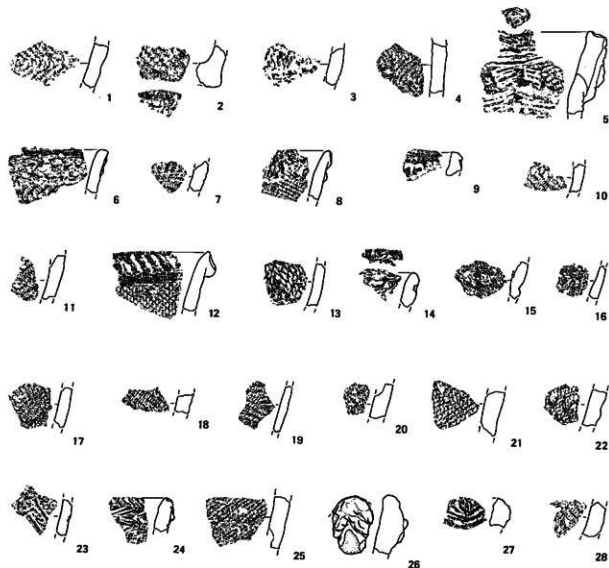
- I : 黒色土 (B+H)
- II : 黒褐色土 (B>H)
- III : 暗褐色土 (B>H)
- IV : 暗褐色土 (B>H)

図V-2-66 焼土平面及び断面 (9)

焼土出土の土器 (図V-2-67)

24ヶ所から94点の縄文中期の土器片が出土している。出土点数はFP 38が最も多く、a～dとgから焼土関連Ⅱ層を含め62点出土している。dからは試し焼き粘土と思われる細片が5点出土している。

図番3・5・7～9・12・14・23・24には半截竹管状工具による施文が施されている。1・4は胎土に砂粒を含む。2は底面に縄文が認められる。3・7は摩耗しているが沈線が認められる。5は突起と口縁肥厚帯、口縁下の三角突起に沈線が施されている。突起頂部は指頭の押擦により凹んでいる。三角突起より垂下する貼付が認められる。6はFP 42関連Ⅱ層のもので、口縁の粘土紐が爪により刻まれている。8は口縁の貼付に施文が認められる。9は口縁肥厚帯に刺突が施されている。10は胎土が良く内面は平滑である。12は口縁肥厚帯に刻みが施されている。地文は複節である。14は口縁に刺突がある。15・16はFP 62関連Ⅱ層のものである。縄端圧痕がみられる。21の地文は複節。22～24・28の内面は平滑である。23には交差する沈線、24には矢羽状の刻みがみられる。26はFP 70関連Ⅱ層のもので、貼付された粘土紐が爪で刻まれている。27は胴部の三角状突起で沈線が施されている。



図V-2-67 焼土出土の土器

表V-2-89 FP出土土器一覽

出土番号	円筒土器	灰分層1	灰分層2	天神山	合 計
21			1		1
30			1		1
31			1		1
32			5	2	7
34			3		3
36			2		2
38a			6		6
38b		1	1		2
38d	3		4		7
39			1		1
42			2	1	3
43			1		1
45			2		2
46			11	3	14
49			1		1
50			3		3
51			2		2
60			6		6
63			4		4
65			3		3
66			1		1
67			2		2
68			6		6
69			11		11
73				1	1
74			3		3
合 計	3	1	83	7	94

表V-2-90 FP-9関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・8-03	胴部	3	灰分層2	558	横, 5cmF
—	3・8-13	胴部	6	灰分層2	557	5cmF, 細片

表V-2-91 FP-21焼土中出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
1	3・5-34	胴部	1	灰分層2	631	結核形状

表V-2-92 FP-26関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・7-29	胴部	2	灰分層2	486	横, 9cm上

表V-2-93 FP-21関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・5-23	胴部	1	灰分層2	651	横, 3cmF

表V-2-94 FP-30焼土中出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
2	2・5-28	底部	1	灰分層2	620	底に縄文, 厚片

表V-2-95 FP-31焼土中出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・5-16	胴部	1	灰分層2	630	細片, 胎土に焼

表V-2-96 FP-32焼土中出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
3	1・6-64	胴部	2	天神山	645	半数竹管の切断

表V-2-97 FP-32焼土上出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・6-57	胴部	3	灰分層2	629	細片, 胎土に焼
—	1・6-44	胴部	1	灰分層2	568	細片, 胎土に焼
—	1・6-46	胴部	1	灰分層2	1802	FC集の中の土片

表V-2-98 FP-32関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・6-54	胴部	1	天神山	731	横, 同高

表V-2-99 FP-34焼土中出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・6-02	胴部	3	灰分層2	1801	FC集の中の土片

表V-2-100 FP-34関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・6-02	底部	1	灰分層2	562	5cmF, 底木屑

表V-2-101 FP-36焼土中出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・6-35	胴部	1	灰分層2	652	細片, 胎土に焼

表V-2-102 FP-36焼土上出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・6-36	胴部	1	灰分層2	1803	FC集の中の土片

表V-2-103 FP-38a焼土中出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・5-67	胴部	1	灰+陶2?	729	細片, 剥離
—	1・5-77	胴部	1	灰+陶2?	732	細片, 剥離
—	1・5-77	胴部	1	灰+陶2?	722	細片, 胎土文様
—	1・5-77	胴部	2	灰+陶2?	724	剥離, 胎土文様
—	1・5-87	胴部	1	灰+陶2?	725	細片, 剥離

表V-2-104 FP-38a関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・5-67	胴部	1	灰+陶2	582	横, 同高, 胎土
—	1・5-67	胴部	1	天神山	585	横, 1m上
—	1・5-67	胴部	1	灰+陶1	586	横, 同高, 横
—	1・5-68	胴部	2	灰+陶2?	581	横, 2m上
—	1・5-77	胴部	1	灰+陶2	538	横, 同高, 胎土
—	1・5-77	胴部	1	灰+陶2?	723	1m下, 細片
—	1・5-78	胴部	1	灰+陶2?	727	横, 同高, 剥離

表V-2-105 FP-36b焼土中出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・5-59	胴部	1	灰+陶2?	734	細片, 剥離
—	1・5-69	胴部	1	灰+陶1?	682	RL, 胎土文様

表V-2-106 FP-36b関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・5-59	胴部	1	灰+陶2?	678	横, 同高
—	1・5-59	胴部	1	中条路	677	横, 2m上
—	1・5-59	胴部	1	灰+陶2?	680	横, 1m上
—	1・5-59	胴部	1	灰+陶2	737	1m下, 細片
—	1・5-69	胴部	1	灰+陶2?	681	横, 同高, 剥離

表V-2-107 FP-38c関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・5-58	同部	1	中条路	672	横, 同高
—	1・5-58	同部	1	灰+陶2?	676	横, 同高, 細片
—	1・5-58	同部	1	灰+陶2?	673	横, 同高, 細片
—	1・5-58	同部	1	中条路	736	1m下, 細片
—	1・5-59	突起	1	灰+陶2	675	横, 同高
—	1・5-67	同部	1	中条路	542	横, 10m下
—	1・5-67	同部	1	灰+陶2	541	横, 同高, LR
—	1・5-67	同部	1	灰+陶2	540	横, 同高, 胎土
—	1・5-68	同部	1	灰+陶2?	718	2m下, 胎土
—	1・5-68	同部	1	灰+陶2?	529	横, 2m上

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・5-68	同部	1	灰+陶2?	686	横, 同高, 細片
—	1・5-68	同部	1	灰+陶2	577	横, 同高, 剥離
—	1・5-68	同部	1	灰+陶2	539	横, 同高, 剥離
—	1・5-68	同部	1	灰+陶2?	579	横, 同高, 剥離
—	1・5-68	同部	1	灰+陶2?	719	横, 同高, 剥離
—	1・5-68	同部	1	天神山	580	横, 同高, 胎土
—	1・5-68	同部	1	灰+陶2?	687	横, 同高, 胎土
—	1・5-68	同部	1	灰+陶2	684	横, 同高, 胎土
—	1・5-68	同部	1	灰+陶2?	685	横, 3m下

表V-2-108 FP-38d焼土中出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・5-45	胴部	1	灰+陶2?	592	細片, 剥離
—	1・5-46	胴部	3	円筒上層?	590	剥離, 内面平滑
—	1・5-46	胴部	1	灰+陶2?	707	細片, 剥離
—	1・5-46	胴部	1	灰+陶2?	705	細片, 剥離
—	1・5-46	胴部	1	灰+陶2?	704	細片, 剥離

表V-2-109 FP-38d関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・5-35	胴部	1	灰+陶2?	712	2m下, 細片
—	1・5-45	胴部	1	灰+陶2?	711	2m下, 細片
—	1・5-45	胴部	1	灰+陶2?	710	2m下, 細片
—	1・5-46	胴部	1	灰+陶2	709	3m下, 細片
—	1・5-46	胴部	1	灰+陶2	706	2m下, 胎土
—	1・5-46	胴部	1	灰+陶2	708	2m下, 同高
—	1・5-46	胴部	1	天神山	537	2m下, 剥離
—	1・5-46	胴部	1	灰+陶2	591	横, 同高
—	1・5-48	胴部	1	灰+陶2	674	横, 同高
—	1・5-56	胴部	1	東条路	584	横, 同高
—	1・5-57	口縁	1	灰+陶1	583	横, 同高
—	1・5-57	胴部	1	中条路	726	横, 6m下
—	1・5-57	胴部	5	剥離胎土?	714	横, 10m下
—	1・5-66	胴部	1	灰+陶2	730	横, 3m下

表V-2-110 FP-38g関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・5-36	胴部	1	天神山	589	2m下, 剥離

表V-2-111 FP-39焼土中出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・6-00	胴部	1	灰+陶2	744	細片, 胎土文様

表V-2-112 FP-42焼土中出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
4	4・3-00	割部	1	灰+陶2	768	結核羽状, 磨耗
—	4・3-10	割部	1	灰+陶2	767	割片, 割縁

表V-2-113 FP-42焼土上出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
5	4・3-11	突起	1	天神山	769	半截竹管の底文

表V-2-114 FP-42関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
6	4・3-11	口縁	1	灰+陶1	754	6m上
—	4・3-11	口縁	1	粘土質	753	7m上

表V-2-115 FP-43焼土中出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	4・1-27	割部	2	灰+陶2	1792	7m下

表V-2-116 FP-45焼土中出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
7	3・2-75	割部	1	灰+陶2	821	半截竹管の底文

表V-2-117 FP-45焼土中出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・2-75	割部	1	灰+陶2	938	磨耗, 粘土状

表V-2-118 FP-46焼土中出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
8	3・2-56	割部	1	灰+陶2	823	半截竹管の底文

表V-2-119 FP-46焼土上出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・2-56	割部	1	灰+陶2	830	割縁, 割片
—	3・2-56	割部	1	灰+陶2	826	割縁, 割片
—	3・2-56	割部	1	天神山	825	割片, 磨耗
—	3・2-56	割部	1	天神山	824	割片, 磨耗
9	3・2-57	口縁	1	天神山	831	半截竹管の底文
10	3・2-57	割部	1	灰+陶2	829	結核羽状
—	3・2-57	割部	4	灰+陶2	828	割片, 粘土状
—	3・2-57	割部	2	灰+陶2	827	RL, 割縁
—	3・2-57	割部	1	灰+陶2	822	磨耗, 割片

表V-2-120 FP-49焼土中出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・4-93	割部	1	灰+陶2	967	磨耗, 割片

表V-2-121 FP-50焼土中出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
11	3・3-57	割部	1	灰+陶2	1006	粘土状, LR
—	3・3-57	割部	1	灰+陶2	1004	磨耗, 粘土状
—	3・3-57	割部	1	灰+陶2	988	割片, 粘土状

表V-2-122 FP-51焼土上出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	4・2-38	割部	1	灰+陶2	968	割縁, 割片
—	4・2-38	割部	1	灰+陶2	970	割縁, 割片

表V-2-123 FP-51関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	4・2-38	割部	1	灰+陶2	969	溝, 同高, 割片

表V-2-124 FP-52関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・4-63	割部	1	灰+陶2	1025	6m下, RL
—	2・4-63	割部	3	灰+陶2	1024	5m下, LR

表V-2-125 FP-59関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	0・4-28	割部	1	灰+陶2	1106	割片, 割縁
—	0・4-28	割部	1	灰+陶2	1107	割片, 割縁

表V-2-126 FP-60焼土上出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・4-20	割部	3	灰+陶2	1127	割縁, 割片
12	2・4-20	口縁	3	天神山	1124	口縁部厚く割片

表V-2-127 FP-60関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
13	2・4-20	割部	1	灰+陶2	1125	溝, 同高, 磨耗
14	2・4-20	口縁	1	灰+陶2	1126	溝, 同高, 竹

表V-2-128 FP-62関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
15	3・2-34	割部	1	灰+陶2	1132	溝, 同高
—	3・2-34	底部	1	灰+陶2	1164	溝, 同高
16	3・2-34	割部	1	灰+陶2	1131	溝, 同高
—	3・2-34	割部	1	灰+陶2	1133	溝, 同高, 磨耗

表V-2-129 FP-63焼土中出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
17	0・3-38	胴部	1	灰ヶ岡2	1210	絵刺肌文
—	0・3-38	胴部	1	灰ヶ岡2	1209	摩耗, LR?
18	0・3-48	胴部	1	灰ヶ岡2	1208	細片, RL
—	0・3-48	胴部	1	灰ヶ岡2	1207	細片, 剥離

表V-2-130 FP-64関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・3-11	胴部	1	灰ヶ岡2	1448	横, 7m上
19	3・3-11	胴部	1	灰ヶ岡2	1447	横, 6m上
—	3・3-11	胴部	1	灰ヶ岡2	1449	横, 6m上

表V-2-131 FP-65焼土上出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
20	3・3-12	胴部	1	灰ヶ岡2	1341	細片, LR
—	3・3-12	胴部	1	灰ヶ岡2	1342	細片, RL
—	3・3-12	胴部	1	灰ヶ岡2	1343	細片, 摩耗

表V-2-132 FP-66焼土中出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-93	胴部	1	灰ヶ岡2	1272	細片, 剥離

表V-2-133 FP-66関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
21	2・3-93	胴部	1	天神山	1273	横, 同高, 剥離
—	3・3-03	胴部	3	天神山	1276	横, 同高, 剥離
—	3・3-03	胴部	1	灰ヶ岡2	1275	横, 同高, LR
—	3・3-03	口縁	1	天神山	1278	横, 同高, 剥離
—	3・3-03	胴部	1	灰ヶ岡2	1274	横, 同高, LR
—	3・3-03	胴部	1	灰ヶ岡2	1277	横, 同高, 剥離

表V-2-134 FP-67焼土中出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-94	胴部	1	灰ヶ岡2	1179	細片, LR
22	2・3-94	胴部	1	灰ヶ岡2	1271	絵刺肌状, 砂

表V-2-135 FP-68焼土中出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-76	胴部	1	灰ヶ岡2	1452	細片, 剥離

表V-2-136 FP-68焼土上出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-76	胴部	1	灰ヶ岡2	1365	細片, 剥離
—	2・3-76	胴部	2	灰ヶ岡2	1473	細片, 剥離
—	2・3-76	胴部	1	灰ヶ岡2	1471	細片, 剥離
—	2・3-76	胴部	1	灰ヶ岡2	1472	細片, 剥離

表V-2-137 FP-68関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-76	胴部	1	手番	1476	横, 同高

表V-2-138 FP-69焼土中出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
23	2・3-68	胴部	1	灰ヶ岡2	1355	手付竹管の破片
—	2・3-68	胴部	1	灰ヶ岡2	1363	細片, 剥離
—	2・3-68	胴部	1	灰ヶ岡2	1353	剥離, 内面平滑
—	2・3-68	口縁	1	灰ヶ岡2	1357	細片, 剥離

表V-2-139 FP-69焼土上出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-67	胴部	1	灰ヶ岡2	1318	横, 1m上
—	2・3-68	口縁	1	灰ヶ岡2	1322	横, 同高, 竹
—	2・3-68	胴部	2	灰ヶ岡2	1352	細片, 剥離
—	2・3-68	胴部	1	灰ヶ岡2	1364	細片, 剥離
24	2・3-68	口縁	1	灰ヶ岡2	1317	矢羽根の跡
25	2・3-68	胴部	1	灰ヶ岡2	1316	摩耗, 胎土欠損

表V-2-140 FP-70関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
26	0・4-66	突起	1	灰ヶ岡1	556	横, 5m上

表V-2-141 FP-73焼土中出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
27	1・3-12	突起	1	天神山	1589	横, 同高

表V-2-142 FP-74焼土上出土土器一覽

図番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・3-25	胴部	1	灰ヶ岡2	1519	細片, LR
28	1・3-25	胴部	1	灰ヶ岡2	1520	RL, 内面平滑
—	1・3-26	胴部	1	灰ヶ岡2	1521	RL, 内面平滑

表V-2-143 焼土出土石器等一覧 (1)

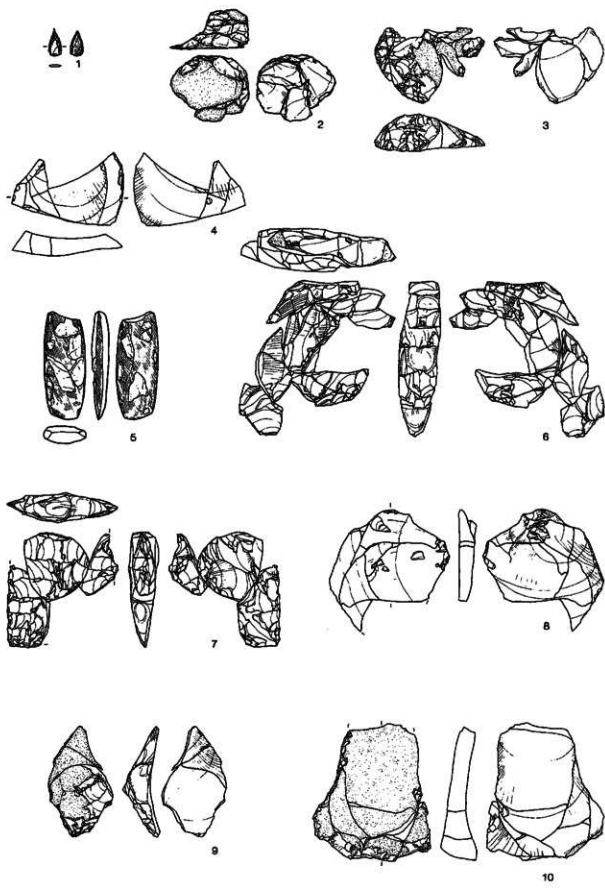
No.	グリッド	層位	径(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)	材質	分類	群	遺跡No.	備考
2	0-10-46	焼土	—	—	—	2.9	黒曜石	B・F		89	
21	3-5-33	焼土	—	—	—	1.5	黒曜石	B・F		264	
32	1-6-37	焼土	—	—	—	1.9	黒曜石	B・F		643	22鉢
	43	焼土	—	—	—	0.3	黒曜石	B・F		228	22鉢、2鉢
	45	焼土	—	—	—	3.7	黒曜石	B・F		643	15鉢
	46	焼土	—	—	—	69.1	黒曜石	B・F		643	724鉢
	47	焼土	12.3	6.3	0.7	0.1	黒曜石	石鏃	1	979	副産物、焼土層
	47	焼土	15.2	14.6	2.6	0.8	黒曜石	R・F		980	副産物、焼土層
	47	焼土	—	—	—	20.4	黒曜石	B・F		643	312鉢
	48	焼土	—	—	—	0.3	黒曜石	B・F		643	5鉢
	53	焼土	46.4	37.0	33.9	60.0	凝灰岩	亜円礫		495	
	53	焼土	—	—	—	0.4	黒曜石	B・F		256	
	56	焼土	—	—	—	0.2	黒曜石	B・F		250	3鉢
	56	焼土	—	—	—	0.3	黒曜石	B・F		614	
	57	焼土	—	—	—	1.8	黒曜石	B・F		234	253-255-600-601-608-610鉢
	65	焼土	—	—	—	+	黒曜石	B・F		249	4鉢、15鉢
	66	焼土	—	—	—	4.8	黒曜石	B・F		205	235-251-252-602-603-609 615-616-618鉢、30鉢
	67	焼土	—	—	—	0.3	黒曜石	B・F		203	204-617鉢、3鉢
34	1-6-03	焼土	24.2	19.4	3.6	1.3	凝結岩	石斧		418	新
	03	焼土	26.7	22.7	3.2	2.0	凝結岩	石斧		419	新
	13	焼土	37.6	27.2	3.0	3.2	凝結岩	石斧		341	新
	14	焼土	27.6	20.4	3.2	2.3	凝結岩	石斧		350	新
	15	焼土	13.8	9.0	0.7	0.2	凝結岩	石斧		427	新
	23	焼土	22.0	18.6	2.4	1.4	凝結岩	石斧		333	新
36	1-6-25	焼土	52.1	62.4	30.5	54.4	凝結岩	石斧	2	376	新、349-335(16-32-34)と給 1)と給
	25	焼土	71.8	41.3	4.9	13.3	凝結岩	石斧		467	新、468-377-450(16-25、26)と給
										351-375(16-04-14、15)、525(16-04、15)と給	

焼土出土の石器 (図V-2-68・69)

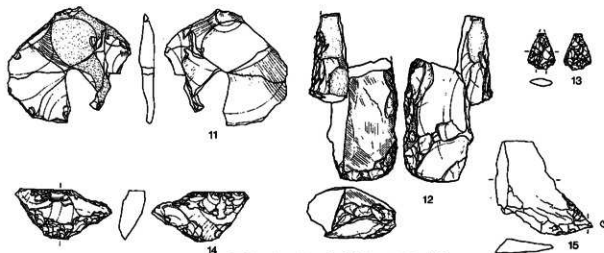
石器類の出土した焼土は14ヵ所ある。その大半は当然ながら焼けた剥片(B・F)類で、殊にFP 32周辺が際立って多く、その数は1,134点に上る。この他FP 32からは石鏃、R・F、亜円礫が各1点出土している。図番1は薄い剥片の周囲に浅い刺離を加えたもので、極めて小さく習作的な石鏃である。FP 34からは、全て同一母岩(黒緑色泥岩)の石斧片ばかりが出土しており、周辺との接合関係もみられる。FP 36からは図番2〜5に示した石器類をはじめ、石斧片、焼けたR・F、B・Fなどが出土している。2は緑色珪質岩の礫皮片接合資料で、全て同一方向からの加撃で刺離されており、焼土北側の包含層との密接な接合関係がある。3は加熱により弾けた(以下「焼け弾け」)破片類の接合資料で、元は礫皮片を素材としたラウンド・スクレイパーであったことが判る。4は一側縁に刃部をもつU・Fで、やはり焼け弾けによって割れている。5は両刃の磨製石斧で基部を欠く、裏面右側が赤化しているが、焼けたものか否かは判然としない。6〜12はFP 38から出土した石器類である。6〜11はいずれも焼け弾けの接合資料で、6は大型の剥片、7は両面加工の大型割器、8は剥片、9〜11はそれぞれ礫皮片を素材とした掻器、R・F、U・Fである。12は打製石斧で、やはり焼け弾けの可能性が高い。なお、付着している黒色有機物(図のスクリーン・トーン部分)をみると、後から加えられた打撃により剥落している箇所がある。13はFP 53出土の石鏃で、先端と基部を欠く。裏面の基部側が焼けて膨れている。14はFP 60出土の楔形石器で焼けている。15はFP 65出土の凝灰岩の礫皮片を素材としたR・Fである。先端が切り出し状に調整されており石鏃の可能性もある。

表V-2-144 FP出土石器等一覧 (2)

No.	グリッド	層位	長(㎝)	幅(㎝)	厚(㎝)	重(g)	材質	分類	図番	備考			
36	1	6-25	土層	59.4	27.2	5.9	6.4	縹磁器	石斧	378	跡: 411(16-25, 土層), 363-334(16-06-33, 土層)と給		
			25	土層	17.9	11.7	2.3	0.5	縹磁器	石斧	410	給	
	25	土層	15.0	25.0	2.0	1.2	縹磁器	石斧	416	給			
	25	土層	38.5	26.7	7.3	9.3	縹磁器	石斧	496	漆-砂層 332(16-36, 土層)と給			
	25	土層	10.6	10.5	2.9	0.4	安山岩	礫	497	跡: 跡付			
	25	土層	43.4	57.6	18.1	28.8	黒曜石	撿器	3	266 ヲツド・カクハ- 遺埋, 224(16-28, 土層), 187-155(16-34-35, 土層)と給			
	25	土層	-	-	-	0.1	黒曜石	B・F	267				
	35	土層	61.3	36.7	9.8	16.9	黒曜石	U・F	4	227 遺埋, 265(16-25, 土層)と給 -(16-45-46, 土層)と給			
	35	土層	84.8	32.3	13.4	55.6	縹磁器	石斧	5	485 瓦 跡付			
	35	土層	30.5	20.6	3.7	1.8	黒曜石	B・F	593	605(16-36, 土層)と給			
	35	土層	-	-	-	+	黒曜石	B・F	595				
	35	土層	-	-	-	0.1	黒曜石	B・F	268	269土, 2給			
	36	土層	-	-	-	+	黒曜石	B・F	594				
	36	土層	26.0	13.1	4.0	1.0	頁岩	R・F	604	新田川の礫片, 跡付			
	36	土層	-	-	-	+	黒曜石	B・F	606				
38	1	5-38	土層	99.1	66.2	19.7	79.8	黒曜石	B・F	6	213 遺埋, 211・212・214(15-48-57, 土層), 233-(07-25, 15-46-47・48, 16-20, 23-01, 土層)と給		
			46	土層	30.2	25.8	11.1	5.8	安山岩	方割礫	434	遺埋, 435-452(15-46, 土層)と給	
	48	土層	78.6	50.9	12.8	36.2	黒曜石	撿器	7	146 遺埋, 両川の礫片, 240・310(15-48, 土層), 156(26-03, 土層)と給			
	48	土層	66.8	65.5	8.9	22.6	黒曜石	B・F	8	239 遺埋, 309・215・236・301・302(15-48-58-59, 土層)と給			
	58	土層	31.0	11.0	3.0	0.8	黒色泥岩	石斧	433	給			
	58	土層	58.6	33.1	14.0	19.6	黒曜石	撿器	9	219 遺埋, 遺埋, 303(15-59, 土層)と給			
	58	土層	73.4	64.5	12.1	55.9	黒曜石	R・F	10	237 遺埋, 遺埋, 300・304・305・238・314(15-59-67-69, 土層)と給			
	58	土層	61.4	59.9	10.5	23.2	黒曜石	U・F	11	308 遺埋, 遺埋, 500・574・306・307・(15-58-59-69, 土層)と給			
	58	土層	35.5	33.4	11.4	14.8	黒曜石	B・F	575	573(15-59, 土層)と給			
	58	土層	-	-	-	+	黒曜石	B・F	311				
	59	土層	133.5	67.2	27.6	331.5	青色泥岩	石斧	12	490 跡付縹磁器 802(14-02, 土層)と給			
	59	土層	-	-	-	0.3	黒曜石	B・F	312				
	68	土層	-	-	-	0.9	黒曜石	B・F	576				
	69	土層	-	-	-	0.1	黒曜石	B・F	313				
	89	土層	-	-	-	0.5	黒曜石	B・F	242	243土, 2給			
89	土層	-	-	-	0.1	黒曜石	B・F	241					
39	3	5-09	土層	-	-	-	0.2	メノウ	剥片	638			
			3	6-00	土層	-	-	-	0.1	黒曜石	B・F	636	
			00	土層	-	-	-	1.5	メノウ	剥片	637		
46	3	2-56	土層	-	-	-	2.1	黒曜石	B・F	678	遺片		
47	3	2-83	土層	33.7	27.0	10.1	8.9	縹磁器	石斧	892	給		
53	2	4-40	土層	-	-	-	0.4	黒曜石	B・F	716			
			41	土層	26.9	17.2	6.7	2.4	縹頁岩	R・F	715	新田川の礫片, 跡付	
			42	土層	19.3	14.4	3.6	0.8	黒曜石	石礫	13	724 新田川, 給, 給, 跡付	
42	土層	-	-	-	3.8	黒曜石	B・F	723					
59	0	4-27	土層	-	-	-	0.2	黒曜石	B・F	740			
			28	土層	-	-	-	1.9	メノウ	B・F	739		
60	2	4-20	土層	52.0	27.3	11.6	12.9	黒曜石	楔形石器	14	741 跡, 跡付		
			20	土層	-	-	-	1.5	黒曜石	B・F	742	743-746・752・753・796土, 10給	
			30	土層	17.4	41.8	4.6	3.8	黒曜石	R・F	754	新田川の礫片, 遺片付	
62	3	2-33	土層	28.6	20.2	3.8	2.3	黒曜石	U・F	764	1層次, 給, 給, 跡付		
65	3	3-03	土層	-	-	-	0.3	黒曜石	B・F	777			
			10	土層	47.2	48.8	10.0	19.0	縹頁岩	R・F	15	778 新田川, 新田川, 給, 給, 給, 給	



図V-2-68 焼土出土の石器 (1)



図V-2-69 焼土出土の石器 (2)

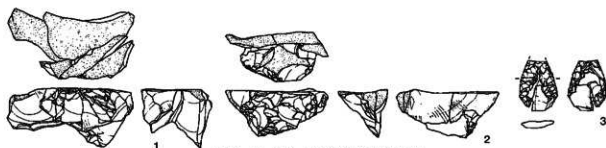
6) F・C集中 (図V-2-70)

TP 5の東側、0・8-93区と1・8-03区を中心に割片・破片の集中がみられた。出土物は黒曜石の割片・破片類1,629点、頁岩の割片2点、石鉄2点があり、全て焼けている。礫石器類や土器片はその範囲内からは出土していない。1・2は焼け弾けた割片類、3は石鉄未製破損品の接合資料である。

これらは、他の地点で焼かれ本地点に一括廃棄されたものと考えられ、FP 32周辺との関連が想定される。なお、調査時には掘り込みのある遺構は確認できなかったが、II層最下位にまで遺物がみられることから、浅い皿状の遺構があった可能性もある。

表V-2-145 F・C集中出土石器等一覧

No.	グリッド	層位	径(φ)	幅(φ)	厚(φ)	重(g)	材質	分類	数量	備考	
1	0・8-83	II層	-	-	-	0.7	黒曜石	B・F	95	2鉢り	
		II層	-	-	-	0.2	黒曜石	B・F	95	2鉢り	
	93	II層	66.6	32.8	29.3	45.2	黒曜石	B・F	1	93 95(08-93, 18-02)と合	
	93	II層	55.0	24.2	22.1	18.4	黒曜石	B・F	2	94 95(08-93)と合、動産計	
	93	II層	14.7	17.8	2.5	0.8	黒曜石	石鉄	122	接合、動産計	
	93	II層	-	-	-	227.3	黒曜石	B・F	95	642鉢り	
	93	II層	-	-	-	0.2	頁岩	B・F	95		
	94	II層	-	-	-	4.1	黒曜石	B・F	95	8鉢り	
	1・8-02	II層	-	-	-	50.9	黒曜石	B・F	95	67鉢り	
		03	II層	25.0	20.5	3.4	1.2	黒曜石	石鉄	3	接合、動産計、-(18-02)と合
		03	II層	-	-	-	95.1	黒曜石	B・F	121	829鉢り
		03	II層	-	-	-	1.1	頁岩	B・F	121	14鉢り
		04	II層	-	-	-	2.4	黒曜石	B・F	95	16鉢り
		04	II層	-	-	-	0.4	頁岩	B・F	95	
12		II層	-	-	-	0.8	黒曜石	B・F	95		
13		II層	-	-	-	11.8	黒曜石	B・F	95	36鉢り	
14	II層	-	-	-	+	黒曜石	B・F	95			



図V-2-70 F・C集中出土の石器

7) 土墳墓 (図V-2-71・72)

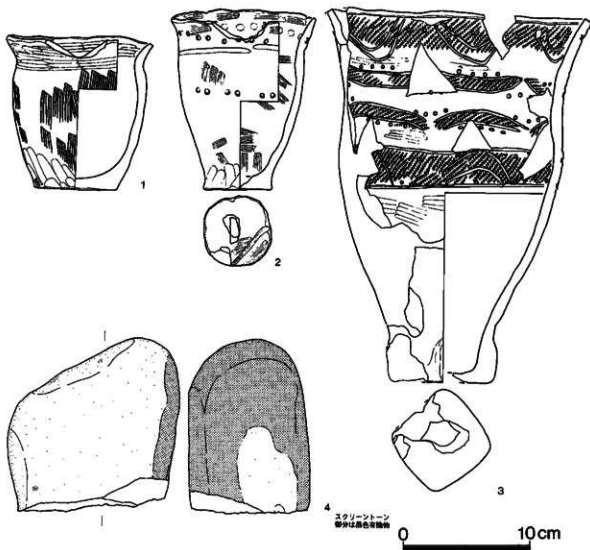
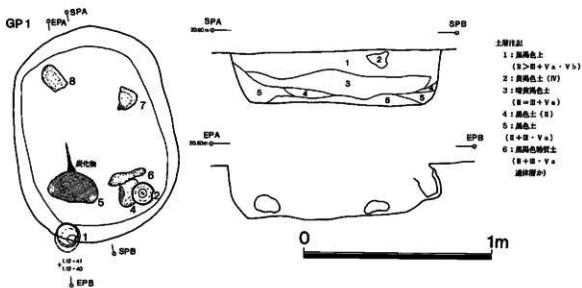
GP 1 長さ110cm 幅85cm 深さ30cm

北大C式土器(田才 1983)を伴う土墳墓で、沢跡北側の小舌状部(1・12区)に位置している。北大期の遺構・遺物は、ユカンボシE 4・5遺跡の調査を通じ唯一の例である。

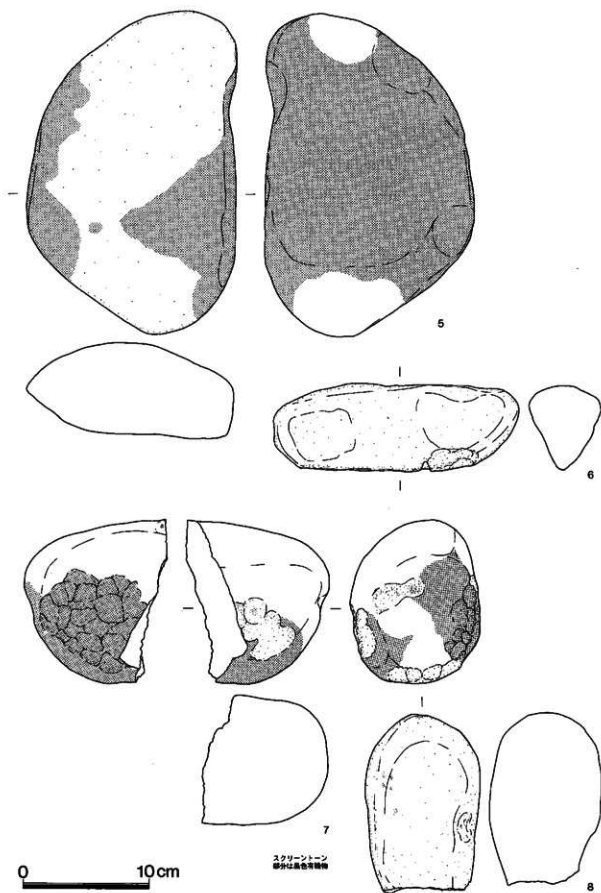
形態は隅丸長方形に近く、一隅に袋状の掘り込み(以下「袋状掘り込み」)を持つ。遺体は確認できなかったが、墳底に遺体層と思われる粘性の強い黒褐色土層がみられた。

副葬遺物のうち礫は、四隅(南東隅のみ2点)に配され、このうち3点(4・5・7)には、黒色の有機物が付着している。土器1は「袋状掘り込み」内に置かれていた小型深鉢である。幅2cm程の粘土紐を輪積みして作られており、口縁が打ち欠かされている。底部は張り出さず平底で、クマザサと思われる葉脈の圧痕がみられる。内外面、殊に内面に厚く黒色有機物が付着しており、打ち欠き部にもみられる。土器2は礫4の上に置かれていた小型深鉢で、1同様2cm程の粘土紐による輪積みで作られている。やはり内外面に黒色有機物が付着し、口縁の打ち欠き部にも及んでいる。底部は平底で、中央に細長い穿孔がある。また四隅を削り、底面を方形にみせている。文様は、口縁に円形突瘤文が一一列廻らされるほか、胴部の一部に円形刺突文や爪形文がみられる。また、頸部に浅い沈線が施されている部分もある。土器3は、調査前に土地所有者によって採取されていた土器で、採取地点から本土墳墓の上部副葬品と考えられる。2同様に口縁打ち欠と底部穿孔があり、底部はほぼ正方形を呈す。文様はLRの縄文を地文とし、2本一組の浅い沈線でV字あるいは山形のモチーフを描き込んでいる。また円形刺突文が、口縁に一一列廻らされるのを始め、頸部に4つ単位で4段、胴部に2段見られる。1・2と異なり、黒色有機物の付着はみられない。なお礫5の下に約20cm程の長さで先細りの炭化物が確認されているが、事故により取り上げが出来ず詳細は不明である。

さて、「袋状掘り込み」をもつ土墳墓は、千歳市ウサクマイA遺跡の調査で注目され(菊地ほか 1975)、その年代については7世紀末ないし8世紀、また副葬されている土器については「土師器と江別式末期の土器とが型式のうえで文字どおり接触融合し、第三の掬文式のプロトタイプを生み出しつつあった、ある一時期の土器群(中略)いわばあわただしい掬文式土器文化成立前夜であった」とされている。その後「袋状掘り込み」をもつ土墳墓の類例は増加し、その時期は後北A式期から掬文時代早期に、範囲は秋田県寒川II遺跡から音別町ノトロ岬窪穴群遺跡に及ぶ(田才 1993)。これらをまとめると、土墳墓は23基(後北期9、北大C式2、天内山式11、掬文早期1)で、平面形は概ね隅丸長方形ないし楕円形を呈す。埋葬頭位の判るものは14例あり、後北期では北東が2、東寄りが3例、天内山式期では北東が1、東寄りが3、南東が4例、掬文早期では南寄り1例がある。なおウサクマイA遺跡では左下向きの横臥屈葬が多かったと報告されている。本遺跡例は、遺構の規模、礫の配置、「袋状掘り込み」の位置から南南東頭位の屈葬と考えられる。「袋状掘り込み」は、遺体頭側の壁面を掘り窪めるものが一般的であるが、墳底を掘り下げるものや壁の半ばに設けるものもある。「袋状掘り込み」内に土器が副葬されている例は15(後北期6、北大C式期2、天内山式期6、掬文早期1)で、そのうち口縁部に打ち欠きみられるものは、本遺跡例の他に後北期で1例、天内山式期に5例、掬文早期1例である。墳底に礫を配するものは10例で、本遺跡例を除くと天内山式期が8例、掬文早期が1例で後北期にはない。礫の配置は、四隅に1つずつあるいは頭の両脇に1つずつとなっており、本遺跡例のみが5つである。なお、ウサクマイA遺跡では墳底四隅に柱穴をもつ例が報告されているが、「袋状掘り込み」と四隅に柱穴をもつ例は今のところ他の遺跡では確認されていない。



図V-2-71 土壌基平面及び断面・出土遺物 (1)



図V-2-72 土壌墓出土遺物 (2)

3. 包含層の遺物

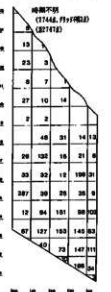
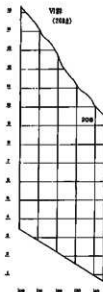
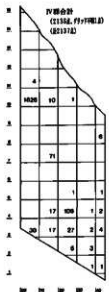
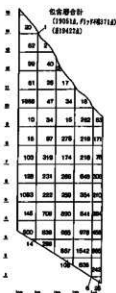
1 土器・土製品

包含層からは19,422点の土器片が出土している。全体的に発掘区南側に多く出土している。点数は縄文時代中期が11,141点と最も多く、次いで早期が3,106点である。このほか前期83点、後期2,137点、続縄文時代208点である。

表V-3-1 包含層出土土器集計表

分類	グランド土	グランド不明	合計
I群 縄文時代早期			
b1群 瓦割筒式	1643	8	1651
b2群 コツコロ式	59	1	60
b3群 中環式	882	22	904
早期形式不明	461	30	491
小計	3045	61	3106
II群 縄文時代前期			
a1群 縄文式	73		73
a2群 中環式	7		7
b群 大冨V式	3		3
小計	83		83
III群 縄文時代中期			
a群 円筒上型式	774	5	779
a群 袋ノ筒1式	284	2	286
a群 袋ノ筒2式	1574	8	1582
a群 袋ノ筒1or2式	1274	23	1297
a群 大木8a式相当	66	3	69
b1群 天神山式	1606	26	1632
b2群 独木筒式	610	1	611
中期形式不明	4647	238	4885
小計	10835	306	11141
IV群 縄文時代後期			
a群 金赤式	2100	1	2101
b群 手巻式	36		36
小計	2136	1	2137
縄文時代時期不明			
時期不明の断片等	2744	3	2747
続縄文時代			
c群 後北C2式	208		208
包含層出土土器合計	19051	371	19422

早期・中期の土器は発掘区の東南側に濃密に分布する。前期の土器は北西側に若干の分布をみるほかは散発的出土である。後期の土器は北西側の一部に集中するほかは南西側に分布する。続縄文時代のものは沢跡内で集中して出土したのみである。土製品は発掘区西側で出土している。



図V-3-1 包含層出土の土器分布 (1)

縄文時代早期の土器

I群 b 1 類 (1~25)

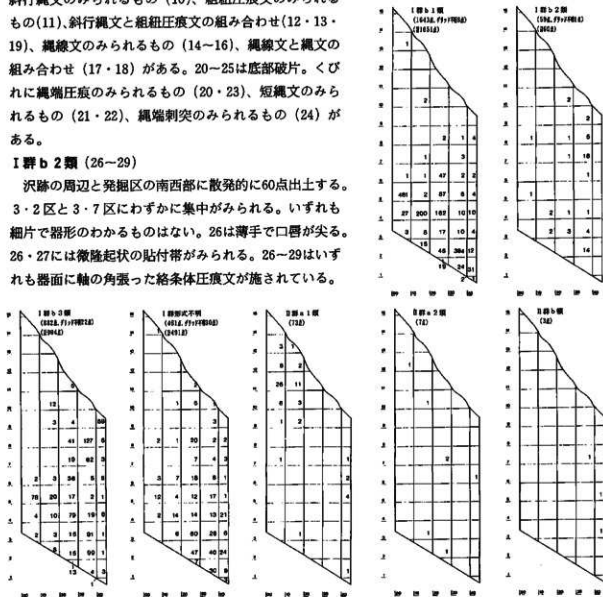
出土点数は1,651点と早期の土器では最も多く出土している。発掘区の南側を中心に出土しており、0・5区、1・4区、2・6区、3・2区に集中がみられる。底部が張出し、器面に凹凸がある。口唇は外側に張り出すものが多く、器面には短縄文・斜行縄文・縄線文・組紐疋痕文・縄端疋痕・絡条体疋痕文などが組み合わせて施文される。底部のくびれには短縄文・縄端疋痕や縄端刺突などが施されている。底面に縄文の施されたもの(22)もある。

1は上面観楕円形の深鉢形土器である。口縁と底部のくびれに短縄文が施されている。器面にはLRの縄文が入り乱れて施されているが、施文は重なり合わない。底部は楕円形を呈し、底面の縁に縄文がみられる。口径17cm、器高21.6cm、底径9.2cmをはかる。東銅路Ⅱ式あるいは東銅路Ⅲ式の古手のものである。

2~6は口縁部で口唇が平らで外側に張り出すもの(2・5・7)と丸みを帯びたもの(6)がある。前者には縄端疋痕および組紐疋痕文、後者には縄線文が施されている。8~19は胴部破片である。斜行縄文のみられるもの(10)、組紐疋痕文のみられるもの(11)、斜行縄文と組紐疋痕文の組み合わせ(12・13・19)、縄線文のみられるもの(14~16)、縄線文と縄文の組み合わせ(17・18)がある。20~25は底部破片。くびれに縄端疋痕のみられるもの(20・23)、短縄文のみられるもの(21・22)、縄端刺突のみられるもの(24)がある。

I群 b 2 類 (26~29)

沢跡の周辺と発掘区の南西部に散発的に60点出土する。3・2区と3・7区にわずかに集中がみられる。いずれも細片で器形のはっきりしたものはない。26は薄手で口唇が尖る。26・27には微隆起状の貼付帯がみられる。26~29はいずれも器面に軸の角張った絡条体疋痕文が施されている。



図V-3-2 包含層出土の土器分布 (2)

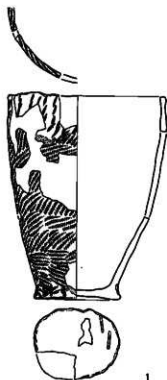
I群b3類 (30-48)

足跡周辺と遺跡の南東側に904点出土している。分布範囲は概ねI群b1類と重複する。底部は張り出さず丸みを帯びる。口唇は薄みで尖りぎみ。器面に細い貼付帯を横環し、その間に撚糸文・短縄文・斜行縄文・羽状縄文・絡条体疋痕文などが施される。

30-34・37は口縁である。貼付帯の横環するもの(30・32-34)と波状の貼付のみられるもの(31・37)がある。いずれも貼付帯に施文がみられる。撚糸文のみられるもの(30)、短縄文のみられるもの(31・32・37)、羽状縄文のみられるもの(33)、間隔のあいた列点状の縄文のみられるもの(34)などがある。35・36・38-40は胴部破片である。35・36には波状の貼付帯もみられる。撚糸文のみられるもの(35)、短縄文のみられるもの(36・38・39)、短縄文と羽状縄文のみられるもの(40)がある。41-48は底部破片である。底部が丸みを帯びるもの(42・46)と、やや角ばるもの(41・43-45・47・48)がある。45・47・48は上げ底気味である。撚糸文の施されたもの(41・46)、短縄文の施されたもの(45)、短縄文と羽状縄文の施されたもの(42-44・47)、羽状縄文の施されたもの(48)がある。42・43・47は底部付近に羽状縄文、47は短縄文が施されている。

縄文時代前期の土器

いずれも胎土に繊維を含む。II群a1類(49-54)は発掘区の北西側を中心に73点出土している。0・11区に若干の集中がみられる。横走気味の太い縄文が施されている。II群a2類(55・56)は散発的に7点出土している。RLの太い縄文が施されている。口唇は丸みを帯びる。II群b類(57・58・59)は発掘区の東側、HP1およびP1の周辺から3点のみの出土である。口唇が外傾し、口唇と口縁に縄線文が施されている。胎土に砂粒を含む。

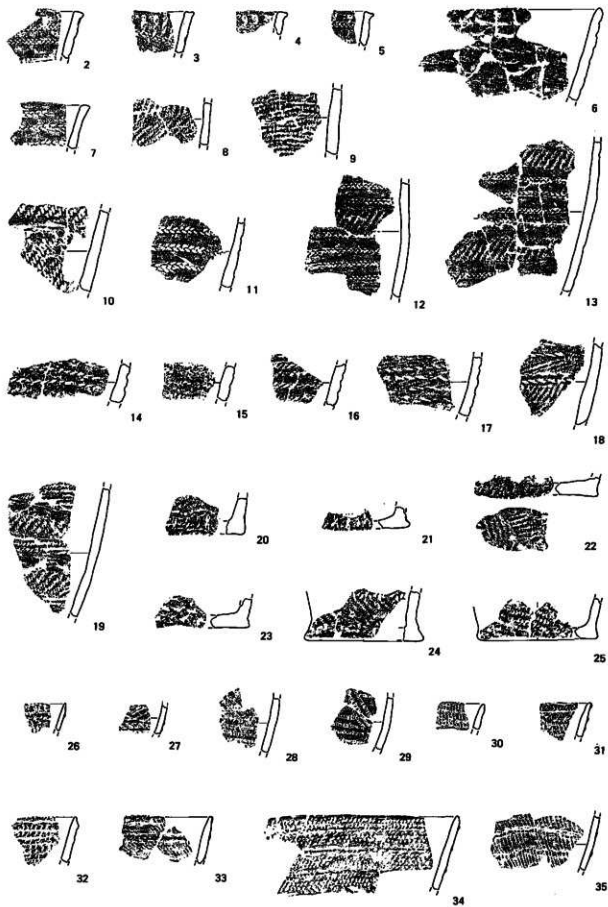


図V-3-3 包含層出土の土器 (I)

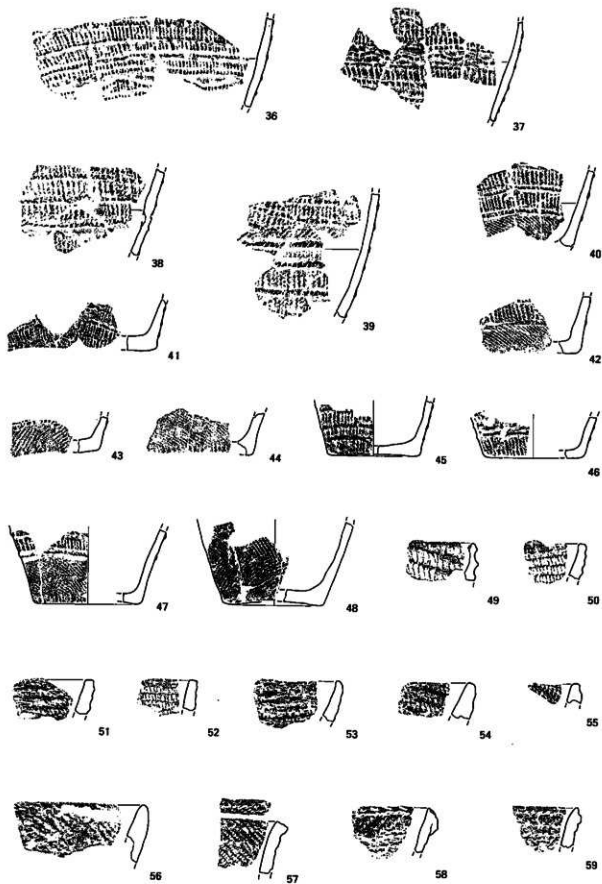
表V-3-2 包含層掘載土器一覽
(縄文時代早期の復原土器)

図番	グリップ	部位	直径	分 類	発掘No.	備 考
1	0・5-83	一括	72	東側略山	654	東側略山の古手
	0・5-72	胴部	1	東側略山	1902	or 東側略山
	0・5-73	底部	1	東側略山	639	
	0・5-73	胴部	9	東側略山	1903	口縁・底部の
	0・5-81	胴部	1	東側略山	656	くびれに短縄文
	0・5-82	胴部	2	東側略山	1904	器面に入り込め
	0・5-83	口縁	1	東側略山	653	た縄文
	0・5-83	底部	1	東側略山	663	
	0・5-83	底部	1	東側略山	641	
	0・5-83	胴部	6	東側略山	1905	
	0・5-84	底部	2	東側略山	642	
	0・5-84	口縁	1	東側略山	655	
	0・5-84	口縁	1	東側略山	692	
	0・5-84	胴部	1	東側略山	1906	
	0・5-93	口縁	1	東側略山	695	
	0・5-93	胴部	1	東側略山	1907	

*654直径10cm, 655直径1cm



図V-3-4 包含層出土の土器 (2)



図V-3-5 包含層出土の土器 (3)

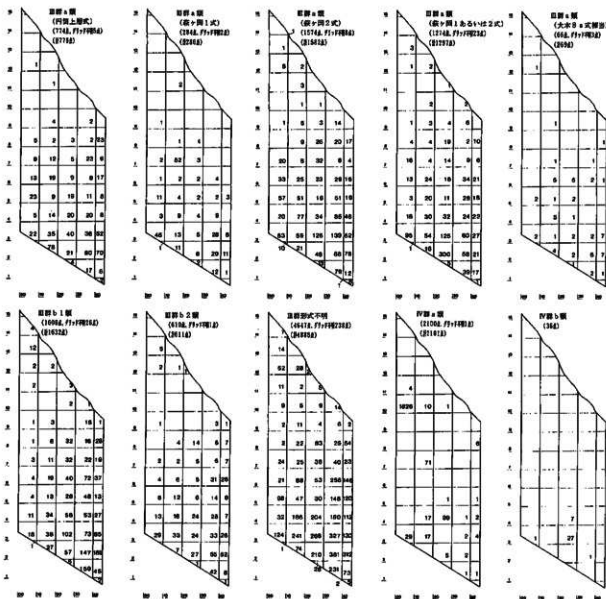
表V-3-3 包含層陶磁土器一覽(縄文時代早・前期)

目番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
2	2・3-10	口縁	1	東御前山	1329	縄文土器
3	1・3-86	口縁	1	東御前山	1834	縄文土器
4	3・4-43	口縁	1	東御前山	1839	縄文土器
5	2・4-53	口縁	1	東御前山	1843	縄文土器
6	2・6-40	口縁	11	東御前山	1833	縄文土器
7	1・4-17	口縁	1	東御前山	1426	新編土器文
8	0・5-83	胴部	1	東御前山	654	羽状縄文
	0・5-73	胴部	3	東御前山	1908	
9	1・4-18	胴部	3	東御前山	1842	斜行縄文
	1・4-17	胴部	1	東御前山	1909	
10	2・4-61	胴部	4	東御前山	1845	羽状縄文
11	1・4-18	胴部	2	東御前山	1841	新編土器文
12	0・4-29	胴部	2	東御前山	1846	新編土器文
	3・2-07	胴部	1	東御前山	1910	
13	0・5-81	胴部	9	東御前山	656	新編土器文
14	3・2-24	胴部	4	東御前山	1838	縄文土器
15	3・2-34	胴部	1	東御前山	1837	縄文土器
16	3・2-42	胴部	2	東御前山	1844	縄文土器
17	2・3-90	胴部	1	東御前山	1351	縄文土器
18	3・1-07	胴部	1	東御前山	1840	縄文土器
19	2・5-00	胴部	8	東御前山	1847	縄文土器
20	2・5-67	底部	1	東御前山	462	縄文土器
21	2・2-27	底部	1	東御前山	1338	縄文土器
22	0・5-66	底部	1	東御前山	405	縄文土器
23	3・5-01	底部	1	東御前山	608	縄文土器
24	1・2-48	底部	1	東御前山	1385	縄文土器
	1・2-48	底部	1	東御前山	1384	
25	3・2-33	底部	1	東御前山	1287	縄文土器
	3・2-43	底部	1	東御前山	1289	
	3・2-43	底部	1	東御前山	1292	
26	3・7-92	口縁	1	コツナロ	157	斜条体土器文
27	3・2-49	胴部	1	コツナロ	1812	斜条体土器文
28	2・10-68	胴部	2	コツナロ	1813	斜条体土器文
29	3・7-39	胴部	2	コツナロ	1814	斜条体土器文
30	3・3-23	口縁	1	中実路	1313	短縄文
31	3・7-22	口縁	1	中実路	286	短縄文
32	3・8-74	口縁	1	中実路	211	短縄文
33	3・8-73	口縁	1	中実路	486	斜行縄文
	3・8-74	口縁	1	中実路	1911	
34	1・10-61	口縁	2	中実路	107	縄文
	1・10-71	口縁	2	中実路	96	
	1・10-71	口縁	1	中実路	92	
35	3・1-49	胴部	1	中実路	1826	短縄文
	3・1-57	胴部	1	中実路	1827	
36	3・3-23	胴部	1	中実路	1816	短縄文

目番	グランド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
37	3・3-33	胴部	1	中実路	1817	短縄文
	3・3-34	胴部	5	中実路	1818	
	1・5-57	口縁	1	中実路	713	
	1・5-57	胴部	1	中実路	715	
	1・5-57	胴部	1	中実路	716	
	1・5-57	胴部	1	中実路	717	
	1・5-57	胴部	1	中実路	721	
	1・5-47	胴部	2	中実路	783	
38	4・9-23	胴部	6	中実路	112	短縄文
39	3・7-49	胴部	2	中実路	1821	短縄文
	3・7-59	胴部	1	中実路	1822	
	3・8-40	胴部	6	中実路	1819	
	3・8-82	胴部	1	中実路	1820	
40	3・8-74	胴部	1	中実路	1823	縄文と短縄文
	3・8-79	胴部	1	中実路	1824	
	3・8-96	胴部	2	中実路	1825	
41	2・6-45	底部	1	中実路	1912	短縄文
	2・6-46	底部	2	中実路	472	
42	3・8-89	底部	1	中実路	220	縄文と短縄文
43	3・8-72	底部	1	中実路	203	縄文
44	3・3-33	底部	2	中実路	958	縄文と短縄文
45	0・5-31	底部	1	中実路	604	短縄文
	1・5-11	底部	1	中実路	548	
46	1・5-23	底部	1	中実路	559	短縄文
	2・4-81	底部	3	中実路	1211	
47	2・4-92	底部	1	中実路	1913	縄文と短縄文
	3・3-23	胴部	1	中実路	1914	
	3・3-26	底部	3	中実路	1915	
	3・3-33	底部	5	中実路	958	
	3・3-33	底部	1	中実路	1635	
48	3・3-33	胴部	1	中実路	1916	縄文
	3・2-73	底部	5	中実路	937	
49	3・2-73	底部	3	中実路	1917	短縄文
	0・11-73	口縁	1	新文	15	
50	1・10-79	口縁	1	新文	93	RL
51	0・10-47	口縁	1	新文	24	RL
52	0・12-19	口縁	1	新文	8	RL
53	0・11-12	口縁	1	新文	34	RL
54	0・12-94	口縁	1	新文	12	RL
55	0・12-94	口縁	1	中実路	13	RL
56	2・7-18	口縁	1	中実路	260	RL
57	3・7-59	口縁	1	大森V	167	短縄文
58	4・3-25	口縁	1	大森V	752	短縄文
59	4・5-37	口縁	1	大森V	117	短縄文

縄文時代中期の土器

全般的に沢跡の南側、特に発掘区の南部に多く分布する。Ⅲ群 a 類は4,013点、Ⅲ群 b 類は2,243点出土している。出土点数は天神山式が1,632点と最も多く、発掘区のほぼ全域に分布する。特に2・3区、3・1区、3・2区、4・2区に集中がみられる。次いで萩ヶ岡2式が1,582点。沢跡の北側にも若干の出土がある。0・3区、0・5区、2・3区、3・1～3・4区、4・2区、4・3区に集中がある。地文の結束羽状縄文のみで施文の確認できないものが1,297点あり、萩ヶ岡1あるいは2式として分類した。また、縄文のみで施文の確認できないもの4,885点を形式不明とした。器面の剝離したものや摩耗したもの、細片など2747点を時期不明とした。胎土・分布などから、これらのうちの大部分は萩ヶ岡2式と推定される。円筒上層式は779点出土しており、1・2区、3・2区、4・2区に若干の集中がみられる。柏木川式は611点出土しており、概ね萩ヶ岡2式、天神山式と同様の分布傾向を示す。3・2区、4・2区に集中がみられる。萩ヶ岡1式は286点出土しており、0・3区、1・7区に集中がみられる。大木8a式相当の土器は散発的にみられる程度である。69点出土している。



図V-3-6 包含層出土の土器分布 (3)

Ⅲ群 a類

① 円筒上層式 (113~128)

貼付文のみられるもの (113~125) と地文の縄文のみもの (126~128) がある。幅 5mm 程度の貼付文が、肥厚した口縁には波状 (113・115)・刻み状 (114・116) に、文様帯には弧状 (117~122)・縦横 (123~125) に貼付される。貼付文には捻糸の圧痕 (115~122・124・125) や半截竹管状工具による施文 (123) が施される。器面には、竹管あるいは棒状工具による刺突 (117~121)、捻糸の圧痕 (119・121・124・125) が施されている。126~128は肥厚した口縁をもつ。126は LR の縄文、127・128は LR + RL の結束羽状縄文が見られる。内面は平滑である。

② 萩ヶ岡 1 式 (60~62, 129~144)

口縁に山形 (60・61)・台形 (62) の突起をもち、突起には粘土紐が貼付される。口縁に数本の粘土紐をめぐらせて突起とつなぎ、突起から垂下する粘土紐や器面を横環する粘土紐が貼付られる。貼付帯に縄による施文のみられるもの (129・135) と爪による施文のみられるもの (130~133・136~144) がある。129・135は口縁貼付帯が RL の縄文により刻まれている。130~133・136は口縁貼付帯に、137~144には垂下する貼付帯に爪による刺突が施されている。134は口唇が竹管もしくは棒状工具により斜めに刻まれている。129・135の縄を工具に置き換えたものと思われる。地文は結束羽状縄文が多く、粘土紐を貼付する前に施される。胎土に砂粒を含むものが多く、焼成温度が低く脆い感じのものが多い。

③ 萩ヶ岡 2 式 (63~74, 145~179)

萩ヶ岡 1 式と同様の土器で、貼付帯に半截竹管状工具あるいは棒状工具による施文のあるものである。胎土に砂粒を含み、焼成温度が低く脆い感じのものが一般的である。円筒上層式のように胎土が良く内面が平滑なものも少なくない。突起は台形 (63~74) のものが多く、貼付した粘土紐に半截竹管状工具による沈線や刻みが施される。粘土紐の貼付により突起は次第に肉厚になり、突起の水平断面が三角形のもの (63・66~73) が多い。突起頂部は刺突のあるもの (64)、突起頂部が内傾するもの (66~68・70・72) がみられる。また、頂部を正面に対し縦に V 字状に調整したもの (67・68) もみられる。口縁・器面の貼付帯には、押し引き風の刺突 (145~147・149~153・157~160・176・177・179)、沈線 (148・161~166)、刻み (168~175・178) のみられるもの、これらが組み合わされて施文されているもの (156) がある。貼付帯のないもの (154・155・167) もみられる。145~147・149・151~153・157は弧状・鎖状に貼付した粘土紐に、篋状に近い半截竹管状工具による押し引き風の刺突が施されている。いずれも胎土が良く、内面は平滑である。円筒上層式に近いものと思われる。146・147には爪による刺突も施されている。146・149・152の口唇には地文の縄文が施されている。158~160・176・177・179は貼付帯に低い角度からの押し引きに近い刺突が施される。148・161~166は口縁貼付帯に沈線が施されている。148は器面にも沈線がみられ、口唇は刻まれている。胎土が良く、内面は平滑である。163・164は斜めに貼付された粘土紐にも沈線がみられる。168~175・178は粘土紐や口縁が刻まれているものである。169・174・178は棒状工具、他は半截竹管状工具による。169~173は口唇・口縁が矢羽状に刻まれている。172・173は同一個体で、刻んだ貼付帯の間に押し引きが施されている。174は貼付帯を縦に刻んでいる。175・178は胴部破片で、垂下帯や横環する貼付帯に刻みが施されている。175は貼付帯を斜めに刻んだあと縦に沈線を引き、さらに器面に横の沈線引いている。156は貼付帯が矢羽状に刻まれ、そこから垂下する粘土紐に押し引き風の刺突が施されている。口縁貼付帯には太い沈線と刻みが施されている。器面には沈線がみられる。天神山式に近いものである。154・155は口唇・口縁に刺突が施され、その下に沈線が引かれている。154は突起を欠い

ており、垂下する粘土紐にも刺突が認められる。167は口縁に横に沈線を引き、斜めの沈線で区切られている。胎土が良く、内面は平滑である。円筒上層式に近いものである。

④ 大木 8 a 式相当 (180~187)

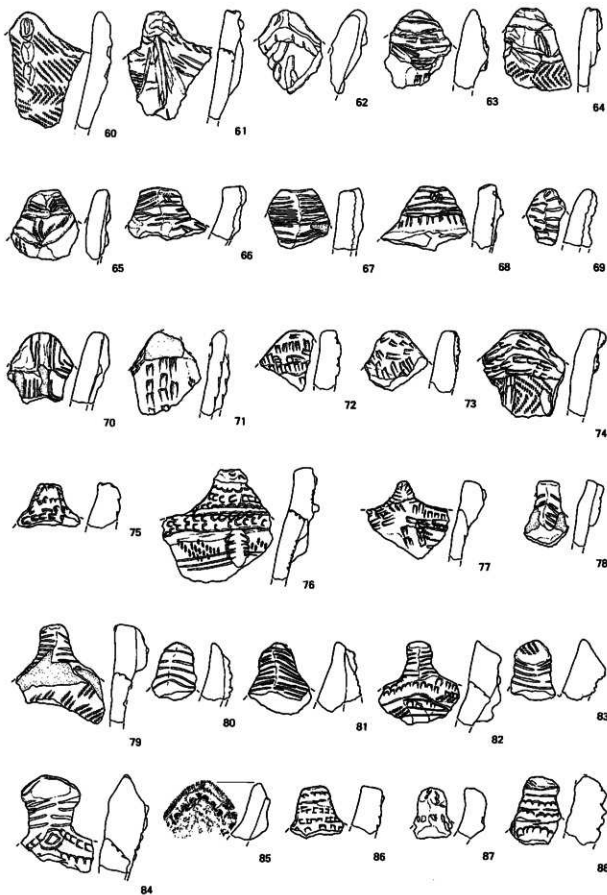
太い沈線のみられるもの (180~184) と口縁肥厚帯に波状の貼付のみられるもの (185~187) がある。180・181は小さな山形突起に縦の貼付がある。181の口縁は縄により刻まれている。183~187は口縁肥厚帯が発達している。183は肥厚帯に横に沈線が引かれている。突起を欠く。184は肥厚帯に太い沈線による刻みが施されている。185~187は天神山式に近いものである。肥厚帯上の溝に波状の貼付が施されている。

Ⅲ群 b 1 類 (75~122, 188~225)

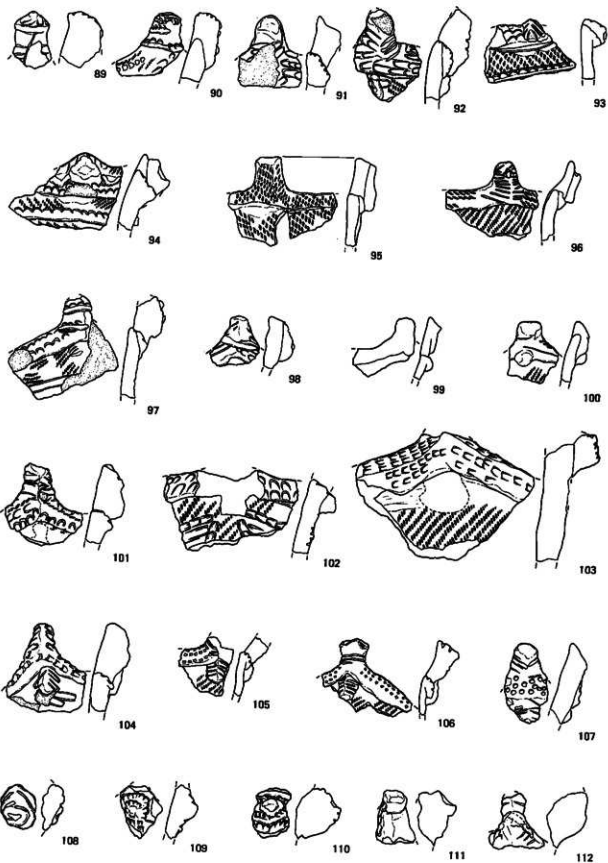
突起が荻ヶ岡 2 式に比し、さらに肉厚になるとともに柱状・棒状 (75~107) になり、口縁上に直立する。上半が極端に肥大化したもの (84・85) もある。施文は、半截竹管状工具による刺突 (76・85・87) をはじめとして、押し引き風の刺突 (75・104)、沈線 (77~84・89・101・105~107)、押し引き (91・92) や、それらが組み合わせられたもの (86・88・90・97・98) がある。また、地文の複節の縄文 (95) の施されたもの、無文のもの (99・100) もみられる。突起頂部が外傾し、正面に対し横に U 字状に調整したもの (83・84) もみられる。突起の柱状化に伴い、それを支える口縁も肥厚化する。肥厚帯が大きく張出し (102)、さらには張り出しすぎて途中で段のついたもの (103) もみられる。口縁肥厚帯にさらに小突起を付したもの (93・94・195・196) もみられる。突起が棒状のものは肥厚帯が発達せず、貼付帯に近いものになる。口縁肥厚帯上には、半截竹管状工具による刺突 (188~203)、押し引き (204~206・210)、沈線 (208) や、竹管による刺突 (207・209・211) の施されるものがある。半截竹管の刺突とともに波状の貼付 (188・189)・縄線文 (190)・押し引き (191・197) の施されるもの、粘土紐を貼付し押し引きを施すもの (194) もみられる。棒状工具による刺突 (105~107) の施されたものもみられる。188・189は前項の185~187に近いものである。突起下に粘土塊を貼り竹管状工具で施文して、水平断面が三角形の肩部突起のみられるもの (104~107) が一般的だが、ボタン状のもの (100・108・109・213) や角張り大型化したもの (110・111)、ブリッジ状のもの (112・212) もみられる。肩部には、突起から垂下する粘土紐や横環する粘土紐に半截竹管状工具による刺突 (214~219・221・222)・沈線・押し引き (220・223) を施す。また、器面に沈線 (214・218~220・222・224~226) や押し引きをめぐらすものも多い。概して荻ヶ岡 2 式の工具に比し太い工具を用い、沈線も貼付的效果をもつもの (226) がみられる。地文は斜行縄文が多く、複節の縄文が多用される。焼きが良く、堅く焼き締まるものが多い。

Ⅲ群 b 2 類 (227~257)

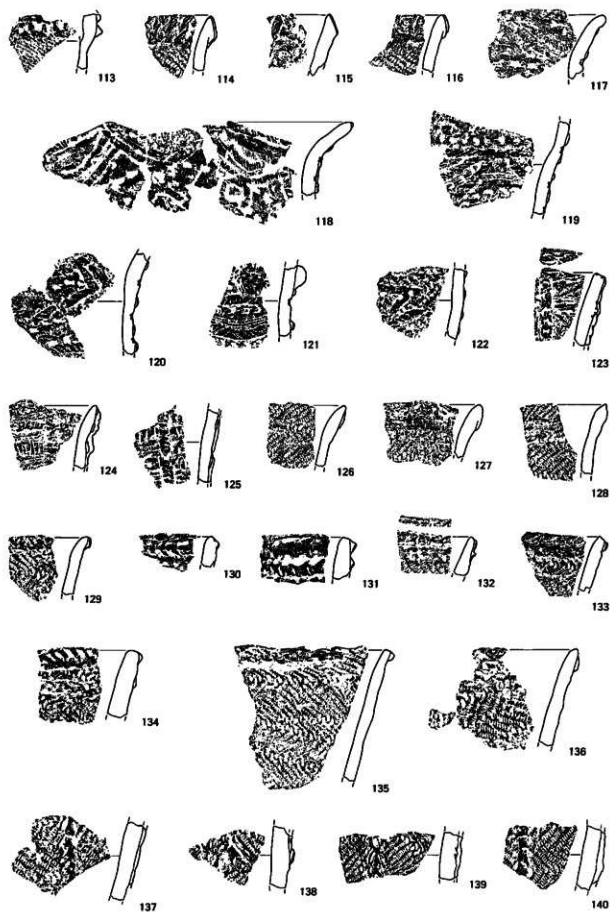
突起は天神山式に比べ小さくなる。227は山形の突起で内面に調整痕がみられる。228・227は突起基部のみ残る。227と同様の突起をもつと思われる。230は口縁をはさんで粘土紐を小突起状に貼付した。口唇・口縁と貼付に半截竹管状工具による沈線が施されている。口縁に肥厚帯・貼付帯のみられるもの (231~245) と肥厚帯・貼付帯のないもの (246~257) がある。肥厚帯には竹管状工具による刺突 (231~234)、半截竹管状工具による押し引き (235・236・238) や沈線・刻み (237)、縄による刻み (240)、縄文 (245) が施される。これらは天神山式に近いものである。貼付帯には縄文 (239・244)、縄文による刻み (241~243) が施されている。口縁に肥厚帯・貼付帯のないものには、口唇・口縁に施文のみられるもの (246~250) と地文の縄文のみもの (251~257) がある。246~248は半截竹管状工具、249・250は縄による施文が施されている。250は口縁が反し内面にも縄文が施されている。地文の縄文のみものは、いずれも焼成が良い。



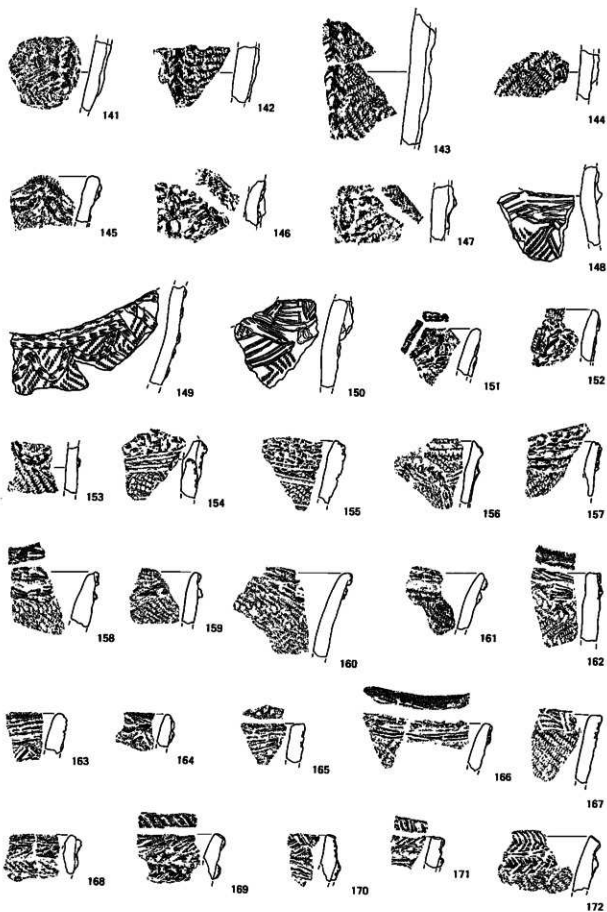
図V-3-7 包含層出土の土器 (4)



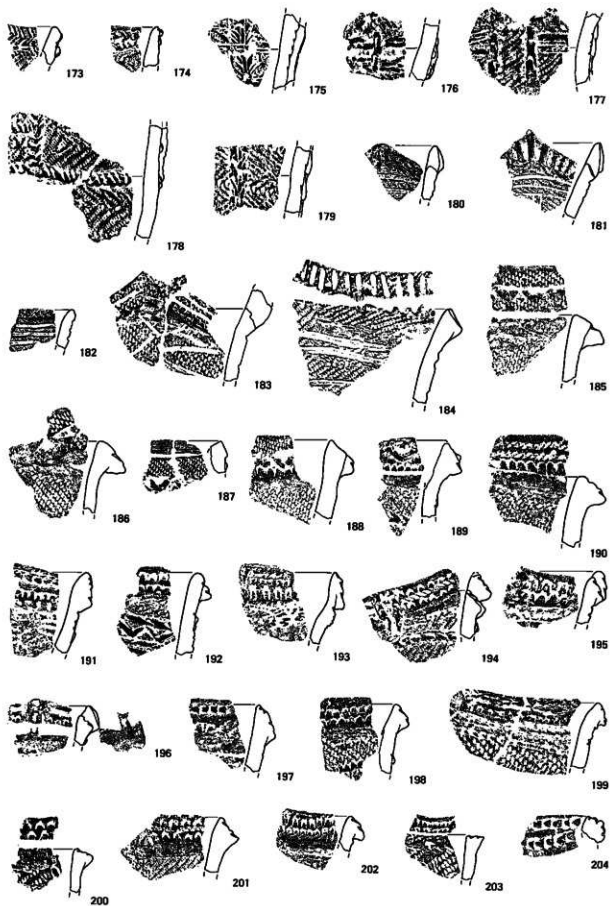
図V-3-8 包含層出土の土器 (5)



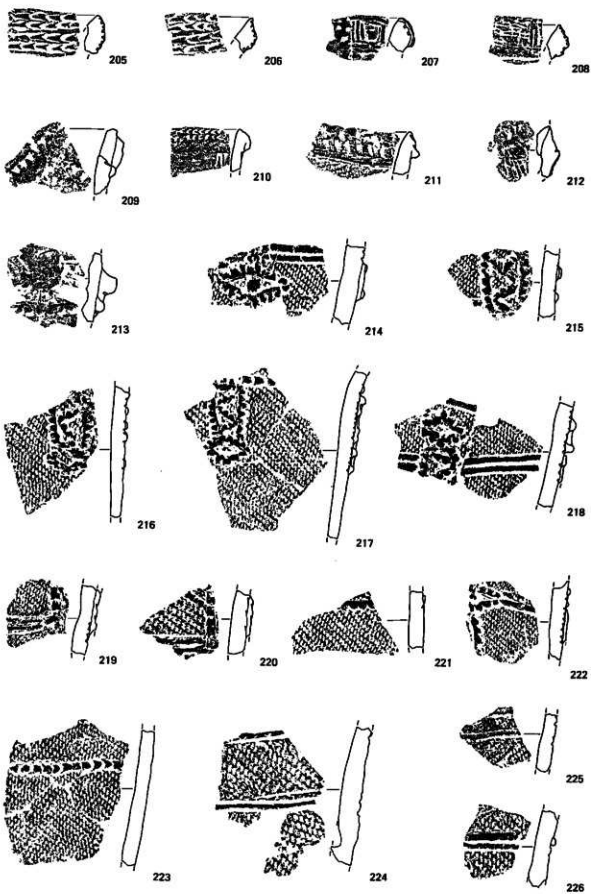
図V-3-9 包含層出土の土器 (6)



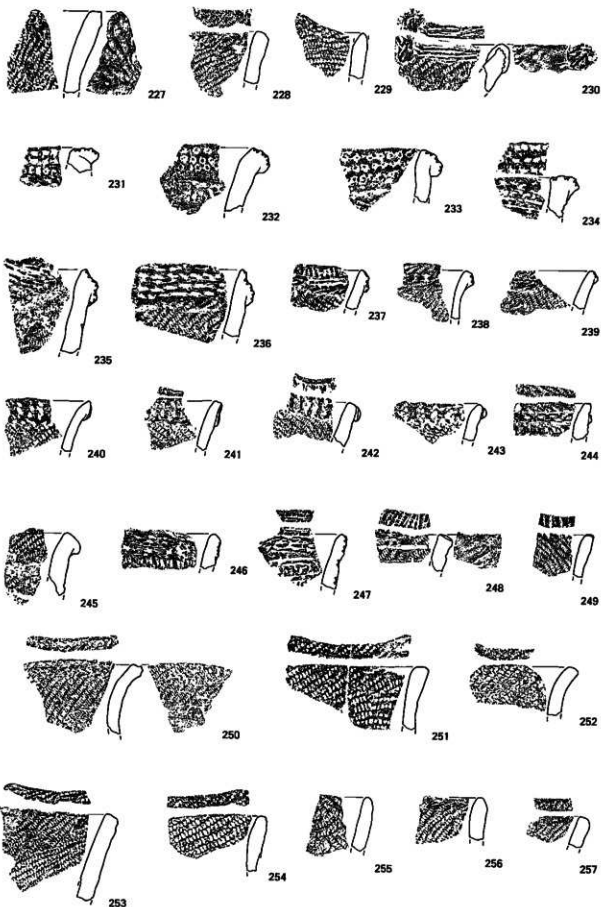
図V-3-10 包含層出土の土器 (7)



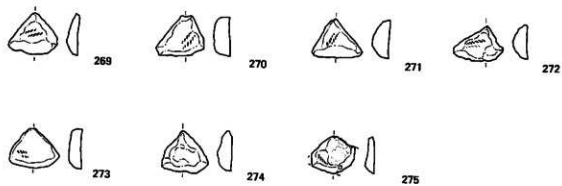
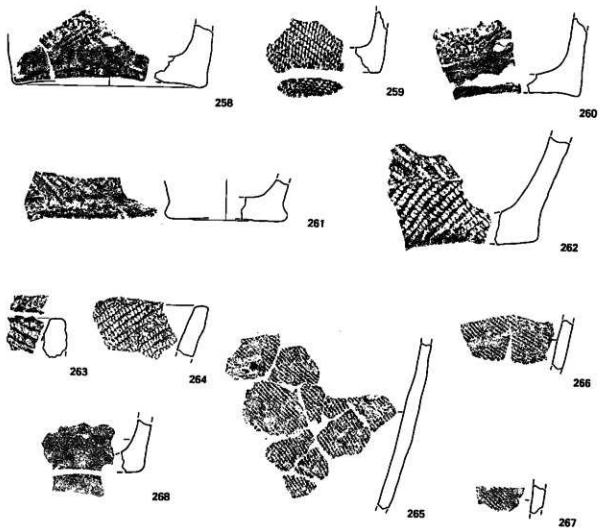
図V-3-11 包含層出土の土器 (8)



圖V-3-12 包含層出土の土器 (9)



図V-3-13 包含層出土の土器 (例)



図V-3-14 包含層出土の土器 (II)

表V-3-4 包含層掘載土器一覽(縄文時代中期の土器の突起など)

目番	グランド	形状	底数	分類	遺物No.	備考
60	0・3-53	突起	1	家+円1	1407	爪, 脇付に縄
61	1・7-97	突起	1	家+円1	422	脇付に爪, 底
62	0・3-18	突起	1	家+円1	1417	脇付に爪, 底
63	0・3-08	突起	1	家+円2	1470	脇付に
64	2・3-56	突起	1	家+円2	1257	脇付に底
65	3・1-70	突起	1	家+円2	1541	脇付に底
66	2・5-64	突起	1	家+円2	572	脇付に底
67	2・8-22	突起	1	家+円2	206	脇付に底
68	0・7-07	突起	1	家+円2	159	脇付に底
69	1・4-10	突起	1	家+円2	1435	脇付に底
70	0・7-09	突起	1	家+円2	176	脇付に底
71	0・7-08	突起	1	家+円2	175	脇付に押し引き
72	1・6-82	突起	1	家+円2	461	脇付に跡
73	3・6-36	突起	1	家+円2	431	脇付に底
74	1・3-04	突起	1	家+円2	1498	脇付に底
75	3・2-97	突起	1	天神山	784	突起
76	0・13-56	突起	1	天神山	16	突起
77	2・3-63	突起	1	天神山	1081	底
78	2・11-80	突起	1	天神山	38	底
79	3・7-82	突起	1	天神山	201	底
80	4・2-15	突起	1	天神山	779	底
81	3・2-71	突起	1	天神山	793	底
82	4・6-14	突起	1	天神山	66	底
83	4・8-31	突起	1	天神山	85	底, 縄文
84	2・2-74	突起	1	天神山	1368	底
85	4・1-06	突起	1	天神山	991	突起
86	4・1-41	突起	1	天神山	1230	底, 押し引き
87	3・3-35	突起	1	天神山	981	突起
88	0・11-55	突起	1	天神山	33	突起, 底
89	4・1-22	突起	1	天神山	771	底
90	3・2-04	突起	1	天神山	1064	突起, 底
91	2・7-31	突起	1	天神山	326	押し引き
92	3・8-50	突起	1	天神山	195	押し引き
93	0・13-04	小突起	1	天神山	4	底
94	3・2-32	小突起	1	天神山	1134	菱形
95	1・3-39	突起	4	天神山	1480	腹筋の縄文
96	3・6-69	突起	3	天神山	137	底
	3・2-94	口縁	1	天神山	795	
97	0・13-22	突起	1	天神山	2	突起, 底
98	4・7-17	突起	1	天神山	69	突起, 底
99	4・3-33	突起	1	天神山	843	縄文
100	2・2-97	突起	1	天神山	1319	縄文
101	4・2-49	突起	1	天神山	1193	底
102	2・7-73	口縁	1	天神山	506	突起, 押し引き
103	0・9-22	口縁	1	天神山	128	押し引き, 底

目番	グランド	形状	底数	分類	遺物No.	備考
104	4・7-03	突起	1	天神山	67	押し引き, 底
105	3・4-36	突起	1	天神山	868	底
	4・2-28	口縁	1	天神山	813	底
	4・5-15	口縁	1	天神山	18	LR
106	4・3-20	突起	1	天神山	840	底
	3・5-89	口縁	1	天神山	125	底
107	3・6-32	突起	1	天神山	464	底, 底
108	3・3-58	突起	1	天神山	1807	底
109	1・3-66	突起	1	天神山	1510	底
110	3・2-79	突起	1	天神山	778	底
111	3・6-74	突起	1	天神山	135	底
112	1・2-97	突起	1	天神山	1375	底

表V-3-5 包含層掘載土器一覽(縄文時代中・後期)

目番	グランド	形状	底数	分類	遺物No.	備考
113	2・4-10	口縁	2	円筒上	1860	底
114	2・2-63	口縁	1	円筒上	1372	底
115	3・4-21	口縁	1	円筒上	1861	底
116	2・2-95	口縁	1	円筒上	1178	底
117	1・2-37	口縁	1	円筒上	1391	底
118	0・3-56	腹筋	2	円筒上	1868	底
	0・3-74	口縁	1	円筒上	1403	底
	0・3-82	腹筋	1	円筒上	1867	底
	1・3-23	口縁	1	円筒上	1504	底
119	2・5-94	腹筋	2	円筒上	1866	底
120	3・2-50	腹筋	2	円筒上	1869	底
	1・2-96	腹筋	1	円筒上	1923	底
121	2・5-93	腹筋	1	円筒上	1870	底
122	1・3-42	腹筋	1	円筒上	1871	底
123	0・3-27	口縁	1	円筒上	1409	底
124	3・4-46	口縁	1	円筒上	949	底
125	4・3-12	腹筋	2	円筒上	1865	底
126	1・3-02	口縁	1	円筒上	1497	底
127	4・2-01	口縁	1	円筒上	1057	底
128	0・4-25	口縁	2	円筒上	1862	底
129	2・3-78	口縁	1	家+円1	1254	底
130	1・2-96	口縁	1	家+円1	1376	底
131	1・4-70	口縁	1	家+円1	1348	底
132	0・3-36	口縁	1	家+円1	1459	底
133	3・4-21	口縁	1	家+円1	860	底
134	4・2-44	口縁	1	家+円1	1195	底
135	0・3-18	口縁	1	家+円1	1462	底
136	0・3-09	口縁	3	家+円1	1464	底
137	0・3-43	腹筋	1	家+円1	1875	底
138	0・3-53	腹筋	1	家+円1	1879	底

図番	グッド	部位	点数	分限	遺物No.	備考
139	0・4-99	胴部	1	表+背1	1873	脇付に爪
140	0・3-42	胴部	1	表+背1	1874	脇付に爪
141	1・4-68	胴部	2	表+背1	1876	脇付に爪
142	0・3-53	胴部	1	表+背1	1877	脇付に爪
143	0・3-54	胴部	1	表+背1	1872	脇付に爪
	0・3-34	胴部	1	表+背1	1924	
144	3・6-02	胴部	1	表+背1	1878	脇付に爪
145	0-13-17	口縁	1	表+背2	3	脇付に押し引き
146	0・5-74	口縁	1	表+背2	1863	脇付に押し引き
147	0・3-08	口縁	2	表+背2	1864	脇付に押し引き
148	3・5-75	口縁	1	表+背2	122	脇付に押し引き
149	2・10-23	口縁	1	表+背2	48	脇付に押し引き
	0・4-26	口縁	1	表+背2	1925	内面平滑
150	0・6-19	口縁	1	表+背2	189	脇付に波線
151	4・3-02	口縁	1	表+背2	849	脇付に押し引き
152	3・1-73	口縁	1	表+背2	1001	脇付に押し引き
153	2・6-92	胴部	1	表+背2	1882	脇付に押し引き
154	3・4-37	口縁	1	表+背2	945	朝暎、波線
155	2・4-55	口縁	1	表+背2	1027	朝暎、波線
156	2・4-85	口縁	1	表+背2	992	脇付に刻み
157	0・6-10	口縁	1	表+背2	261	脇付に押し引き
158	2・5-50	口縁	1	表+背2	594	脇付に波線、押引
159	0・5-04	口縁	1	表+背2	618	脇付に波線
160	0・3-85	口縁	1	表+背2	1401	脇付に波線
161	2・3-79	口縁	1	表+背2	1256	脇付に波線
162	3・5-21	口縁	1	表+背2	621	脇付に波線
163	2・3-35	口縁	1	表+背2	1261	脇付に波線
164	3・3-85	口縁	1	表+背2	781	脇付に波線
165	0・6-28	口縁	1	表+背2	214	脇付に波線
166	2・8-22	口縁	2	表+背2	207	脇付に波線
167	0・6-28	口縁	1	表+背2	190	脇付に波線
168	1・9-60	口縁	2	表+背2	119	脇付に刻み
169	3・1-81	口縁	1	表+背2	998	脇付に刻み
170	3・2-34	口縁	1	表+背2	877	脇付に刻み
171	3・4-41	口縁	1	表+背2	948	脇付に刻み
172	0・4-95	口縁	1	表+背2	1267	脇付に刻み
173	0・4-95	口縁	1	表+背2	1881	脇付に刻み
174	0・3-74	口縁	1	表+背2	1404	脇付に刻み
175	4・4-20	胴部	2	表+背2	1886	脇付に刻み
176	0・3-62	胴部	2	表+背2	1884	脇付に波線
177	3・4-66	胴部	1	表+背2	1885	脇付に押し引き
178	0・3-53	胴部	1	表+背2	1888	脇付に刻み
179	1・5-64	胴部	1	表+背2	1887	脇付に押し引き
180	1・6-72	口縁	1	大木8a	501	太い波線
181	1・3-06	口縁	1	大木8a	1499	太い波線

図番	グッド	部位	点数	分限	遺物No.	備考
182	1・5-70	口縁	1	大木8a	499	太い波線
183	2・6-17	口縁	1	大木8a	450	口縁部平滑、太い波線
	2・6-71	口縁	1	大木8a	289	太い波線
184	3・7-61	口縁	1	大木8a	155	太い波線
185	3・6-95	口縁	1	大木8a	134	波線の脇付
186	3・1-44	口縁	1	大木8a	1019	波線の脇付
187	2・5-62	口縁	2	大木8a	573	波線の脇付
188	4・3-30	口縁	1	天神山	844	半龍竹管の朝暎
189	2・6-43	口縁	1	天神山	447	半龍竹管の朝暎
190	3・2-53	口縁	1	天神山	809	半龍竹管の朝暎
191	4・8-34	口縁	1	天神山	80	半龍竹管の朝暎
192	4・2-28	口縁	1	天神山	748	半龍竹管の朝暎
193	0-14-54	口縁	1	天神山	7	半龍竹管の朝暎
194	4・3-22	口縁	1	天神山	842	半龍竹管の朝暎
195	3・6-93	口縁	1	天神山	35	半龍竹管の朝暎
196	3・2-17	口縁	1	天神山	980	半龍竹管の朝暎
197	3・1-44	口縁	1	天神山	1236	半龍竹管の朝暎
198	2・4-64	口縁	1	天神山	993	半龍竹管の朝暎
199	4・2-30	口縁	2	天神山	1284	半龍竹管の朝暎
200	3・1-92	口縁	1	天神山	994	半龍竹管の朝暎
201	4・3-12	口縁	1	天神山	755	半龍竹管の朝暎
202	3・7-82	口縁	1	天神山	202	半龍竹管の朝暎
203	3・1-53	口縁	1	天神山	1149	半龍竹管の朝暎
204	3・1-93	口縁	1	天神山	996	半龍竹管の朝暎
205	3・8-80	口縁	1	天神山	113	半龍竹管の朝暎
206	3・7-77	口縁	1	天神山	163	半龍竹管の朝暎
207	3・4-70	口縁	2	天神山	797	竹管の朝暎
208	2・3-47	口縁	1	天神山	1310	半龍竹管の朝暎
209	3・2-79	口縁	1	天神山	772	竹管の朝暎
210	2・3-16	口縁	1	天神山	1335	半龍竹管の朝暎
211	3・3-70	口縁	1	天神山	820	竹管の朝暎
212	0・4-94	胴部突起	1	天神山	1265	ブラス状
213	4・3-40	胴部突起	1	天神山	846	ボタン状
214	4・3-44	胴部	2	天神山	1891	半龍竹管の朝暎
	4・2-28	胴部	1	天神山	1928	波線
215	4・3-13	胴部	1	天神山	1893	半龍竹管の朝暎
216	1・3-91	胴部	2	天神山	1892	半龍竹管の朝暎
217	2・2-62	胴部	1	天神山	1889	半龍竹管の朝暎
	2・5-25	胴部	1	天神山	1926	
	3・2-14	胴部	1	天神山	1927	
218	1・2-39	胴部	1	天神山	1890	半龍竹管の朝暎
	3・1-34	胴部	1	天神山	1929	
219	4・8-47	胴部	1	天神山	1883	半龍竹管の朝暎
220	3・2-86	胴部	1	天神山	1894	波線・押し引き
221	4・4-26	胴部	1	天神山	1895	半龍竹管の朝暎

図番	グリップ	部位	点数	分限	遺物No.	備考
222	3・2-74	胴部	1	天神山	1896	半農竹管の刺突
223	4・1-00	胴部	4	天神山	1899	底縁・押し引き
224	3・3-68	胴部	2	天神山	1930	半農竹管の刺突
	3・3-68	胴部	1	天神山	1900	
225	4・8-48	胴部	1	天神山	1897	半農竹管の刺突
226	4・3-22	胴部	1	天神山	1898	半農竹管の刺突
227	1・6-86	突起	1	松木川	409	胎形、内面調整
228	3・2-44	突起	1	松木川	1138	突起基部のみ
229	0・6-39	突起	1	松木川	213	突起基部のみ
230	1・3-43	口縁	1	松木川	1513	小突起、底縁
231	3・4-36	口縁	1	松木川	550	肥厚帯に竹管文
232	4・2-00	口縁	1	松木川	1809	肥厚帯に竹管文
233	3・3-50	口縁	1	松木川	792	肥厚帯に竹管文
234	3・4-94	口縁	1	松木川	802	肥厚帯に竹管文
235	3・2-86	口縁	1	松木川	819	肥厚帯に押し
236	4・3-42	口縁	1	松木川	1187	肥厚帯に押し
237	1・7-56	口縁	1	松木川	428	胎付帯に編み
238	3・4-24	口縁	1	松木川	862	肥厚帯に押し
239	3・3-14	口縁	1	松木川	1091	胎付帯に編み
240	0・3-36	口縁	1	松木川	1458	胎付帯に編み
241	0・3-18	口縁	1	松木川	1419	胎付帯に編み
242	0・3-47	口縁	1	松木川	1415	胎付帯に編み
243	0・3-52	口縁	1	松木川	1456	胎付帯に編み
244	4・2-06	口縁	1	松木川	783	胎付帯に編み
245	3・4-76	口縁	1	松木川	799	肥厚帯に編み
246	1・6-03	口縁	1	松木川	600	半農竹管の刺突
247	1・6-25	口縁	1	松木川	519	押し引き、底縁
248	2・4-23	口縁	1	松木川	1810	半農竹管の刺突
249	0・5-35	口縁	1	松木川	357	口縁に編み
250	3・2-85	口縁	1	松木川	1828	編み文、編み

図番	グリップ	部位	点数	分限	遺物No.	備考
251	2・8-13	口縁	1	松木川	204	口縁外反
	2・8-13	口縁	1	松木川	205	底文のみ
252	1・2-78	口縁	1	松木川	1379	底文のみ
253	4・8-44	口縁	1	松木川	44	底文のみ
254	3・7-21	口縁	1	松木川	362	底文のみ
255	2・3-11	口縁	1	松木川	1155	底文のみ
256	2・8-21	口縁	1	松木川	193	底文のみ
257	4・2-39	口縁	1	松木川	1811	底文のみ
258	0・3-05	底部	1	中層	1470	直立
	2・2-17	底部	1	中層	1121	結束羽状縄文
259	2・2-72	底部	1	中層	1857	直立、底面RL
260	1・3-52	底部	2	中層	1858	直立、結束羽状
261	0・3-18	底部	1	中層	1418	張り出す、RL
262	0・3-90	底部	1	中層	1457	直立、LR

図番	グリップ	部位	点数	分限	遺物No.	備考
263	2・10-12	口縁	1	余市	95	RL
264	2・4-33	口縁	1	余市	1808	LR
265	0・3-45	胴部	1	手番	1830	RL
	2・3-97	胴部	1	手番	1831	
	2・3-99	胴部	8	手番	1832	
266	2・3-76	胴部	2	手番	1829	RL
267	2・3-76	胴部	1	手番	1476	RL
268	3・2-60	底部	1	手番	1293	底文

表V-3-6 包含層出土三角土製品一覧

図番	グリップ	部位	点数	分限	遺物No.	備考
269	3・6-99	胴部	1	中層	191	周面内
270	4・6-04	胴部	1	中層	74	
271	4・6-04	胴部	1	中層	75	
272	4・6-04	胴部	1	中層	105	
273	4・6-07	胴部	1	中層	373	
274	4・7-37	胴部	1	中層	97	
275	4・8-45	胴部	1	中層	86	

中期の土器の底部

底部が直立するもの(258-260・262)と張り出すもの(261)がみられる。258・260の底面は、やや上げ底気味である。器面にはRL+LRの結束羽状縄文が認められる。底部付近は調整され無文帯になっている。259は器面にRLの縄文が整然と施されている。上げ底気味の底面にも同様の施文がみられる。261には器面にRLの縄文が認められる。くびれ部分と内面は調整されており、胎土に小砂利がみられる。262は底部が垂直に立上り、そこから外に開く。胴部は摩耗しており、RLの縄文が認められる。底部にはLRの縄文が施されている。

縄文時代後期の土器

Ⅳ群 a 類 (263・264) は2,101点出土している。発掘区の南部と、沢跡の周辺に分布している。破片数こそ多いが剝離した細片がほとんどである。0・10区、1・7区、2・4区に集中がみられる。復原個体が1個体あるが、器面がすべて剝落しているため写真のみ掲載した。口唇にRLの縄文が認められる。口径25.5cm、現存器高30.5cmをはかる。1・10区と1・7区から出土した。263は口縁にRL、口唇にLRの縄文が施されている。264は口唇がやや内傾する。口縁にLRの縄文が施されている。いずれも胎土に小砂利を含む。Ⅳ群 b 類 (265～268) は2・3区に若干の集中がみられる程度で、発掘区の南部に散発的に36点出土している。265～267はいずれもRLの細い縄文が施されている。268は底部の無文帯である。いずれも胎土に砂粒を含み、堅く焼き締まる。内面は平滑である。

続縄文時代の土器

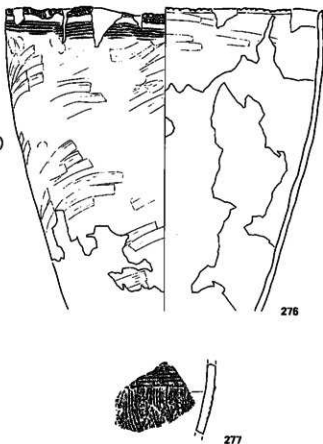
Ⅴ群 c 類は沢跡内の3・9区に集中して208点出土した。図示した2個体のみである。276はゆるく波打つ口縁に細い貼付帯がめぐらされており、口唇と貼付帯は縄文の疋痕により刻まれている。口縁部には横走る縄文が施されている。底部を欠いており、口径33.8cm、現存器高32cmをはかる。277は器面に微隆起を弧状にめぐらせ、そのあいだに横走る縄文と三角列点を交互に施している。このタイプは1点だけ出土している。

縄文時代の三角土製品

土器片の縁を削り、三角形にしたものである。いずれも摩耗している。大きいものでも長辺が3cm程で、いずれも摩耗している。剝離し割れているものもある。分布および胎土から、縄文時代中期のものと思われる。包含層からは図示した7点が出土している。

表Ⅴ-3-7 包含層掲載土器一覧(続縄文時代)

図番	タイプ	部位	点重	分類	遺物No.	備考
276	3・9-18	口縁	3	後北C2	140	ゆるい波状口縁
	3・9-18	口唇	2	後北C2	141	口唇に貼付
	3・9-18	口唇	2	後北C2	142	口唇に横走る
	3・9-18	口唇	1	後北C2	144	縄文
	3・9-18	口唇	1	後北C2	143	
	3・9-18	胴部	40	後北C2	1931	
	3・9-28	口唇	2	後北C2	145	
	3・9-28	口唇	1	後北C2	147	
	3・9-28	口唇	2	後北C2	148	
	3・9-28	一長	138	後北C2	1932	
	3・9-28	胴部	10	後北C2	1933	
	3・9-38	口唇	2	後北C2	150	
	3・9-38	胴部	2	後北C2	1934	
	3・9-48	胴部	1	後北C2	1935	
	277	3・9-56	胴部	1	後北C2	1859



図Ⅴ-3-15 包含層出土の土器 (14)

2 石器類 (表V-3-8~45、図V-3-16~31、写真図版87~95)

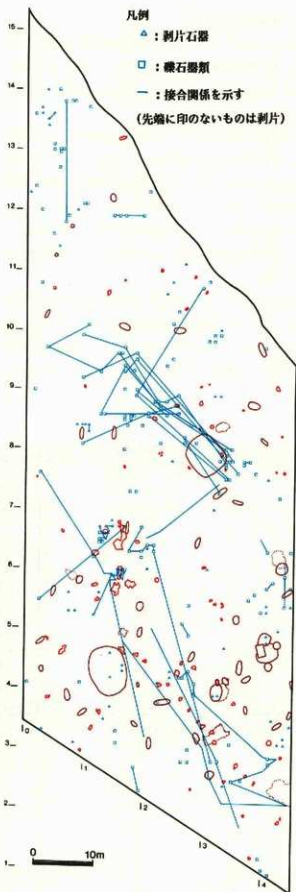
今回の調査で出土した石器類を下表に示した。総数29,141点のうち、包含層出土の点数は8,826点で、内訳は剥片石器304点、剥片7,811点、礫石器358点、方割礫239点、礫114点である。器種・出土地点に極端な偏りはみられないが、次頁の図に示したようにHP 1周辺にみられる焼けた方割礫の集中と、3・1区の石斧片集中が特徴的である。以下、器種別に主な点を記す。

石鏃 85点が出土し、9点が焼けている。素材は全て黒曜石で花ノ勝が3点ある。形態別には石刃鏃1点、柳葉形10点、五角形1点、無柄凹基15点、無柄平基10点、菱形2点、木葉形1点、有柄凸基28点、不明17点である。図番1は一稜の石刃を素材としたもので、先端部と基部の両面に調整剥離が加えられている。幅に比して長さが短いため、一般的な石刃鏃のイメージとはいささか異なっている。2~10は早期、11~28は前期、34~40は後期にそれぞれ属すると思われるもので、他は中期に帰属するものであろう。31は肉厚で、両側縁に楔形石器にみられるような加撃痕がある。54は焼けて白濁化し、剥離が不明瞭になっている。

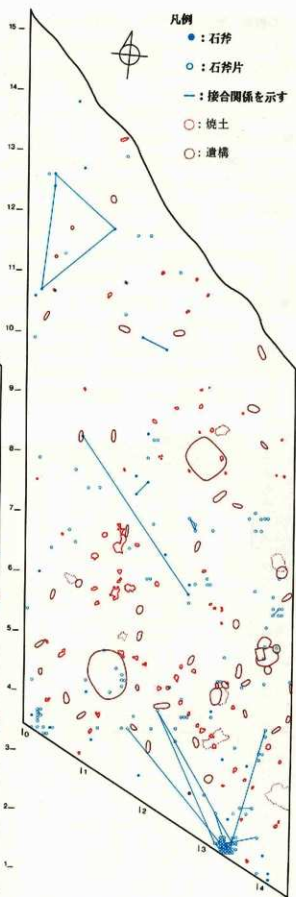
石槍 14点が出土し、3点が焼けている。素材は2点が頁岩で、他は黒曜石である。形態は有柄平基1点、有柄凸器7点、木葉形と不明各3点である。56は焼け弾けた側縁部片が1・5-49区 (FP 38北側)に残され、本体は1・5-01区から出土し接合した。60は頁岩を素材とし、基部の図右側に極端な凸状部を残すもので、刃部の調整剥離も浅く、両面に主剥離面を残している。61も頁岩製で、柄部が幅広く厚く、削器の可能性がある。

表V-3-8 石器一覧

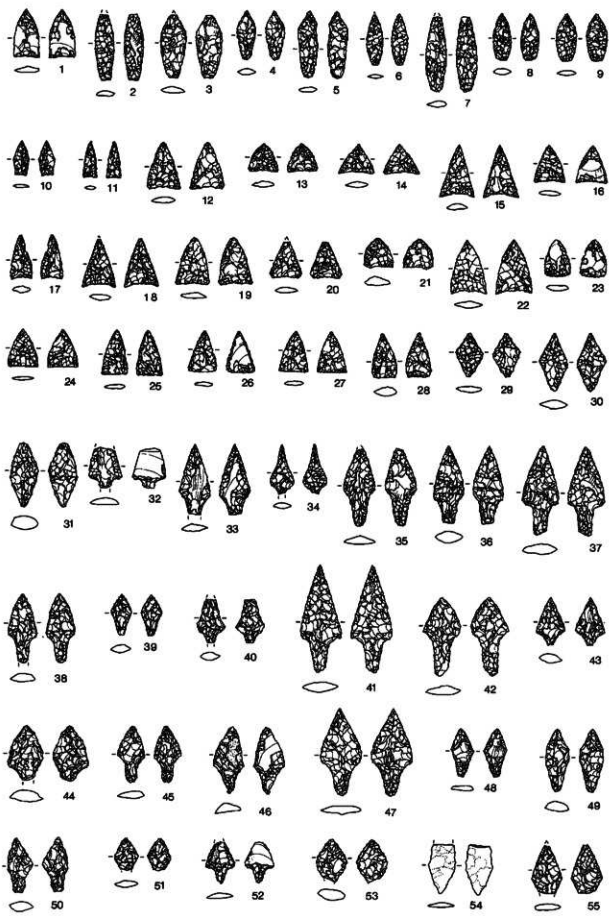
器種	HP1	HP2	HP3	P1	P2	P3	P5	P6	P7	P8	P10	P11	製法	TP	FP	FC	GP	包含層	計	
石鏃	1		3									3		1	2	2			85	97
石槍			1																14	15
石鏃			1									1							9	11
楔形石器			1									1			2				8	12
抉入石器																			1	1
つばね	1		1																22	24
釜器	1								1	1				2	2				13	20
削器			2											1	1				26	30
R・F	3		11						2	2	4			3	4				97	126
U・F			2							1				1	2				14	20
石製品																			1	1
ニードル																			2	2
ブレード																			2	2
石核		2													2				10	14
剥片(焼)			1		1								1	5	1172	1629			227	3036
剥片	14	7	9506						8	21	7625			114	2				7584	24881
小計	20	9	9529	0	0	1	0	0	10	25	7635	1	0	129	1187	1631	0		8115	28292
石斧	13	6	34	1								1		2	16				272	345
すり石																			25	25
砥石					1										1				22	24
石冠							1												6	7
たたき石	1													1					18	20
石皿		1						1							2				6	10
台石											1								3	4
板状礫																			5	5
石製品																			1	1
方割礫	4	2						1				1	6	3	1			3	239	260
礫	1												26	3	2		2		114	148
小計	19	9	34	1	1	0	1	1	1	0	2	1	32	12	19	0	5		711	849
総計	39	18	9563	1	1	1	1	1	11	25	7637	2	32	141	1206	1631	5		8826	29141



図V-3-16 焼けた石器類の分布



図V-3-17 石斧・石斧片の分布



図V-3-18 包含層出土の石器 (1)

表V-3-9 石録一覽 (1)

No.	グリッド	経(東)	緯(南)	経(東)	緯(南)	石質	回番	測No	形類	備考
1	1・5-02	24.3	13.6	3.0	1.0	黒曜石	1	222	石類	一般石類、面主測No.付、南緯線測
2	0・6-10	33.8	10.2	3.0	0.9	黒曜石	2	105	鏡類	短燭、面主測No.付
3	1・3-18	33.0	13.6	3.0	1.3	黒曜石	3	809	鏡類	短燭
4	1・3-33	25.7	10.0	3.2	0.6	黒曜石	4	830	鏡類	
5	1・3-36	34.8	10.2	3.4	1.0	黒曜石	5	822	鏡類	一燭燭
6	1・3-46	18.8	9.8	2.5	0.5	黒曜石	6	971	鏡類	短燭、動
7	2・10-26	26.0	8.3	2.0	0.4	黒曜石	6	63	鏡類	
8	2・10-45	21.0	8.5	1.9	0.4	黒曜石	53	鏡類	短燭、面主測No.付	
9	2・11-19	38.3	10.7	3.7	1.4	黒曜石	7	43	鏡類	短燭、短燭
10	3・3-06	24.3	9.6	3.1	0.7	黒曜石	8	705	鏡類	一燭燭
11	4・1-24	24.8	10.8	2.7	0.7	黒曜石	9	707	鏡類	面主測No.付
12	2・2-96	18.0	8.6	1.4	0.2	黒曜石	10	792	石類	
13	0・5-18	18.6	6.5	1.5	0.2	黒曜石	11	116	鏡類	
14	0・6-39	24.0	17.0	2.5	0.9	花十勝	12	99	鏡類	
15	0・8-83	14.2	14.8	2.0	0.5	黒曜石	13	100	鏡類	面主測No.付
16	0・9-97	15.5	16.8	2.5	0.6	黒曜石	14	74	鏡類	
17	0-11-82	15.7	14.8	3.8	0.8	黒曜石	32	鏡類	短燭	
18	0-13-33	13.6	13.2	1.8	0.4	黒曜石	7	鏡類	短燭、面主測No.付、動	
19	1・4-60	25.7	18.0	2.9	0.8	黒曜石	15	773	鏡類	面主測No.付
20	2・6-97	19.2	15.5	2.0	0.6	黒曜石	16	185	鏡類	面主測No.付、一燭燭
21	2-11-90	22.3	10.8	2.6	0.6	黒曜石	17	46	鏡類	一燭燭
22	3・2-86	23.6	18.8	3.0	0.8	黒曜石	18	675	鏡類	短燭、短燭
23	3・3-10	23.9	17.8	3.1	1.1	黒曜石	19	691	鏡類	短燭、一燭燭
24	3・4-43	18.6	16.9	2.7	0.6	黒曜石	20	688	鏡類	短燭、短燭
25	3・5-19	14.4	14.8	3.6	0.7	花十勝	21	169	鏡類	凸燭燭
26	3・9-39	15.5	15.4	2.9	0.8	黒曜石	84	鏡類	短燭、一燭燭	
27	4・3-20	26.6	18.7	3.6	1.4	黒曜石	22	790	鏡類	動
28	0-10-15	13.2	13.5	1.6	0.5	黒曜石	59	鏡類	短燭、面主測No.付	
29	0-10-35	17.0	16.5	3.4	1.2	黒曜石	52	鏡類	短燭	
30	0-12-47	14.5	14.6	1.8	0.4	黒曜石	18	鏡類	短燭、面主測No.付	
31	0-13-24	18.2	12.8	2.5	0.8	花十勝	23	8	鏡類	凸燭燭、面主測No.付
32	0-13-26	24.8	14.0	2.4	0.9	黒曜石	11	鏡類	短燭、一燭燭、動	
33	1・5-20	19.2	15.0	1.7	0.6	黒曜石	24	225	鏡類	面主測No.付
34	1・6-70	22.6	12.5	1.8	0.6	黒曜石	25	202	鏡類	面主測No.付
35	1-10-69	20.9	14.0	2.0	0.6	黒曜石	26	64	鏡類	面主測No.付
36	2・9-39	20.7	14.6	2.0	0.6	黒曜石	27	67	鏡類	面主測No.付
37	3・6-88	22.5	12.3	4.3	1.2	黒曜石	28	78	鏡類	短燭
38	0・6-94	22.0	14.3	3.0	0.7	黒曜石	29	133	鏡類	
39	3・5-08	29.7	15.1	4.7	1.4	黒曜石	30	170	鏡類	
40	3・6-63	33.9	15.3	7.0	2.9	黒曜石	31	639	木類	木類、短燭、面主測No.付
41	0・3-23	21.3	17.6	3.5	1.2	黒曜石	32	812	石類	短燭、面主測No.付
42	0・4-11	37.3	16.8	3.5	1.7	黒曜石	33	794	鏡類	面主測No.付
43	0・4-15	26.1	12.6	2.8	0.6	黒曜石	34	795	鏡類	短燭
44	0・5-73	40.5	16.2	4.2	2.2	黒曜石	35	220	鏡類	短燭、短燭、面主測No.付
45	0・5-95	22.0	15.4	5.4	1.4	黒曜石	36	134	鏡類	No.141(05-95)と給
46	0・5-97	47.0	19.5	5.2	3.2	黒曜石	37	642	鏡類	短燭、短燭、面主測No.付
47	0・6-26	35.4	15.0	4.8	2.0	黒曜石	38	91	鏡類	短燭、短燭
48	0・6-70	36.8	19.3	4.0	2.3	黒曜石	132	鏡類	短燭、面主測No.付、短燭	
49	0・9-97	21.0	10.7	4.2	0.7	黒曜石	39	75	鏡類	短燭
50	0-11-96	22.6	14.6	3.6	1.0	黒曜石	40	40	鏡類	短燭、一燭燭、短燭
51	1・5-05	56.7	21.7	5.7	4.5	黒曜石	41	147	鏡類	
52	1・6-97	40.8	19.4	5.3	2.2	黒曜石	42	201	鏡類	一燭燭
53	1-10-23	12.5	13.9	3.2	1.0	黒曜石	66	鏡類	短燭、短燭、面主測No.付	
54	1-12-91	24.4	14.5	5.0	1.2	黒曜石	43	24	鏡類	面主測No.付、凸燭燭
55	2・3-95	23.1	16.7	4.6	1.6	黒曜石	730	鏡類	短燭、短燭	

上表V-2-10 石鏃一覽(2)

No.	グリッド	股(m)	幅(m)	股(m)	頸(φ)	石質	図番	遺No	形態	備考
56	2-7-08	21.5	10.1	3.6	0.9	黒曜石		262	柄鏃	焼
57	2-9-08	17.4	12.4	2.7	0.5	黒曜石		86	柄鏃	焼
58	3-2-10	29.5	18.9	6.0	2.6	黒曜石	44	728	柄鏃	焼、片鏃社付
59	3-2-80	29.8	14.2	3.8	1.0	黒曜石	45	671	柄鏃	焼、片鏃社付
60	3-5-81	35.0	16.0	6.0	1.8	黒曜石	46	260	柄鏃	焼、片鏃社付、片鏃社付
61	3-7-60	46.2	21.8	4.8	3.0	黒曜石	47	80	柄鏃	
62	4-3-39	25.7	12.2	2.6	0.7	黒曜石	48	667	柄鏃	焼、片鏃社付
63	4-4-01	33.1	12.5	4.8	1.7	黒曜石	49	674	柄鏃	焼、片鏃社付
64	4-4-08	28.8	13.9	5.1	1.5	黒曜石	50	660	柄鏃	焼、片鏃社付
65	4-5-03	13.1	13.1	2.3	0.4	黒曜石		263	柄鏃	焼、片鏃社付
66	4-5-28	16.2	11.2	2.8	0.6	黒曜石	51	37	柄鏃	焼、片鏃社付
67	4-6-06	21.0	14.6	2.6	0.6	黒曜石	52	65	柄鏃	焼、片鏃社付、片鏃社付
68	4-7-48	16.8	10.6	3.2	0.6	黒曜石		54	柄鏃	焼、片鏃社付、片鏃社付、片鏃社付
69	4-6-07	22.0	15.8	5.6	1.8	黒曜石	53	90	—	焼、片鏃社付、片鏃社付
70	0-5-75	25.6	14.0	2.4	0.8	黒曜石	54	139	—	焼、片鏃社付
71	3-3-80	25.6	16.0	3.3	1.0	黒曜石	55	693	—	焼、片鏃社付、片鏃社付
72	4-5-43	25.3	11.5	3.5	0.6	黒曜石		261	—	焼、片鏃社付
73	0-3-43	18.5	10.3	4.3	0.8	黒曜石		817	—	焼、片鏃社付
74	0-5-72	14.5	10.4	3.7	0.4	黒曜石		272	—	焼、片鏃社付
75	0-5-76	15.0	10.5	2.9	0.4	黒曜石		138	—	焼、片鏃社付
76	0-13-39	13.8	12.0	2.2	0.4	黒曜石		14	—	焼、片鏃社付
77	1-3-31	21.7	13.0	2.6	0.7	黒曜石		831	—	焼、片鏃社付
78	1-3-35	15.0	10.0	2.5	0.3	黒曜石		972	—	焼、片鏃社付
79	1-3-56	18.2	12.8	3.0	0.6	黒曜石		970	—	焼、片鏃社付
80	1-3-75	19.6	11.1	2.0	0.4	黒曜石		827	—	焼、片鏃社付
81	1-3-84	18.6	15.2	5.8	1.3	黒曜石		824	—	焼、片鏃社付
82	1-3-86	10.3	10.8	2.3	0.2	黒曜石		821	—	焼、片鏃社付
83	1-6-21	9.8	7.4	2.8	0.2	黒曜石		607	—	焼、片鏃社付
84	2-4-92	24.3	11.0	3.3	0.9	黒曜石		774	—	焼、片鏃社付
85	3-4-36	30.1	15.2	6.6	2.0	黒曜石		682	—	焼、片鏃社付

下表V-2-11 石槍一覽

No.	グリッド	股(m)	幅(m)	股(m)	頸(φ)	石質	図番	遺No	形態	備考
1	0-5-96	24.2	21.6	6.0	2.5	黒曜石		140	柄鏃	焼
2	1-5-49	80.4	35.5	10.2	20.2	黒曜石	56	209	柄鏃	焼、片鏃社付、No221(15-01)と給
3	1-7-94	76.0	39.4	8.0	13.9	黒曜石	57	259	柄鏃	焼、片鏃社付
4	1-8-11	55.0	30.7	10.7	15.0	黒曜石		82	柄鏃	焼
5	1-12-77	45.5	30.4	10.0	11.7	黒曜石	58	23	柄鏃	焼
6	2-7-47	65.0	28.8	9.3	10.1	黒曜石	59	104	柄鏃	焼、片鏃社付、焼、片鏃社付
7	2-9-96	60.0	31.0	12.0	15.4	頁岩	60	85	柄鏃	焼、片鏃社付、焼、片鏃社付
8	4-2-10	52.4	21.2	8.3	9.7	頁岩	61	726	柄鏃	焼、片鏃社付
9	1-12-12	52.2	20.6	6.2	6.1	黒曜石	62	20	柄鏃	焼、片鏃社付、片鏃社付
10	0-5-08	33.6	21.2	7.8	5.0	黒曜石	63	119	柄鏃	焼、片鏃社付、焼、片鏃社付
11	3-4-95	33.8	17.5	7.4	4.3	黒曜石	64	672	柄鏃	焼
12	1-5-25	26.8	24.3	9.5	4.9	黒曜石		148	—	焼、片鏃社付
13	4-2-47	55.4	22.0	11.8	10.6	黒曜石		767	—	焼、片鏃社付、焼、片鏃社付
14	4-6-16	24.0	20.3	6.5	2.6	黒曜石		47	—	焼、片鏃社付

石鏃 9点が出土し、1点が焼けている。素材は頁岩とメノウが各1点で、他は黒曜石である。形態は棒状と有柄が各4点、不明1点である。65~67は両頭のもので、いずれも側縁全体につぶれがみられ、67の先端は摩滅し光沢がある。なお、67は素材にねじれがあるため、裏面の刺磨で矯正している。68も側縁全体につぶれがみられるが、図上端には使用痕は残されていない。72はメノウを素材とした刃部片で、使用痕はみられない。

表V-3-12 石鏢一覽

No.	グリッド	総(m)	幅(m)	総(m)	重量(g)	石質	図番	遺No	形態	備考
1	0-12-02	31.6	9.9	5.3	1.2	黒曜石	65	29	棒状	磨つた
2	0-12-86	45.5	8.4	5.8	2.1	黒曜石	66	28	棒状	磨つた
3	3-10-22	40.6	8.7	5.1	1.6	頁岩	67	70	棒状	磨つた
4	0-13-91	39.3	16.4	7.8	5.3	黒曜石	68	1	棒状	磨つた
5	0-3-18	28.2	14.2	4.3	1.2	黒曜石	69	810	有柄	磨つた
6	0-8-70	13.6	7.2	2.0	0.2	黒曜石	70	96	有柄	磨つた
7	2-10-78	27.2	15.8	4.9	2.0	黒曜石	71	142	有柄	磨つた
8	3-2-50	44.6	22.1	5.5	3.8	黒曜石		786	有柄	磨つた
9	3-4-89	27.9	15.4	5.3	1.8	メノウ	72	673	—	磨つた

表V-3-13 楔形石器一覽

No.	グリッド	総(m)	幅(m)	総(m)	重量(g)	石質	図番	遺No	形態	備考
1	0-12-90	20.5	19.5	6.5	2.6	黒曜石	73	25	凸状	磨つた
2	1-3-45	34.8	57.0	19.3	34.8	黒曜石	74	829	楔形	磨つた
3	1-4-38	26.0	46.3	8.2	10.6	黒曜石	75	216	楔形	磨つた
4	1-12-04	19.0	36.7	6.6	4.6	黒曜石	76	31	楔形	磨つた
5	3-6-07	53.2	35.8	10.4	20.0	黒曜石	77	172	凸状	磨つた
6	0-13-44	20.7	19.9	7.8	3.2	黒曜石	78	5	凸状	磨つた
7	1-12-68	27.0	15.3	6.0	2.9	黒曜石	79	183	凸状	磨つた
8	表採	32.6	27.6	8.8	7.1	花十勝		960	凸状	磨つた

表V-3-14 抉入石器

No.	グリッド	総(m)	幅(m)	総(m)	重量(g)	石質	図番	遺No	形態	備考
1	3-2-50	29.3	22.3	11.6	6.3	黒曜石		785	1	抉入

表V-3-15 つまみ付きナイフ一覽

No.	グリッド	総(m)	幅(m)	総(m)	重量(g)	石質	図番	遺No	形態	備考
1	0-13-34	73.0	24.8	12.2	19.4	花十勝	80	9	縦長	磨つた
2	0-13-36	40.0	25.3	3.3	3.1	花十勝	13		縦長	磨つた
3	0-13-52	61.0	21.0	7.2	10.0	花十勝	81	4	縦長	磨つた
4	1-2-37	22.8	18.9	4.1	1.9	黒曜石		814	縦長	磨つた
5	1-8-06	79.0	24.2	7.3	15.1	頁岩		83	縦長	磨つた
6	2-6-50	46.6	18.0	7.8	3.7	黒曜石	82	152	縦長	磨つた
7	3-1-91	59.9	24.6	10.0	11.0	黒曜石	83	694	縦長	磨つた
8	3-2-55	60.5	20.0	8.3	9.4	頁岩	84	662	縦長	磨つた
9	3-2-75	60.2	21.3	6.0	8.2	黒曜石	85	676	縦長	磨つた
10	3-3-77	82.4	42.1	18.4	44.1	黒曜石	86	670	縦長	磨つた
11	3-6-58	52.8	12.5	26.3	15.1	頁岩	87	77	縦長	磨つた
12	4-4-46	64.3	29.0	10.5	17.8	頁岩	88	658	縦長	磨つた
13	4-5-39	36.8	25.7	6.8	7.2	黒曜石		34	縦長	磨つた
14	2-6-62	28.0	18.8	3.4	1.4	頁岩	89	150	縦長	磨つた
15	2-11-15	28.4	21.0	5.0	2.9	黒曜石		45	縦長	磨つた
16	3-8-31	37.0	17.0	4.8	2.6	チャート	90	106	縦長	磨つた
17	4-4-29	32.5	20.9	4.1	2.1	頁岩	91	665	縦長	磨つた
18	1-2-55	32.1	19.6	7.6	5.8	頁岩	92	807	縦長	磨つた
19	3-1-79	48.8	19.2	6.6	7.0	頁岩	93	661	縦長	磨つた
20	2-2-42	56.6	32.0	8.2	12.7	頁岩	94	793	横長	磨つた
21	0-9-72	26.2	18.2	5.7	2.1	黒曜石		88	—	磨つた
22	4-2-27	17.2	21.1	6.3	2.2	黒曜石		697	—	磨つた

楔形石器 黒曜石製の8点(1点は花十勝)が出土している。形態は楔形3点、凸状5点で、原石面を残すものが4点ある。74は石核を、77は削器を使用したと思われるもので、いずれも三辺がつぶれている。74は図上面に敲打痕がみられ、77は一辺(図左)を欠く。79も一辺(図左)を欠くが、その破断面には上下両方からのリングがみられ、使用時の破損であることを示している。

表V-3-16 掘器一覽

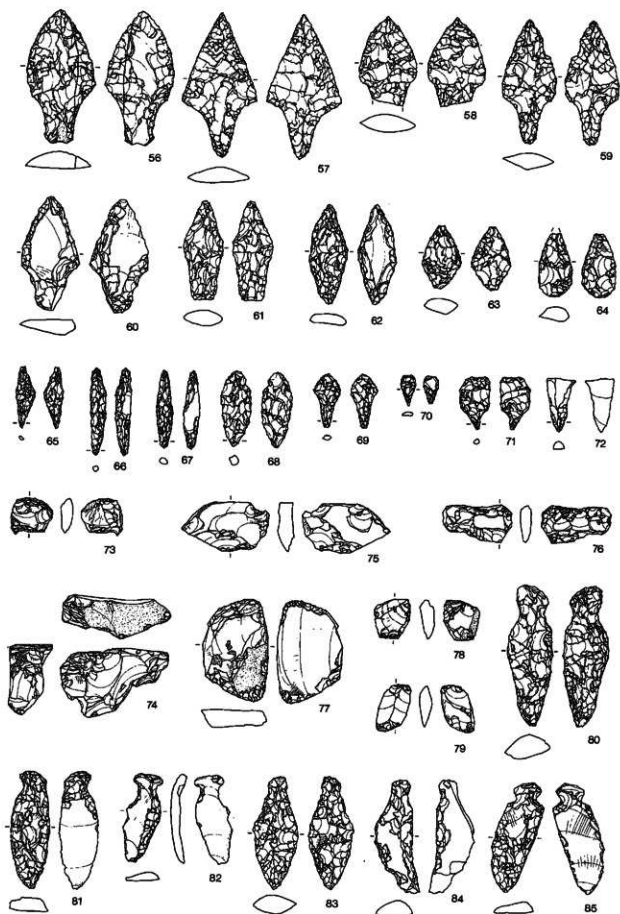
No.	グリッド	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)	石質	図番	遺物No	形態	備考
1	0-5-89	68.0	40.8	18.3	62.6	凝灰岩		978	鋸形	両面刃、端・先端部加工
2	0-7-65	69.8	37.2	20.2	46.4	黒曜石	95	115	鋸形	両面刃、一端が両面刃、断面が丸みあり、磨け
3	1-3-78	80.1	38.9	14.0	41.2	頁岩	96	837	鋸形	両面刃、両端に丸み加工、先端部粗削
4	2-3-75	61.0	39.4	15.4	36.3	黒曜石	97	244	鋸形	両面刃加工、端・先端部加工、磨り肌状
5	2-3-76	56.2	70.1	28.7	69.8	頁岩	98	776	鋸形	先端部加工、38-11、24-07と結合
6	2-5-91	56.0	52.2	15.0	51.2	流紋岩	99	230	鋸形	先端部加工、一端に取っ手付
7	3-1-95	35.8	18.2	10.0	7.2	頁岩	100	712	鋸形	両面刃加工、先端・側面加工、つまみ付きナイフ形状か
8	3-4-45	50.7	81.4	24.0	106.1	頁岩	101	689	鋸形	片の両面刃加工、先端・側面加工
9	3-5-05	36.2	27.0	7.4	8.8	黒曜石	102	181	鋸形	両面刃加工、先端部加工、磨
10	3-6-02	51.8	36.2	13.6	22.1	頁岩	103	160	鋸形	両面刃加工、両端部加工
11	3-6-06	37.0	21.6	9.5	8.8	黒曜石	104	154	鋸形	両面刃加工、先端が両面刃加工
12	3-6-44	28.0	25.0	10.2	5.7	黒曜石	105	159	鋸形	両面刃加工、先端部加工
13	3-6-96	46.8	39.7	13.6	28.0	凝灰岩		641	鋸形	片・両端部加工、先端部取っ手付

表V-3-17 削器一覽

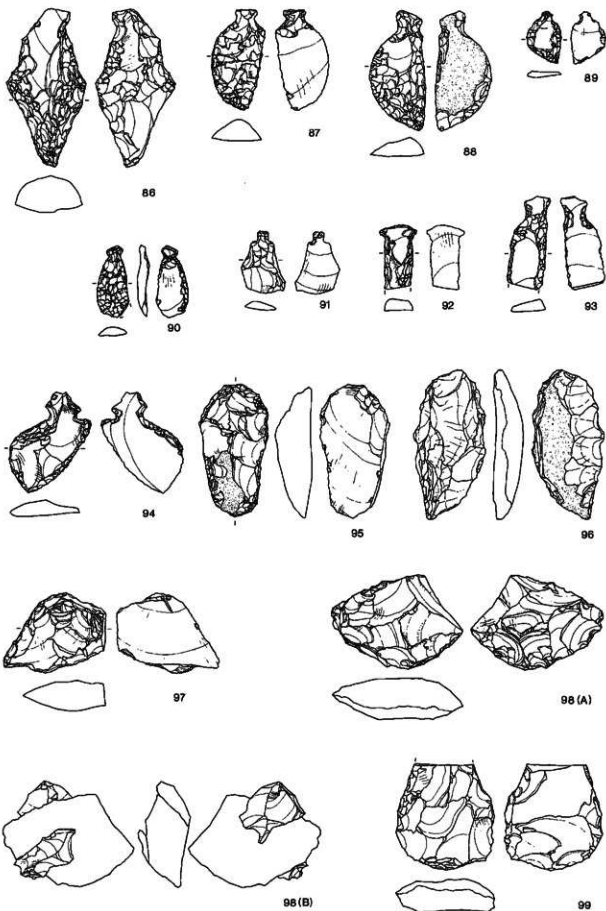
No.	グリッド	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)	石質	図番	遺物No	形態	備考
1	0-5-42	51.4	35.0	9.9	18.4	黒曜石	106	232	鋸状	両面刃加工、端部加工、一端に両面刃加工、一端に丸み
2	0-6-71	88.4	27.3	13.3	25.4	黒曜石	107	130	鋸状	一端部加工、一端部加工、両面刃加工、端部加工、先端が丸み状
3	0-6-81	47.9	27.7	8.6	9.9	花十勝	69	88	鋸状	先端が両面刃加工、一端部加工
4	0-10-37	23.4	24.2	6.0	3.0	黒曜石		51	一	両面刃の両面片
5	0-12-79	51.0	27.0	13.8	17.0	黒曜石	108	17	鋸状	両面刃加工、先端が丸み、端部加工、丸みあり
6	0-13-35	45.2	20.2	5.4	4.1	黒曜石	109	12	鋸状	一端部加工、一端部加工、両面刃加工、若くは、両面刃加工付
7	1-3-36	23.2	33.0	7.5	5.4	黒曜石		217	一	両面刃の両面片
8	1-6-36	27.6	15.1	3.4	1.4	頁岩		223	鋸状	一端部加工、つまみ付きナイフ？、磨け、16-46と結合
9	2-5-72	36.0	29.7	6.7	6.9	黒曜石		245	鋸状	一端部加工、一端部加工の両面片
10	3-2-24	35.8	40.6	8.0	15.8	頁岩	110	704	片	先端・側面加工、一端部加工、端部加工、一端に両面刃
11	3-2-79	26.3	29.6	7.8	5.8	頁岩		677	一	両面刃の両面片、一端に両面刃付
12	3-3-10	53.5	23.1	6.7	6.8	黒曜石	111	692	鋸状	両面刃加工、つまみ付きナイフ、磨け、磨き、一端に両面刃
13	3-3-52	56.0	21.3	9.5	14.2	黒曜石		663	一	両面刃加工、一端部加工、先端部加工、つまみ付きナイフ
14	3-3-57	98.6	32.8	14.5	38.1	黒曜石	112	664	鋸状	両面刃加工、先端部加工付、磨き、磨き、先端が丸み状
15	3-5-14	57.9	11.8	5.2	5.0	黒曜石	113	246	鋸状	両面刃加工、先端が一端部加工、磨け
16	3-5-25	49.2	27.6	9.0	10.8	黒曜石	114	180	鋸状	両面刃加工、つまみ付きナイフ、磨き、磨き
17	3-6-75	27.0	27.7	3.6	2.7	黒曜石		92	一	一端部加工、一端部加工の両面片
18	3-7-63	28.2	19.5	5.8	3.7	頁岩	115	81	片	先端が一端部加工、一端部加工、一端に両面刃付
19	4-1-08	34.6	48.2	7.7	10.1	黒曜石		651	鋸状	両面刃加工、先端部加工
20	4-1-13	18.6	21.6	9.2	3.0	頁岩		652	一	一端部加工の両面片
21	4-2-31	65.3	39.1	15.7	35.4	頁岩		695	鋸状	先端が一端部加工、42-20と結合
22	4-3-10	46.0	25.5	7.1	9.7	黒曜石	116	680	鋸状	両面刃加工、端部加工、断面が丸みあり、先端部加工、磨
23	4-3-12	91.3	26.2	10.9	25.1	頁岩	117	655	木彫	両面刃加工
24	4-4-12	23.2	25.0	5.9	2.9	黒曜石		657	一	両面刃加工の両面片
25	4-4-48	29.2	25.3	5.7	4.4	黒曜石		666	一	先端が一端部加工
26	4-7-49	79.8	41.0	7.0	24.1	頁岩	118	60	木彫	両面刃加工、両端部加工

抉入石器 黒曜石製の1点が出土している。抉入部は些程摩滅していない。

つまみ付きナイフ 22点が出土している。素材は黒曜石12点（うち花十勝3点）、頁岩9点、チャート1点である。形態は2点を除き縦長である。80は肉厚の花十勝を素材としたもので、刃部のつぶれが顕著にみられ、先端は摩滅している。またねじれと反りがきつい。主として石錐的に用いられたものと思われる。83は石槍の可能性もある。84は頁岩の摩耗した剥片を素材としたもので、極めて粗雑な作りである。86はつまみ部の欠損した一側縁を再度裏面から調整している。刃部の角度はほぼ90°で、つぶれが顕著にみられる。腹背面の稜が摩耗しているが、使用時のものかどうかは判然としない。91は頁岩の薄手の剥片につまみ部を作出したもので、刃部加工は全く一側縁（図右）に刃こぼれ状の剝離がみられる。94は唯一横長の剥片を素材としたものである。



図V-3-19 包含層出土の石器 (2)



図V-3-20 包含層出土の石器 (3)

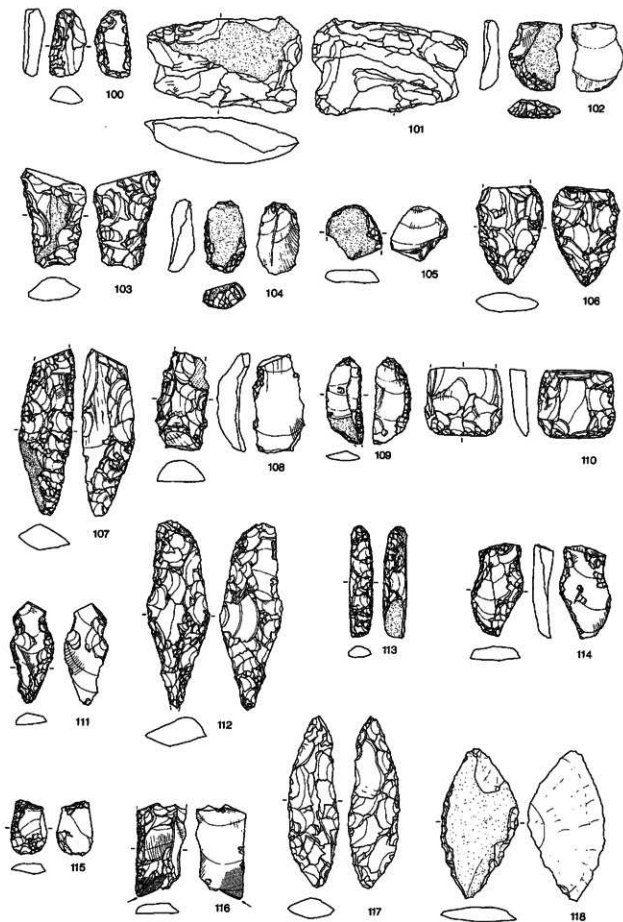
表V-3-18 R-F-覧 (1)

No.	グリッド	起(北)	幅(北)	起(東)	幅(東)	石質	国番	測No	形態	備考
1	0-3-15	18.0	2.7	7.6	2.0	黒曜石		811		新成川の礫石片、流つた
2	0-3-35	26.5	18.6	5.4	2.1	黒曜石		818	電状	新成川河川工、基岩火、石壁、流つた
3	0-3-43	19.4	16.1	5.1	1.1	黒曜石		969		一箇新成川の礫石片
4	0-3-80	37.0	28.5	8.2	8.7	黒曜石		219		一箇新成川の中央部、一箇新成川を封、封
5	0-5-17	48.0	39.0	11.2	22.3	メノウ	119	117		新成川の河川工、流つた
6	0-5-82	28.1	9.6	4.3	1.0	黒曜石		480		新成川の礫石片、封
7	0-6-56	54.3	30.3	13.3	23.4	黒曜石		128		一箇新成川、一箇大川、基岩火
8	0-6-61	29.2	17.7	3.6	1.5	黒曜石		131		一箇新成川、一箇大川、基岩火
9	0-6-81	47.9	27.7	8.6	9.9	花十勝		69		一箇新成川、一箇大川、一箇新成川を封
10	0-10-76	11.5	11.3	2.8	0.6	黒曜石		68		新成川の礫石片
11	0-11-53	27.0	33.4	5.6	5.4	黒曜石		41		新成川の礫石片、封、封
12	0-11-81	34.2	14.2	7.2	3.6	黒曜石		39		新成川の礫石片
13	0-11-89	39.5	24.2	8.6	5.9	黒曜石		22	電状	一箇新成川、礫石の礫石片
14	0-12-34	27.5	17.6	8.3	3.8	黒曜石		19		新成川の礫石片、石壁
15	0-12-43	22.3	20.0	3.0	1.4	黒曜石		30		新成川(北流部)の礫石片、石壁
16	0-12-60	60.3	49.6	4.6	12.5	泥岩		58		新成川の礫石片、1・11-90と結合
17	0-12-67	25.7	13.4	5.2	1.8	黒曜石		182	電状	新成川の礫石片、礫石片、新成川、流つた
18	0-12-72	16.7	17.6	3.6	1.1	黒曜石		645		新成川の礫石片
19	0-12-80	34.2	32.2	6.6	6.4	黒曜石		26		新成川の礫石片、新成川を封、0-12-81と結合
20	0-12-81	33.6	22.4	10.5	7.2	頁岩		49		新成川の礫石片
21	0-12-90	28.6	42.0	8.8	8.0	黒曜石		27		新成川の礫石片、新成川、新成川
22	0-13-16	25.0	21.0	3.6	1.4	黒曜石		15		新成川の礫石片
23	0-13-25	26.2	25.7	5.2	2.8	黒曜石		10		一箇新成川の礫石片
24	0-13-45	38.4	28.3	9.4	9.9	黒曜石		6		一箇新成川、礫石片、封、0-13-34と結合
25	0-14-30	15.0	11.4	2.0	0.4	黒曜石		16		一箇新成川、一箇新成川の礫石片
26	0-14-70	19.4	12.8	2.8	0.8	黒曜石		3		新成川の礫石片
27	0-14-80	14.2	8.8	1.0	0.2	花十勝		2		新成川の礫石片
28	1-2-83	41.3	48.2	16.4	32.9	メノウ		806		新成川の礫石片、新成川の礫石片
29	1-3-34	18.1	18.1	4.1	1.2	黒曜石		842		新成川の礫石片、封
30	1-3-34	31.0	18.8	6.6	3.3	頁岩		973		新成川の礫石片
31	1-3-63	35.3	31.7	7.5	5.7	黒曜石		828		一箇新成川、基岩火、一箇新成川を封
32	1-3-73	45.2	25.3	5.5	5.6	頁岩		834		一箇新成川、基岩火
33	1-3-83	45.7	20.6	4.4	4.0	黒曜石		838		一箇新成川、一箇新成川、礫石片
34	1-3-95	30.4	15.7	2.5	1.2	黒曜石		825		一箇新成川、一箇新成川
35	1-3-95	22.2	14.7	2.4	0.9	黒曜石		826		一箇新成川の礫石片
36	1-5-05	35.1	14.6	3.7	1.8	黒曜石		649		一箇新成川
37	1-6-15	16.6	9.5	3.0	0.4	黒曜石		190		一箇新成川
38	1-6-56	38.3	15.0	7.0	3.0	黒曜石		168		新成川の礫石片
39	1-6-63	18.8	13.0	9.0	2.0	黒曜石		191		新成川の礫石片
40	1-11-12	25.0	22.8	4.6	2.2	黒曜石		48	電状	新成川の礫石片
41	1-11-64	53.0	34.6	10.0	17.7	頁岩		50		新成川の礫石片
42	2-2-92	26.0	41.6	17.6	7.6	黒曜石	120	804		一箇新成川、一箇新成川、上流、新成川の礫石片
43	2-2-93	38.9	23.1	9.2	11.2	黒曜石	121	803		新成川の礫石片、新成川の礫石片
44	2-3-56	26.8	33.0	6.0	3.8	黒曜石		732		新成川の礫石片
45	2-3-65	14.3	43.2	10.0	6.1	黒曜石		731		新成川の礫石片
46	2-5-09	18.0	13.7	7.4	1.8	黒曜石		192		新成川の礫石片、一箇新成川の礫石片あり
47	2-5-62	34.6	15.0	10.8	5.6	花十勝		231		一箇新成川の礫石片
48	2-6-14	34.0	22.5	15.8	10.6	黒曜石		175		新成川の礫石片、一箇新成川、新成川の礫石片
49	2-6-29	74.5	28.8	9.4	20.2	珪岩		161	電状	新成川の礫石片、新成川の礫石片
50	2-6-60	78.7	61.8	16.0	52.6	黒曜石	122	153	電状	新成川の礫石片、新成川の礫石片
51	2-6-76	20.0	14.0	5.0	1.0	黒曜石		640		一箇新成川、一箇大川
52	2-8-91	46.0	26.3	11.6	18.7	メノウ		101		一箇新成川、新成川
53	2-10-35	31.8	12.3	7.4	2.4	黒曜石		55		一箇新成川、一箇新成川を封
54	2-10-47	33.9	18.6	6.3	3.4	黒曜石		56		一箇新成川、封
55	2-11-60	54.3	28.7	9.0	13.0	黒曜石		44		新成川の礫石片、基岩火、封、新成川の礫石片

表V-3-19 R-F-寛 (2)

No.	グリッド	径(m)	幅(m)	径(m)	縦(g)	石質	図番	No	形態	備考
56	3-1-33	65.2	40.8	15.5	33.4	頁岩		867	焼酎加工・楕円形石片	41-10と合
57	3-1-44	60.0	25.0	4.9	7.7	頁岩		747	楕円状	一節節加工
58	3-1-53	19.2	24.4	4.6	2.1	黒曜石		713	楕円状	一節節加工
59	3-2-80	19.3	11.2	3.2	0.6	黒曜石		703	両面加工の楕円片	楕円形石片
60	3-3-25	46.4	43.6	16.8	23.1	黒曜石		734	先端か一節節加工	片、楕円形石片
61	3-3-25	45.0	58.3	22.4	46.1	黒曜石		791	先端・両側加工	楕円片、楕円片
62	3-3-38	24.3	23.9	9.8	6.9	黒曜石		681	先端・片	一節節加工、楕円片
63	3-3-59	40.1	37.1	7.8	8.6	黒曜石	123	669	両側加工	楕円片
64	3-6-00	23.0	18.5	3.8	1.1	花十勝		174	両側加工	先端
65	3-6-07	70.0	40.6	13.6	48.8	縞頁岩	124	171	一節節加工	一節節加工、楕円片
66	3-6-11	53.2	42.0	10.5	18.4	黒曜石		176	楕円片	先端・両側加工
67	3-6-15	18.4	12.4	2.6	0.7	黒曜石		178	両側加工	先端
68	3-6-17	17.4	21.8	10.0	3.2	黒曜石		186	両面加工の楕円片	両面加工
69	3-6-18	30.7	28.0	10.3	8.8	黒曜石		157	楕円状	一節節加工、先端
70	3-6-19	49.6	42.0	7.7	16.7	メノウ		163	一節節加工	先端、磨
71	3-6-95	33.5	31.6	5.8	6.2	黒曜石		79	両側加工	先端
72	3-7-53	26.8	30.0	5.5	5.0	黒曜石		87	両側加工	片、一節節加工
73	3-10-04	47.5	37.3	9.0	17.6	頁岩		71	楕円状	一節節加工、一節節加工
74	3-10-10	36.7	18.7	6.7	2.8	黒曜石		73	両面加工の楕円片	
75	3-10-11	41.6	26.2	9.7	10.6	黒曜石		72	一節節加工	楕円片、楕円片
76	4-0-19	26.3	18.0	4.3	1.8	黒曜石		659	両側加工	先端
77	4-1-22	28.3	58.5	14.2	14.7	黒曜石		706	両面加工の楕円片	両面加工
78	4-1-29	43.6	29.8	12.3	14.7	頁岩		702	楕円状	先端か一節節加工
79	4-1-33	38.5	21.4	4.9	3.1	黒曜石		708	一節節加工	楕円片
80	4-2-10	38.9	19.6	10.3	6.9	黒曜石		696	両側加工	楕円片
81	4-2-10	24.7	39.0	11.6	11.3	黒曜石		727	一節節加工の楕円片	楕円片
82	4-2-12	15.6	22.3	5.6	1.5	黒曜石		653	両面加工の楕円片	磨
83	4-2-21	18.2	20.2	4.2	2.0	黒曜石		699	一節節加工	楕円片
84	4-2-23	20.0	10.1	6.2	1.1	黒曜石		698	両面加工の楕円片	磨
85	4-2-30	26.2	13.4	7.8	2.6	黒曜石		720	両面加工の楕円片	磨
86	4-2-31	41.5	29.4	8.7	8.0	黒曜石		701	両面加工の楕円片	楕円片
87	4-3-14	23.8	29.2	5.2	3.3	黒曜石		656	両側加工の中央部	磨
88	4-3-31	33.4	41.2	10.6	9.0	黒曜石		654	先端加工	楕円片
89	4-3-43	31.5	28.7	6.5	5.3	黒曜石		766	一節節加工	楕円片
90	4-4-26	21.1	18.0	3.9	1.0	黒曜石		844	両面加工の先端部	石片
91	4-4-29	49.3	25.6	6.7	6.3	黒曜石		218	一節節加工	楕円片
92	4-5-39	52.8	17.0	8.8	6.8	黒曜石	125	35	両面加工の楕円片	楕円片
93	4-5-49	29.1	29.4	9.8	7.9	黒曜石		143	楕円状	両面加工の先端部
94	4-6-07	20.4	14.0	6.2	1.6	黒曜石		42	両面加工の先端部	
95	4-7-04	16.9	21.5	3.8	1.4	黒曜石		650	両側加工の楕円片	磨
96	4-7-07	34.8	26.7	10.0	7.9	メノウ		61	一節節加工の楕円片	
97	表採	15.0	15.2	3.6	0.9	黒曜石		961	両面加工の中央部	磨、石片

石器 13点が出土している。素材は黒曜石・頁岩各5点、縞頁岩2点、流紋岩1点である。刃部形態では、主刺離面とはほぼ直角をなすもの（直角刃）が4点、直角に近い角度をもつもの（斜角刃）2点、腹背面からの比較的粗い加工によって波形をなすもの（波形刃）7点である。95は焼けた斜角刃で、刃部全体がつぶれており、図右側縁と上部に楔形石器状の加撃痕がある。96は頁岩の礫皮片を素材とし、両側縁に波形刃を作出している。98Aは頁岩を素材とした波形刃で、剥片2点が接合した（98B）。99は流紋岩を素材としたもので先端が波形刃である。100はつまみ部の折れたナイフを再生し、先端に斜角刃を作出したものであろう。101・103は頁岩製の波形刃で、いずれも相対する二辺に刃部をもつ。102・104・105は黒曜石の礫皮片を使用した直角刃で、105はラウンド・スクレイパーの破損品の可能性がある。



図V-3-21 包含層出土の石器 (4)

削器 26点が出土し、素材は黒曜石18点（うち花十勝1点）、頁岩8点である。106・107は共に先端が切り出し状に作出されている。いずれも基部を欠き、つまみ付きナイフの可能性もある。106は図左側縁に楔形石器状の加撃痕があり、それに対応する右側縁に弾けがみられる。108は先端側が極端に湾曲し、刃こぼれ状の使用痕がみられる。109は礫皮の残る縦長剥片を素材とし、原形は一侧縁は背面から、他側縁は腹面からの加工で切り出し状に作出したものと思われる。先端を欠いた後、背面からの加工で刃部を再生し、更に先端を欠損している。110は頁岩を素材とするもので、基部側を欠く。先端に両面からの刃部加工があり、両側縁は先端とはほぼ直角になるように調整されている。111は、つまみ付きナイフあるいはその未製品の可能性がある。摩耗し、焼けている。112は先端をわずかに欠くが、切り出し状の刃部をもつ。先端側両側縁のつぶれは顕著である。113は礫皮片を素材としたもので、丁寧な刃部加工がなされており、焼けている。114はつまみ付きナイフの可能性もある。刃部はつぶれ、全体に摩耗している。116は先端に彫器状の剝離がみられる。また、先端及びその腹背面が極度に摩滅しており（図のスクリーン・トーン部分、彫器面に沿った長い使用痕と、先端から基部側に向かう短い使用痕が鮮明にみられる（写真図版96）。一方側縁部の刃部加工は、摩耗以前のものと以後のものがあり、刃部のつぶれも彫器面のものよりは新しい。

R・F 97点が出土し、16点が焼けている。石材は大半は花十勝を含む黒曜石であるが、その他にメノウ5点、頁岩8点と錆頁岩・泥岩・珪岩各1点がある。No.15は、石斧制作過程で得られたと思われる暗緑色泥岩の礫皮片を素材とし、その縁辺に刃部加工を施したものの基部片である。石斧制作に関わる泥岩の剥片は3・1区を中心に多数出土しているが、それを利用した石器はこれ1点のみである。図番120は楔形石器状の加撃痕が上下端にみられる。121は肉厚の礫皮片を素材としたもので、先端は斜角刃の振動的な刃部加工が施されている。No.44は抉入石器状の挟りがある破片で、挟り部は些程摩滅していない。125は両面加工の側縁部片で刃部はつぶれている。なお、図の左側から彫器状の剝離がなされているが、明瞭な使用痕はみられない。また図右側面には上下からの剝離痕がある。こうした点から彫器あるいは細石核の可能性もあると考えられる。

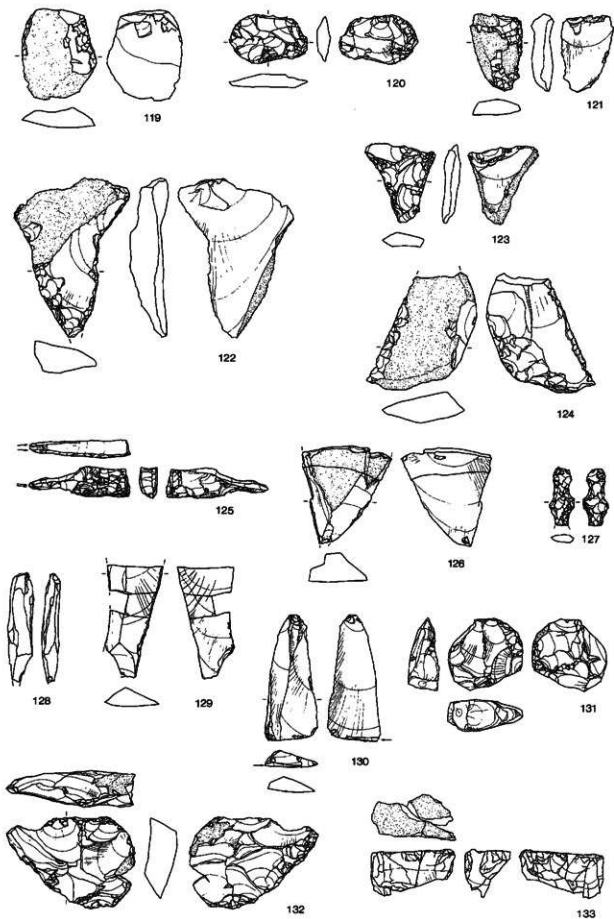
U・F 14点が出土し6点が焼けている。石材は全て黒曜石（1点は花十勝）である。126は一侧縁に刃こぼれ状の使用痕がある。先端部は焼けているが、3・6-00区出土の基部側は焼けていない。

石製品 黒曜石製の焼けたもの1点（127）が出土している。図の上下方向を欠いているが、下端部は更に広がる形で続くようである。側縁は両方共につぶれがみられる。

ニードル 黒曜石製の2点がある。128は先端を欠くが、摩耗した棒状原石の一端を細く加工している。No.2は三角形に削がれた礫皮片をそのまま使用したもので、先端が摩滅し、主剝離面も若干の摩耗がみられる。

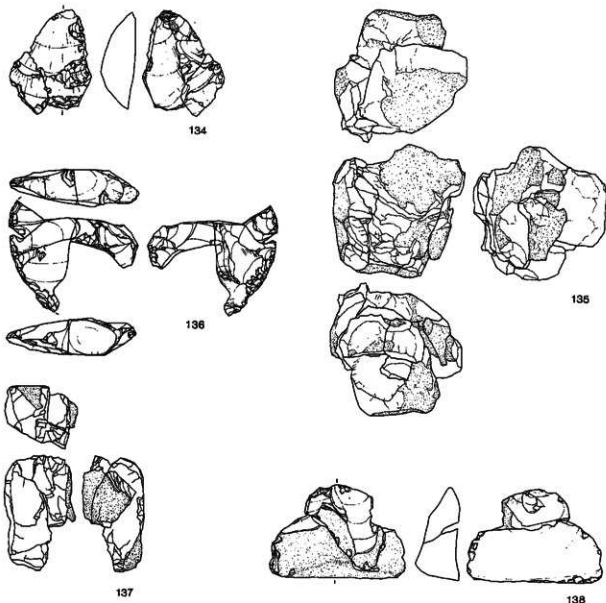
ブレード 黒曜石製の2点がある。129は焼け弾けによって割れたもので、3ヵ所から出土した破片が接合した。基部側を欠き、側縁部と先端の一部も見つかっていない。また稜は摩耗している。両側縁に刃こぼれ状の使用痕があり、この部分は摩耗していない。130も稜と側縁部に摩耗がみられるが、図の側縁上部には摩耗していない刃こぼれ状の剝離がみられる。なお、先端部に彫器状の剝離があり、この打点部には若干のつぶれがみられるが、図番116のように明瞭な使用痕は認められない。

石核 10点が出土している。石質は黒曜石7点、メノウ・頁岩各2点である。131は各面から剥片を削いだ後、焼け弾けによって割られている。132は全体に摩耗しているが、上下端に楔形石器状の加撃痕がみられる。



図V-3-22 包含層出土の石器 (5)

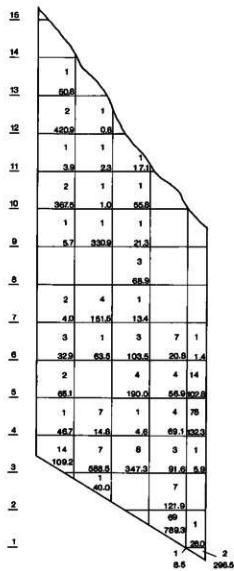
接合資料 小さな剥片が同一区で接合した例を含めると、かなりの量の接合資料があるが、主なもの7個体を表にした。このうち6例が焼け弾けである。No. 1・図番133はメノウの焼け弾けで、モザイク状のヒビが入り、リングやフィッシャーは判然としない部分が多い。No. 1では0・5-83区出土の焼けた剥片1点が接合した。134は黒曜石の焼け弾け資料である。接合した破片はほぼ40m離れた4・7-44区からの出土である。どちらにも先端に背面からの刃部加工がみられ、焼け弾け後にそれぞれが石器として用いられていたものと思われる。135はメノウ原石の焼け弾け資料である。正面図左側に接合した剥片（3・2-27区出土の7点が接合し礫皮片となっている）は、他の部分に比して焼け方が著しく、この部分のみが再び火熱を受けたものと思われる。136は側縁部に刃部加工がみられる黒曜石の焼け弾け資料である。上面図・下面図にみられる、剥離中央のリングが集約するバルブ（？）が、焼け弾けた剥片類の最大特徴である。FP 38出土の図番6と同一原石と思われるもので、これに関連する遺物と思われる。137は縞頁岩の焼け弾け資料である。138は黒曜石の肉厚な礫皮片の接合資料である。ほぼ全周に刃こぼれ状の剥離とつぶれがみられ、腹面に横方向の擦痕と摩滅がある。



図V-3-23 接合資料

石斧 破片を含め272点が出土している。内訳はほぼ完形のもの5点、刃部を欠くもの9点、基部を欠くもの7点、未製品2点、原石片・すり切り残片各1点と剥片類である。石材は泥岩が中心で、他に片岩が多く、砂岩製が1点（No.22・図番146）と珪岩の破片1点（No.24）が出土している。

全体の出土分布を図V-3-17・24に示した。製品類は、点数の少ないこともあって極端な偏りはみられないが、剥片類は3・1区を中心とする接合関係が目立ち、0・3区と4・4区にもまとまった出土傾向がある。表V-3-26~29は、接合関係を中心に、同一母岩と思われる破片類を一括してNo.を与えたものである。図番141は緑色泥岩の偏平長楕円礫を素材とし、その一面と端部をすって始刃に近い刃部を作出している。No.14は砂質の緑色泥岩が素材で、刃部を欠いている。基部・両側縁・破断面・一面にそれぞれ敲打痕がみられ、破損後たき石的に用いられたことが窺われる。142は黒灰色泥岩製で、刃部を欠く破片が調査区北側の4地点から出土し接合した。143は大型の白緑色泥岩を素材としている。両側縁が敲打剝離で調整されているが、先端部は未調整で、敲打痕がみられる。144は青黒色片岩製で基部から腹面を欠く。145は全体に丁寧なみがきが施されたもので、刃部の作出状態をみると再生の可能性がある。146は砂岩製で、全体が比較的丁寧にみがかれている。両側縁に平行する刻みが何条もみられるが、制作時のものか着装時のものかは判然としない。No.25は敲打痕が両側縁に顕著にみられる原石片で、3・1区の集中出土地点内から得られた原石片と接合している。147はすり切り残片で、焼けて赤褐色を呈している。150は極端に片減りした刃部をもつもので、先細りになっており、基部側に刃を再生したものの可能性がある。151は剥片が3・1区集中出土地点から得られた原石片と接合したもので、敲打痕がみられる。152は両刃の刃部片と思われるものであるが、刃部は顕著な敲打痕によってつぶれている。153は非常に整った形の先端部で、刃部には使用による縦方向の擦痕が顕著で、片減りしている。154も153とほとんど同形の先端部である。刃部は片減りが顕著で片刃的であるが、これは再生を繰り返した結果かと思われる。使用痕は擦痕ではなく剝離痕で残されている。No.61~65は3・1区の集中出土地点の資料である。No.63（図番157）を除き全て緑色泥岩の破片で、中でも礫皮片の割合が高く、敲打痕がみられるものも多い。従って、これらは石斧の一次製作に関する破片類と考えられる。156は破片類の接合資料で、やはり礫皮部分に敲打痕がみられる。157は薄手の片岩製のもので刃部を欠くが、基部側が一面から薄く研ぎ出されており、この部分が刃部として使用されていたものと思われる。158は小型の石斧で、先細りの形態を呈す。石のみもしくは基部側に刃



図V-3-24 石斧の分布

表V-3-26 石斧一覽 (1)

No.	グリッド	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)	材質	図番	測No	備	考
1	0-3-13	47.4	17.0	4.4	4.1	青灰色片岩		799	崩	
2	0-3-15	84.6	33.4	9.1	47.2	青灰色片岩	139	796	崩、面、結核	
3	0-3-23	37.8	43.5	12.5	24.8	緑色泥岩		798	崩片	
4	0-3-24	18.5	25.2	4.6	1.7	緑色泥岩		807	崩片、崩核あり	
	0-3-25	28.8	21.6	3.4	2.2	緑色泥岩		808	崩片	
	0-3-25	13.4	41.9	3.7	1.9	緑色泥岩		809	崩片	
	0-3-25	31.0	14.0	1.3	1.4	緑色泥岩		810	崩片、797(03-26)と合	
	0-3-26	—	—	—	1.8	緑色泥岩		797	崩、25あり	
	0-3-32	—	—	—	2.4	緑色泥岩		879	崩、25あり	
5	0-3-33	27.0	38.8	4.6	4.6	緑色泥岩		800	崩片	
6	0-3-43	37.7	19.0	7.8	8.4	茶色泥岩	140	791	崩核	
7	0-3-43	24.8	30.3	9.0	8.7	緑色泥岩		806	崩片	
7	0-4-11	94.8	34.3	12.4	46.7	緑色泥岩		778	崩核、崩核あり	
8	0-5-03	28.3	24.8	3.4	3.1	白緑色泥岩		460	崩片	
9	0-5-29	89.2	29.0	14.4	62.0	緑色泥岩	141	287	崩核、崩核一帯、崩核、崩核あり	
10	0-6-43	15.8	34.7	15.0	9.0	茶色泥岩		247	崩片	
11	0-6-76	50.6	38.4	10.0	18.2	黒色泥岩		520	崩片	
12	0-6-84	36.3	22.5	6.4	5.7	緑色泥岩		499	崩片	
	0-7-28	29.6	21.4	2.0	1.8	緑色泥岩		196	崩片	
	0-7-86	30.0	21.6	3.4	2.2	緑色泥岩		279	崩片	
13	0-9-18	34.4	21.8	5.8	5.7	緑色泥岩		122	崩片	
14	0-10-15	88.0	48.3	21.6	148.4	緑色泥岩		95	崩核、崩核、崩核、崩核、崩核あり	
15	0-11-62	29.6	29.6	3.2	3.9	黒色泥岩		544	崩片	
16	0-10-26	90.8	52.9	30.7	219.1	黒灰色泥岩	142	101	崩核、92-32-53(1.11-46.0-12-43,45)と合	
17	0-12-35	11.8	12.0	4.0	0.9	緑色泥岩		34	崩片	
	1-12-68	18.8	12.5	4.0	0.6	緑色泥岩		35	崩片	
18	0-12-96	147.4	67.3	25.4	420.0	白緑色泥岩	143	41	崩核、崩核、崩核、崩核、崩核	
19	0-13-87	97.0	39.4	9.0	50.8	青黒色片岩	144	4	崩、崩核、崩核	
20	1-2-95	62.1	44.2	11.0	40.0	白緑色泥岩		785	崩核	
21	1-3-09	63.2	45.7	11.8	58.0	灰色片岩	145	815	崩核、崩核あり、崩核あり	
22	1-3-11	108.0	44.5	27.8	214.2	灰色砂岩	146	824	崩、崩核、崩核あり、崩核、崩核あり	
23	1-3-23	25.1	23.2	11.6	5.6	緑色泥岩		826	崩、崩	
	1-3-49	23.9	25.9	6.5	3.4	緑色泥岩		832	崩片	
24	1-3-63	61.3	75.4	7.9	33.5	青灰色珪岩		636	崩片	
25	1-3-73	106.4	65.3	23.4	225.1	白緑色泥岩		555	崩片、崩核あり、698(31-34)と合	
26	1-3-85	82.2	19.6	22.8	48.7	赤褐色泥岩	147	821	崩核、崩片、崩	
27	1-4-01	24.6	15.5	2.3	1.0	緑色泥岩		801	崩片	
28	1-4-36	38.4	43.0	5.0	7.3	緑色泥岩		437	崩片	
29	1-4-53	7.8	15.8	2.3	0.2	黒灰色泥岩		883	崩片	
30	1-4-60	15.4	9.5	3.3	0.6	緑色泥岩		881	崩片	
31	1-4-61	—	—	—	5.4	黒緑色泥岩		749	崩片、25あり	
32	1-4-62	10.1	13.9	1.1	0.3	緑色泥岩		780	崩片	
33	1-6-73	26.4	54.8	25.0	63.5	黒緑色泥岩		408	崩核	
34	1-7-03	25.5	10.1	3.5	1.0	緑色泥岩		391	崩	
	1-7-23	22.0	11.2	4.1	1.7	緑色泥岩		390	崩	
35	1-7-82	82.0	41.6	18.5	99.2	黒色泥岩	148	337	崩核、270(27-04)と合、崩核、崩核	
36	1-7-85	58.2	50.2	11.8	49.6	黒色片岩	149	338	崩核、崩	
37	1-9-98	113.6	59.0	32.5	330.9	黒灰色泥岩	150	162	崩核、崩核、崩核、崩核、崩核	
38	1-10-62	22.7	20.0	2.0	1.0	緑色泥岩		51	崩片	
39	1-11-85	36.5	12.4	4.6	2.3	黒灰色片岩		81	崩片	
40	2-3-13	49.2	42.9	7.1	19.7	緑色泥岩		723	崩片、崩	
41	2-3-26	98.0	75.8	42.7	160.2	緑色泥岩	151	724	崩片、701・704・707・644(31-24,33,43,54)	
	3-1-43	—	—	—	8.8	緑色泥岩		707	崩片、55あり	
42	2-3-51	25.7	17.4	6.1	2.6	緑色泥岩		776	崩片	
43	2-3-53	45.5	67.0	16.7	71.3	青緑色片岩	152	838	崩片、崩核あり	

表V-3-27 石斧一寛 (2)

No.	グリッド	径(φ)	幅(φ)	厚(φ)	鉄(g)	石質	回数	測No	備考	
44	2・3-65	26.5	19.3	4.4	2.2	緑色泥岩		772	断片	
	2・3-65	20.8	25.8	6.1	2.7	緑色泥岩		773	断片	
	2・3-75	16.9	27.2	3.2	2.0	緑色泥岩		683	断片	
45	2・3-68	64.3	51.3	23.4	86.6	緑色泥岩		759	断片、断片	
46	2・4-40	41.2	17.9	5.0	4.6	緑色泥岩		733	断片	
47	2・5-08	25.3	41.4	4.2	4.4	灰色泥岩		404	断片、405(25-08)と合	
48	2・5-74	57.3	43.5	19.2	72.2	黒緑色泥岩		451	断片、断片あり	
49	2・5-77	78.6	49.8	14.0	112.7	緑色泥岩	153	364	断片、断片あり、断片あり、断片あり、断片あり	
50	2・5-87	26.9	12.0	1.8	0.7	緑色泥岩		389	断片	
51	2・6-17	33.9	19.0	6.9	5.8	緑色泥岩		367	断片	
52	2・6-32	75.2	49.9	14.2	95.4	白緑色泥岩	154	373	断片、断片あり、断片あり、断片あり、断片あり	
53	2・6-78	38.5	15.9	4.2	2.3	緑色泥岩		406	断片、352・401(26-86,87)と合	
54	2・7-08	34.0	44.3	7.3	13.4	黒緑色泥岩		248	断片、断片	
55	2・8-02	76.8	36.2	12.2	61.8	白緑色泥岩	155	212	断片、断片あり、断片あり	
56	2・8-11	43.2	23.8	5.7	5.9	白緑色泥岩		283	断片	
	2・8-11	22.6	16.3	3.5	1.2	白緑色泥岩		284	断片	
57	2・9-36	52.6	33.0	7.8	21.3	緑色泥岩		134	断片、断片あり、断片あり	
58	2・10-59	60.5	43.6	18.5	55.8	白緑色泥岩		137	断片	
59	2・11-05	71.6	41.5	4.0	17.1	青色片岩		98	断片	
60	3・0-99	21.9	32.2	13.1	8.5	青色片岩		841	断片	
	3・2-02	32.7	13.0	5.9	3.4	青色片岩		443	断片	
61	3・1-24	31.0	21.8	5.7	4.4	緑色泥岩		661	断片	
	3・1-29	35.9	99.0	12.3	49.0	緑色泥岩		657	断片、650(31-43)と合	
	3・1-33	87.2	40.0	44.5	84.9	緑色泥岩	156	705	断片、断片あり、844・847・699(31-33,34)と合	
	3・1-33	37.1	21.7	4.5	3.0	緑色泥岩		706	断片	
	3・1-33	60.4	36.0	12.5	18.5	緑色泥岩		754	断片	
	3・1-33	17.7	41.2	9.3	5.6	緑色泥岩		843	断片	
	3・1-33	29.3	34.6	7.6	6.5	緑色泥岩		845	断片	
	3・1-33	18.2	40.1	8.2	5.4	緑色泥岩		846	断片	
	3・1-34	37.1	18.2	8.3	5.0	緑色泥岩		658	断片	
	3・1-34	45.0	34.4	13.0	14.0	緑色泥岩		659	断片	
	3・1-34	52.6	112.3	16.1	91.1	緑色泥岩		694	断片、680(31-35)と合	
	3・1-34	-	-	-	25.5	緑色泥岩		696	断片、26あり	
	3・1-34	41.1	26.4	6.2	6.2	緑色泥岩		697	断片	
	3・1-34	-	-	-	2.7	緑色泥岩		885	断片、35あり	
	3・1-35	-	-	-	8.0	緑色泥岩		681	断片、断片1あり	
	3・1-43	20.3	37.0	7.4	7.4	緑色泥岩		649	断片	
	3・1-43	85.7	67.3	22.0	123.8	緑色泥岩		720	断片、559(43-03)と合	
	62	3・1-34	43.0	55.4	12.0	28.1	緑色泥岩		693	断片、断片あり、623(31-95)と合
		3・1-35	15.6	36.9	6.6	4.3	緑色泥岩		766	断片
		3・1-43	26.3	35.0	6.5	5.2	緑色泥岩		717	断片、断片あり
3・1-43		19.3	16.4	7.5	2.4	緑色泥岩		718	断片	
3・1-43		25.3	67.0	7.4	15.2	緑色泥岩		719	断片、断片あり、643(31-53)と合	
3・1-43		-	-	-	7.6	緑色泥岩		720	断片、65あり	
3・1-43		33.4	56.3	14.4	18.4	緑色泥岩		721	断片	
3・1-43		27.8	10.6	6.3	1.8	緑色泥岩		752	断片	
3・1-43		-	-	-	2.5	緑色泥岩		753	断片、45あり	
3・1-44		39.7	48.4	11.8	18.7	緑色泥岩		652	断片、断片あり	
3・1-44		25.4	7.9	5.5	2.2	緑色泥岩		653	断片	
3・1-44		26.5	14.0	5.0	1.6	緑色泥岩		654	断片	
3・1-44		29.4	19.2	11.6	3.6	緑色泥岩		655	断片	
3・1-44		-	-	-	4.9	緑色泥岩		709	断片、55あり	
3・1-44		26.2	30.9	7.1	3.8	緑色泥岩		710	断片、断片あり	
3・1-44		-	-	-	3.1	緑色泥岩		711	断片、25あり	
3・1-44		20.9	11.7	3.1	0.8	緑色泥岩		712	断片	

表V-3-28 石斧一覽 (3)

No.	グリッド	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)	石質	四番	番No	備考
62	3-1-44	23.6	19.2	5.3	1.9	綠色泥岩		713	新
	3-1-44	—	—	—	8.6	綠色泥岩		715	新・新2録り
	3-1-44	11.5	11.9	3.6	0.4	綠色泥岩		716	新
	3-1-44	42.9	22.6	4.9	6.0	綠色泥岩		751	新
	3-1-53	47.3	19.3	9.7	11.1	綠色泥岩		641	新・新録り
	3-1-53	46.8	23.6	5.3	8.0	綠色泥岩		642	新
	3-1-54	32.5	18.8	2.8	1.7	綠色泥岩		651	新
	3-1-55	25.0	12.1	3.8	1.4	綠色泥岩		645	新・新録り
	3-1-79	29.0	13.1	6.8	3.0	綠色泥岩		639	新
	63	3-1-48	120.2	45.7	12.3	115.3	黒色片岩	157	648
64	3-1-55	18.0	10.6	3.6	0.9	綠色泥岩		646	新
	3-1-59	82.0	27.1	10.4	37.0	綠色泥岩		647	新・新録り
65	3-2-38	63.8	20.9	11.0	25.8	綠色泥岩	158	628	新録・新2録り・石の地出し(出露部)・新録
66	3-2-60	66.2	29.7	14.1	37.5	綠色泥岩		858	新・新録り・624(32-80)と合
67	3-2-77	69.9	37.5	9.8	49.9	白綠色泥岩	159	575	新録・新2録り
68	3-2-98	16.1	23.7	3.0	1.1	綠色泥岩		670	新
	3-2-99	—	—	—	4.2	綠色泥岩		893	新・2録り
69	3-3-15	88.9	39.5	11.2	42.9	青綠色片岩		616	新
70	3-3-16	62.9	35.7	11.9	39.1	白綠色泥岩		635	新録・新2録り・新録り
71	3-3-50	40.5	28.9	9.6	9.6	青灰色泥岩		602	新・新1録り
	4-5-12	45.4	22.0	5.3	3.5	青灰色泥岩		488	新・475(45-23)と合
	4-5-22	70.5	34.2	9.5	62.6	青灰色泥岩		484	新録・478・85(45-22・25)と合
	4-5-22	—	—	—	6.9	青灰色泥岩		473	474・486・487と合・4録り
	4-5-23	—	—	—	7.0	青灰色泥岩		476	479と合・2録り
	4-5-32	24.3	16.2	7.5	1.8	青灰色泥岩		480	新
	4-5-33	19.1	17.2	4.2	1.4	青灰色泥岩		477	新
	3-4-21	16.2	17.0	3.0	0.9	綠色泥岩		603	新
72	3-4-21	28.5	20.1	4.3	2.6	綠色泥岩		608	新
	3-4-35	54.4	28.0	25.0	42.2	黒綠色泥岩		609	新
73	3-4-60	51.6	58.0	6.2	23.4	綠色泥岩		613	新
74	3-5-07	28.0	17.6	4.7	2.6	綠色泥岩		383	新
75	3-5-07	20.2	9.6	2.5	0.4	綠色泥岩		397	新
76	3-5-08	26.9	9.7	3.1	1.0	綠色泥岩		381	新
77	3-5-86	59.2	34.2	17.7	52.9	黒綠色泥岩		159	新
78	3-6-16	15.4	7.7	3.4	0.5	綠色泥岩		392	新
79	3-6-78	21.3	18.0	4.5	2.0	綠色泥岩		167	新
80	3-6-86	38.8	45.4	4.0	5.6	綠色泥岩		161	新
81	3-6-89	26.7	21.7	6.2	2.8	綠色泥岩		203	新
82	3-6-96	37.3	24.0	6.2	6.5	綠色泥岩		168	新
83	3-6-98	29.8	22.2	3.7	2.0	綠色泥岩		201	新
	3-6-98	24.5	15.8	4.3	1.4	綠色泥岩		202	新
84	4-0-18	109.4	43.9	21.1	143.9	綠色泥岩		554	新録・新録り・新録り・新録り・新録り・新録り
85	4-0-19	117.9	52.6	21.6	152.6	白綠色泥岩		553	新録・新録り・新録り・新録り
86	4-1-02	79.5	25.9	9.1	28.0	黒色泥岩	160	755	新録・新録り・新録り
87	4-3-02	42.4	15.0	5.1	5.9	綠色泥岩		770	新
88	4-4-02	7.4	21.2	2.3	0.4	綠色泥岩		592	新
89	4-4-06	14.9	6.2	1.7	0.1	白綠色泥岩		884	新
90	4-4-08	28.7	19.0	4.7	2.8	綠色泥岩		561	新
91	4-4-27	—	—	—	93.3	綠色泥岩		891	新・72録り
92	4-4-27	77.8	37.2	8.1	23.5	綠色泥岩		891	新・734(44-49)と合
93	4-4-28	28.9	24.1	6.2	3.9	綠色泥岩		574	新
94	4-4-41	30.4	30.0	10.0	8.3	綠色泥岩		735	新
95	4-5-00	17.1	14.9	2.6	0.9	綠色泥岩		501	新
96	4-5-13	15.5	13.7	1.8	0.5	黒綠色泥岩		472	新
97	4-5-15	49.2	24.3	9.3	17.2	灰綠色泥岩		84	新

表V-3-29 石斧一覽 (4)

No.	グリッド	長(㎜)	幅(㎜)	厚(㎜)	重(g)	材質	図番	測No.	備考
100	4・5-28	12.9	13.6	4.4	1.0	緑色泥岩		87	断片
101	4・6-08	11.0	24.4	4.8	1.4	緑色泥岩		97	断片
102	表採	72.5	26.5	12.0	43.0	緑色泥岩		498	断片
103	表採	22.5	28.1	3.4	2.5	緑色泥岩		—	断片
104	表採	—	—	—	7.5	青黒色片岩		—	断片、25g

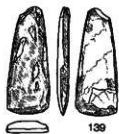
部を再生したものと思われる。No. 86は偏平長楕円礫を素材とした石斧未製品と思われるもので、一側縁先端側の敲打剝離が深く入り過ぎたために断念したものであろう。No. 87は礫皮片を素材とした未製品で、両側縁に敲打剝離による調整と、先端の一部に刃部を作出するためのみがきが見られるが、いずれも途中で放棄されている。160は小型の石斧で、基部に敲打痕がみられ、先端は使用によって弾けている。No. 90-96は4・4区の集中出土資料である。特に4・4-27区のP9北東部にほぼ集中してみられ、一部はP9上面にも広がっていた。石材は3・1区の集中地点同様に緑色泥岩が中心で、やはり礫皮片が多く、石斧制作に関するものと思われる。

すり石 25点出土しているが、破損しているものが多く、焼けているものも3点ある。素材は玄武岩(No. 9、図番164)と砂岩(No. 12)が各1点ある他は全て安山岩である。断面三角形を呈するものが大半であるが、亜円礫・長楕円礫を素材とするもの各1点と偏平楕円礫3点がある。161は上下端が使用されているもので、図の裏面が焼けている。162は端部片であるが、通常みられる使用面に接した側面にも使用面が残されている。163は敲打剝離で調整された図の下辺が主たる使用面であるが、図上辺もわずかに使用されている。165は長楕円礫を素材としたもので、使用面の幅が広い。全体に火熱を受けて焼け弾けたものと思われ、かなり離れた地点から出土した破片が接合している。168は使用面が幅広で敲打痕がみられる。169は亜円礫を素材としたもので、握り部の調整はないが石冠状の形態を呈し、使用面も広い。170は三辺が使用されている。173は一辺が敲打剝離で調整されているが、使用痕は不明瞭である。

砥石 22点あり、いずれも良く使い込まれた破損品である。素材は全て砂岩であるが、その質はまちまちで、径1mm内外の大粒の砂を多く含むもの(粗粒砂岩)が7点、泥岩に近い細かさの砂が主体のもの(細粒砂岩)2点とその中間のもの(中粒砂岩)13点に分けられる。使用痕には面的なものと溝状のものがあり、粗粒砂岩を素材としたものには溝状の使用痕はみられないことから、砂粒の粗さによる使い分けが行われていた可能性がある。174は粗粒砂岩を、176は細粒砂岩を素材としているが、いずれも両面ともかなり使い込まれており、側縁の使用面には擦痕がみられる。177・179・184・186には溝状の使用痕が明瞭にみられる。178はNo. 371(図左側)のみが焼けている。187は、図の下面に稜を残す凸状の使用面があり、いわゆる「トチむき石」(渡辺誠 1980)の先端部片の可能性がある。

石冠 安山岩製と砂岩製各3点がある。188は偏平亜円礫に若干敲打調整を施した小型のもので、使用面はすり石並の幅でしかない。189は砂岩製で、使用面が片減りしている。

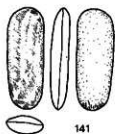
たたき石 18点がある。石材は安山岩13点、泥岩3点、珪質岩・砂岩各1点がある。凹状の使用痕を残すものが大半で、位置は端部・側縁部・面部とまちまちで、複合するものも多い。192と198は使用痕が面的に残っているが、「トチむき石」状の稜はみられない。193は、図の右側縁からの加撃によって二つに割られている。敲打痕のみられる上半分の破片(図上、遺物No. 610)は焼けていないが、下側半分は焼け弾けている。出土地点はまちまちである。194は棒状の砂岩を用いたもので、両面の同じような地点に深い凹状の使用痕がみられる。199は折れた石斧の中央部片をたたき石に転用したものである。



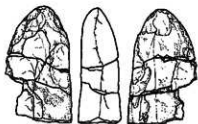
139



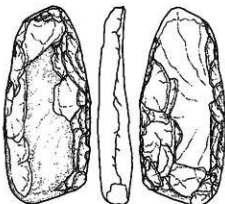
140



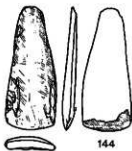
141



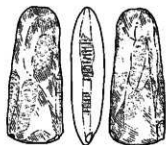
142



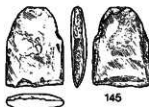
143



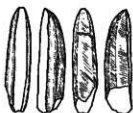
144



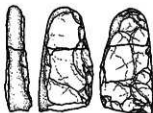
146



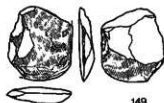
145



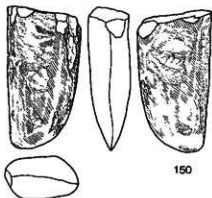
147



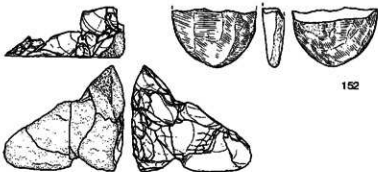
148



149



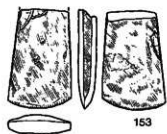
150



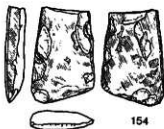
152

151

図V-3-25 包含層出土の石器 (6)



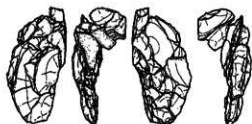
153



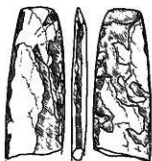
154



155



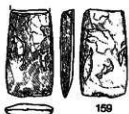
156



157



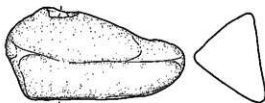
158



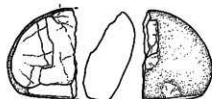
159



160



161



162



163



164

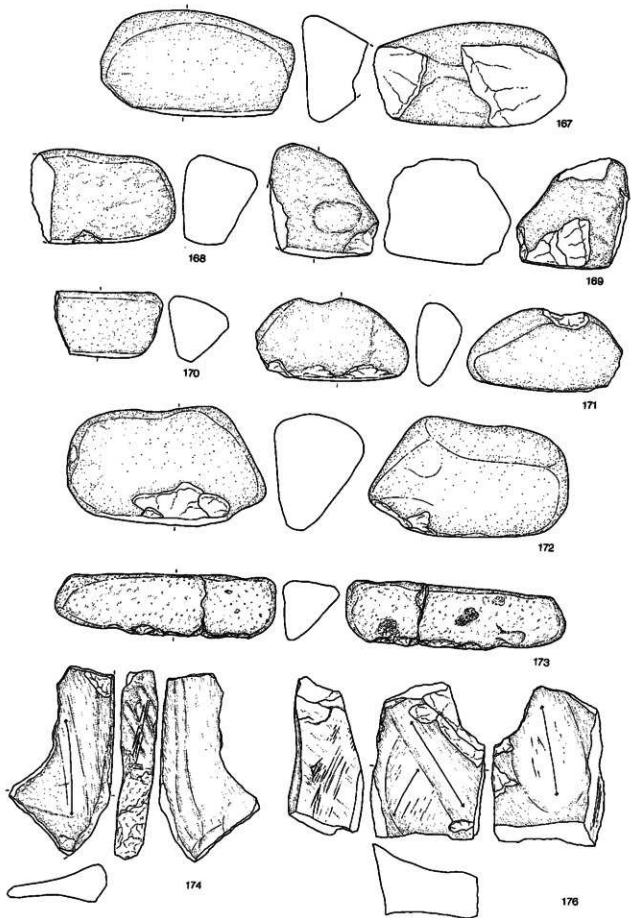


165

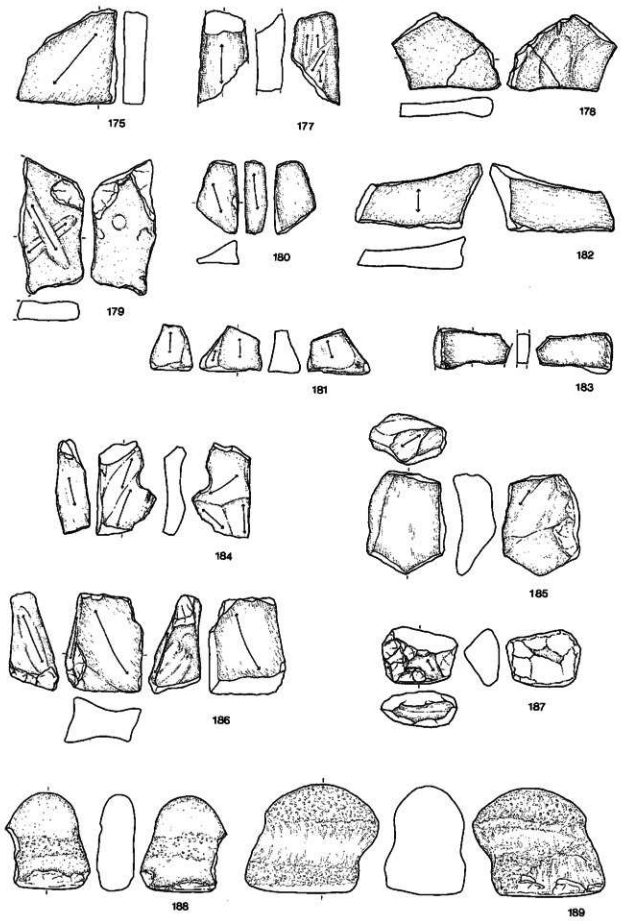


166

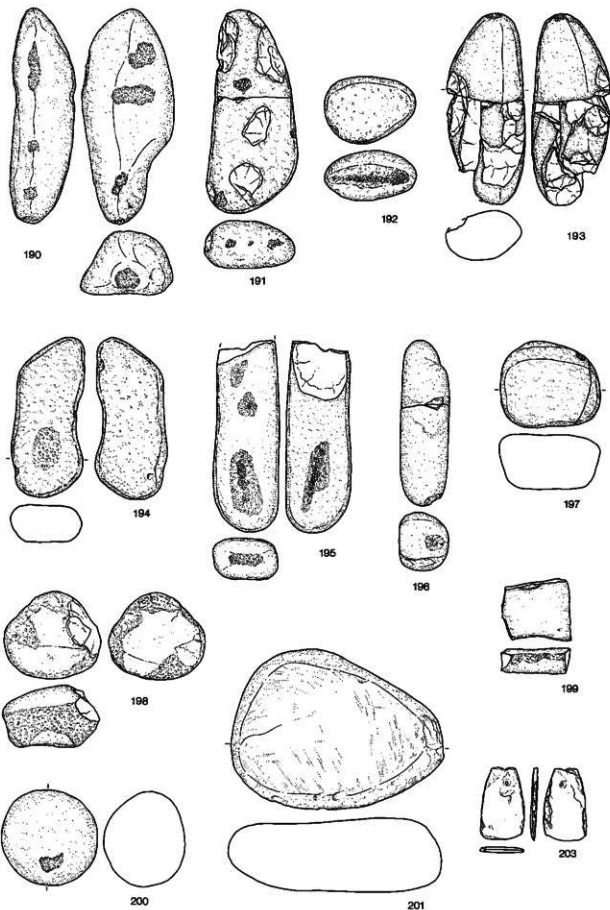
図V-3-26 包含層出土の石器 (7)



図V-3-27 包含層出土の石器 (8)



図V-3-28 包含層出土の石器 (9)



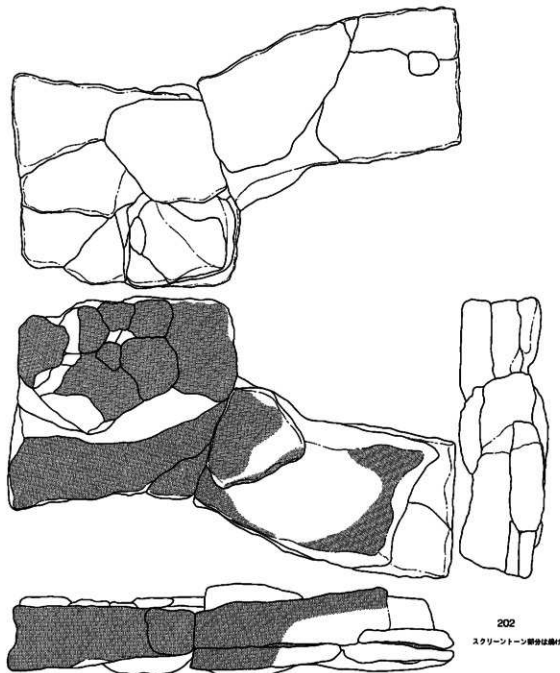
図V-3-29 包含層出土の石器 (10)

石皿 破片を含め6点ある。201は黒色を呈し、大きさの割に重く、小型の石皿に適した石材が選択されている。No. 2は安山岩の板状礫を主体としたもので、両面が使用されている。No. 3・4は同一個体の破片と思われる。No. 5・6は砂岩を素材としたものの破片である。

台石 3点がある。No. 3は201の石皿と同じ石材である。

板状礫 5点がある。No. 1・2は石斧の原材として採取されたものかもしれない。202は凝灰岩で、一面と一側縁が酷く焼けて赤化し脆くなっている。3・9-18区を中心に細かな破片が散っており、接合に務めたが300g余の細片が残った。

石製品 蛇紋岩製の垂飾(203)1点が出土している。出土地点は調査地点の南端で、単独の出土である。青灰色を呈し、全体に丁寧な研磨がなされ石斧状の形態を示す。穴は石錐で両面からあけられており、上端にみられるくぼみは、片側(図正面)穿孔の名残である。



図V-3-30 包含層出土の石器 (1)

表V-3-30 すり石一覽

No.	グリッド	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(t)	石質	図番	測No	備考
1	0-5-74	70.2	52.2	48.1	220.7	安山岩		470	第三層 礫片
2	0-9-25	59.0	47.0	28.4	77.2	安山岩		123	下礫片
3	0-10-03	56.2	48.0	22.8	75.0	安山岩		109	第三層 礫片、崩壊層、下礫片
4	0-10-62	61.4	31.6	47.0	112.8	安山岩		102	第三層 礫片
5	0-11-29	143.7	73.4	53.6	560.0	安山岩		161	第三層 上礫片、礫片
6	0-12-01	54.3	71.7	31.2	175.0	安山岩		162	礫片、崩壊層、第一、二の礫片
7	0-12-93	105.2	63.4	74.0	560.0	安山岩		45	第三層 一級礫
8	1-4-90	91.6	63.7	57.2	462.7	安山岩		163	第三層 一級礫
9	1-5-38	122.9	37.9	46.5	140.0	玄武岩		164	下礫片
10	1-6-05	81.0	51.0	46.6	211.7	安山岩		311	第三層 一級礫
11	1-8-25	92.0	62.6	48.8	203.7	安山岩		165	崩壊層、崩壊層、140・157・504・255・262 (19-63・72, 28-26, 37-39・47)と給
12	1-10-79	83.6	48.8	42.3	186.6	砂岩		118	下礫片
13	2-3-04	65.4	59.9	51.9	213.3	安山岩		777	第三層 礫片
14	2-3-59	93.6	35.2	68.7	246.5	安山岩		688	第三層 礫片
15	2-3-79	123.8	61.2	56.4	538.0	安山岩		684	一級礫
16	2-4-33	53.8	52.9	36.8	109.7	安山岩		166	731
17	2-4-33	102.3	46.7	80.1	775.0	安山岩		732	崩壊層
18	2-4-45	76.7	63.6	47.8	185.8	安山岩		663	第三層 礫片
19	2-7-83	153.4	84.0	72.0	870.0	安山岩		167	422
20	3-1-23	116.6	62.4	78.5	800.0	安山岩		168	849
21	3-1-44	101.0	99.8	88.5	1,089	安山岩		169	700
22	3-2-38	85.8	50.0	52.0	327.1	安山岩		170	629
23	3-5-47	122.4	64.3	35.0	367.6	安山岩		171	387
24	3-5-85	160.0	95.4	72.4	1,560	安山岩		172	150
25	3-6-85	175.0	58.2	39.3	533.4	安山岩		173	166

表V-3-31 礫石一覽

No.	グリッド	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(t)	石質	図番	測No	備考
1	0-3-07	66.9	51.7	21.2	74.4	中粒砂岩		812	第一層 礫
2	0-3-08	149.3	79.5	29.1	252.3	粗粒砂岩		174	811
3	0-8-17	52.2	33.6	20.5	34.2	中粒砂岩		147	第一層 礫
4	1-3-35	77.4	74.3	17.5	146.0	中粒砂岩		175	833
5	1-3-70	39.5	31.1	12.8	15.2	中粒砂岩		829	第一層 礫
6	1-4-10	122.9	88.9	60.8	640.0	細粒泥岩		176	804
7	1-4-90	73.9	36.8	21.8	75.9	中粒砂岩		177	748
8	1-6-93	91.4	59.1	12.8	71.2	粗粒砂岩		178	414
9	2-3-30	107.4	49.3	16.3	116.6	中粒砂岩		179	725
10	2-4-43	56.7	32.2	8.9	29.6	粗粒砂岩		180	760
11	2-6-33	41.2	44.9	9.1	24.2	中粒砂岩		362	第一層 礫
	2-6-33	42.6	42.2	13.0	20.9	中粒砂岩		372	第一層 礫
12	2-9-16	55.6	45.6	14.5	37.6	粗粒砂岩		130	第一層 礫
13	2-10-72	46.7	41.0	33.4	48.1	中粒砂岩		181	152
14	3-1-06	37.2	36.7	16.5	25.0	中粒砂岩		880	第一層 礫
15	3-1-23	86.8	58.2	22.4	102.0	中粒砂岩		182	850
16	3-4-83	60.3	32.5	15.7	31.7	中粒砂岩		183	588
17	3-6-38	73.8	48.2	26.0	65.4	粗粒砂岩		184	329
18	3-8-68	42.5	39.4	16.8	26.9	粗粒砂岩		217	第一層 礫
19	3-10-20	59.0	27.7	28.5	154.2	粗粒砂岩		185	151
20	4-1-30	39.5	41.4	14.9	25.4	粗粒砂岩		673	第一層 礫
21	4-4-05	76.0	59.5	38.6	178.9	中粒砂岩		186	589
22	4-4-46	59.8	46.0	29.0	88.6	中粒砂岩		187	737

表V-3-32 石冠一覽

No.	グリッド	径(m)	幅(m)	径(m)	量(g)	石質	図番	測No	備 考
1	1-3-85	56.1	69.9	47.0	219.0	砂岩		819	断片
2	3-7-32	76.8	61.2	30.0	232.0	安山岩	188	265	新断面線一断片
3	4-4-18	107.0	64.7	87.5	750.0	砂岩	189	573	一断片
4	4-5-47	79.0	38.0	62.4	234.0	砂岩		75	断片
5	4-7-43	42.0	39.0	43.0	77.0	安山岩		103	断片
6	4-8-38	89.5	63.6	38.6	238.6	安山岩		107	断片

表V-3-33 たたき石一覽

No.	グリッド	径(m)	幅(m)	径(m)	量(g)	石質	図番	測No	備 考
1	0-5-68	170.0	72.0	52.7	680.0	珪質岩	190	305	昔・音・断片
2	0-12-49	150.7	69.4	37.4	602.0	安山岩	191	16	昔・音・断片
3	1-2-68	73.7	56.1	43.6	210.0	安山岩		788	昔・断片
4	1-3-46	72.6	52.0	38.8	204.2	安山岩	192	438	昔・断片
5	2-2-97	150.3	60.6	37.8	348.8	黑色泥岩	193	774	断面線 664・757・326・607・632・568・610 (24-45, 26-66, 32-06・06-55, 34-43)と給 610断面線付
6	3-1-98	53.6	54.1	36.6	462.2	安山岩		565	断面線
7	3-2-22	126.6	56.1	29.5	356.3	安山岩	194	678	昔・断面線
8	3-2-82	139.2	48.5	38.9	409.5	安山岩		567	昔・断片
9	3-4-22	150.6	50.2	33.8	439.1	砂岩	195	605	昔・断面線 一断片
10	3-4-39	127.8	42.2	38.6	351.7	安山岩	196	611	断面線 407(35-35)に給
11	3-5-27	78.9	68.4	45.1	384.0	安山岩	197	386	断面線
12	3-6-96	76.7	69.5	46.8	387.1	緑色泥岩	198	199	昔・断面線
13	4-1-10	55.7	54.1	39.9	160.0	安山岩		562	一断片
14	4-1-34	55.0	48.2	19.2	92.6	緑色泥岩	199	444	断面線 給付断面線
15	4-2-47	107.3	79.2	64.4	610.0	安山岩		598	断面線
16	4-2-47	130.0	73.9	39.2	550.0	安山岩		739	昔・断面線
17	4-3-02	98.2	59.3	39.2	343.9	安山岩		558	断面線
18	4-5-24	78.5	78.0	64.3	530.0	安山岩	200	482	一断面線 断片

表V-3-34 石皿一覽

No.	グリッド	径(m)	幅(m)	径(m)	量(g)	石質	図番	測No	備 考
1	0-3-50	166.0	126.2	58.0	1,860	安山岩?	201	855	断片(給) 断面線(給)付
2	0-3-64	74.9	62.2	25.5	155.7	安山岩		790	断片 断面線 一断片(給) 一断片
3	1-11-36	84.4	66.1	25.7	145.7	安山岩		90	断片 断面線 一断片(給)
4	1-11-37	97.4	90.6	28.4	300.0	安山岩		91	断片 断面線 一断片(給)
5	3-5-80	79.3	34.2	54.6	221.3	砂岩		462	断片 一断片(給)
6	4-5-12	89.0	60.6	30.5	307.5	砂岩		483	断片 一断片

表V-3-35 台石一覽

No.	グリッド	径(m)	幅(m)	径(m)	量(g)	石質	図番	測No	備 考
1	0-11-11	108.0	99.2	65.6	733.0	安山岩		88	断片 一断片
2	0-13-21	124.5	94.2	41.5	760.0	安山岩		8	断面線 断面線 一断片
3	1-8-90	190.0	108.0	70.5	2,290	安山岩?		191	断面線 断面線(給)付

表V-3-36 板状礫一覽

No.	グリッド	径(m)	幅(m)	径(m)	量(g)	石質	図番	測No	備 考
1	0-11-68	64.2	41.6	8.3	34.6	泥岩		57	断片 64・55(0-13-58, 1-12-02)と給
2	1-10-89	49.5	42.0	5.6	20.7	泥岩		110	断片
3	2-6-53	81.7	68.6	12.4	68.1	砂岩		327	断片
4	3-9-07	370.0	160.5	72.4	3,425	凝灰岩	202	428	断片(給) 223・222・896・225~231・233~238 (39-17・18・28)と給
5	表 採	127.0	84.6	27.5	446.2	安山岩		888	

表V-3-37 石製品

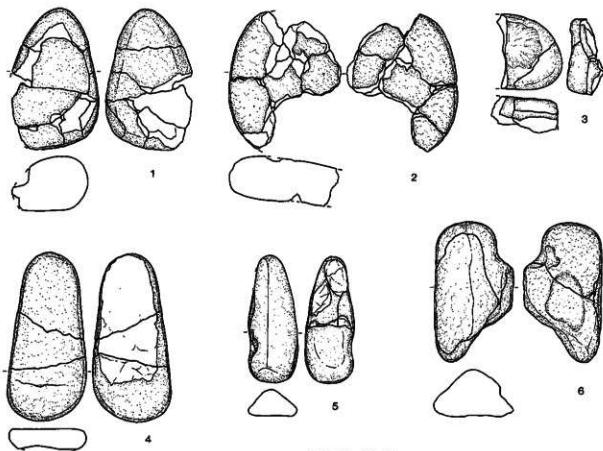
No.	グリッド	径(m)	幅(m)	径(m)	量(g)	石質	図番	測No	備 考
1	3-0-99	58.0	34.1	5.3	16.8	蛇紋岩	203	842	断片

方割礫 接合後239個体になった。このうち焼けているものが75個体と約三分の一に上る。接合したものは58個体で、このうち33個体が焼けており、焼け弾けと思われるもの25個体が含まれる。石質は安山岩が最も多く、ほぼ半分の117個体を占め、焼けているものが50個体ある。次いで凝灰岩が29（焼け7）、泥岩28（焼け4）、砂岩23（焼け5）、珪質岩20（焼け4）、玄武岩15（焼け1）の順で、その他に石英閃緑岩3（焼け3）、輝緑凝灰岩3（焼け0）、シルト岩1個体（焼け1）がある。

接合部分を除く破片の割れ方は、破断面一面のB型が52個体（焼け5）、同一面のC型が44個体（焼け13）、三面のD型が35個体（焼け13）、四面のE型が48個体（焼け11）となっており、B型の焼けたものの比率が低いことがわかる。またNo.191のように、半分が焼けて残り半分が焼けていないものや、No.11・37・56・111などのように接合後B型になる焼けた接合資料も多い。これは図番193のように、あらかじめ割った半分だけを焼いて弾かせている例が多いことを示すものといえよう。

分布をみると、沢跡北側の0・12、0・13区と、沢跡南側の1・6～1・8、2・6～2・9、3・7区及び、3・1、3・2区と3・5、3・6、4・5区の四地点に比較的多くみられる。焼けているものの分布は0・13と1・8、2・8、3・7区に比較的集中し、接合関係をみると、沢跡南側に沿って、HP3を跨ぐような形のものが目立つ。

図示したものは焼け弾けの例で、1と2は、0・9～3・7区にかけて出土した焼け弾け破片の接合資料で、石質は安山岩である。3は2・6区出土、4は2・6、3・6、3・10区出土の破片が接合したもので、石質はともに砂岩である。5と6は、4・5区出土の破片を中心に接合したもので、5は珪質岩、6は安山岩である。



図V-3-31 方割礫接合資料

表V-3-38 方割線一覧 (1)

No.	グリッド	径(m)	幅(m)	量(g)	石質	回番	備考
1	0-2-98	54.9	46.9	17.0	62.7	安山岩	852 B
2	0-2-99	54.5	31.9	14.2	19.1	凝灰岩	853 B. 凝
3	0-3-03	56.2	33.4	26.4	48.6	玄武岩	856 D
4	0-3-04	76.4	40.9	19.9	99.9	玄武岩	795 B
5	0-3-04	36.4	23.0	19.3	23.6	珧質岩	857 D
6	0-3-43	88.9	78.9	43.9	496.4	安山岩	792 B
7	0-4-09	36.5	51.5	25.3	38.8	凝灰岩	779 D
8	0-4-90	18.0	22.5	6.4	2.1	珧質岩	513 E. 割穴い
9	0-5-05	34.2	20.0	16.6	10.5	安山岩	280 E
10	0-5-06	47.2	30.7	11.6	14.4	砂岩	278 E. 割穴い
11	0-5-24	71.3	60.8	47.6	119.3	凝灰岩	318 C+D+E. 529(16-66)と割穴い
12	0-5-44	101.0	67.2	10.0	107.4	安山岩	514 E
13	0-5-46	31.0	15.4	14.0	8.1	泥岩	515 B+B. 割穴い
14	0-5-67	79.3	40.5	23.0	55.9	凝灰岩	306 B
15	0-5-75	74.9	47.3	26.4	86.2	凝灰岩	307 B
16	0-5-76	80.0	28.5	12.6	21.7	凝灰岩	517 E. 凝
17	0-5-81	40.1	32.7	9.6	12.8	安山岩	494 E
18	0-5-84	65.3	34.4	13.6	33.7	安山岩	489 E
19	0-5-94	56.8	50.8	14.2	38.5	安山岩	518 E
20	0-6-15	153.8	44.0	35.6	371.9	安山岩	242 B+C. 198(06-16)と割穴い
21	0-6-43	46.5	23.8	11.7	11.7	玄武岩	251 D
22	0-7-18	71.7	25.6	22.6	38.9	玄武岩	171 C
23	0-7-25	57.4	37.8	19.4	53.4	安山岩	172 E. 割穴い
24	0-7-28	29.6	30.0	12.0	7.0	泥岩	519 C
25	0-7-69	68.8	21.0	11.8	20.1	玄武岩	277 B
26	0-8-19	54.0	44.0	36.0	124.6	安山岩	148 C. 割穴い
27	0-8-90	76.5	54.0	57.8	221.5	安山岩	216 D. 240-214(28-05-56)と割穴い
28	0-8-97	41.2	24.4	12.8	13.2	玄武岩	521 B
29	0-9-36	109.8	69.6	45.5	321.9	安山岩	1 129 C+D+E+B+. 132-155-312-209-243-256-257 (19-22-55, 1-10-00, 28-17, 37-49)と割穴い
30	0-9-91	38.7	81.3	29.8	85.0	安山岩	163 C+D. 156(19-85). 258(37-38)と割穴い
31	0-9-98	108.5	86.7	34.3	330.7	安山岩	2 182 D+D+E+B+. 158-208-205-213-259-261(19-66 28-17-37-58, 37-37)と割穴い
32	0-10-18	59.5	19.5	49.3	44.0	安山岩	112 D. 砂岩
33	0-10-27	37.8	57.5	31.0	91.4	安山岩	100 C. 割穴い
34	0-10-82	114.6	54.4	46.0	332.6	安山岩	114 B. 砂岩
35	0-11-45	51.3	33.0	21.7	33.9	安山岩	542 D. 割穴い
36	0-11-45	54.0	34.3	21.4	33.1	凝灰岩	543 B+B
37	0-11-67	69.1	75.6	54.5	290.6	安山岩	56 B+C. 63(0-13-67)と割穴い
38	0-11-68	57.2	70.1	53.2	315.0	安山岩	58 D. 割穴い
39	0-11-69	70.9	85.7	47.5	373.4	安山岩	59 D
40	0-11-87	62.6	33.6	14.3	30.0	玄武岩	61 B
41	0-11-93	71.5	64.3	20.5	88.4	凝灰岩	62 B+C+C. 割穴い
42	0-12-13	29.1	15.0	5.0	2.0	玄武岩	546 E. 割穴い
43	0-12-25	55.9	38.6	25.3	75.5	安山岩	50 B
44	0-12-45	117.6	117.9	73.2	1,130	安山岩	33 B
45	0-12-59	72.4	25.4	15.8	46.0	泥岩	11 B+C. 割穴い
46	0-12-59	63.0	38.0	15.4	33.3	凝灰岩	12 C+C+D+E. 割穴い
47	0-12-61	78.2	51.0	31.9	179.6	安山岩	48 C
48	0-12-72	28.0	39.5	15.3	22.8	安山岩	49 C
49	0-12-81	41.6	34.4	27.6	33.2	安山岩	99 D
50	0-12-84	48.7	63.5	37.0	151.0	安山岩	178 B
51	0-12-90	50.0	55.7	28.3	56.9	安山岩	42 D
52	0-12-90	105.9	93.9	28.6	290.0	凝灰岩	43 B+B. 44(0-12-90)と割穴い
53	0-13-11	112.0	104.2	29.1	156.6	凝灰岩	19 C+E+E. 割穴い

表V-3-39 方割線一覧 (2)

No.	グリッド	股(m)	幅(m)	股(m)	傾(%)	石質	区番	測点	備	考
54	0-13-12	41.1	20.7	38.0	44.1	安山岩		20	D	
55	0-13-15	39.4	40.2	24.6	34.7	安山岩		22	C, 崩れ	
56	0-13-40	67.0	65.0	34.5	228.1	砂岩		1	C+C, 崩れ, 崩れ	
57	0-13-56	53.8	19.0	12.8	16.1	凝灰岩		6	C	
58	0-13-59	25.4	18.3	12.8	6.1	珪質岩		545	E, 崩れ	
59	0-13-76	87.6	49.5	26.0	175.7	安山岩		321	C	
60	0-13-76	69.5	48.2	39.6	126.6	安山岩		322	D	
61	0-13-77	42.3	37.0	33.0	74.4	安山岩		5	C, 崩れ	
62	0-13-77	28.2	23.8	21.7	11.8	安山岩		18	E, 崩れ	
63	0-14-09	101.3	60.6	41.6	172.6	凝灰岩		550	D	
64	0-14-17	69.9	46.6	27.4	65.9	凝灰岩		548	E	
65	1- 2-37	70.1	39.7	18.2	48.9	砂岩		890	C+C, 崩れ	
66	1- 2-84	94.2	86.2	51.4	474.9	安山岩		787	D	
67	1- 2-86	116.6	76.3	70.1	1,045	安山岩		786	B+E, 851(12-92)と崩れ	
68	1- 3-50	43.2	32.8	18.7	19.8	凝灰岩		828	E+B+E, 崩れ	
69	1- 3-50	34.8	29.8	10.6	8.3	凝灰岩		894	E, 崩れ	
70	1- 3-50	48.7	38.2	17.3	34.6	安山岩		900	E	
71	1- 3-52	40.7	40.9	21.4	34.8	安山岩		887	C, 崩れ	
72	1- 3-54	32.2	20.0	9.0	6.2	玄武岩		834	B	
73	1- 4-18	50.4	45.2	10.2	35.2	凝灰岩		803	C	
74	1- 4-36	58.6	49.1	38.3	114.7	安山岩		783	B	
75	1- 4-47	47.0	48.2	37.9	106.2	安山岩		816	C	
76	1- 5-33	33.0	50.2	22.0	42.1	凝灰岩		436	E	
77	1- 5-50	170.0	116.0	60.6	1,468	安山岩		493	B+B, 374(26-26)と崩れ	
78	1- 5-68	48.1	28.7	14.5	19.4	玄武岩		522	B+C+C, 523(15-58), 492(15-68)と崩れ	
79	1- 6-11	22.7	22.3	5.8	3.2	凝灰岩		526	E, 崩れ	
80	1- 6-12	44.5	37.7	19.4	32.2	砂岩		412	B+C+C, 417(16-12), 324(16-21)と崩れ	
81	1- 6-16	36.1	9.9	3.7	1.9	凝灰岩		420	R+E, 403(16-26)と崩れ	
82	1- 6-24	-	-	-	2.1	凝灰岩		527	E, 崩れ, 457	
83	1- 6-39	15.9	8.5	3.0	0.5	玄武岩		402	E	
84	1- 6-72	64.4	44.2	17.8	40.3	砂岩		530	E+E+E+, 531-534-409-502-356-357-368-606(16-72-92-96, 26-03-12-13, 32-17)と崩れ	
85	1- 6-91	27.5	20.7	16.0	12.4	凝灰岩		533	D, 崩れ	
86	1- 6-95	40.6	27.3	16.6	16.8	凝灰岩		380	B+D, 413(16-95)と崩れ	
87	1- 7-69	37.0	34.2	19.8	23.6	凝灰岩		297	D, 崩れ	
88	1- 7-72	30.0	20.4	21.3	18.0	安山岩		343	C, 崩れ	
89	1- 7-82	20.0	24.0	8.7	4.1	凝灰岩		537	E, 崩れ	
90	1- 7-83	53.2	20.0	21.4	27.8	安山岩		304	B	
91	1- 8-25	75.3	46.2	39.6	153.8	安山岩		164	D+D, 215(28-55)と崩れ	
92	1- 8-63	58.5	48.4	27.5	75.7	安山岩		175	D+D, 241(28-05), 264(37-34)と崩れ	
93	1- 8-64	31.6	31.4	14.0	9.0	シルト岩		184	D+D, 崩れ	
94	1- 8-69	51.2	45.0	43.0	93.4	安山岩		174	D, 崩れ	
95	1- 8-87	32.6	10.4	6.0	2.1	玄武岩		183	E	
96	1- 8-88	53.7	48.6	27.3	108.7	安山岩		176	D+D, 144(2-10-96), 264(37-34)と崩れ	
97	1- 8-89	59.8	43.5	40.5	98.1	安山岩		177	D+D, 204(28-35)と崩れ	
98	1- 9-54	53.0	35.8	11.2	28.0	珪質岩		153	B+B, 崩れ	
99	1- 9-55	46.4	43.0	24.4	45.9	安山岩		154	C, 崩れ	
100	1- 9-62	41.5	69.5	62.6	220.8	安山岩		139	D+D+D, 138(19-84), 195(37-55)と崩れ	
101	1-10-38	168.0	42.2	56.2	396.4	安山岩		128	C+C, 133(2-10-23)と崩れ	
102	1-10-84	93.0	32.4	17.0	58.6	砂岩		115	B	
103	1-10-99	68.2	47.7	42.4	169.7	安山岩		111	C	
104	1-11-48	128.6	89.0	31.5	193.1	安山岩		93	D+D+D+D, 94-549-82-83(1-11-58-68-98)と崩れ	
105	1-12-37	48.3	41.9	20.3	39.2	安山岩		39	C	
106	1-12-68	53.5	68.4	22.8	102.2	珪質岩		36	C	

表V-3-40 方割碑一覽 (3)

No.	グリッド	径(m)	幅(m)	径(m)	重(g)	石質	図番	跡No	備考
107	2-1-89	46.2	43.5	19.0	43.6	珧質岩		440	C
108	2-2-05	87.3	69.4	24.3	153.9	安山岩		726	D+D. 676(32-00)と総合D
109	2-2-67	95.6	79.7	19.0	117.6	砂岩		775	D+D. 727(22-77)と総合D. 磨滅跡
110	2-3-42	54.8	38.8	17.1	35.8	凝灰岩		769	B
111	2-3-88	160.0	87.8	87.2	1,410	安山岩		685	C+D+D+D. 746・745・742(24-61・72・80)と総合B. 磨滅跡
112	2-3-94	35.0	29.6	6.2	5.1	珧質岩		687	E
113	2-4-19	137.8	48.7	60.5	288.3	安山岩		665	D+D+D. 640・631(31-66,32-27)と総合D. 631磨滅跡
114	2-4-44	31.7	33.1	35.3	24.4	凝灰岩		730	D
115	2-4-78	53.5	43.0	28.0	82.9	安山岩		756	B+B. 454(25-60)と総合D+D. 磨滅跡
116	2-5-73	123.7	86.4	37.8	268.6	凝灰岩		456	CX4+DX4. 総合D+D. 磨滅跡
117	2-5-82	43.8	36.5	5.8	10.3	泥岩		445	E
118	2-5-88	41.0	9.1	25.3	12.8	安山岩		538	E
119	2-6-00	43.2	25.4	19.5	23.0	玄武岩		539	D
120	2-6-03	48.0	60.0	29.0	90.8	砂岩	3	354	C+C+E+B+. 355・369・370(26-03・13)と総合C. 磨滅跡
121	2-6-04	32.8	27.8	7.2	5.2	砂岩		353	E
122	2-6-17	133.3	60.8	18.7	175.8	砂岩	4	366	C+C+C+. 360・149(36-45,3-10-50)と総合B. 磨滅跡
123	2-6-33	126.2	59.6	31.7	199.8	砂岩		361	D
124	2-6-77	23.2	22.4	8.4	7.2	安山岩		344	E
125	2-6-87	77.6	68.6	37.4	302.3	安山岩		240	D+C. 557(43-20)と総合C
126	2-7-36	106.4	43.8	19.0	110.2	安山岩		349	B
127	2-7-73	91.0	60.6	20.2	69.0	凝灰岩		503	C
128	2-7-83	55.3	29.7	11.3	12.8	凝灰岩		299	C
129	2-7-83	120.0	79.0	19.7	123.0	凝灰岩		300	B
130	2-7-83	58.0	53.0	13.4	26.9	凝灰岩		301	E
131	2-7-83	26.2	25.0	13.0	7.2	凝灰岩		315	E
132	2-8-20	75.8	60.8	31.7	223.6	安山岩		210	B. 磨滅いり
133	2-8-41	65.3	53.0	26.0	133.0	安山岩		211	E
134	2-8-60	57.7	43.0	27.5	61.5	安山岩		275	C. 磨滅いり
135	2-8-61	102.2	60.2	35.5	272.2	安山岩		244	C+C. 194(37-22)と総合B. 磨滅跡
136	2-8-73	50.0	48.2	34.4	54.1	安山岩		426	D. 磨滅いり
137	2-8-80	33.4	50.4	15.2	38.9	安山岩		245	B. 磨滅いり
138	2-9-12	90.8	31.0	22.8	64.9	泥岩		119	B+C. 120(29-13)と総合B
139	2-9-33	38.8	45.0	39.0	67.4	安山岩		131	D. 磨滅いり
140	2-9-44	56.0	46.0	35.3	91.3	安山岩		136	D. 磨滅いり
141	2-9-49	53.0	16.0	19.4	17.7	珧質岩		125	B
142	2-9-68	23.8	20.0	18.0	7.6	凝灰岩		187	D
143	2-9-71	15.4	41.0	25.2	12.0	珧質岩		507	C
144	2-9-81	57.6	33.6	15.6	20.9	凝灰岩		508	C
145	2-10-10	45.2	31.8	12.0	15.5	珧質岩		317	C
146	2-10-40	66.0	40.0	20.7	42.4	泥岩		108	C+C+C+C. 総合D+D. 磨滅いり
147	2-10-52	49.0	18.2	33.9	28.3	安山岩		146	B. 磨滅いり
148	2-10-54	47.5	34.6	19.7	28.3	安山岩		314	C
149	2-10-76	67.2	92.4	24.3	183.8	安山岩		145	B
150	2-12-02	135.6	68.4	46.8	720.5	泥岩		38	C. 磨滅いり
151	3-0-99	53.3	39.9	40.9	75.0	安山岩		830	C+C. 総合C. 磨滅いり
152	3-1-33	40.2	39.9	17.4	30.4	安山岩		660	D
153	3-1-33	40.1	60.2	16.7	48.2	安山岩		848	C
154	3-1-43	68.2	32.6	14.0	28.5	安山岩		708	E
155	3-1-44	40.6	31.4	10.2	11.8	安山岩		714	E
156	3-1-45	114.2	93.4	34.4	368.3	安山岩		656	B
157	3-1-57	139.8	55.0	27.9	169.6	砂岩		767	B
158	3-1-76	46.0	68.9	19.0	81.9	安山岩		442	B

表V-3-41 方割曜一覧 (4)

No.	グリッド	距(m)	幅(m)	距(m)	縦(m)	石質	回番	備考
159	3-1-78	72.3	60.1	44.5	192.9	安山岩	638	C. 削ている
160	3-1-91	60.8	37.4	10.3	20.8	安山岩	886	E. 削ている
161	3-1-1	32.1	17.2	8.4	3.1	玄武岩	889	E
162	3-2-18	41.1	22.7	12.1	11.2	玄武岩	765	B
163	3-2-30	54.0	26.9	13.6	19.3	砂岩	679	B
164	3-2-43	26.2	34.7	47.8	28.8	凝灰岩	692	C
165	3-2-51	40.2	34.0	11.0	22.2	泥岩	449	D
166	3-2-58	42.6	45.0	19.7	46.5	珪質岩	569	B
167	3-2-64	23.9	31.1	6.0	4.8	凝灰岩	626	E. 削ている
168	3-2-70	52.2	22.6	20.2	31.6	泥岩	566	C+C+D+D. 504(32-70)と並行
169	3-2-75	30.0	15.0	3.9	2.3	砂岩	625	B
170	3-3-01	47.0	96.2	15.2	79.7	安山岩	617	B
171	3-3-45	39.4	35.1	13.0	25.8	泥岩	634	C
172	3-3-69	52.1	37.2	9.7	16.2	珪質岩	581	E
173	3-3-75	58.5	31.1	17.9	37.7	安山岩	582	C
174	3-3-76	29.6	30.8	31.2	19.7	安山岩	580	D
175	3-4-22	82.2	33.7	25.9	114.7	泥岩	604	B
176	3-4-74	31.2	33.8	8.9	9.9	安山岩	586	E
177	3-4-86	59.5	66.2	48.8	193.3	安山岩	587	C
178	3-4-93	72.0	49.6	42.0	195.6	安山岩	441	B
179	3-5-12	36.4	41.0	22.4	26.8	珪質岩	465	B
180	3-5-17	40.8	16.4	4.7	2.8	砂岩	384	E
181	3-5-17	33.6	20.3	4.6	2.7	砂岩	385	E
182	3-5-18	28.0	17.2	3.7	2.0	砂岩	382	E
183	3-5-26	30.0	24.9	4.9	3.1	砂岩	396	E
184	3-5-74	43.2	58.4	19.3	55.0	安山岩	466	B. 削ている
185	3-5-92	46.5	54.3	31.0	117.0	安山岩	464	B. 削ている。すりか
186	3-5-94	88.2	47.5	14.4	67.8	砂岩	469	C
187	3-6-00	42.0	6.8	24.4	9.7	安山岩	393	E
188	3-6-27	37.8	27.8	16.4	19.5	安山岩	330	D
189	3-6-27	14.5	42.0	32.0	19.1	安山岩	342	B
190	3-6-49	32.0	29.4	7.4	7.6	泥岩	328	E
191	3-6-94	100.5	76.2	31.8	314.1	安山岩	160	B+B. 78(46-02)と並行。新開。78は削ている
192	3-7-11	25.0	37.6	6.0	6.2	泥岩	288	E
193	3-7-12	58.5	29.4	18.2	37.7	泥岩	267	B
194	3-7-27	69.0	67.7	40.2	322.2	安山岩	263	D. 削ている
195	3-7-36	63.7	49.0	46.3	159.8	安山岩	429	C. 削ている
196	3-7-37	38.8	26.6	16.0	14.9	安山岩	260	D. 削ている
197	3-7-67	32.7	30.3	33.2	24.8	珪質岩	180	C+D. 179(37-77)と並行。C. 削れている
198	3-7-67	31.6	25.5	21.0	17.9	泥岩	181	C. 削ている
199	3-7-85	50.4	49.4	19.4	46.6	安山岩	193	D. 削ている
200	3-8-56	61.3	47.0	29.6	103.0	珪質岩	250	C
201	3-10-07	58.7	33.3	12.6	19.0	安山岩	141	D. 削ている
202	3-10-07	35.7	66.3	21.4	38.4	泥岩	143	B
203	3-10-08	80.3	39.8	13.0	35.9	安山岩	142	B
204	4-0-08	67.3	59.2	22.5	115.2	安山岩	840	C. 削ている
205	4-0-27	25.4	14.1	5.6	2.1	凝灰岩	839	E
206	4-1-00	47.0	39.1	30.1	66.2	安山岩	835	C
207	4-1-09	62.4	69.6	27.5	107.3	安山岩	551	B
208	4-1-12	63.9	24.0	15.1	24.6	泥岩	552	B
209	4-1-23	41.0	19.2	7.4	4.1	泥岩	564	C
210	4-2-15	52.9	45.6	24.4	46.1	安山岩	596	B
211	4-2-47	37.7	32.7	26.5	53.3	砂岩	447	D
212	4-2-47	42.5	27.0	26.2	33.5	砂岩	740	B
213	4-2-48	45.0	28.9	9.7	17.2	泥岩	622	B

表V-3-42 方割線一覧 (5)

No.	グリッド	径(m)	幅(m)	径(m)	径(m)	石質	区番	測No	備考
214	4・3-09	4.8	23.3	20.5	3.2	珧質岩		904 C	
215	4・3-28	71.7	47.0	23.5	123.0	安山岩		577 B+B, 総合調査線	
216	4・3-30	62.0	20.4	17.0	38.5	泥岩		446 B	
217	4・3-30	49.2	61.2	10.3	43.0	安山岩		556 B	
218	4・4-02	32.1	17.3	3.9	1.5	泥岩		593 E	
219	4・4-24	7.4	39.2	32.0	11.4	泥岩		837 C	
220	4・4-30	52.0	45.6	36.5	137.3	安山岩		448 B	
221	4・4-41	99.4	48.9	39.5	205.2	安山岩		736 B	
222	4・5-06	100.4	38.6	21.1	96.2	珧質岩	5	72 B+C+C, 73・74(45-17)と総合調査線, 勘測	
223	4・5-12	49.7	22.6	12.6	15.7	安山岩		511 E	
224	4・5-33	112.1	62.3	38.7	270.7	安山岩	6	471 B+C+C, 510・47(45-38, 46-30)と総合調査線, 勘測	
225	4・5-46	48.0	28.3	16.3	26.3	珧質岩		71 C	
226	4・5-46	47.0	45.0	31.5	117.0	安山岩		291 D, 勘測	
227	4・5-49	56.2	36.2	22.3	53.6	砂岩		302 D	
228	4・5-49	22.0	23.9	8.2	5.3	泥岩		512 D+D, 総合C	
229	4・6-42	121.9	72.2	39.5	364.9	安山岩		77 C+C+D+D, 総合B, 勘測	
230	4・7-21	96.7	84.8	45.5	526.3	安山岩		105 C+C, 106(47-21)と総合B, 勘測	
231	4・7-40	60.0	39.0	23.8	89.2	安山岩		292 B	
232	4・7-41	123.2	54.6	33.8	242.9	泥岩		116 C+D+D, 293・295(47-41)と総合C	
233	4・8-02	80.5	38.7	29.6	109.8	安山岩		104 B+C, 総合B	
234	4・8-42	60.0	33.6	21.2	61.2	安山岩		126 B+B, 総合調査線	
235	表採	27.4	13.5	6.5	2.7	珊瑚礁		540 E	
236	表採	57.8	67.6	17.6	64.9	安山岩		541 C	
237	表採	46.5	39.8	19.5	30.2	珧質岩		905 D	
238	表採	44.4	25.7	38.0	50.2	凝灰岩		906 D	
239	表採	32.4	31.5	7.7	7.0	砂岩		907 E	

表V-3-43 線一覧 (1)

No.	グリッド	径(m)	幅(m)	径(m)	径(m)	石質	区番	測No	備考
1	0・3-26	140.0	101.6	36.4	640	安山岩		793	総合調査線
2	0・3-26	102.5	81.5	37.0	425.5	安山岩		794	総合調査線
3	0・3-50	125.4	69.4	65.3	810	安山岩		854	総合調査線
4	0・4-00	34.1	39.9	26.3	33.4	凝灰岩		813	勘測, 勘測
5	0・4-00	67.8	31.9	24.8	41.8	凝灰岩		814	勘測
6	0・5-86	64.0	48.0	29.0	75.2	凝灰岩		516	勘測
7	0・8-69	79.0	37.3	22.0	82.2	泥岩		173	勘測
8	0・9-32	103.7	43.0	32.2	195.2	安山岩		121	勘測
9	0・10-24	109.0	33.2	21.6	108.1	玄武岩		96	勘測
10	0・11-29	74.0	77.8	28.2	255.0	安山岩		89	総合調査線
11	0・11-79	64.0	38.0	13.6	39.1	凝灰岩		60	総合調査線
12	0・12-14	65.2	39.0	13.2	55.9	泥岩		52	総合調査線
13	0・12-39	64.0	34.8	26.2	84.2	安山岩		17	勘測
14	0・12-39	52.0	33.6	19.0	31.6	凝灰岩		31	勘測
15	0・12-49	92.6	39.3	32.4	162.0	安山岩		2	勘測, 勘測
16	0・12-56	82.9	31.2	12.8	49.8	砂岩		28	総合調査線, 勘測
17	0・12-59	54.0	29.7	21.9	45.8	凝灰岩		9	勘測, 勘測
18	0・12-59	70.6	42.2	13.0	59.1	泥岩		10	総合調査線
19	0・12-59	65.7	38.5	15.0	60.6	安山岩		13	総合調査線, 勘測
20	0・12-59	64.5	28.8	22.8	62.4	安山岩		14	総合調査線, 勘測
21	0・12-59	72.5	32.7	22.8	68.4	凝灰岩		15	勘測
22	0・12-66	38.2	28.5	18.8	24.0	玄武岩		24	勘測
23	0・12-66	45.0	28.8	28.6	30.5	凝灰岩		25	勘測
24	0・12-66	101.6	42.3	21.0	123.5	泥岩		26	総合調査線
25	0・12-72	36.2	28.6	25.0	30.5	凝灰岩		29	勘測
26	0・12-73	55.0	39.3	25.5	82.4	珧質岩		27	勘測

表V-3-44 欄一覧 (2)

No.	グリッド	径(m)	幅(m)	径(m)	径(m)	石質	図番	測No	備	考
27	0-12-83	42.2	40.8	22.8	47.3	安山岩		30	新	
28	0-12-85	43.6	31.0	30.0	40.1	泥岩		46	新	
29	0-13-13	83.2	25.5	21.2	51.3	泥岩		21	新	
30	0-13-21	77.0	42.0	21.5	90.0	泥岩		7	新	
31	0-13-41	48.4	41.4	22.0	66.5	砂岩		23	新	
32	0-14-45	47.4	15.8	12.4	10.9	泥岩		547	新	
33	1- 2-18	178.0	110.0	74.3	1,907	安山岩		789	新	
34	1- 2-47	45.6	46.7	41.4	87.0	砂岩		-	新	
35	1- 3-04	72.6	51.7	22.9	110.9	泥岩		825	新	
36	1- 3-51	79.0	41.2	25.6	119.5	安山岩		831	新	
37	1- 3-76	74.6	56.6	14.2	100.4	砂岩		677	新	
38	1- 3-85	110.7	41.9	35.9	239.3	安山岩		820	新	
39	1- 4-62	73.3	50.3	41.9	127.7	凝灰岩		781	新	
40	1- 4-95	50.6	32.2	14.8	31.9	泥岩		743	新	
41	1- 6-16	62.0	27.6	15.3	37.2	砂岩		528	新	
42	1- 6-73	76.4	41.2	32.8	140.0	泥岩		388	新	
43	1- 6-80	57.5	31.4	18.3	41.2	安山岩		532	新	
44	1- 7-80	36.2	35.0	27.2	50.5	安山岩		536	新	
45	1- 7-91	64.6	52.0	38.7	162.4	安山岩		308	新	
46	1- 8-65	68.8	29.4	29.5	81.6	安山岩		190	新	削り
47	1- 8-74	63.6	43.4	27.9	79.3	安山岩		185	新	削り
48	1- 8-75	63.4	38.0	31.0	91.9	安山岩		188	新	削り
49	1- 8-75	62.2	32.4	27.0	63.6	安山岩		189	新	削り
50	1- 8-93	55.0	30.3	16.4	37.1	安山岩		186	新	削り
51	1- 9-48	53.3	36.8	32.5	65.6	凝灰岩		316	新	
52	1-13-06	44.4	40.8	12.0	28.2	泥岩		3	新	削り
53	2- 2-79	139.9	105.6	67.2	1,360	安山岩		682	新	削り
54	2- 3-27	157.5	66.0	31.2	600	安山岩		768	新	削り
55	2- 3-99	86.4	63.9	30.2	209.6	珪質岩		771	新	削り
56	2- 4-09	88.5	67.3	46.6	394.9	安山岩		458	新	
57	2- 4-51	111.6	64.1	57.5	560	安山岩		729	新	削り
58	2- 4-58	164.5	107.7	54.6	1,340	凝灰岩		662	新	
59	2- 5-96	72.3	63.0	50.7	309.9	安山岩		365	新	
60	2- 6-60	44.5	40.8	27.5	62.3	珪質岩		345	新	
61	2- 6-67	118.0	91.7	46.0	720	安山岩		325	新	
62	2- 7-54	66.0	40.0	12.0	50.2	泥岩		282	新	
63	2- 8-03	62.0	47.5	37.0	141.6	凝灰岩		207	新	
64	2- 8-27	68.0	59.3	16.2	91.0	砂岩		239	新	
65	2- 8-59	38.6	28.2	27.0	33.2	安山岩		505	新	
66	2- 8-86	37.0	33.0	8.2	14.1	泥岩		506	新	
67	2- 9-29	68.6	33.0	24.3	73.4	安山岩		127	新	
68	2- 9-34	190.0	94.0	56.0	1,410	安山岩		135	新	
69	2- 9-39	70.0	34.8	17.9	68.0	安山岩		117	新	
70	2- 9-39	56.0	18.0	19.6	40.2	泥岩		124	新	
71	2- 9-70	41.2	33.6	10.0	16.2	砂岩		170	新	
72	2- 9-76	111.6	72.0	28.4	296.2	安山岩		197	新	
73	3- 1-34	114.1	88.2	27.9	389.2	安山岩		685	新	
74	3- 2-00	101.4	53.3	52.3	371.8	安山岩		675	新	
75	3- 2-25	102.9	84.1	22.9	296.2	安山岩		619	新	
76	3- 2-27	103.8	50.3	32.0	184.8	珪質岩		630	新	
77	3- 2-57	101.9	44.2	44.9	208.0	安山岩		601	新	
78	3- 2-62	127.6	52.7	34.9	355.4	安山岩		585	新	
79	3- 2-70	44.3	23.2	21.3	26.9	泥岩		585	新	
80	3- 2-80	47.4	24.4	17.8	29.2	泥岩		583	新	
81	3- 2-81	53.1	30.2	21.8	52.0	安山岩		584	新	

表V-3-45 礫一覧 (3)

No.	グリッド	径(m)	幅(m)	径(m)	重(g)	石質	図番	測No	備 考
82	3-2-99	73.3	28.2	19.8	64.0	安山岩		576	焼礫
83	3-3-36	120.0	42.2	48.7	296.8	安山岩		615	焼礫
84	3-3-59	108.1	61.1	24.4	210.8	安山岩		571	新形焼礫
85	3-3-62	118.4	49.0	29.6	257.1	安山岩		570	焼礫
86	3-3-86	137.8	59.2	22.3	296.4	泥岩		572	新形焼礫
87	3-4-99	98.8	62.0	35.3	321.8	安山岩		590	焼礫
88	3-5-01	83.6	69.4	32.8	180.5	安山岩		457	焼礫
89	3-5-37	73.4	39.2	16.8	60.2	凝灰岩		509	新形焼礫
90	3-5-71	90.0	34.7	17.6	84.2	泥岩		463	焼礫
91	3-6-13	55.1	46.9	31.8	97.3	安山岩		359	焼礫
92	3-6-23	108.4	76.2	34.2	425.8	安山岩		358	新形焼礫
93	3-6-97	116.0	87.8	33.4	423.8	安山岩		200	新形焼礫
94	3-7-33	57.7	32.0	14.4	35.3	泥岩		266	新形焼礫
95	3-8-38	116.5	52.8	28.7	244.1	安山岩		246	焼礫
96	3-8-59	110.8	61.2	43.5	319.7	安山岩		206	焼礫
97	3-9-08	81.6	73.0	23.2	248.3	泥岩		218	新形焼礫
98	3-9-19	95.4	84.6	26.0	380.0	安山岩		224	新形焼礫
99	4-1-00	62.6	48.7	43.3	156.2	安山岩		563	焼礫
100	4-1-00	33.1	29.8	28.1	34.4	安山岩		836	焼礫
101	4-1-23	49.8	42.4	11.5	33.6	珪質岩		637	新形焼礫
102	4-2-03	48.6	35.6	11.2	18.3	凝灰岩		672	新形焼礫
103	4-2-10	51.9	49.7	33.1	115.8	安山岩		597	焼礫
104	4-2-30	161.5	84.3	56.2	1,145	安山岩		761	焼礫
105	4-2-31	134.4	79.2	49.1	715.0	安山岩		666	焼礫
106	4-2-48	118.9	46.7	32.8	266.2	安山岩		738	新形焼礫
107	4-2-49	102.5	59.9	29.4	217.8	安山岩		599	新形焼礫
108	4-3-02	120.0	57.4	29.8	258.9	安山岩		560	焼礫
109	4-4-11	136.9	61.6	41.6	473.7	安山岩		591	焼礫
110	4-5-39	90.8	52.8	45.2	293.8	安山岩		76	焼礫
111	4-6-05	105.9	79.6	25.7	320.0	安山岩		79	新形焼礫
112	4-7-43	67.8	35.6	15.7	53.8	泥岩		294	新形焼礫
113	4-8-10	123.4	66.0	31.0	422.4	安山岩		113	新形焼礫
114	4-8-48	86.4	32.7	13.2	51.0	泥岩		309	新形焼礫

礫 114点が出土し、このうち焼けているものは約1割の15点と方割礫に比して少ない。石質は安山岩が過半数の62点を含め、焼けているものは11点ある。次いで泥岩が23(焼け1)、凝灰岩15(焼け2)、砂岩7(焼け1)、珪質岩5(焼け0)、玄武岩2(焼け0)の順で、比率的には方割礫と大差はない。形態別には、最も多いものが楕円礫の47点であり、そのうち焼けているものは9点ある。次いで偏平楕円礫28(焼け1)、長楕円礫21(焼け2)、亜角礫5(焼け0)、偏平円礫4(焼け1)、偏平長楕円礫4(焼け2)、円礫2(焼け0)、偏平亜角礫2(焼け0)、亜角礫1(焼け0)となっており、楕円に近い形態のものが選択的に持ち込まれている。出土分布をみると、沢跡北側の0・12区が最も多く、焼けているものうち5点がここから出土している。また、1・8区でも焼けたものが5点出土しており、焼けた礫については、方割礫の焼け弾け資料と密接な関連が窺われる。

4 まとめ

焼土の項でDグループに分類したものについて、焼土群の時期、焼け弾けの石器など周辺遺物との関連及びTピットとの関係について述べる。なお、この焼土群については全てフローテーション法による微小遺物の検出作業を実施したが、得られた自然遺物は、FP 30で種不明種子粒2点、FP 34で炭化したクルミの殻があるのみである。

Dグループを形成する焼土のうちFP 30-32、36、38、40はⅡ層中位で確認されており、FP 33、34はⅢ層上面で確認されている。またFP 30-32、34、36、38の6ヵ所からは萩ケ岡2式土器片が出土している。従ってDグループは、ほぼ萩ケ岡2式期に形成されたものと考えられ、層的に下位に位置するFP 33、34は時期が古い可能性もあるが、掘り込みを伴う焼土であった可能性もある。

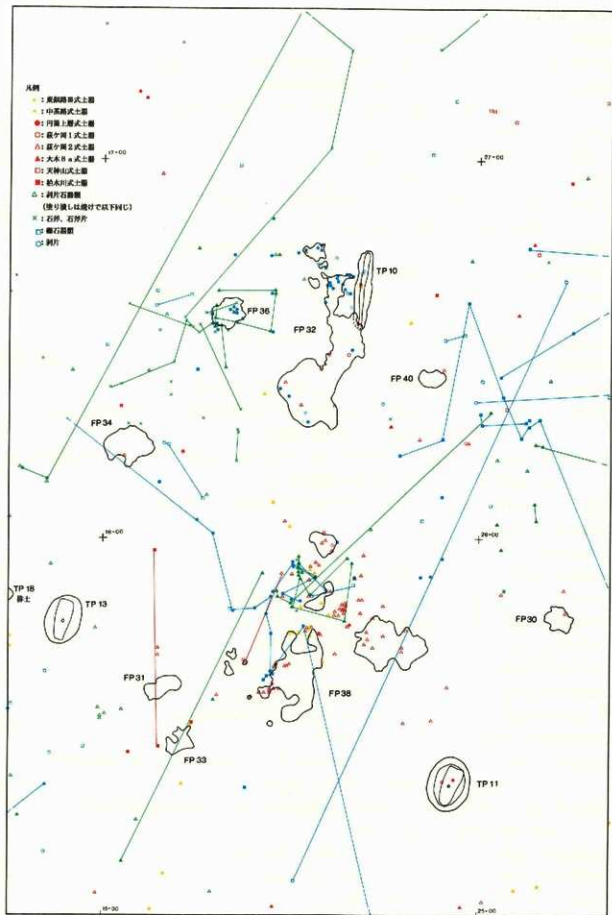
Dグループ南側の中心に位置するFP 38は、a-gとした焼土の顕著な部分を始め、焼土を含むⅡ層が広範囲にみられる。関係する遺物も多く、焼土中・焼土直上及び周辺の同一レベルから出土した土器片には萩ケ岡2式33点のほか、円筒上層式1点、萩ケ岡1式18点、天神山式3点と、試し焼きの粘土と思われる細片5点がある。また石器類は、焼土上面から多数の焼け弾けの黒曜石剥片類が出土しているほか、同じく焼け弾けの方割礫、削器、搔器、R・F、U・Fが各1点、黒色有機物が付着した石斧、石斧片も出土している。FP 38東側にはFP 30が、またFP 38西側にはFP 31・33が位置するが、これらの焼土は遺物が少なく、わずかにFP 30・31から萩ケ岡2式土器片各1点が出土しているに過ぎない。

Dグループ北側の中心に位置するFP 32も、FP 38同様広範囲に広がりを見せる焼土である。遺物は萩ケ岡2式土器片5点と天神山式3点のほか、1,000点を越える焼けた黒曜石剥片類と焼けたR・F1点、石礫と亜円礫各1点が出土している。FP 38と異なる点は、焼けた剥片類は極めて細かな破片が主体で、明確に焼け弾けと確認できるものはなく、また接合資料にもなり得なかった。FP 32の東側にはFP 40が位置するが、この周辺は遺物が少なく、むしろその東側に集中している。これに対し西側に位置するFP 36周辺は遺物が豊富で、萩ケ岡2式土器片2点と、多数の石斧片（7個体の母岩がある）や焼けた黒曜石剥片、焼け弾けた搔器とU・F、焼けた礫片が出土している。なお、その南西側に位置するFP 34からは萩ケ岡2式土器片4点と、同一母岩の黒緑色泥岩製石斧片が7点出土している。

さて、これらの焼土と遺物の関係であるが、自然遺物が極めて少ない点や、焼け弾け遺物の異常な出土量からして、ユカンボシE4遺跡の報告で述べたように、木村哲朗（1991）が指摘している「もの送り場」的な機能を想定せざるを得ない。

ところで、FP 32周辺のⅡ層を除去すると、Ⅲ層中に黒色土の広がりが確認され、その一部はFP 32の下に及んでいた。そこで、これらを通した土層断面を設定し調査を進めたところ、黒色土の広がりはTピット（TP 10）であることが判明し、これが完全に埋没してからFP 32が形成されている。なおTP 10の出土遺物は、覆土1層中から東剣路Ⅲ式と円筒上層式土器片各1点、黒曜石剥片2点があり、その上位のⅡ層中に黒曜石剥片16点がみられた。TP 10は杭穴をもたない細長いタイプで、同様の形態をもつTP 9と列をなすものと考えている。なお、FP 38の東西に同形態のTP 11とTP 13が穿たれているが、TP 11の崩落土中から天神山式土器片が出土し、流れ込みの覆土1層中からは萩ケ岡2式土器片1点が出土している。従ってこれらは、TP 10より新しい形態のTピットということができよう。

（録田望 田才雅彦）



図V-4-1 FP32周辺の遺構と遺物

引用・参考文献

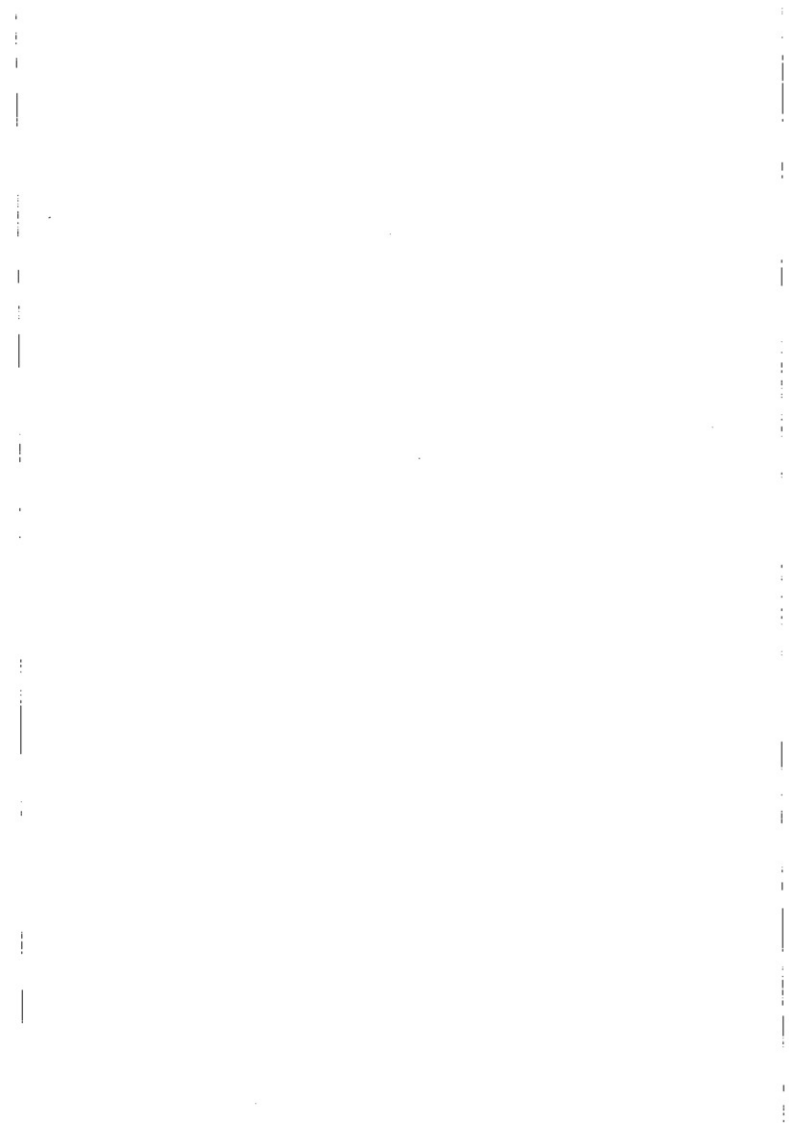
- 鮑津博史 1977「方割石」『Wakkaei III 4. 4. 6』
- 石附喜三男 1984「擦文式土器の編年の研究」『北海道の研究 2 考古篇Ⅱ』
- 石附喜三男ほか 1977『ウサクマイ遺跡 N地点発掘報告書』
- 上屋真一 1991「擦文時代の石器」『南島松1遺跡 南島松4遺跡 第Ⅱ章 3. (2)』
- 上屋真一ほか 1987『カリンバ2遺跡』
- 上屋真一ほか 1989『ユカンボシE 8遺跡』
- 上屋真一ほか 1990『柏木川11遺跡』
- 遠藤邦彦・隅田まり・宇野リベカ 1987『北海道カリンバ2遺跡のテフラ』(上屋真一編『カリンバ2遺跡』恵庭市教育委員会 pp. 112-117)
- 恵庭市教育委員会 1984『カリンバ2、カリンバ3遺跡試掘調査報告書』
- 江別市教育委員会 1987『高砂遺跡』
- 大東博嗣 1987「第2章 第2節 遺構の分類」『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』
- 大場利夫・石川徹 1967『千歳遺跡』
- 大沼忠春 1989「初期擦文土器」『古代史復元9 古代の都と村』
- 菊池徹夫ほか 1975『鳥柵舞』
- 木村哲朗 1991「西野樫12遺跡の焼土について」『北海道考古学第27輯』
- 近藤隼三 1993「函館市中野A遺跡土壌および焼土(?)の植物珪酸体分析」(財北海道埋蔵文化財センター「函館市中野A遺跡(2)」に所収、印刷中)
- 佐々木竜男・片山雅弘・音羽道三・天野洋司 1970「渡島半島の火山灰について」(『北海道農業試験場土性調査報告』第20編 北海道農業試験場 pp. 255-281)
- 曾谷龍典・佐藤博之 1980「千歳地域の地質」地域地質研究報告 地質調査所
- 高橋正勝 1971『柏木川』
- 高橋正勝ほか 1982『萩ヶ岡』
- 田才雅彦 1983「北大式土器」『北奥古代文化 第14号』
- 田才雅彦 1993「縄文時代後北期から擦文時代初頭の土壌墓について」『二十一世紀への考古学』
- 千歳市教育委員会 1984『末広遺跡における考古学物調査(続)』
- 千歳市教育委員会 1988『ユカンボシ2遺跡発掘調査概報』
- 千歳市教育委員会 1989『イヨマイ6遺跡における考古学的調査(1)・(2)』
- 千歳市教育委員会 1990『ユカンボシ2遺跡発掘調査概要報告(2)』
- 千歳市教育委員会 1991『ユカンボシ3・5・6遺跡発掘調査概要報告』
- 戸磯史編集発行委員会 1989『戸磯百年のあゆみ』
- 花岡正光 1992「中野A遺跡の火山灰の対比と明赤褐色土の成因(予察)」(財北海道埋蔵文化財センター「函館市中野A遺跡」北理調報79 pp. 281-282)
- 花岡正光 1993「中野A遺跡の火山灰の対比と明赤褐色土の成因」(財北海道埋蔵文化財センター「函館市中野A遺跡(2)」に所収、印刷中)
- 北海道埋蔵文化財センター 1989「忍路土場遺跡・忍路5遺跡』
- 北海道埋蔵文化財センター 1992『ユカンボシE 4遺跡』
- 松谷純一ほか 1989『中島松5遺跡A地点』
- 松谷純一ほか 1990『中島松5遺跡B地点、中島松7遺跡C地点』

松谷純一ほか 1988 『中高松6・7遺跡』

横山英介 1990 『塚文文化』

渡辺茂 編著 1979 『恵庭市史』

渡辺誠 1980 『飛騨白川村のトテムキ石』『藤井裕介君追悼記念考古学論叢』



ユカンボシ E 5 遺跡 B 地区 (A-04-06) から検出された植物種子

吉崎昌一 (北海道大学)

(1) 扱った資料の性格

ここに報告する資料は、北海道石狩管内恵庭市戸磯180-4ほかに広がるユカンボシ E 5 遺跡 B 地区から得られたものである。この地点は、平成4年度に北海道埋蔵文化財センターによって発掘調査が実施され、主として縄文時代早期後半の土器と、中期の萩ヶ岡式及び天神山式相当型式の遺構や焼土スポットが検出されている。表1に検出された種子類とそれが発掘された遺構ナンバー、採取グリッド、層位をまとめておいた。

(2) 検出された種子

かなり多量の土壌サンプルがおこなわれている割には種子の出土量が少ない。それも、不思議なことには、焼土あるいは焼土周辺からの種子の出土は FP 1 (b)、FP 13、FP 16、FP 30 の 4 ヲ所から総数でわずか 5 粒検出されているに過ぎない。しかもすべて確実な同定に耐えない保存状態のものだけであった。

FP 1 (a) と FP 29、FP 34からは、少量のクルミ属 *Juglans* L. の核果細片が検出されている。すべて炭化しており、加熱して破核したものの残存であろう。個数を調べる事が出来ないで、乾燥後の重量を揭示しておいた。

図 1-1 a・1 b は、イネ科の穎果と見られるものである。TP 24 の覆土からほぼ同様な資料が 3 粒出土している。1 a はその中でもっとも保存のよいもの。紡錘形の形状を持ち、全長のほぼ 4/5 に達する胚が見られる。長さ 1.4 mm、幅 0.7 mm でススキ *Miscanthus sinensis* Anderss. でないかと思われるが、はっきりしない。1 b は 1 a の表面構造の残っている部分を拡大したものである。

図 1-2 a・2 b もイネ科の種子であろう。長さ 1.75 mm、幅 0.8 mm。両端がわずかに尖る長卵形のもので、下端に層状に広がる胚が観察される。手元に集められているイネ科の種子標本と比較してみると、ササ属 *Sasa* Makino et Shibata の種子にきわめて類似すると思われるのだが決め手に欠ける。2 b にはその胚部分の拡大を示しておく。TP 3 から 1 粒検出された。

FP 13からはマタタビ属 *Actinidia* Lindl. の種子が 1 点検出されている。図 1-3 a・3 b に示したものがそれで、卵形に近い形状をもち、表面には独特のアバタ状構造が観察される。その拡大図を図 1-3 b に示しておく。

図 2-4 a・4 b は長さ 2.1 mm、幅 1.3 mm の種子であるがいまのところ手掛りがなく不明。図 2-5 a・5 b はハソの認められない球形のもので長さ 1.2 mm、幅 1.25 mm。5 b に拡大撮影して掲げてあるように表面に不規則なしわ状の構造が見られる。植物種子ではなく菌核である可能性がある。

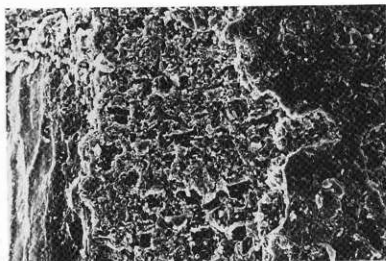
表1 ユカンボシE5遺跡B地区出土炭化植物遺体一覧

遺体名	シガラ層	層位	イ種	マドリ	キハダ	クルミ	不明	遺体名	シガラ層	層位	イ種	マドリ	キハダ	クルミ	不明
FP 1-a	1・13-51	焼土				0.01		FP42	4・3-10	焼土					
FP 1-b	1・13-61	焼土					1	FP43	4・1-37	焼土					
FP 2	0・10-46	焼土						FP44	4・1-38	焼土					
FP 3	1・10-68	焼土						FP45	3・2-75	焼土					
FP 4	2・10-96	焼土						FP46	3・2-57	焼土					
FP 5	2・10-29	焼土						FP47	3・2-84	焼土					
FP 6	2・10-88	焼土						FP48	3・4-21	焼土					
FP 7	1・10-35	焼土						FP49	2・4-93	焼土					
FP 8	2・10-63	焼土						FP50	3・5-57	焼土					
FP 9	3・8-03	焼土						FP51	4・2-38	焼土					
FP10	2・7-76	焼土						FP52	2・4-63	焼土					
FP11	3・7-36	焼土						FP53	2・4-42	焼土					
FP12	3・8-66	焼土						FP54	3・1-81	焼土					
FP13	2・8-87	焼土		1				FP55	2・4-40	焼土					
FP14	2・8-47	焼土						FP57	1・4-85	焼土					
FP15	1・7-66	焼土						FP58	1・4-66	焼土					
FP16	2・8-14	焼土					1	FP59	0・4-38	焼土					
FP17	0・9-90	焼土						FP63	0・3-38	焼土					
FP18	0・7-15	焼土						FP64	3・3-20	焼土					
FP19	2・4-28	焼土						FP65	3・3-12	焼土					
FP20	0・6-65	焼土						FP66	3・3-03	焼土					
FP21	3・5-23	焼土						FP67	2・3-94	焼土					
FP22	4・8-19	焼土						FP68	2・3-76	焼土					
FP23	4・8-21	焼土						FP69	2・3-68	焼土					
FP24	4・7-16	焼土						FP72	3・4-31	焼土					
FP25	4・7-36	焼土						FP73	1・3-13	焼土					
FP26	3・7-28	焼土						FP74	1・3-25	焼土					
FP27	2・8-82	焼土						HP 1	2・7-99	炉2					
FP28	3・8-66	焼土						HP 3	1・4-43	炉1					
FP29	2・9-90	焼土				0.01		HP 3	1・4-51	炉2					
FP30	2・5-27	焼土					2	TP 1	4・5-35	炉+25					
FP31	1・5-16	焼土						TP 3	3・8-91	炉+12	1	2	1		2
FP32	1・6-43	焼土						TP 3	3・8-91	炉+14					
FP33	1・5-14	焼土						TP23	3・4-43	炉+9					
FP34	1・6-01	焼土				0.02		TP24	0・4-27	炉+11	3				
FP35	3・5-14	焼土						GP 1	1・12-41	埋土					
FP36	1・6-35	焼土													
FP37	3・5-13	焼土													
FP38-A	1・5-77	焼土													
FP38-B	1・5-59	焼土													
FP38-C	1・5-58	焼土													
FP38-D	1・5-56	焼土													
FP38-E	1・5-55	焼土													
FP38-F	1・5-36	焼土													
FP38-G	1・5-36	焼土													
FP39	3・6-00	焼土													

注：表中の単位は、クルミ属がg、キハダ属が破片点数、他は粒の点数である。



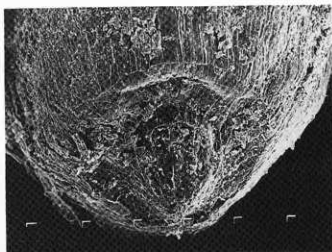
1 a イネ科 X35



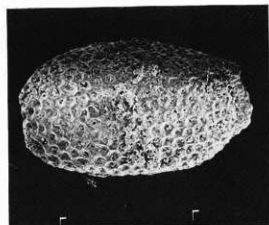
1 b 1 aの拡大 X500



2 a イネ科 X35



2 b 2 aの拡大 X200



3 a マタタビ属 X35



3 b 3 aの拡大 X200

図1 ユカンボシ E 5 遺跡 B 地区出土炭化種子 (1)
(X35撮影のスケール「」の間隔1mm)



4 a 不明種子 X35



4 b 4 aの拡大 X100



5 a 不明種子 X35



5 b 5 aの拡大 X500

図2 ユカンボシ E 5 遺跡 B 地区出土炭化種子 (2)

財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第81集

恵庭市 ユカンボシE5遺跡

平成5年3月26日

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
Tel 011-561-3131
印刷 富士プリント株式会社
〒064 札幌市中央区南16条西9丁目
Tel 011-531-4711

※この報告書は札幌開発建設部のご了解を得て増刷したものです。

